BANPRESTO
Super Robot Wars OG Original Generations Official Perfect File
掃圖: iyxg
改圖: Blucard
http://www.srworld.net/
http://bbs.newwise.com/
轉圖不注明出處的不得好死
Not For Sale
©SRWOG PROJECT
©BANPRESTO 2004

SRWOG
Super Robot Wars OG ORIGINAL GENERATIONS
Official Perfect File
PRESENTED BY BANPRESTO

CONTENTS

02-06 イラストレーションギャラリー

07 SRW OG メカニクス編

08 SRX
09 R-1
10 R-2/R-2パワード
11 R-3/R-3パワード
12 R-GUN/R-GUNパワード
13 ART-1
14 アルブレード
15 アンジュルグ
16 アルトアイゼン・リーゼ
アルトアイゼン
17 ヴァイスリッター
ライン・ヴァイスリッター
18 ビルトビルガー
19 ビルトファルケン
20 コンバチブルカイザー
21 エクサランス・ストライカー
エクサランス・フライヤー
エクサランス・コスモドライバー
22 グルンガスト零式
23 グルンガスト
24 グルンガスト弐式
25 グルンガスト参式
26 龍虎王
27 虎龍王
28 ダイゼンガー
29 アウセンザイター
30 ゲシュペンスト
30 ゲシュペンスト・タイプRV
31 ゲシュペンストMk-Ⅱ
量産型ゲシュペンストMk-Ⅱ
32 サイバスター
33 グランゾン
34 ヴァルシオーネ
ヴァルシオン
35 シロガネ
キラーホエール
36 ハガネ
37 クロガネ
38 ヒリュウ改
39 ビルトラプター
40 ジガンスクード
ジガンスクード・ドゥロ
41 ジガンスパーダ
シュッツバルト
42 ビルトシュバイン
レイディバード
43 フェアリオン
44 アステリオンAX
アステリオン
45 ガーリオン
カリオン
46 ズィーガーリオン
アーマリオン
47 リオン
47 コスモリオン
48 シーリオン
ランドリオン
49 バレリオン
ストーク
ソルブレッサ
50 ハバクク
ゼカリア
エゼキエル
51 エルアインス
トライロバイト
52 スレードゲルミル
53 アシュセイヴァー
量産型アシュセイヴァー
54 ランドグリーズ
55 ラーズアングリフ
56 ソウルゲイン
57 ラピエサージュ
58 フュルギア
ミロンガ

59 SRW OG キャラクター編

60 リュウセイ・ダテ
ライディース・F・ブランシュタイン
61 アヤ・コバヤシ
マイ・コバヤシ
62 イングラム・プリスケン
ヴィレッタ・バディム
63 キョウスケ・ナンブ
エクセレン・ブロウニング
64 ブルックリン・ラックフィールド
クスハ・ミズハ
65 マサキ・アンドー
シロ・クロ
リューネ・ゾルダーク
66 ラウル・グレーデン
フィオナ・グレーデン
67 ミズホ・サイキ
ラージ・モントーヤ
68 コウタ・アズマ
ファイター・ロア
ロア
69 ショウコ・アズマ
キサブロー・アズマ
70 タスク・シングウジ
レオナ・ガーシュタイン
71 リョウト・ヒカワ
リオ・メイロン
72 アイビス・ダグラス
スレイ・プレスティ
73 フィリオ・プレスティ
ツグミ・タカクラ
74 ラミア・ラヴレス
ラトゥーニ・スゥボータ
75 ギリアム・イェーガー
イルムガルト・カザハラ
76 アラド・バランガ
ゼオラ・シュバイツァー
77 ユウキ・ジェグナン
リルカーラ・ボーグナイン
78 ゼンガー・ゾンボルト
レーツェル・ファインシュメッカー
カイ・キタムラ
79 シャイン・ハウゼン
ジョイス・ルダール
ラーダ・バイラバン
80 ダイテツ・ミナセ
テツヤ・オノデラ
エイタ・ナダカ
81 ジャーダ・ベネルディ
ガーネット・サンデイ
リー・リンジュン
82 レフィーナ・エンフィールド
ショーン・ウェブリー
ユン・ヒョジン
83 カチーナ・タラスク
ラッセル・バーグマン
84 レイカー・ランドルフ
ハンス・ヴィーバー
カーク・ハミル
グレッグ・バストラル
リシュウ・トウゴウ
サカエ・タカナカ
ロバート・H・オオミヤ
ケンゾウ・コバヤシ
マリオン・ラドム
ノーマン・スレイ
85 リン・マオ
ユキコ・ダテ
カール・シュトレーゼマン
ブライアン・ミッドクリッド
ケネス・ギャレット
ユアン・メイロン
エリ・アンザイ
85 アルバート・グレイ
グライエン・グラスマン
ミツコ・イスルギ
86 ビアン・ゾルダーク
シュウ・シラカワ
アードラー・コッホ
トーマス・ブラット
テンペスト・ホーカー
テンザン・ナカジマ
87 マイヤー・V・ブランシュタイン
エルザム・V・ブランシュタイン
リリー・ユンカース
ユーリア・ハインケル
ジーベル・ミステル
88 バン・バ・チュン
アーチボルド・グリムズ
オウカ・ナギサ
89 イーグレット・フェフ
イーグレット・ウルズ/スリサズ/アンサズ
アギラ・セトメ
クエルボ・セロ
90 レビ・トーラー
アタッド・シャムラン
ガルイン・メハベル
ゲーザ・ハガナー
91 ウェンドロ
ヴィガジ
シカログ
アギーハ
メキボス
92 アクセル・アルマー
ヴィンデル・マウザー
レモン・ブロウニング
93 エキドナ・イーサッキ
ウォーダン・ユミル
アルフィミィ

94 パーソナルトルーパー開発史

102 アーマードモジュール開発史

106 SRX開発史

111 イラストレーションギャラリー

イラスト / 安藤 弘
掲載:電撃スパロボ Vol.2

イラスト / 河野 さち子

CGコンセプト&デザイン / 嶋崎 直登
イラスト / 國島 宣弘　丸 義則

イラスト / 山本 宏之

イラスト / 河野 さち子・金丸 仁

イラスト / 河野 さち子・土屋 英寛

イラスト / 河野 さち子

イラスト / 河野 さち子

MECHANICS
メカニック編
SUPER ROBOT WARS OG ORIGINAL GENERATIONS
SRW-OG
Mechanics

SRX SUPER ROBOT X-TYPE

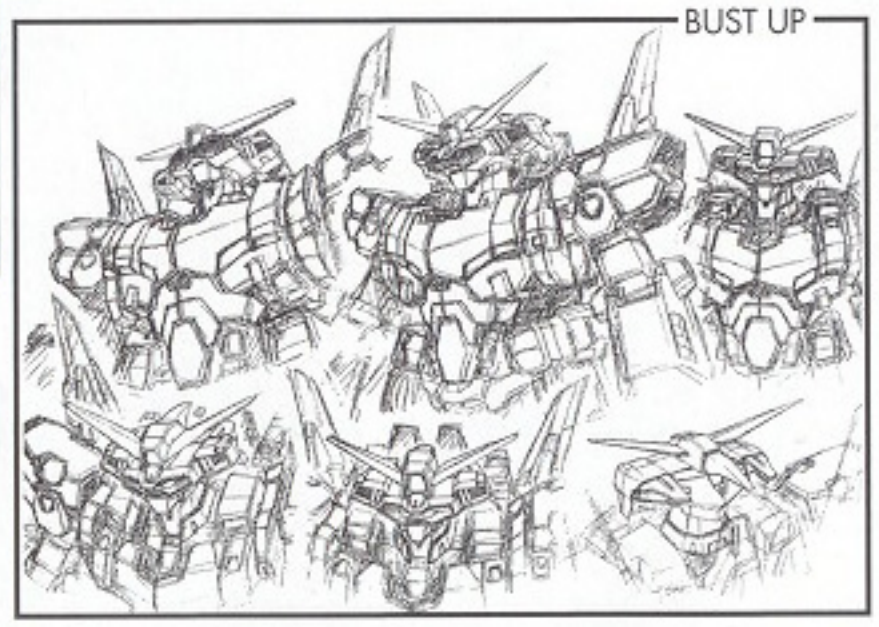
SRX / SRX-00 hight : 51.2m / weight : 388.8t

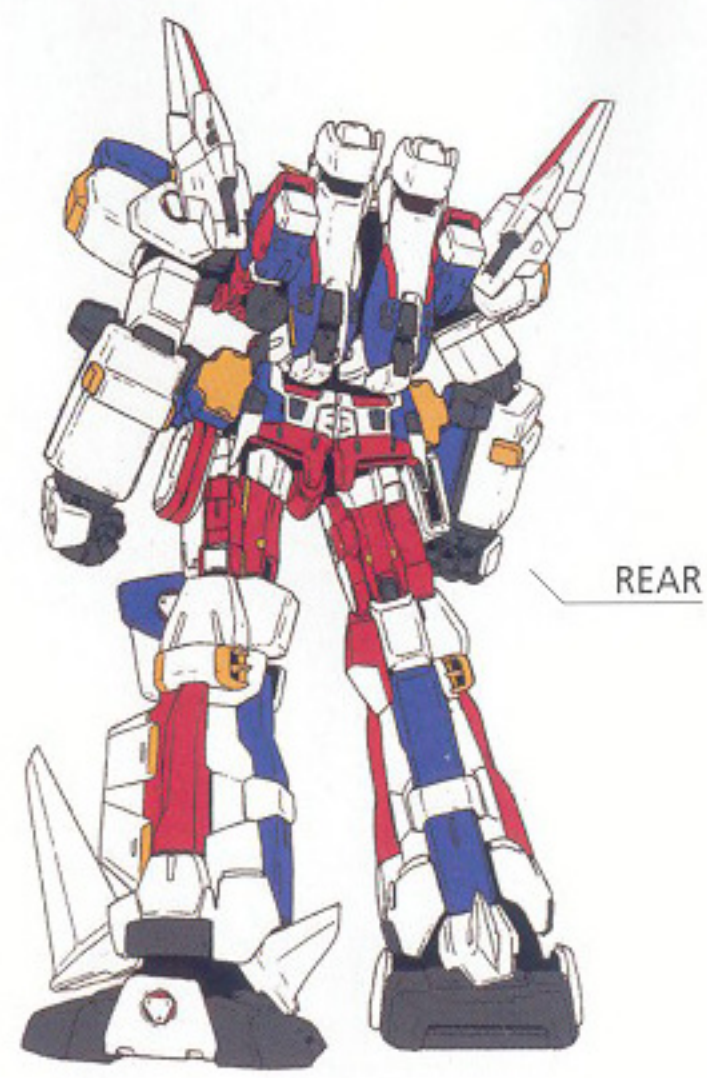
SRX計画で開発された試作汎用戦闘一撃必殺型パーソナルトルーパー。R-1、R-2パワード、R-3パワードの3機（Rシリーズ）で構成されている。正式名称は「SUPER ROBOT X-TYPE」。「特殊人型機動兵器（特機／スーパーロボット）とパーソナルトルーパーの特徴を兼ね備え、1機もしくは分離状態の3機で戦局を変え得る人型機動兵器」…それがSRXに与えられた開発コンセプトである。

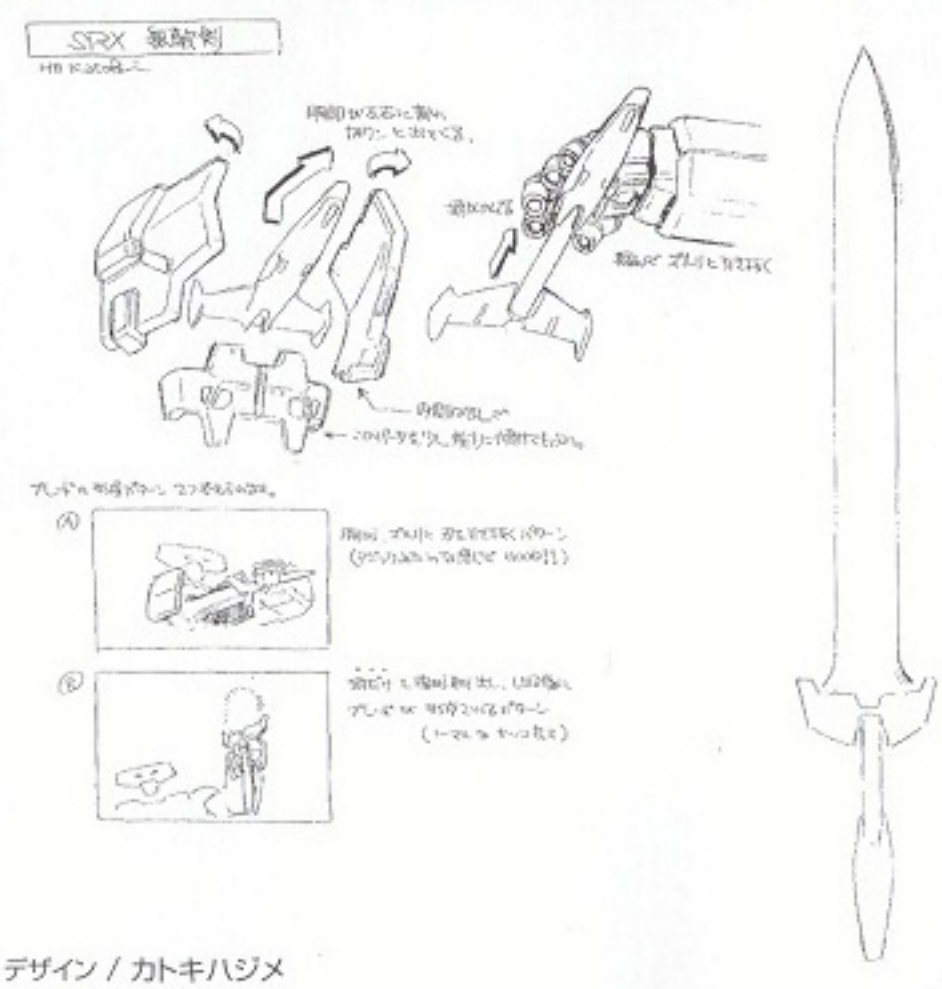
SRX計画において、SRXは通常サイズ（20メートルクラス）のパーソナルトルーパー3機が合体し、全高50メートルクラスの特機となる分離合体型機動兵器として位置づけられた。

これは戦局に応じて分離・合体することで、SRXが持つ戦闘力を柔軟かつ有効に運用するための方策であった。戦闘力の低い多数の敵に対して、あるいは他のパーソナルトルーパーとの連係をとる必要がある場合は分離して行動し、少数の強力な敵に対してはSRXに合体してRシリーズが持つ戦闘力を集中させるのである。

その攻撃力は抜群であるが、欠点として動力源であるトロニウム・エンジンの出力調整が困難であること、戦闘時にはT-LINKシステムを使用して念動フィールドを常時展開し、合体状態の維持を補助しなければならないこと（その結果、T-LINKシステム使用者に著しい負担をかけてしまう）が挙げられ、現状では一度の出撃における合体回数と戦闘行動時間に制限がある。





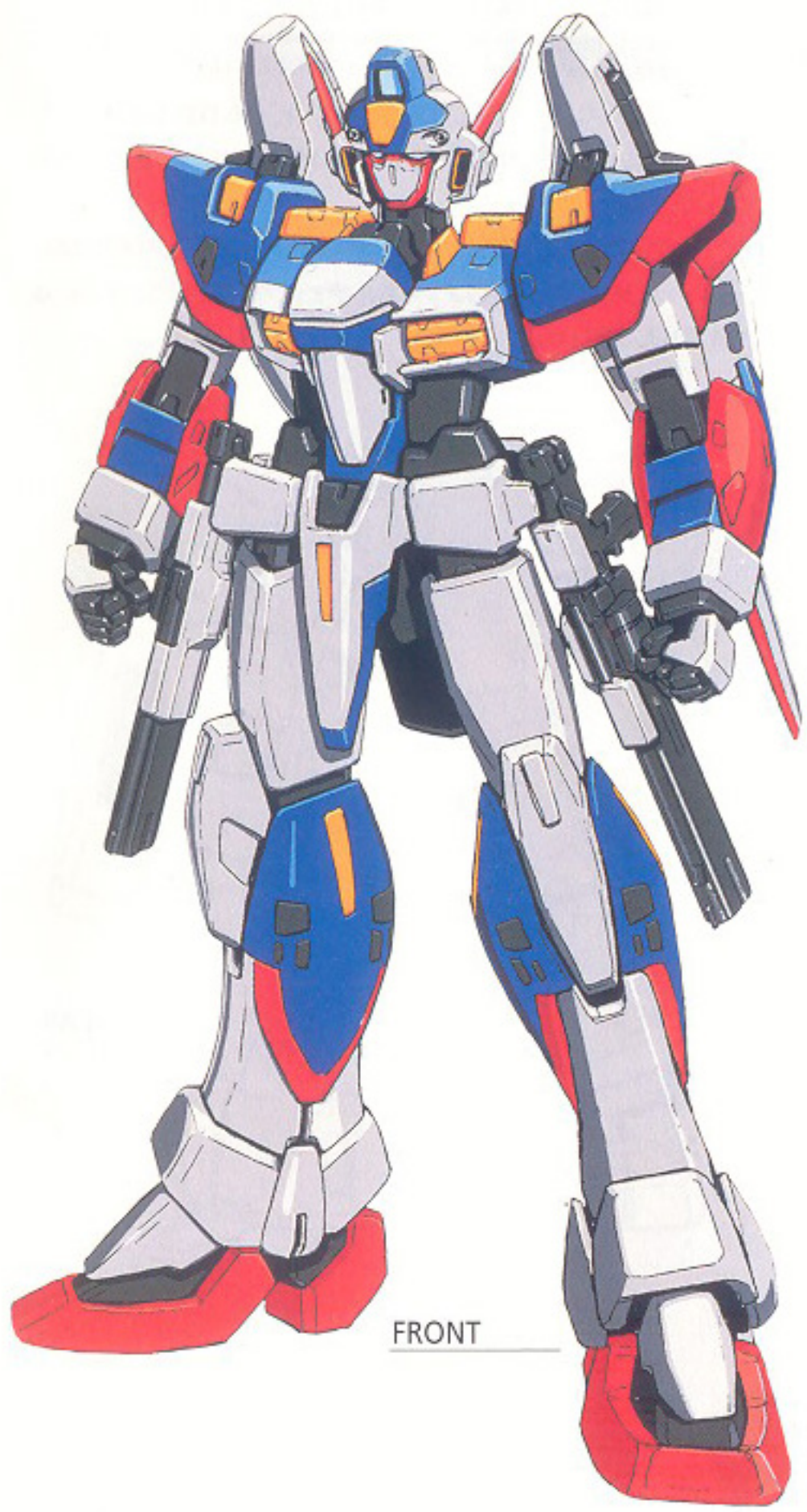


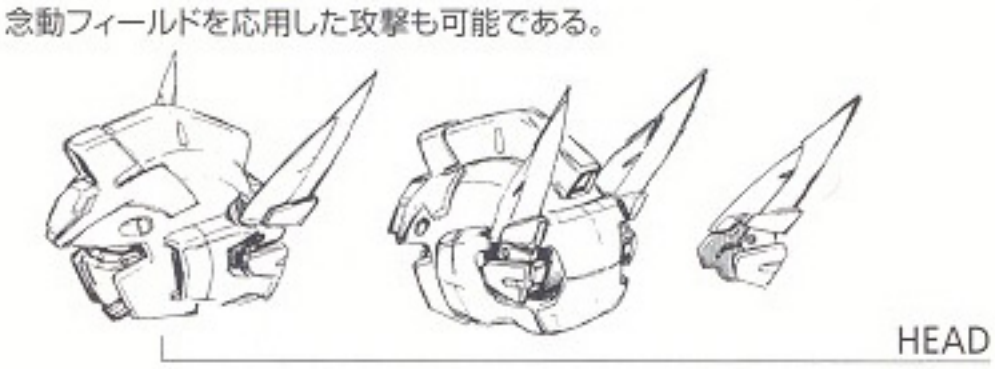
デザイン / カトキハジメ

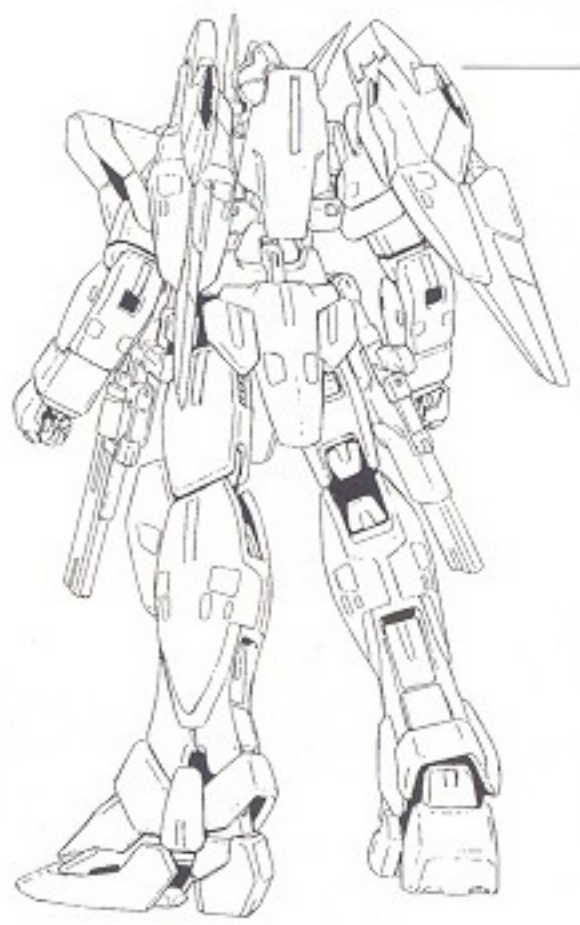
R-1 REAL PERSONAL TROOPER TYPE-1

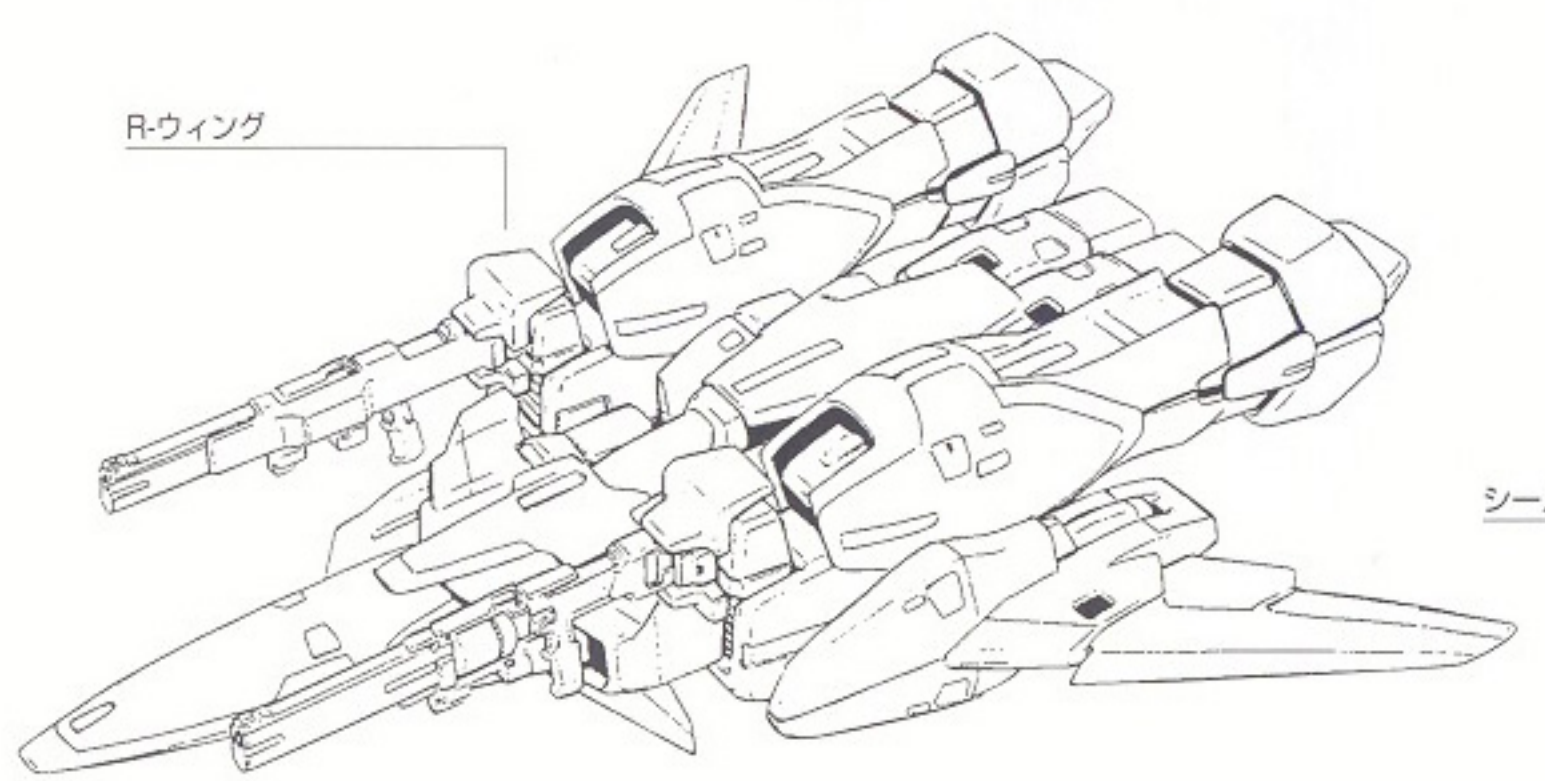
R-1 / R-1 hight : 19.1m / weight : 50.2t

SRX計画で開発されたパーソナルトルーパー・Rシリーズ1号機。正式名称は「REAL PERSONAL TROOPER TYPE-1」。
近接戦闘・格闘戦用の機体であり、高い運動性と攻撃力を備えている。前身となった機体はRTX009とPTX-006であり、その2機の長所を受け継いでいる。
また、ビルトラプター同様、飛行形態（R-ウィング）への変形機構を持っている。そのため、機動力を生かした奇襲攻撃や威力偵察など、Rシリーズ内では先鋒的役割を果たすことが多い。相手に確実なダメージを与えるため、近・中距離戦用の実弾兵器を装備している。さらに、T-LINKシステム（念動力感知増幅装置）を搭載しており、それによって発生する特殊な力場・念動フィールドを応用した攻撃も可能である。









デザイン / カトキハジメ

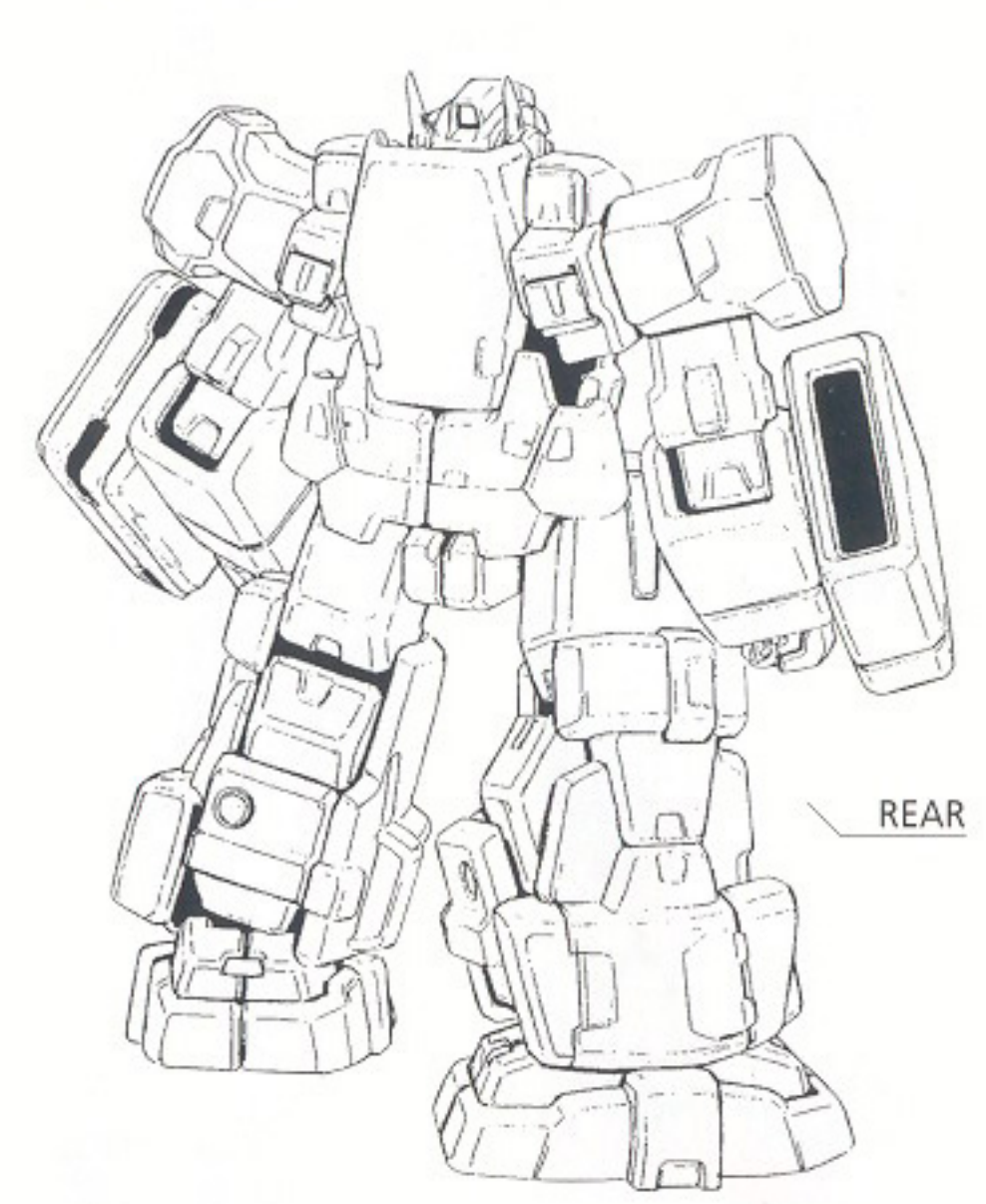
R-2/R-2 POWERED REAL PERSONAL TROOPER TYPE-2

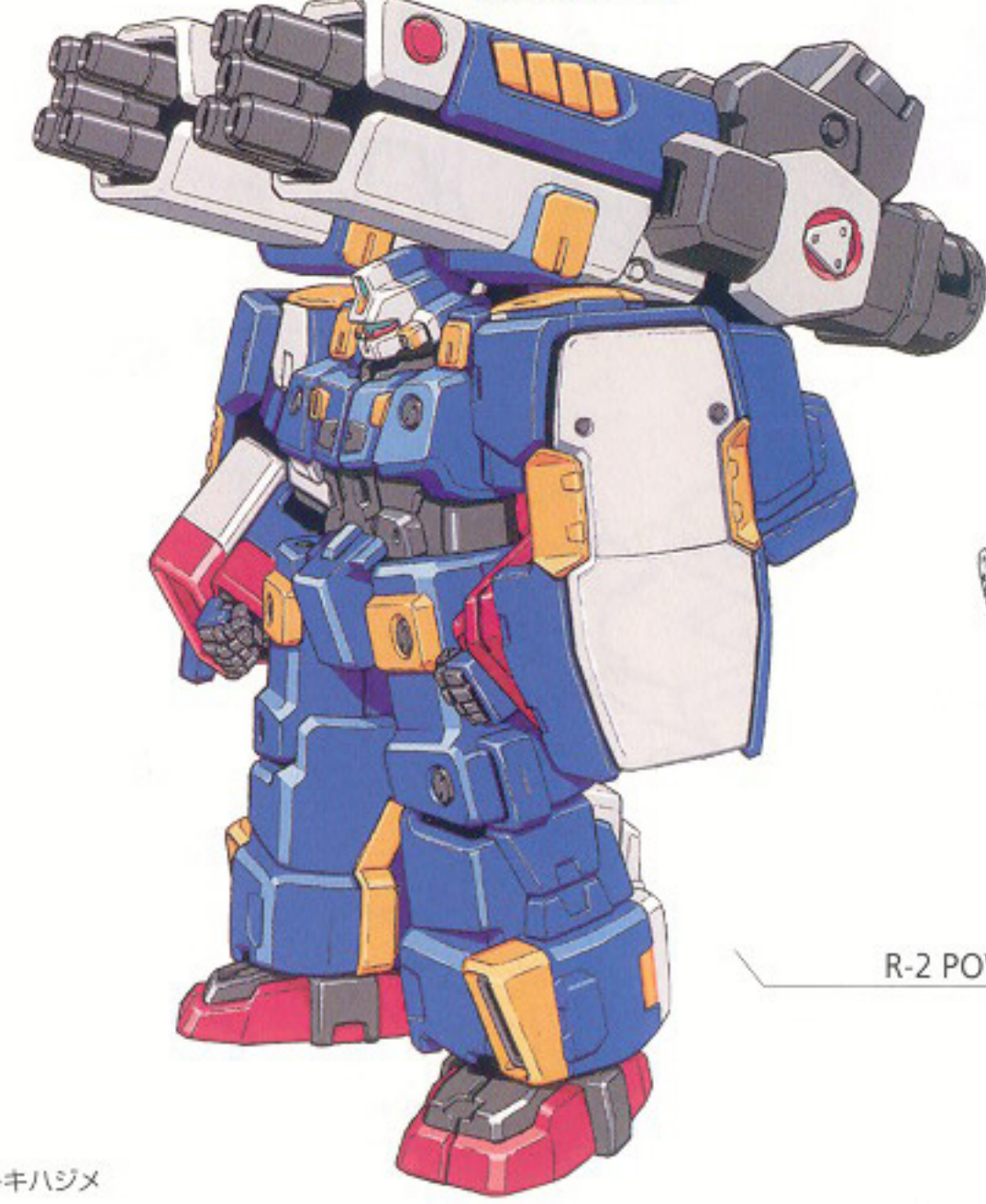
R-2 / R-2 hight : 19.1m / weight : 50.2t

R-2パワード / R-2P hight : 24.2m / weight : 152.4t

SRX計画で開発されたパーソナルトルーパー・Rシリーズの2号機。正式名称は「REAL PERSONAL TROOPER TYPE-2」。ビーム兵器を主体とした砲撃戦用の重パーソナルトルーパーで、SRXの動力源となるトロニウム・エンジンを搭載している。火力が高く、装甲も厚いが、エンジンの出力が不安定な点と運動性の低さが短所。Rシリーズの中では、制圧射撃や、味方機への砲撃支援の役割を担う。

また、重金属粒子砲であるハイゾルランチャー、ショルダーアーマーと言ったプラスパーツを装着することによって、R-2パワードとなる。SRX合体時、R-2のパイロットはトロニウム・エンジンの出力調整、機体のダメージコントロール、R-1やR-3のパイロットのメディカルチェックなどを行う。R-2にはT-LINKシステム（念動力感知増幅装置）が搭載されていないため、パイロットが念動力者である必要はない。



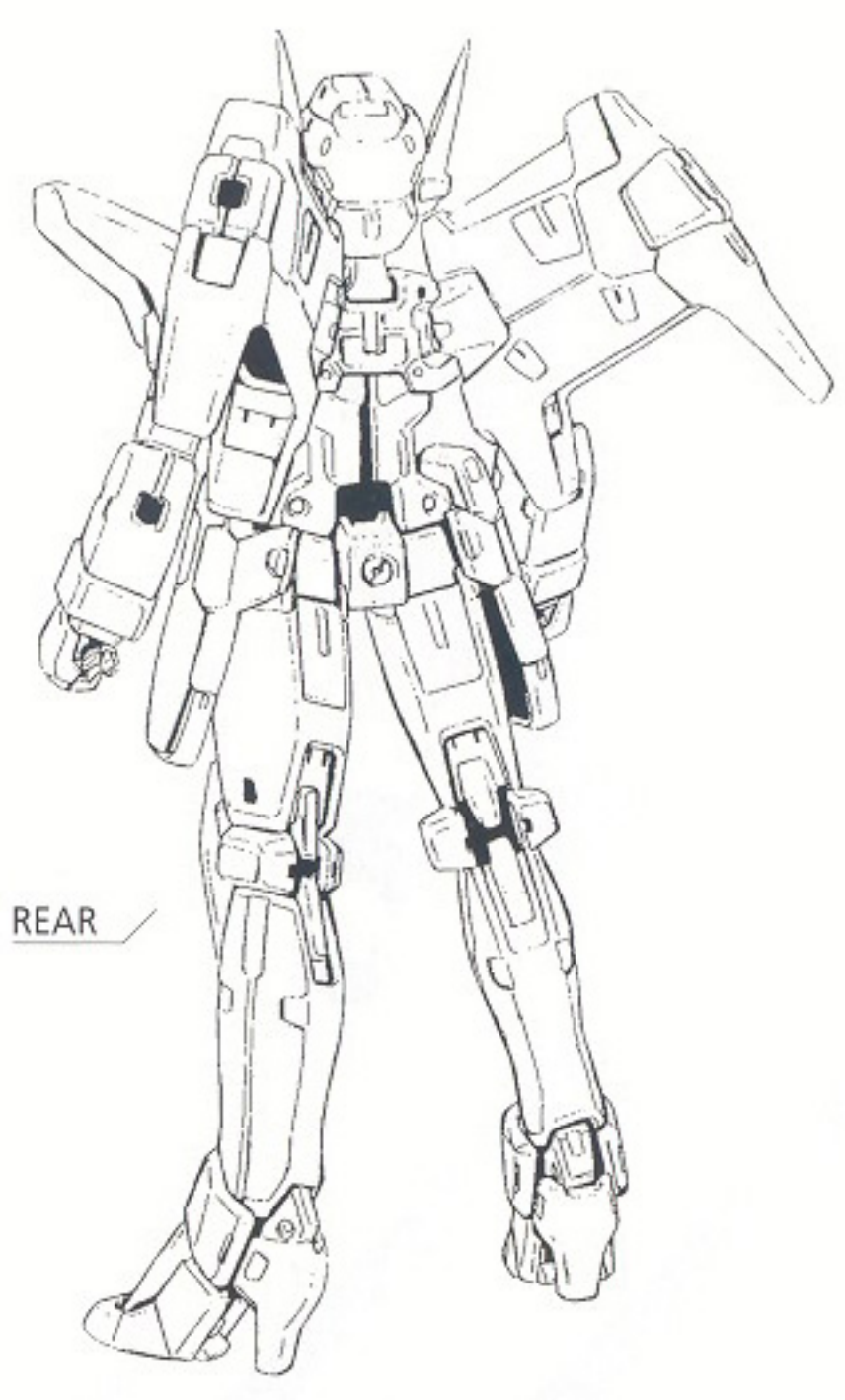


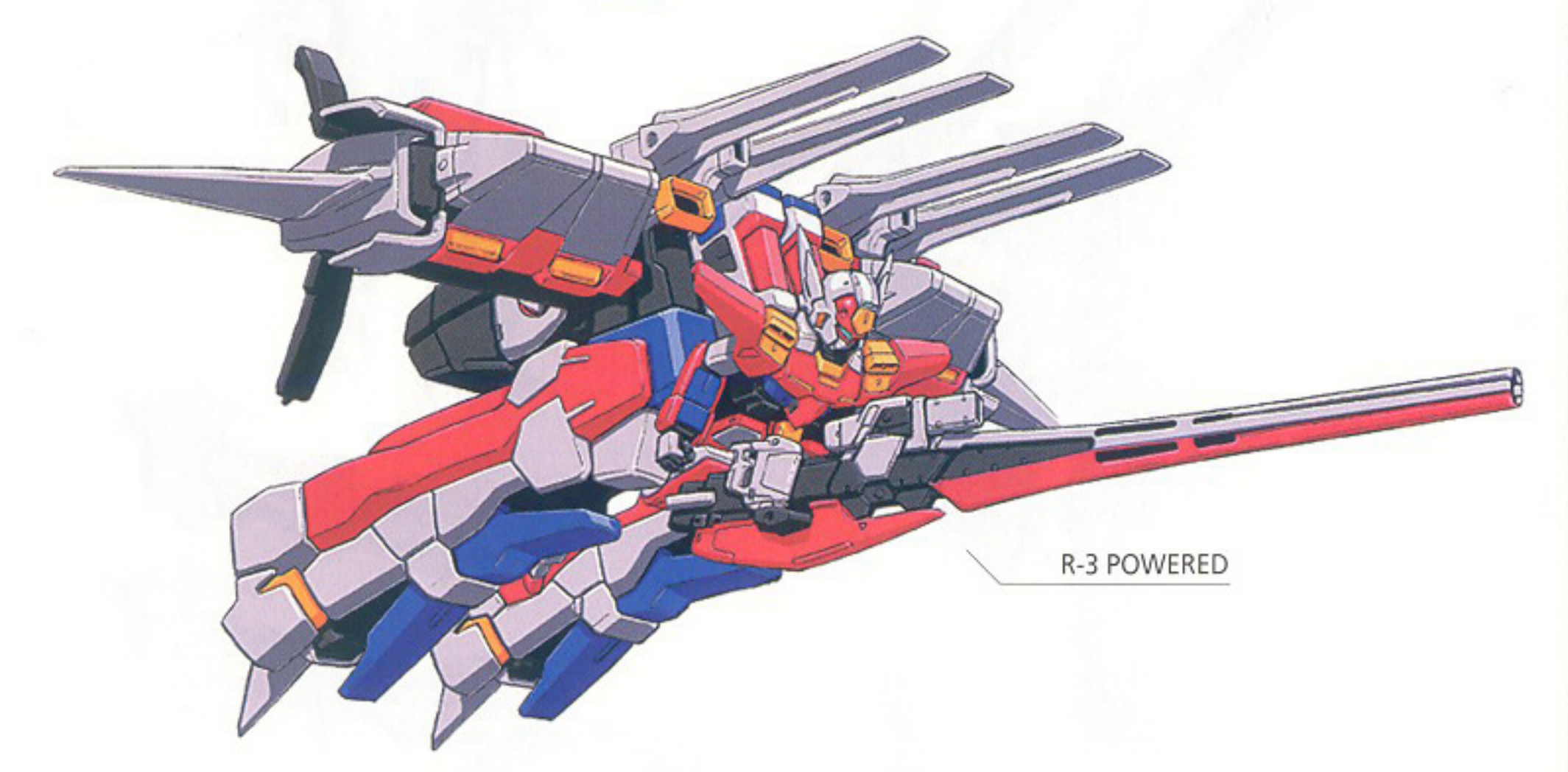
デザイン / カトキハジメ

R-3/R-3 POWERED REAL PERSONAL TROOPER TYPE-3

R-3 / R-3 hight : 15.3m / weight : 49.4t　R-3パワード / R-3P hight : 24.7m / weight : 186.2t

正式名称は「REAL PERSONAL TROOPER TYPE-3」。SRX計画で開発されたパーソナルトルーパー・Rシリーズの3号機。指揮官用・遠距離戦闘用の軽パーソナルトルーパーで、T-LINKシステム（念動力感知増幅装置）を応用した遠隔念動兵器と敵捕捉能力、情報収集能力の高さが特徴。パイロットは念動力者に限られ、実質上SRXチームのアヤ・コバヤシ大尉の専用機となっている。なお、T-LINKフライトシステムを搭載したプラスパーツを装着することにより、R-3パワードという重爆撃機形態となる。





デザイン / カトキハジメ

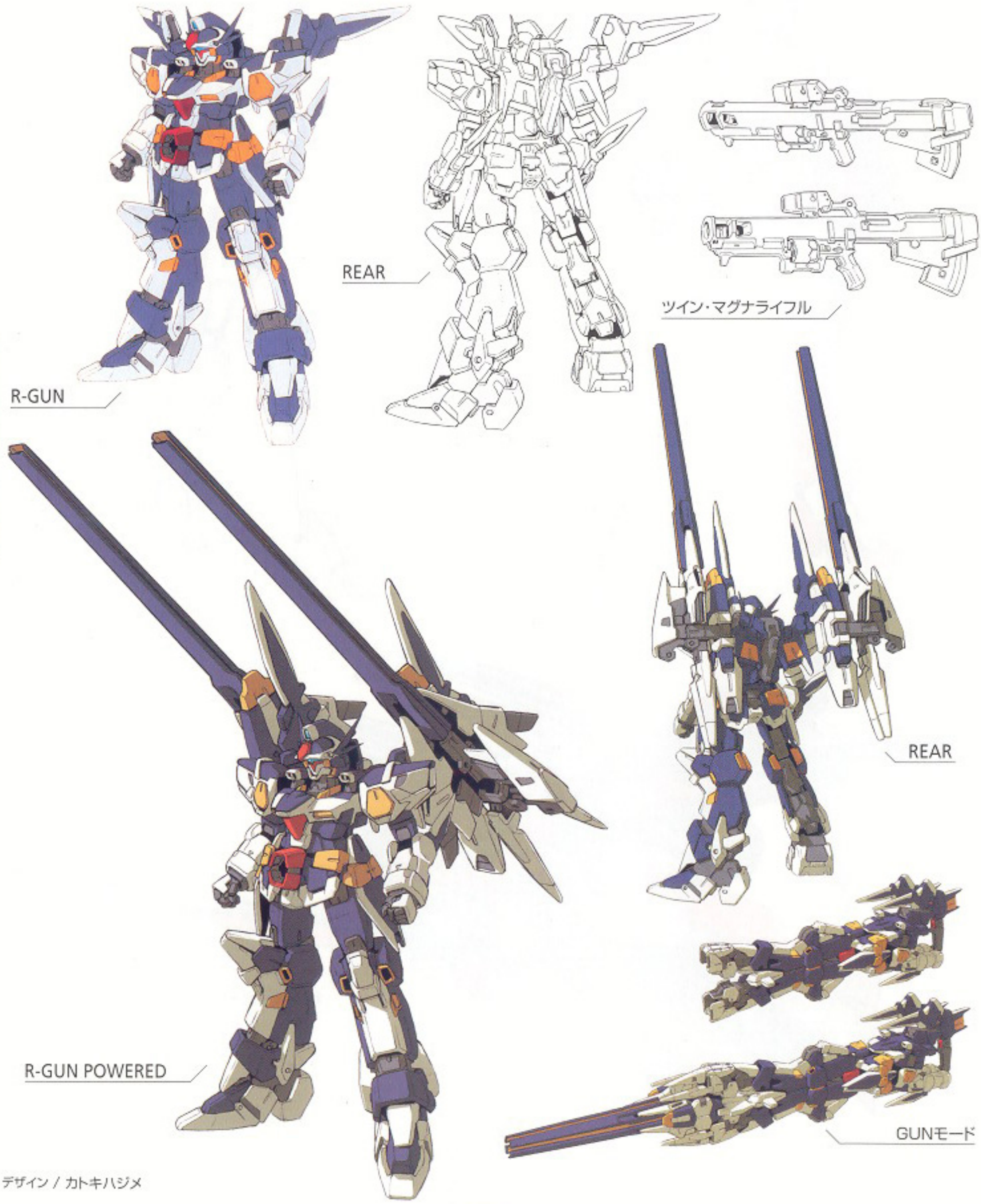
R-GUN/R-GUN POWERED REAL PERSONAL TROOPER TYPE-GUN

R-GUN / RW-1 hight : 16.8m / weight : 46.2t

R-GUNパワード / RW-1P hight : 29.8m / weight : 66.2t

正式名称は「REAL PERSONAL TROOPER TYPE-GUN」。

SRXのオプション兵器となるRW（R−WEAPON）シリーズの1号機。元々はトロニウム・バスターキャノンの2号機であったが、SRXへの運搬・取り回し等の問題への対処として小型化され、単体での移動や戦闘が出来るようにPT形態への変形機構が組み込まれた。R-2以上の出力を誇る新型のトロニウム・エンジンを搭載し、出力・火力共に他のRシリーズを凌駕するが、出力が不安定であることが欠点。実質的にはRシリーズの4号機に当たるが、"R-4"の名前は与えられず、月のマオ・インダストリー社において、"ARGAN"というコードネームの下、極秘裏に開発が進められていた。なお、背部にハイツインランチャーなどのプラスパーツを装着した状態をR-GUNパワードと呼称する。L5戦役後、T-LINKシステムが改良され、R-3とのT-LINKツインコンタクトが可能となる。



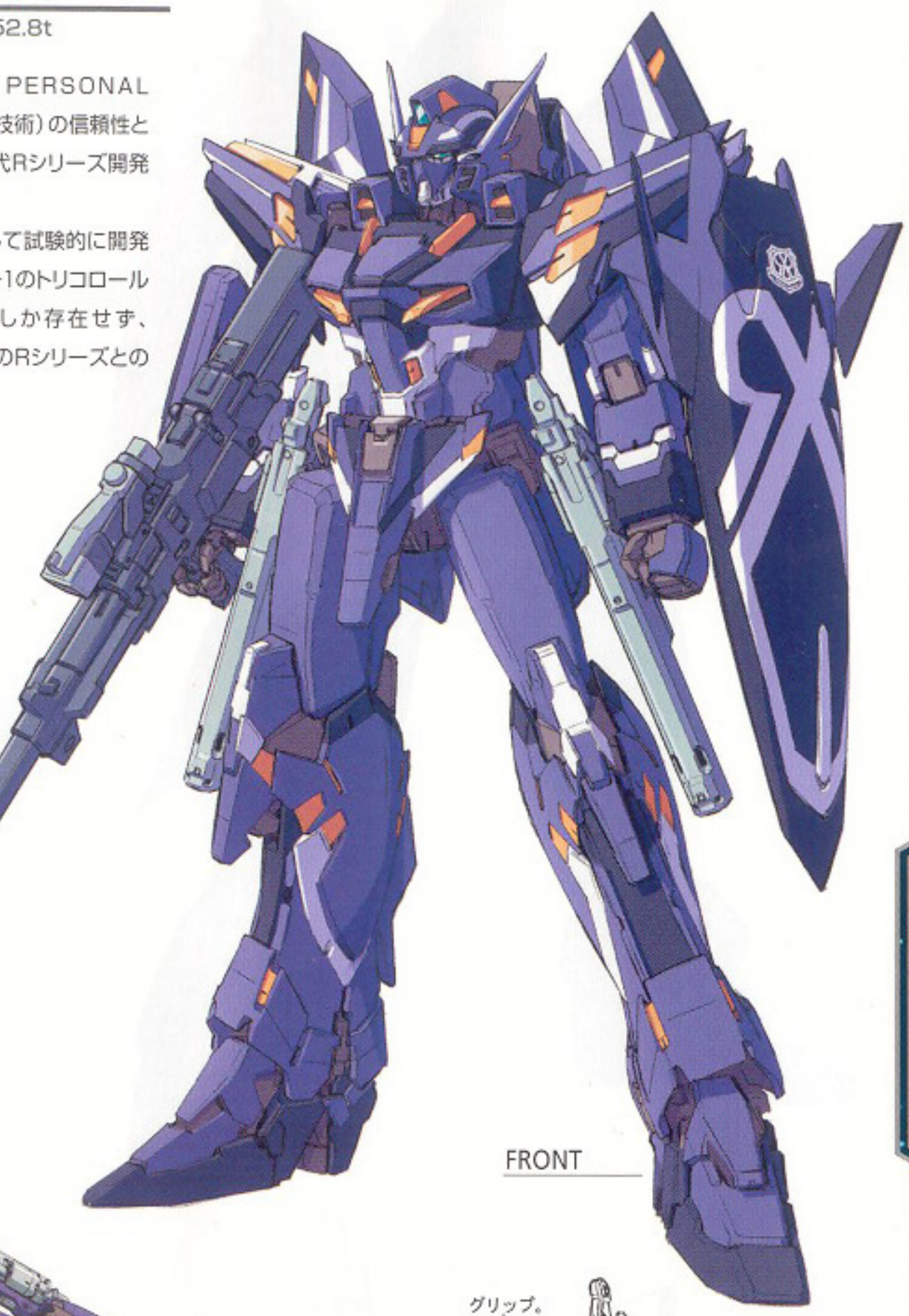
デザイン / カトキハジメ

ART-1 ADVANCED REAL PERSONAL TROOPER TEST TYPE-1

アート-1 / ART-1　hight : 19.8m / weight : 52.8t

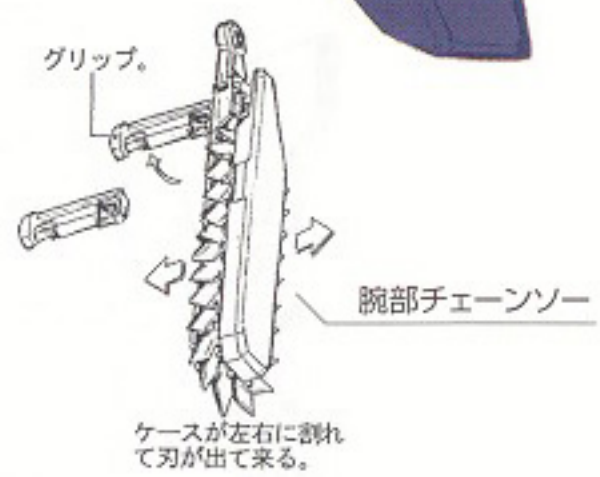
ART-1（アートワン）とは「ADVANCED REAL PERSONAL TROOPER TEST TYPE-1」の略。EOT（異星人の超技術）の信頼性と安定性を高めるための「レイオス・プラン」の一つ、次世代Rシリーズ開発計画「RXR計画」で作られた新型パーソナルトルーパー。
次世代機開発に備え、R-1とRTX-011のデータを基にして試験的に開発された（試作機の試作機的な存在であるため、機体色はR-1のトリコロールカラーではなく、試作機カラーになっている）。1機しか存在せず、飛行形態（ART-ウィング）への変形は可能であるが、他のRシリーズとの合体機構はない。ただし、その性能はR-1を凌駕する。

REAR

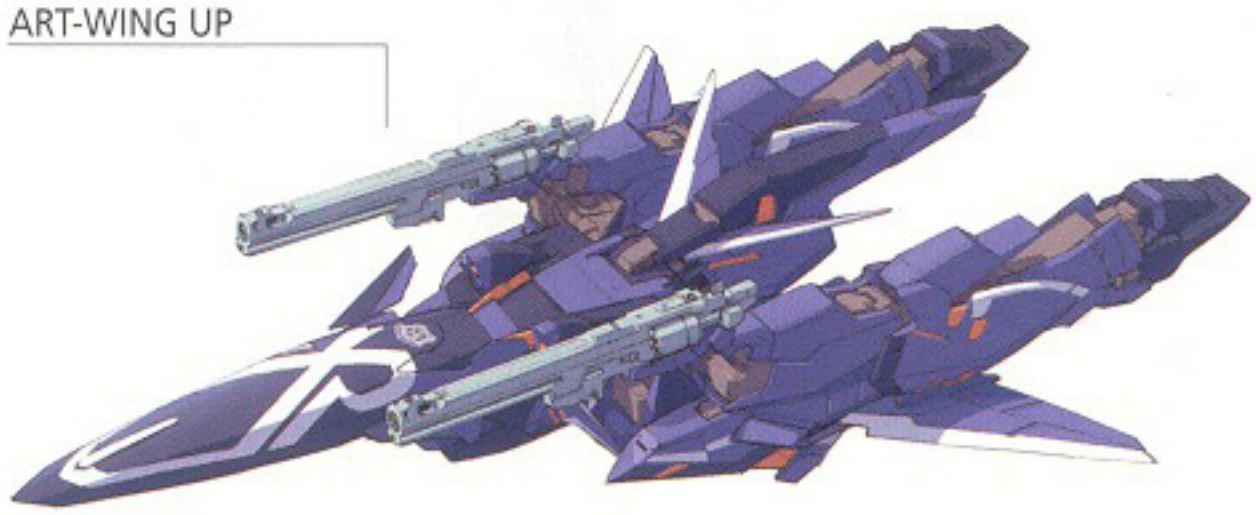


FRONT

ART-WING DOWN



ART-WING UP



■通常時　■使用時

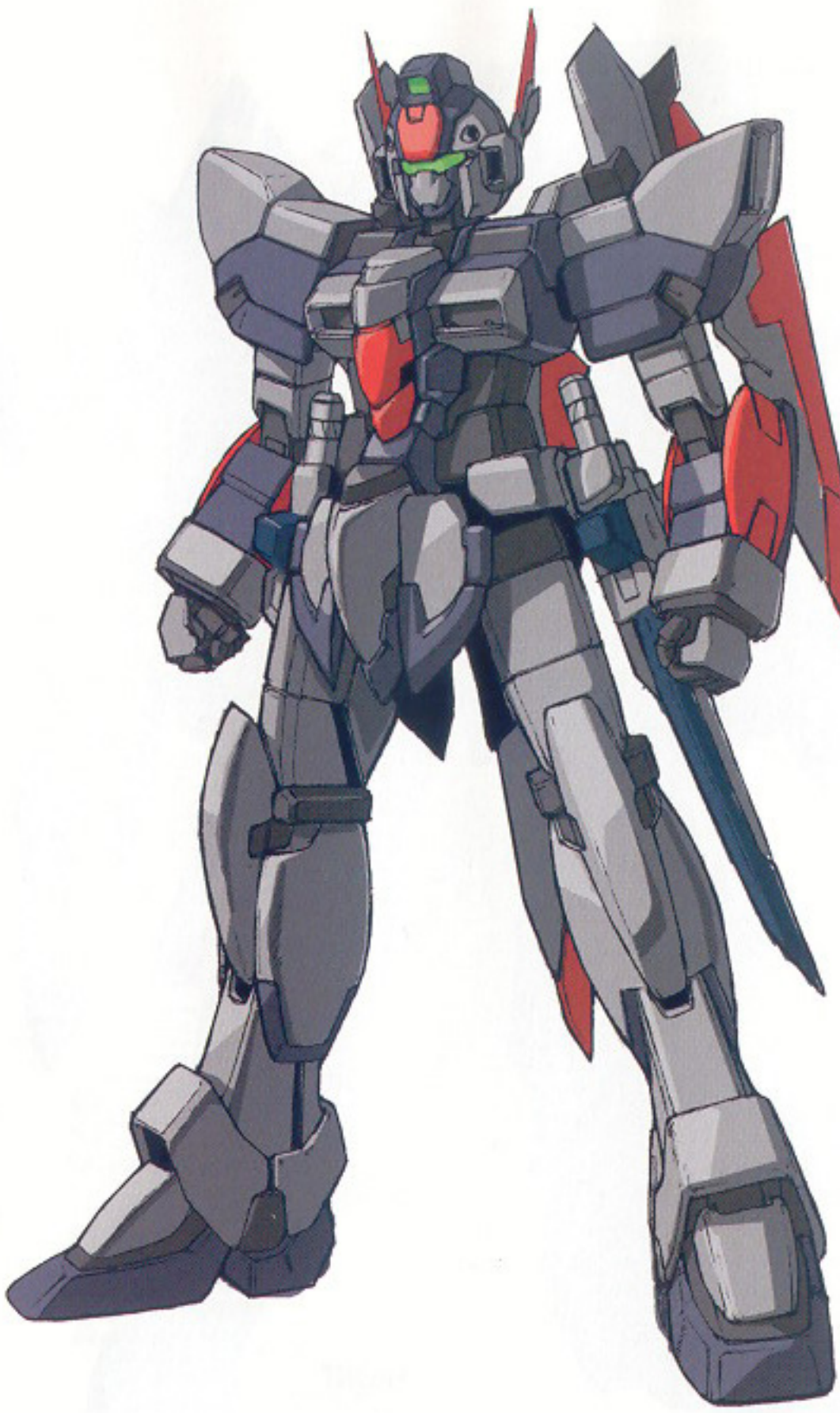
デザイン / カトキハジメ

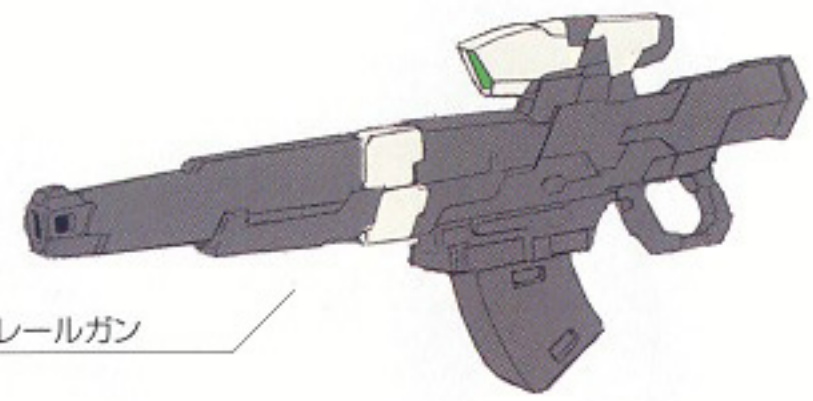
ARBLADE

アルブレード / PTX-014-03

hight : 19.0m / weight : 45.8t

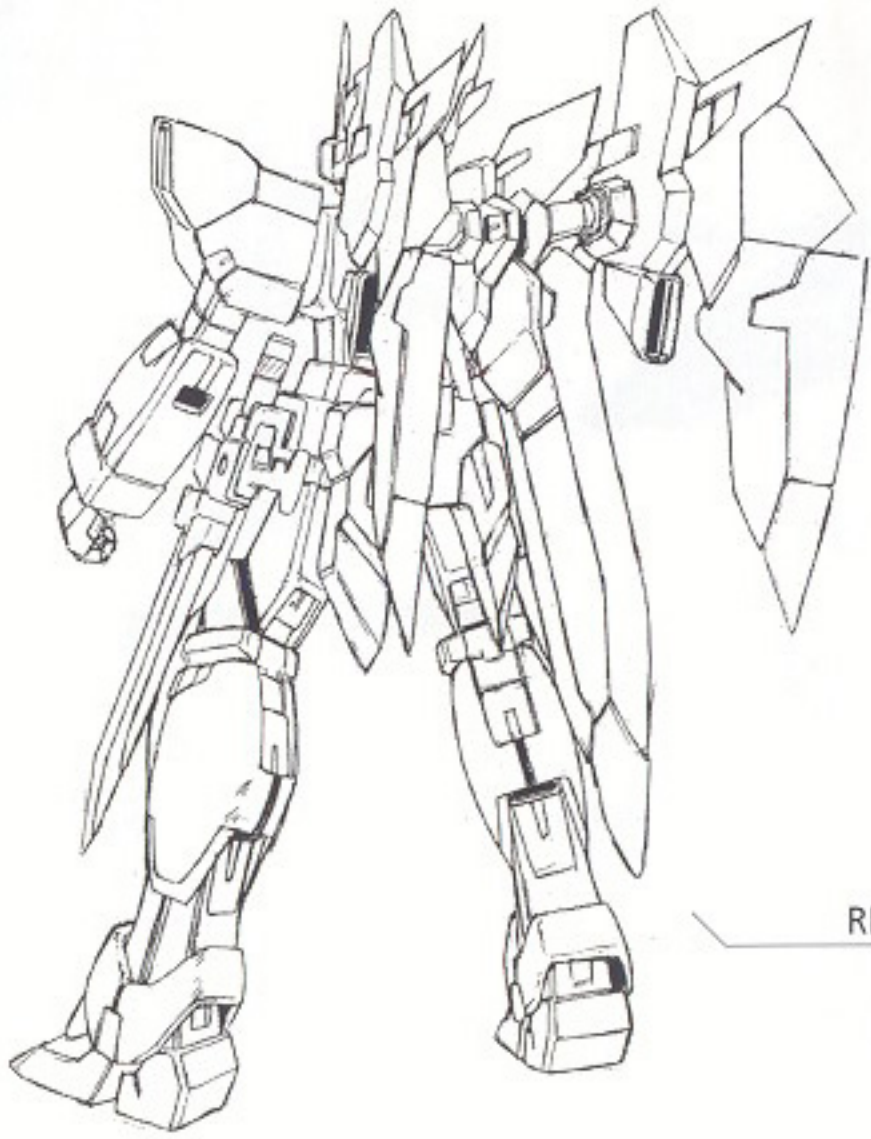
マオ・インダストリーが開発したR-1の簡易量産試作型パーソナルトルーパー。テストパイロットはリュウセイ・ダテ。
R-1にあった変型機構やT-LINKシステムなどがオミットされているが、基本性能は高い。この機体は3機あるプロトタイプの内の1機（タイプT）で、近距離戦用にチューンされている。Rシリーズにはカウントされておらず、プロトタイプのデータを基にした次期主力機候補の量産型アルブレードが並行して開発中である。

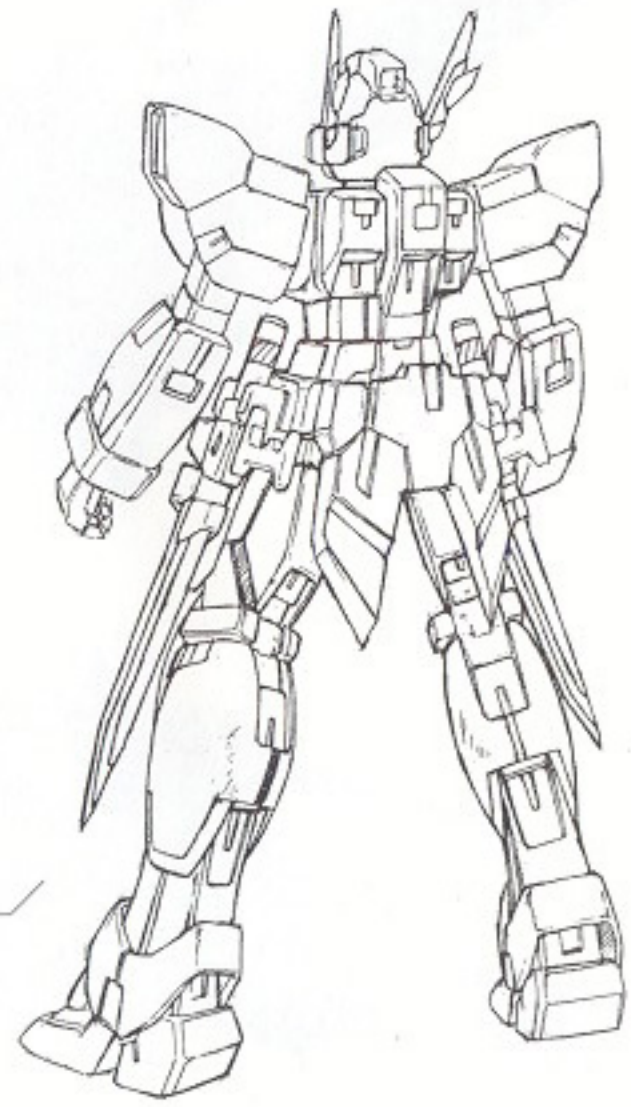




G・レールガン

FRONT





REAR

デザイン / 金丸 仁

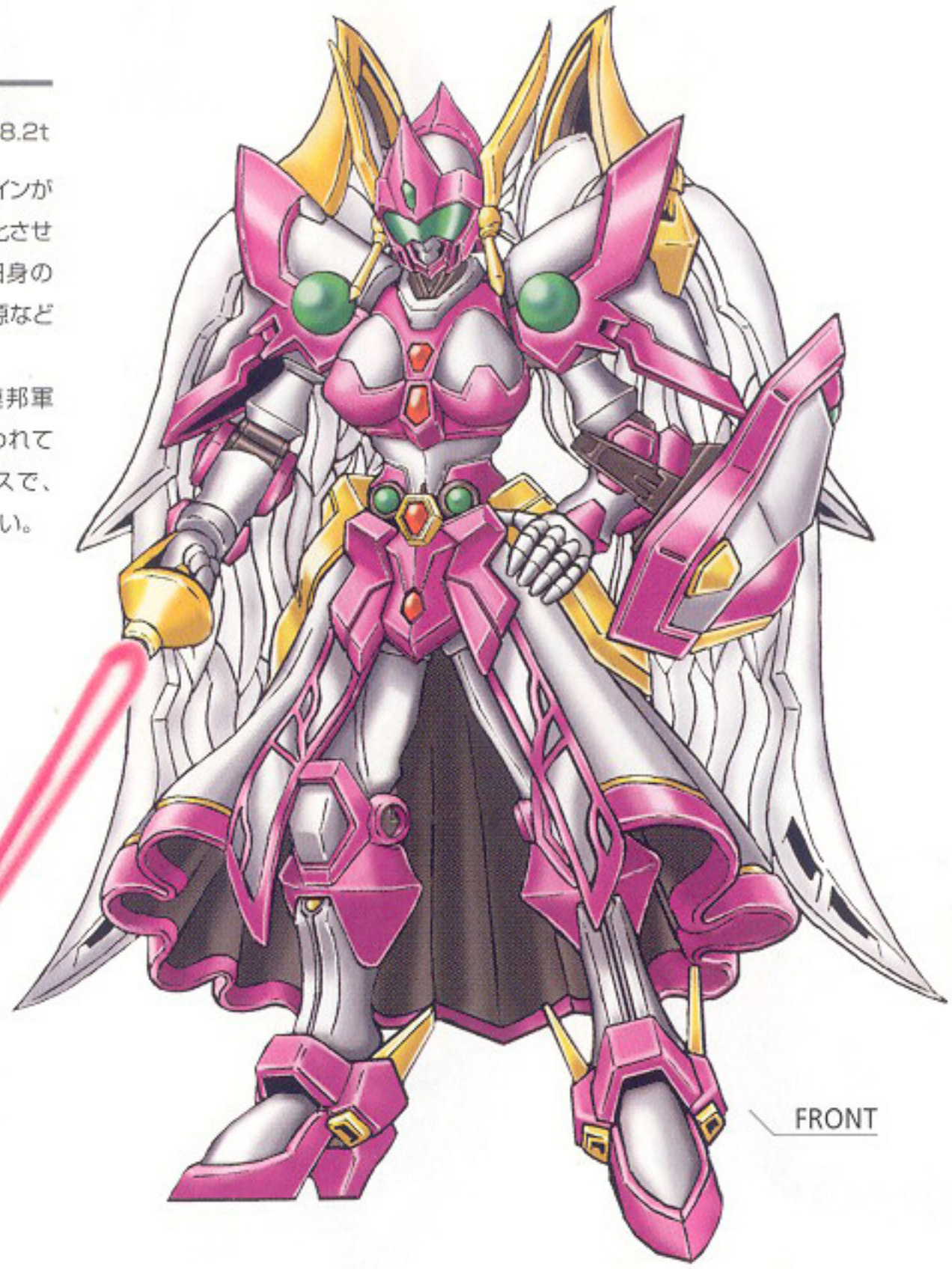
ANGELG

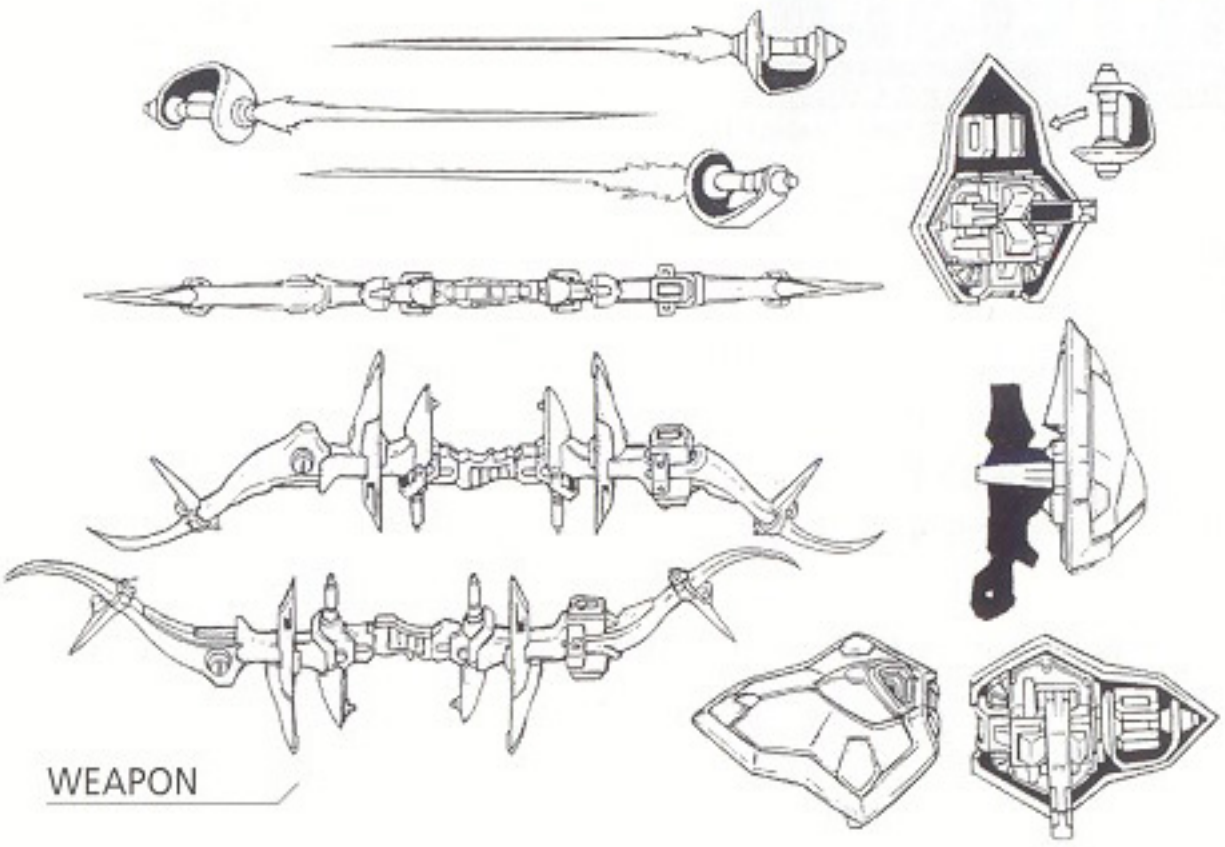
アンジュルグ / SMSC

hight : 43.7m / weight : 98.2t

有機体に近い背部ウィング、女性型の甲冑のようなデザインが神秘的な特機（スーパーロボット）タイプの機体。物質化させたエネルギー体を槍状、弓矢状にして放つ攻撃や、細身の剣など西洋の騎士を思わせる。しかし、材質や動力源など不明な点が多い。

リオンシリーズを生産しているイスルギ重工が、連邦軍次期主力機トライアル提出用に開発した機体だと言われているが、真偽は不明。パイロットはラミア・ラヴレスで、機体の登録システムにより、彼女以外には操縦出来ない。



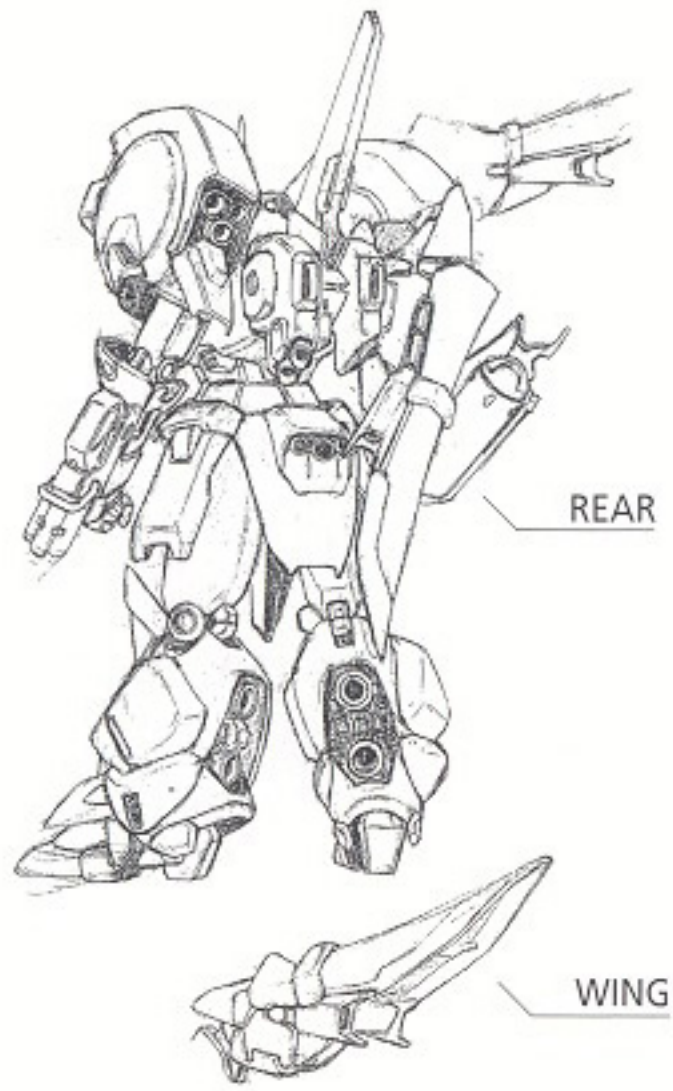


デザイン / 齋藤 和衛・藤井 大誠（レイ・アップ）

ALTEISEN RIESE

アルトアイゼン・リーゼ / PTX-003C-SP1　hight : 23.8m / weight : 99.7t

パーソナルトルーパー・アルトアイゼンに改造を施した機体。パイロットのキョウスケ・ナンブの意見を基に、マリオン・ラドム博士が作り上げた。ヴァイスリッターの予備パーツと、機体バランスを著しく損なうという理由で採用が見送られていたリボルビング・パンカーを装備し、他の武装も全て一回り大型の物に換装している。また、テスラ・ドライブも装備しているが、機体のバランス調整と突進力向上のために使われているため、長時間の飛行は不可能。その結果、リーゼはパーソナルトルーパーとして破格の火力と突進力を獲得したが、アルトアイゼン以上に扱いが難しい機体となった。



デザイン / 齋藤 和衛

ALTEISEN

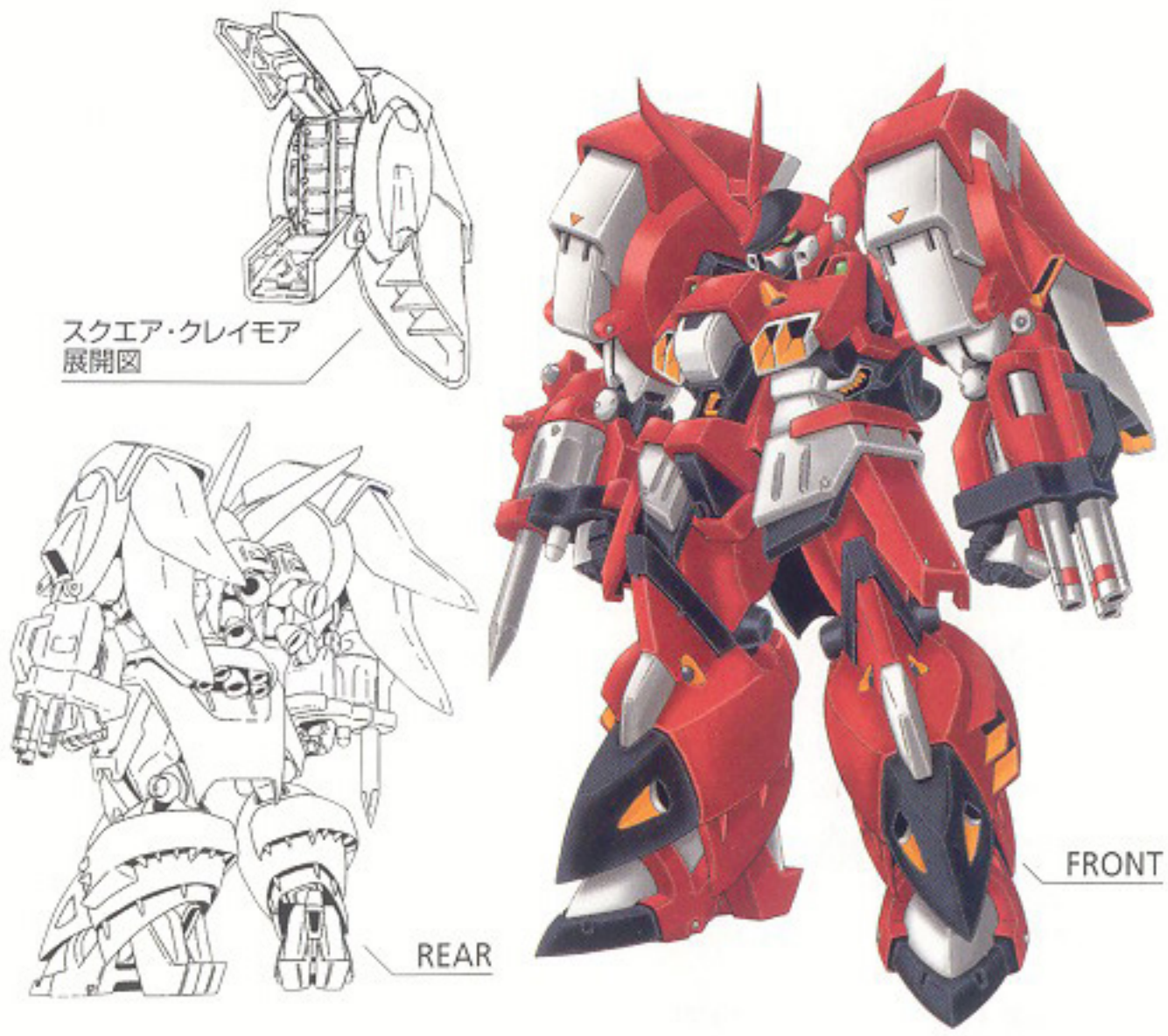
アルトアイゼン / PTX-003C

hight : 22.3m / weight : 85.4t

ATX計画において、「絶対的な火力をもって正面突破を可能とする」というコンセプトで開発されたパーソナルトルーパー。

パイロットはキョウスケ・ナンブ。テスト用の機体として保管されていたPTX−003「ゲシュペンスト（タイプT）」を母体に過剰なまでの改造を加えられ、武装も近・中距離戦闘用の実弾兵器が中心となっている。

また、開発者のマリオン・ラドム博士の意向で危険度の高いEOT（異星人の超技術）は使用されていない。近接・格闘戦においては比類なき実力を発揮するが、あまりにも時代に逆行した設計コンセプトから次期主力機の採用は見送られ、コードネームであった「アルトアイゼン（独語で古い鉄）」という不名誉な機体名で呼ばれるようになった。



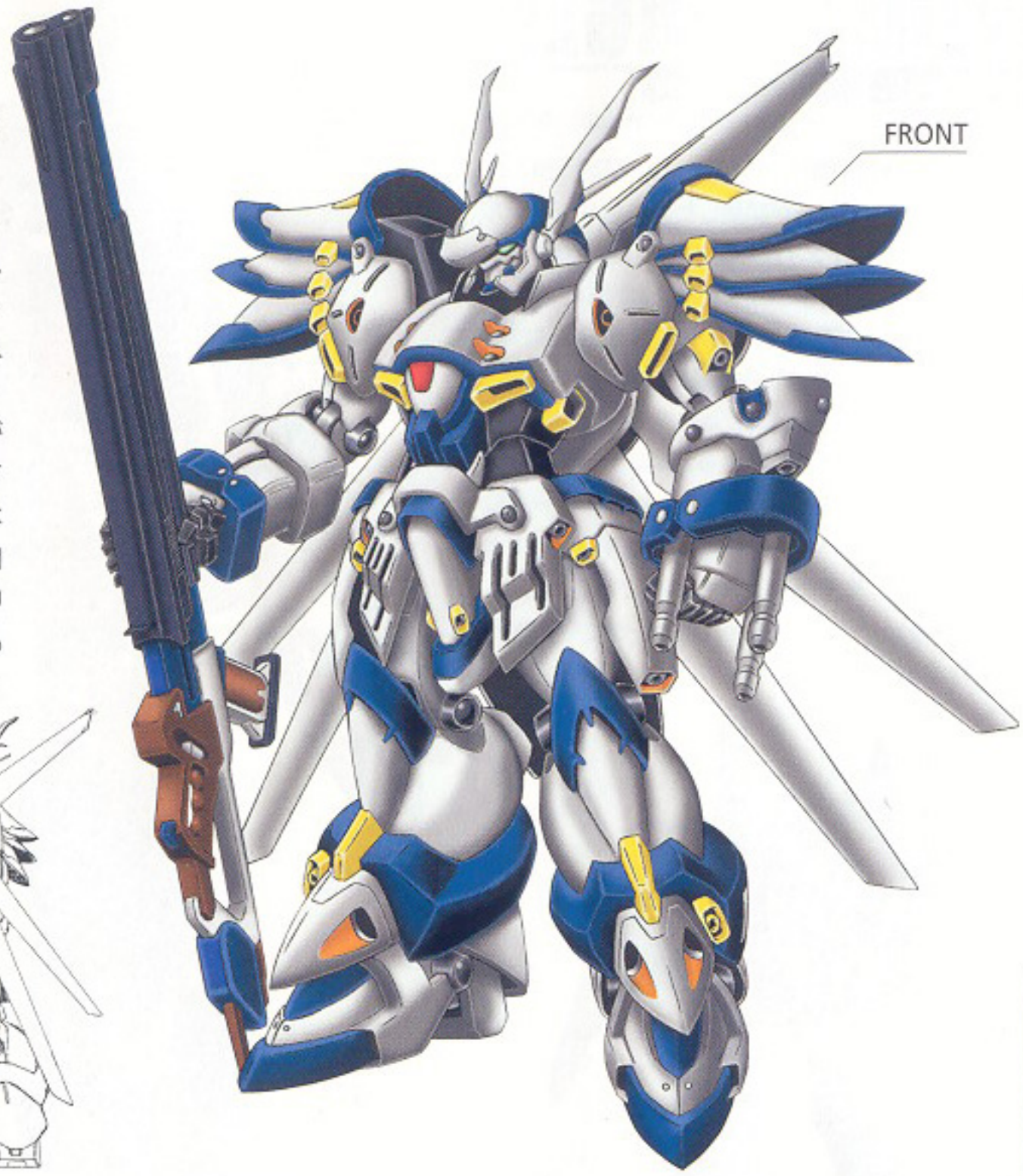
デザイン / 齋藤 和衛

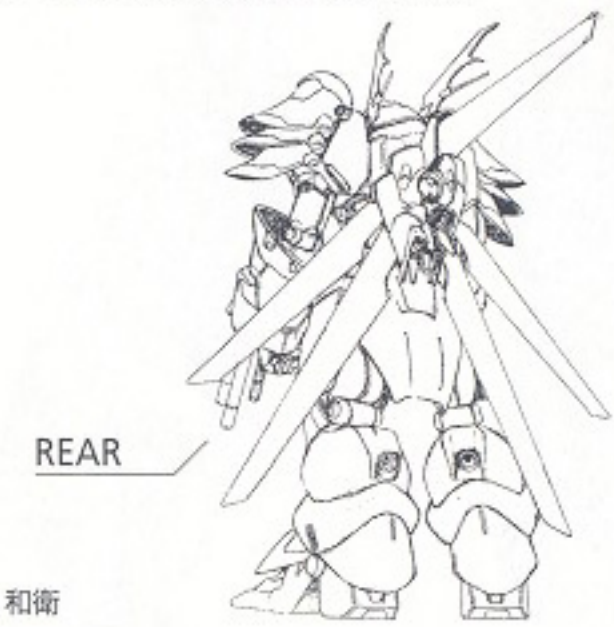
WEIβRITTER

ヴァイスリッター / PTX-007-03C

hight : 21.7m / weight : 60.3t

ATX計画において、量産主力機であるRPT−007「量産型ゲシュペンストMk−Ⅱ」の性能向上のため、Mk−Ⅱの試作3号機を母体にして開発されたカスタム機。パイロットはエクセレン・ブロウニング。DC側から流出したリオンシリーズの技術が導入され、テスラ・ライヒ研究所が開発した小型テスラ・ドライブを搭載している。そのため、単体での飛行が可能な上に、機動性もリオンシリーズ以上となっている。さらに実弾とビーム弾の撃ち分けが可能なオクスタン・ランチャーを装備し、優れた砲撃戦闘能力を持つ。だが、高機動性を重視したために装甲がぜい弱なものとなってしまい、生産コストの問題も重なってアルトアイゼン同様に量産化は見送られた。



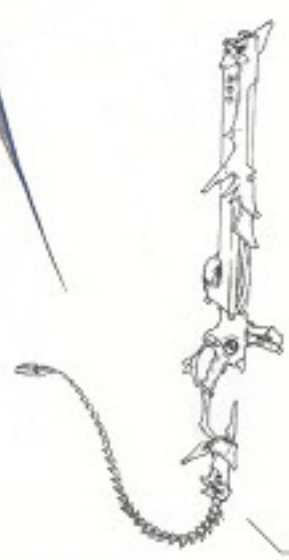


デザイン / 齋藤 和衛

REIN WEIβRITTER

ライン・ヴァイスリッター / PTX-007-03UN hight : 21.9m / weight : 65.5t

ヴァイスリッターが謎の技術によって変貌し、パワーアップした姿。全体の60%以上が解析不能のものに変質している。主武装はヴァイスリッターのオクスタン・ランチャーが変化したと思われるハウリング・ランチャー。また、強力なエネルギーフィールドを展開したり、思念波による攻撃を行うことも可能。



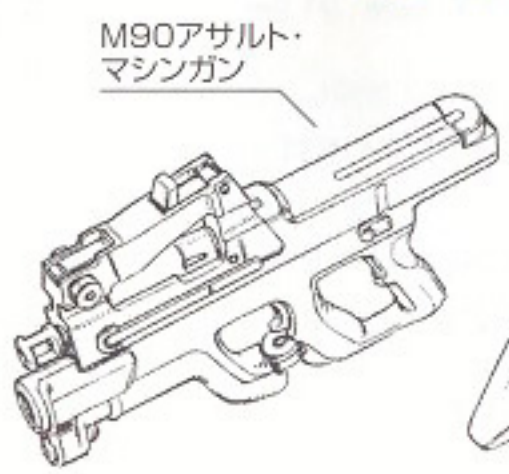
デザイン / 齋藤 和衛

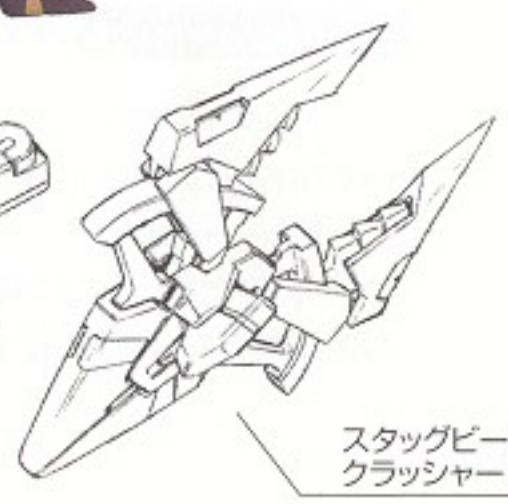
WILDWüRGER

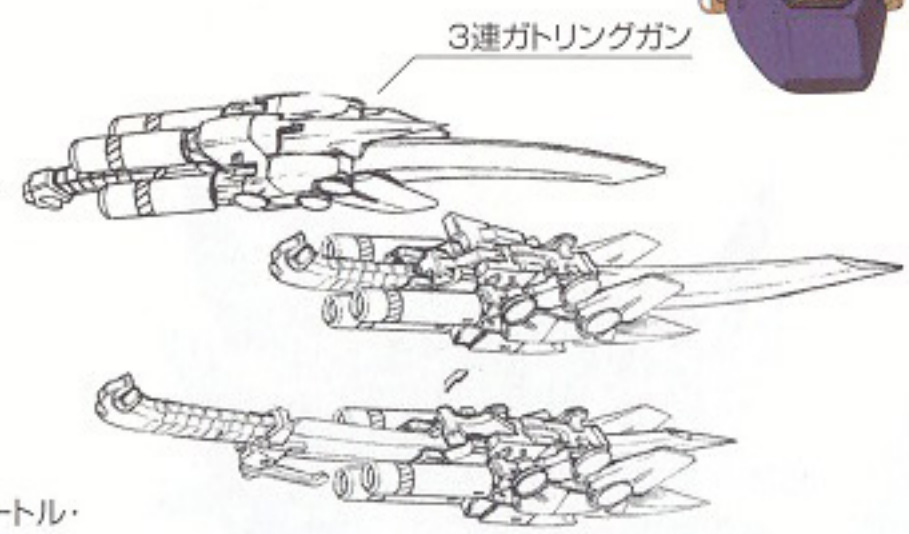
ビルトビルガー / PTX-015R

hight : 20.6m / weight : 56.9t

L5戦役後、凍結処置が解除されたATX計画において、マオ・インダストリーが開発した試作型パーソナルトルーパー。アルトアイゼンのコンセプトを受け継いだ近接・格闘戦用の機体で、基本的には砲撃戦用のビルトファルケンと共に運用される。EOT（異星人の超技術）は使用されておらず、近・中距離戦闘用の実弾兵器を装備している。また、機体にはHフレームではなく、GⅡフレームが使用されている。背部には高性能のテスラ・ドライブが搭載されており、単体での飛行が可能。さらにジャケット・アーマーと呼ばれる装甲を排除することによって、高機動モードへ移行できる。設計・開発担当はマリオン・ラドム博士。他に同型機が1機存在する（PTX-015L）。







高機動モード

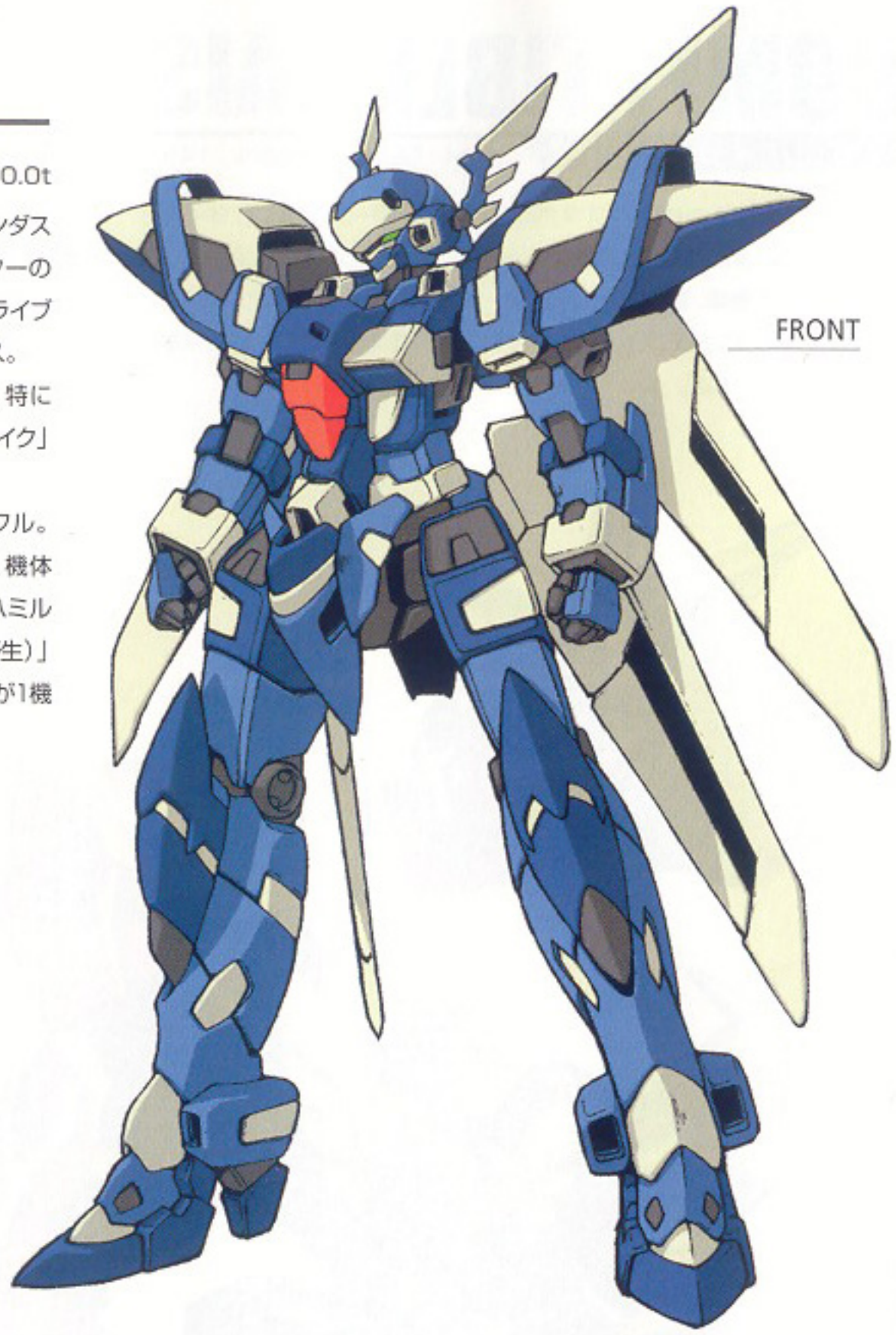
デザイン / カトキハジメ

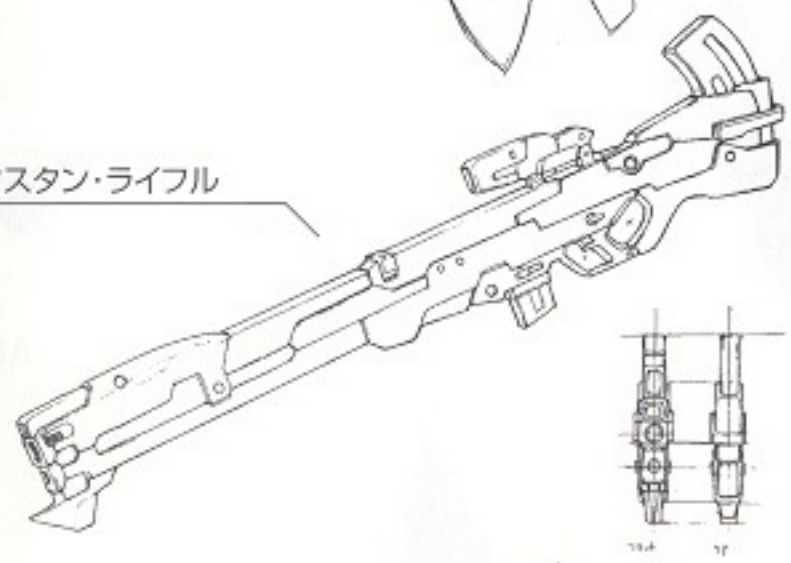
WILDFALKEN

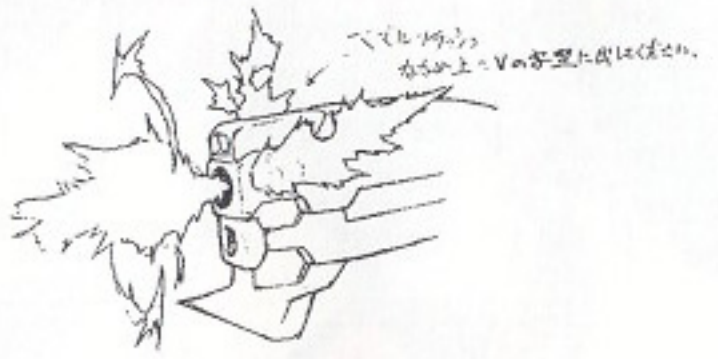
ビルトファルケン / PTX-016R

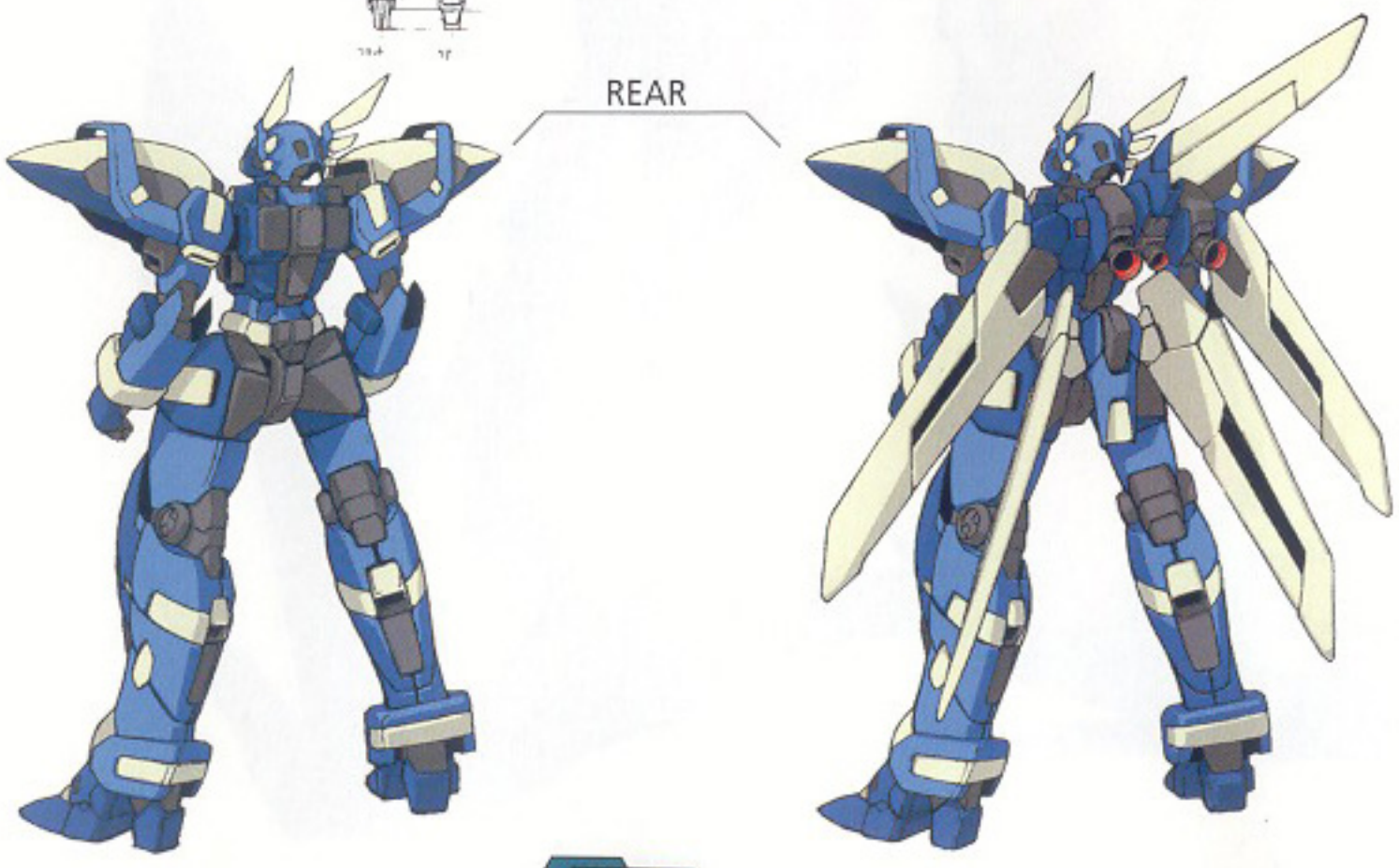
hight : 21.7m / weight : 50.0t

L5戦役後、凍結処置が解除されたATX計画において、マオ・インダストリーが開発した試作型パーソナルトルーパー。ヴァイスリッターのコンセプトを受け継いだ砲撃戦用の機体。高性能のテスラ・ドライブを搭載し、運動性はパーソナルトルーパーの中でもトップクラス。
基本的に近接・格闘戦用のビルトビルガーと共に運用され、特に高機動モードへ移行した同機との連係攻撃「ツインバードストライク」は強力である。
主武装は実弾とエネルギー弾を使い分けるオクスタン・ライフル。
また、機体にはビルトビルガーと違ってHフレームが使用され、機体剛性の向上と軽量化が図られている。開発担当者はカーク・ハミル博士。なお、ビルトファルケンという名称は、ドイツ語の「WILD（野生）」と「WANDERFALKE（隼）」が元となっている。他に同型機が1機存在する（PTX-016L）。









デザイン / 金丸 仁

COMPATIBLE KAISER

コンパチブルカイザー　hight : 56.8m / weight : 148.1t

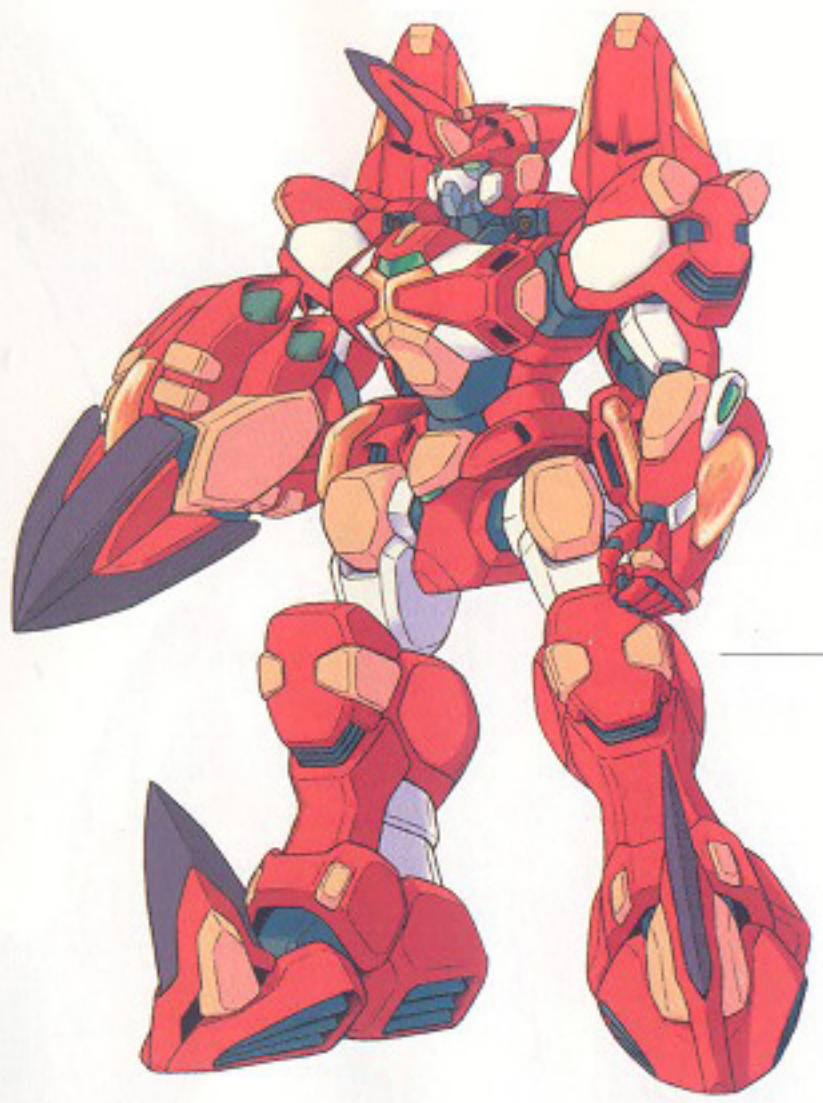
ファイター・ロアことコウタ・アズマが搭乗するスーパーロボット。「バトルフォース・ロボ」、「コンパチカイザー」とも呼ばれる。浅草在住の発明家であるキサブロー・アズマが、大破状態であった謎のロボットのパーツを流用して作り上げた機体。動力源は「OG（オーバー・ゲート）エンジン」。ただし、このエンジンは完全に修復されておらず、現状のコンパチブルカイザーは真の実力を発揮することが出来ない。主武装はスパイラル・ナックル、カイザーバーストなど。

デザイン / 大張 正己

EXCELLENCE STRIKER

エクサランス・ストライカー / EXF-02S　hight : 20.4m / weight : 70.1t

フレームを交換することによって、あらゆる戦場に対応できる汎用人型機動兵器「エクサランス」の第1号フレーム。ストライカーは陸戦を想定した機体であり、右手に着脱可能なアームウェポンシステムが装備されている。高速移動し、その加速を活かしたクラッシャーアームなど接近戦をメインとした攻撃を得意とする。パイロットはラウル・グレーデン。フレーム開発担当はミズホ・サイキ。



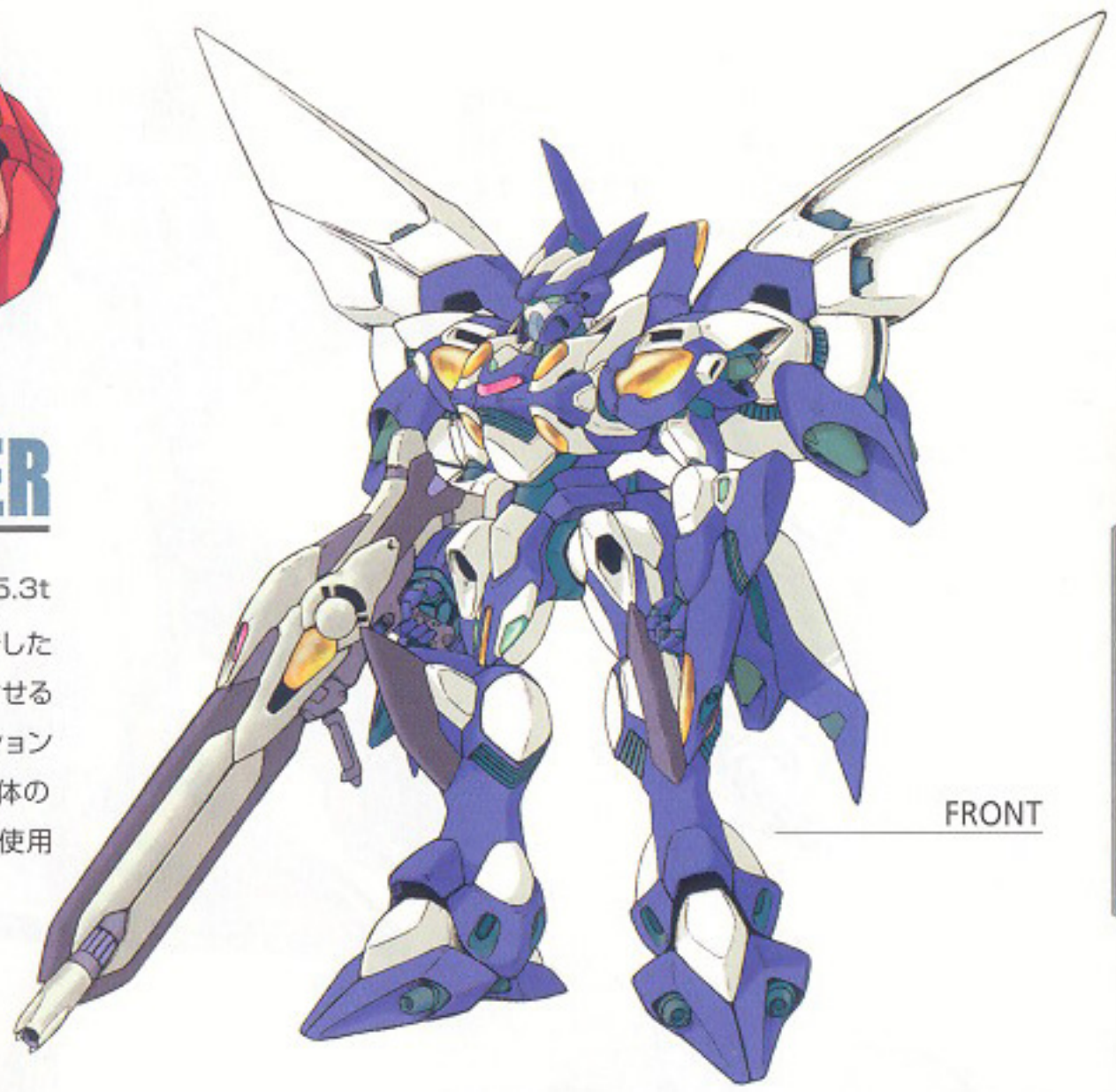
FRONT

EXCELLENCE FLYER

エクサランス・フライヤー / EXF-02F

hight : 24.9m / weight : 75.3t

エクサランスが空中戦用のフレーム「フライヤー」を装着した状態。背部のウィングにはフレキシブルな回避運動を実現させる可動式のブースターを装備し、攻撃にはディストラクションライフルを使用。さらにディストラクションライフルを機体のジェネレーターと接続することによって、MAXモードが使用可能になる。



FRONT

FRONT

EXCELLENCE COSMO-DRIVER

エクサランス・コスモドライバー / EXF-02C　hight : 21.8m / weight : 72.6t

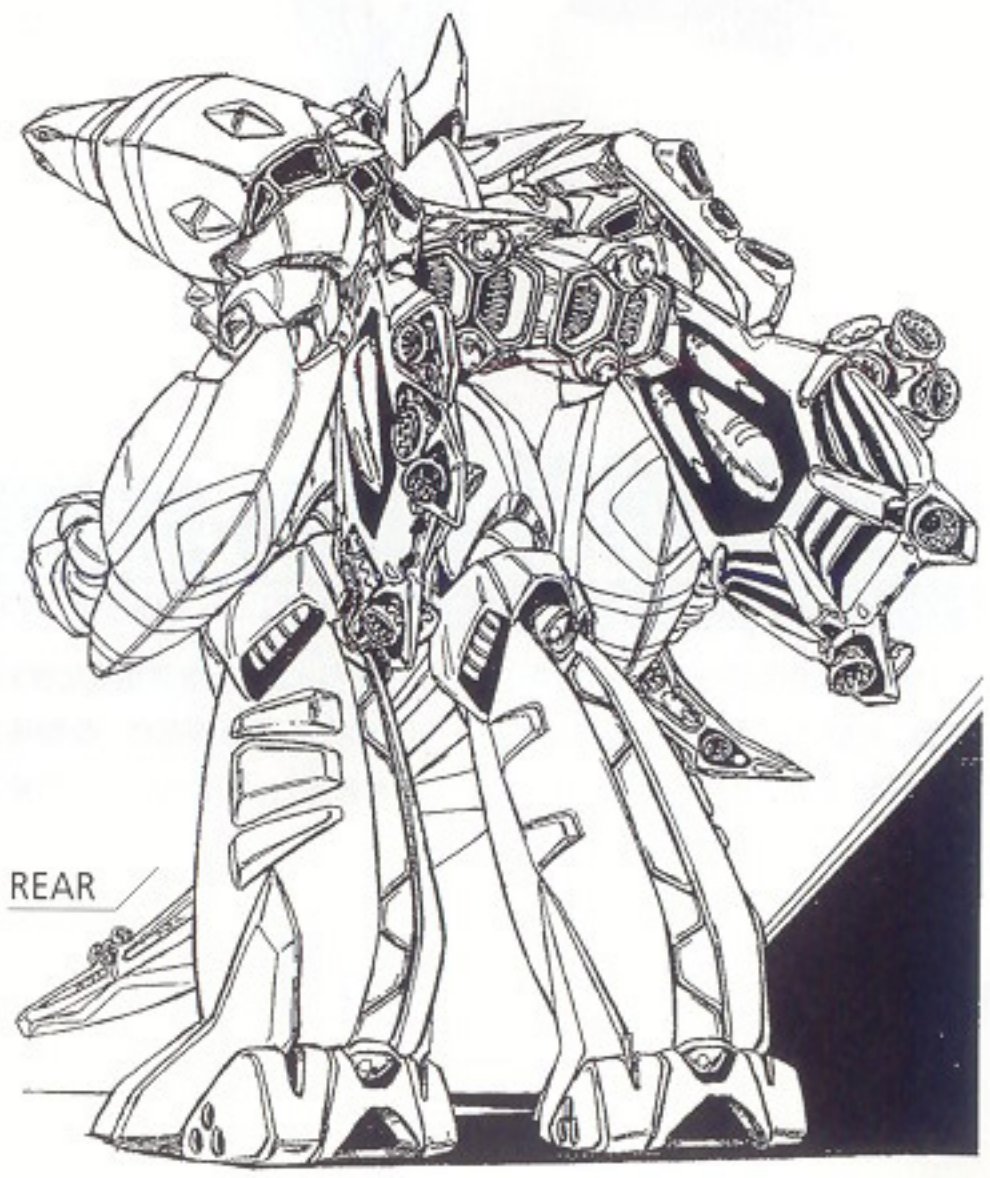
エクサランスが宙間戦闘用のフレーム「コスモドライバー」を装着した状態。背部に大型ブースターを装備しており、他フレームより運動性・機動性が向上する。また、遠距離誘導兵器フェアリーを装備し、オールレンジ攻撃も可能。

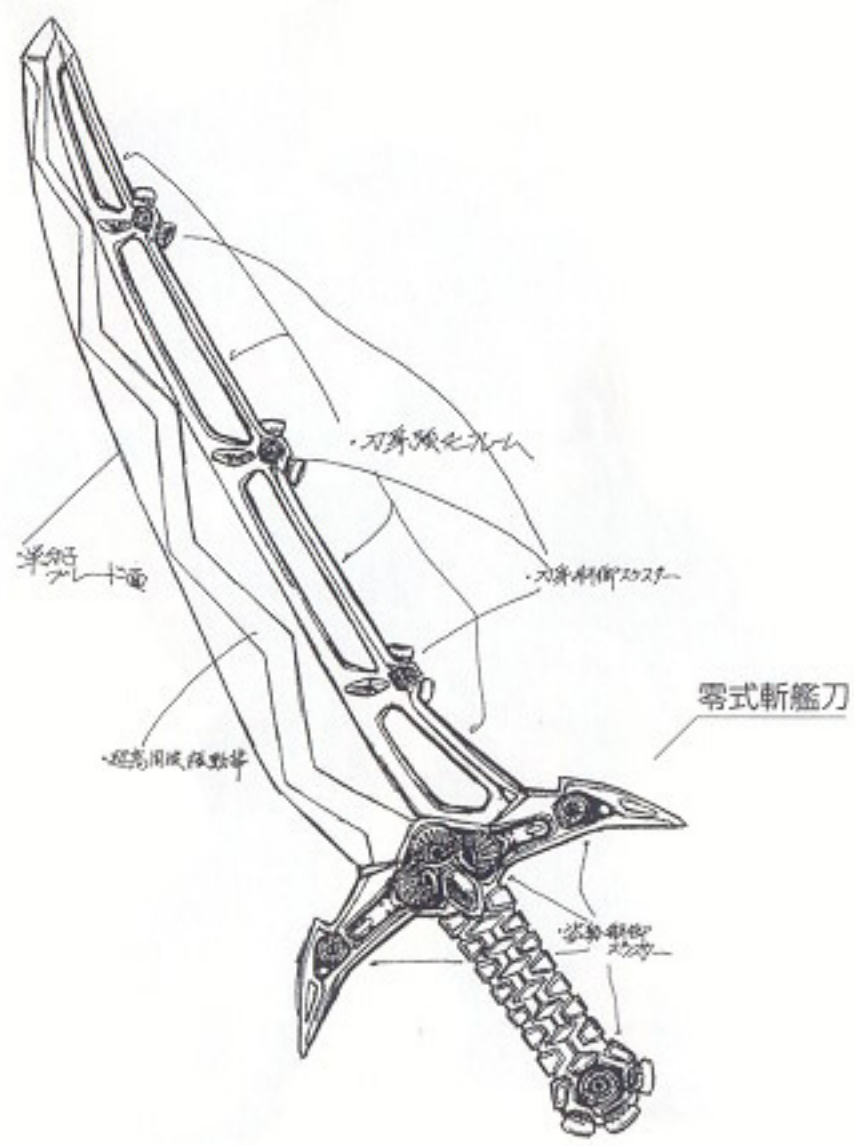
デザイン / 大輪 充

GRUNGUST TYPE-0

グルンガスト零式 / SRG-00　hight : 50.3m / weight : 380.0t

地球圏防衛委員会の依頼を受けて、テスラ・ライヒ研究所が開発した対異星人戦闘用の特殊人型機動兵器（スーパーロボット）。大質量による物理的攻撃を基本コンセプトとし、そのサイズや機体形状は知能を持った敵に対する心理的効果（威圧感を与えるなど）を考慮したものとなっている。
パーソナルトルーパーでは対処できない強大な敵機との戦闘を想定した機体で、破格の出力と攻撃力を持っている。動力源として宇宙航行艦用の核融合ジェネレーターを搭載しており、専用の武装である超大型の大刀「零式斬艦刀」は、その名の通り戦艦クラスの巨大な物体を両断する威力を誇る。
背部には大推力ブースターや剣撃用トリムバランサーが装備されており、斬艦刀による縦横無尽な剣撃戦闘を可能としている。また、各間節部には重力制御技術によって慣性質量をコントロールし、負荷を減少するTGCジョイントが採用されている。



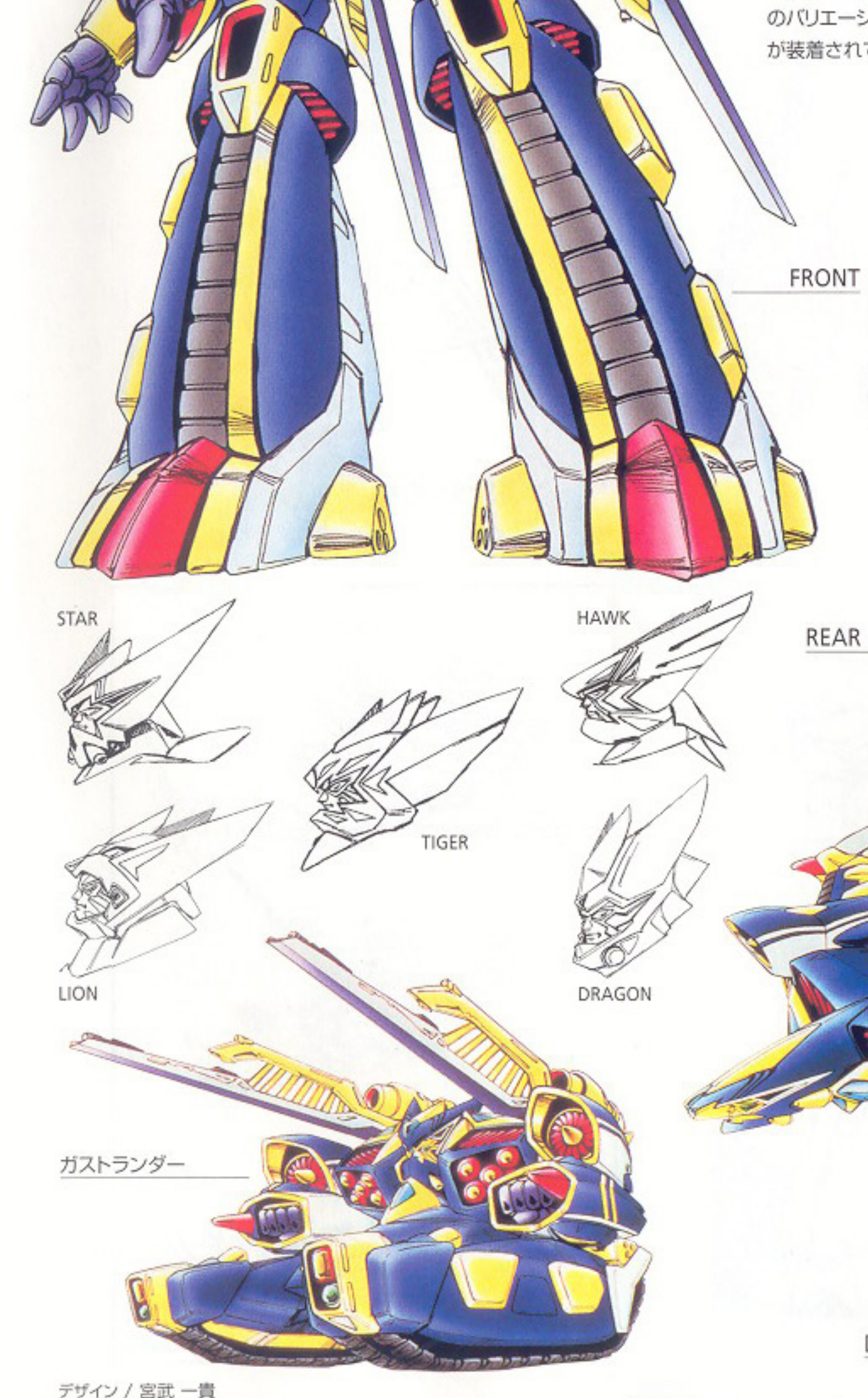


デザイン / 宮武 一貴

GRUNGUST

グルンガスト（壱式）/ SRG-01-1　hight : 48.7m / weight : 357.0t

テスラ・ライヒ研究所にてグルンガスト零式やPTX-007-02ゲシュペンストMk-Ⅱ（タイプS）のデータを基に開発された特殊人型機動兵器。様々な領域で高いパフォーマンスを発揮すべく、飛行形態（ウィングガスト）や重戦車形態（ガストランダー）への変形機構を持つ。装甲にはVG合金（Variable Geometric Alloys）という活性金属の一種が使用されており、装甲の構造・形状的制約をある程度無視した変形を可能としている。動力源はプラズマ・リアクターであり、間節部には重力制御技術によって慣性質量をコントロールし、負荷を減少するTGCジョイントが採用されている。
また、ブーストナックルやファイナルビームなどの内蔵兵装を有し、近接戦闘で高い能力を発揮する。操縦の補助システムとして、脳波制御装置と音声入力式武器選択装置が搭載されている。乗り手を選ぶグルンガストシリーズの中では最も総合バランスに優れ、「超闘士」という異名を持つ。他に同型機が2機存在する。また、頭部には5つのバリエーションがあり、1号機と3号機は「星型」、2号機には「獅子型」が装着されている。

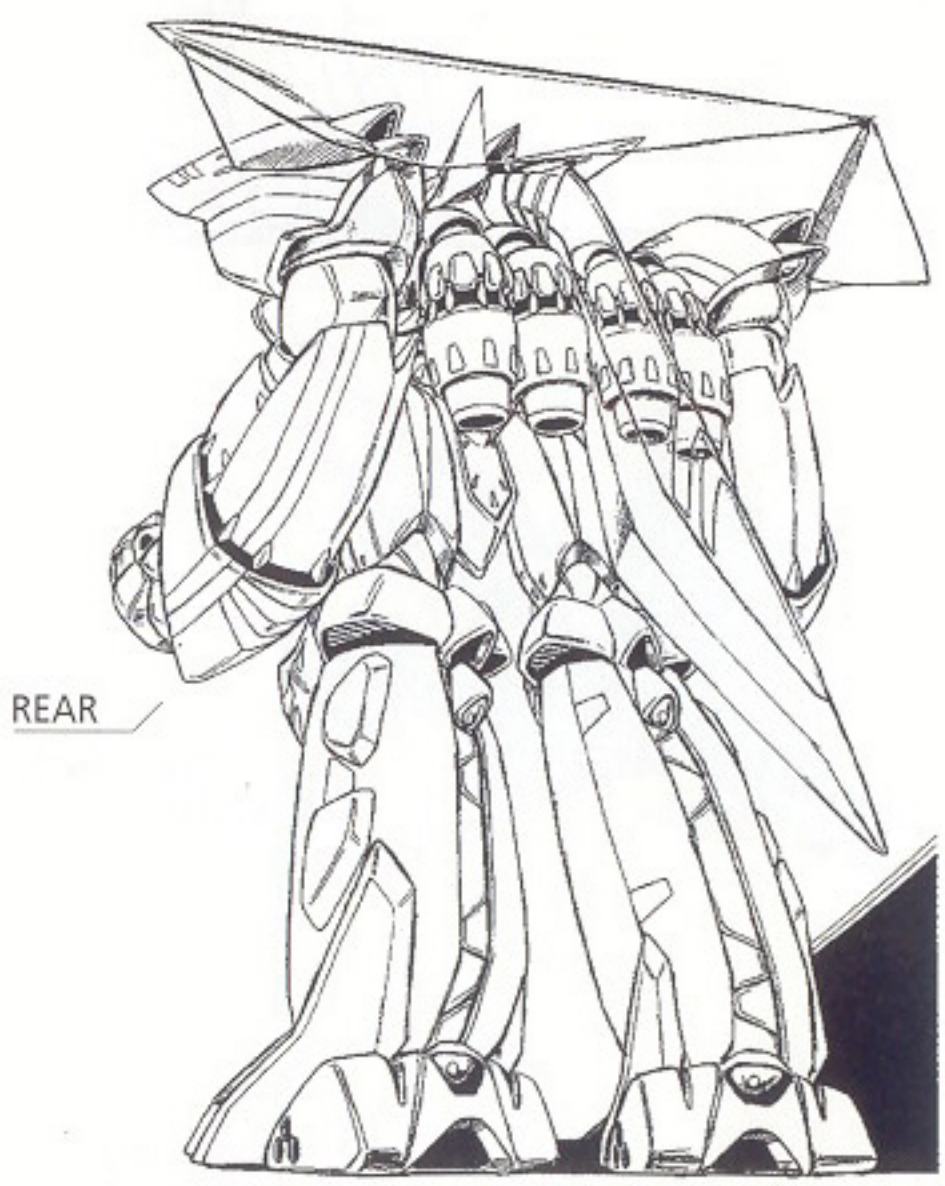


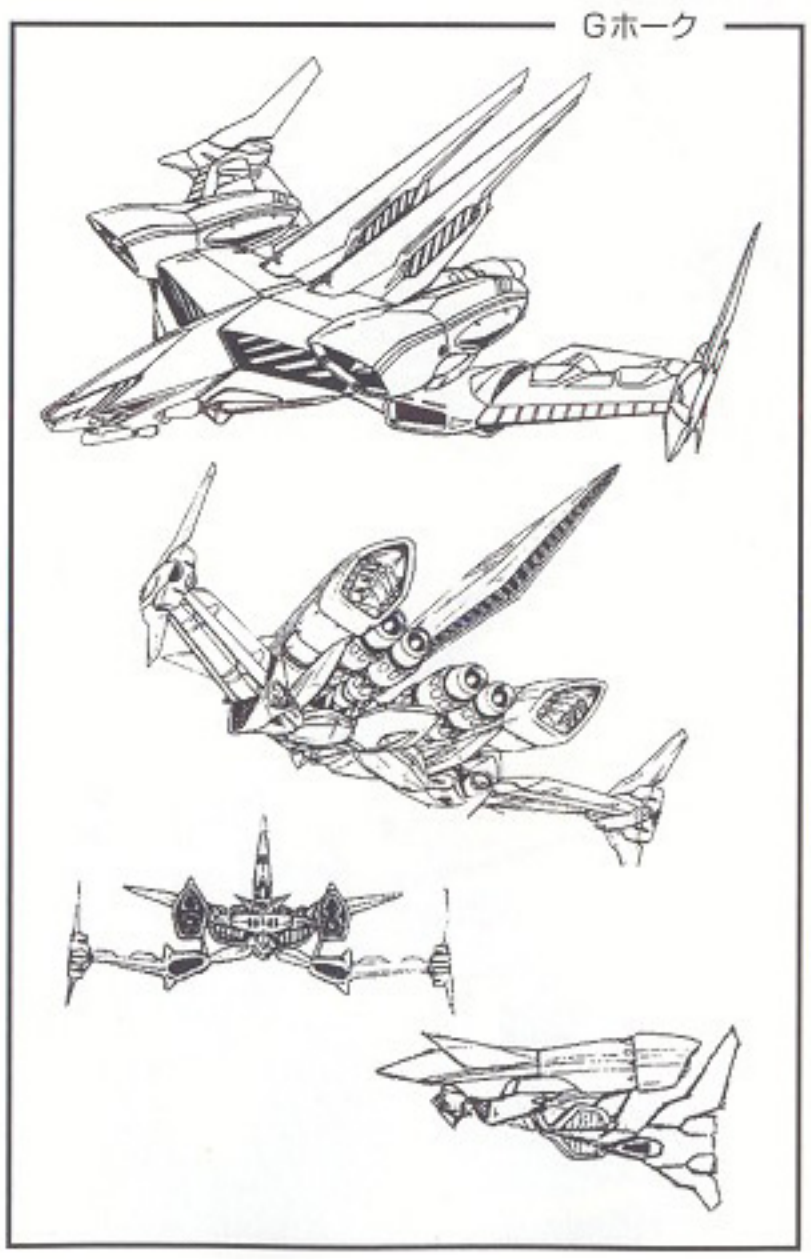
デザイン / 宮武 一貴

GRUNGUST TYPE-2

グルンガスト弐式 / SRG-02-1　hight : 50.0m / weight : 300.0t

地球連邦軍極東支部（後、極東方面軍）のSRX計画で開発された対異星人戦闘用の特殊人型機動兵器（スーパーロボット）。グルンガスト（壱式）の後継機で、量産試作型。そのため、変形機構や武装が一部オミットされているが、基本性能は高い。武器やジェネレーターにEOTを利用しており、総合的な攻撃力は初代に及ばないながらも、扱いやすさは他のグルンガストシリーズより上である。
しかし、運動性が低く、機体の扱いが困難であるという欠点はクリアしきれておらず、その対処方法として1号機には特別にT-LINKシステムが搭載されている。グルンガスト（壱式）同様、動力源はプラズマ・リアクター。また、VG合金やTGCジョイントも採用されている。他に同型機が2機存在する。





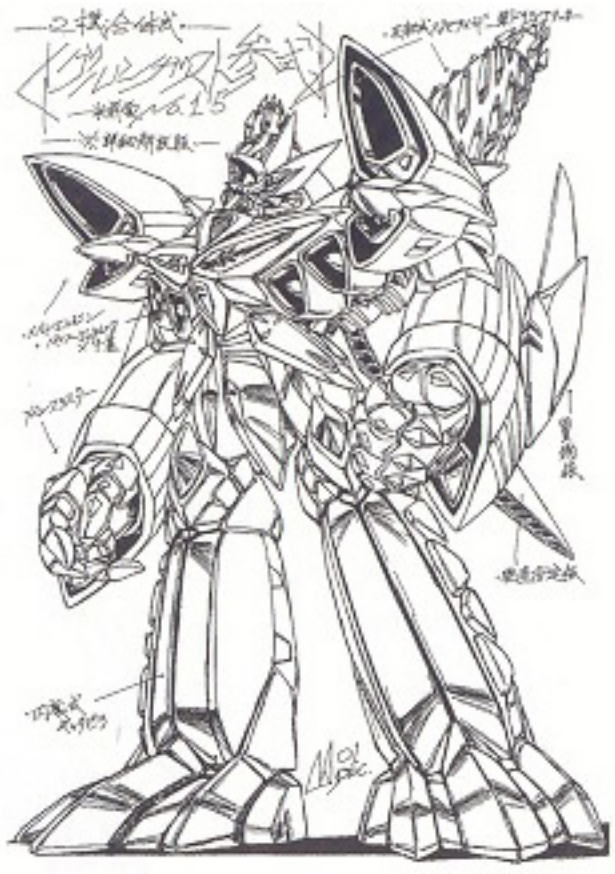
デザイン / 宮武 一貴

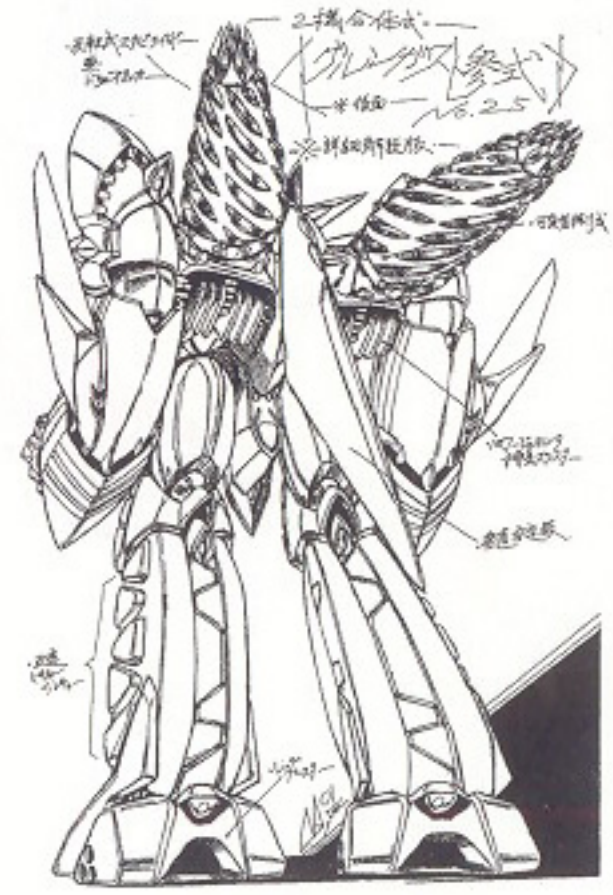
GRUNGUST TYPE-3

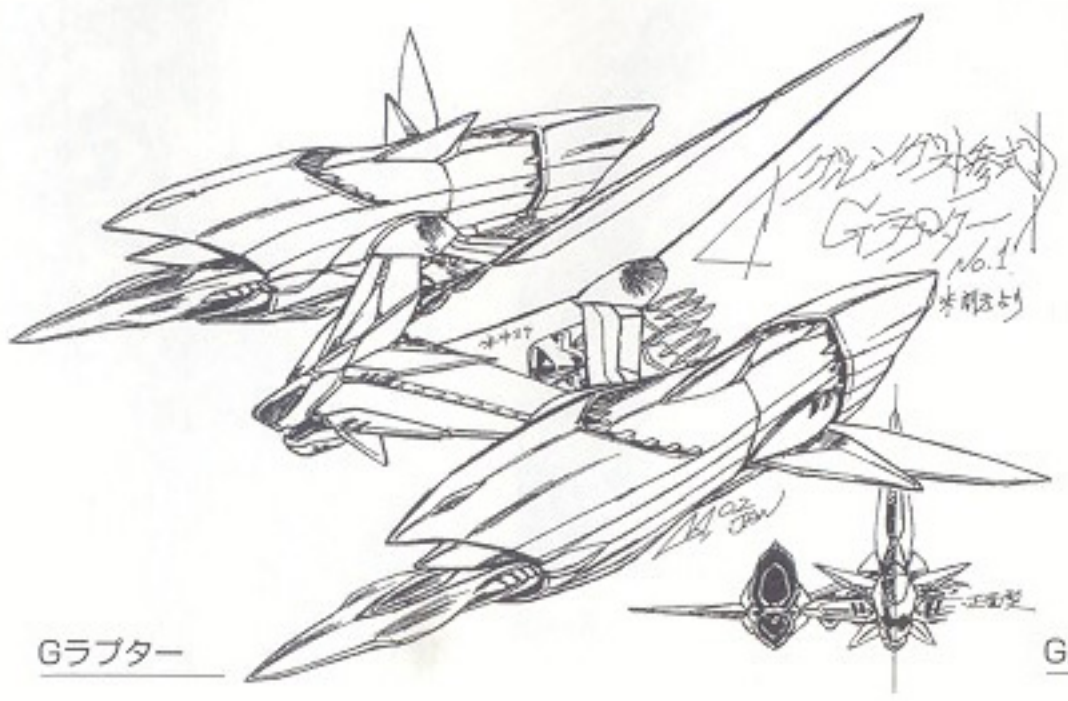
グルンガスト参式 / SRG-03-1　hight : 60.2m / weight : 390.0t

L5戦役後、凍結処置が解除されたSRX計画において、テスラ・ライヒ研究所が開発したグルンガストシリーズの最新型。
グルンガスト（壱式）をベースにし、さらに近接・格闘戦闘能力を特化させた機体で、出力や攻撃力はグルンガストシリーズの中でも最も高い。大型戦闘機（上半身）のGラプターと重戦車（下半身）のGバイソンに分離が可能で、それぞれにパイロットが1名ずつ搭乗する。T−LINKシステム搭載型の1号機と、特殊な液体金属刃を使用した新型斬艦刀（参式斬艦刀）装備の2号機、他1機が存在する。他のグルンガストと同じく、装甲にVG合金、間節部にTGCジョイントが採用されている。また、1号機はトロニウム・エンジンの搭載と特機用大型シシオウブレード（参式獅子王刀）の装備が予定されているが、開発遅延のため、実装までには至っていない。

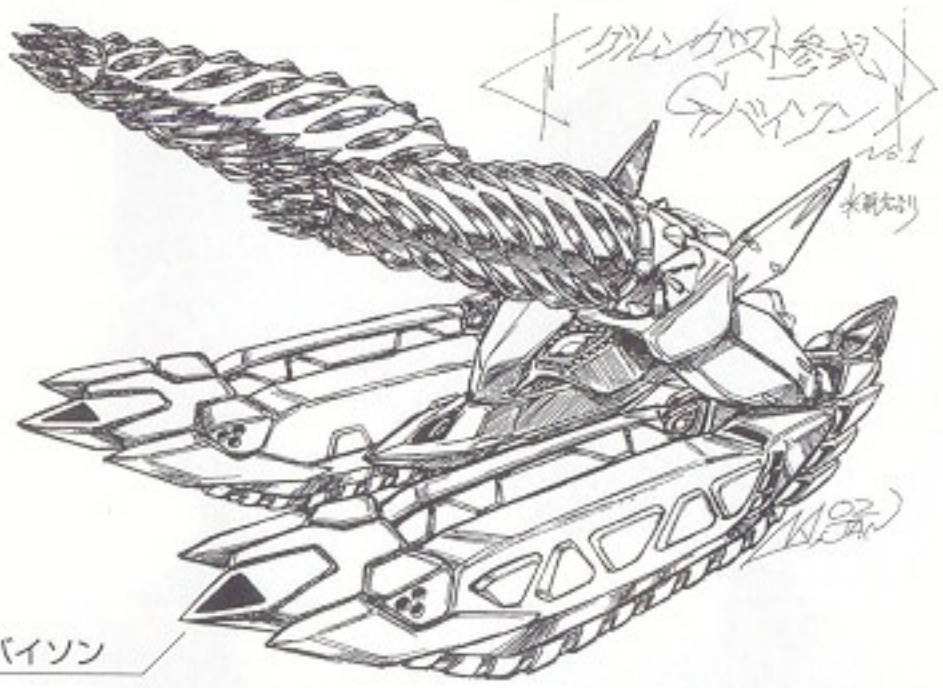
FRONT







Gラプター



Gバイソン

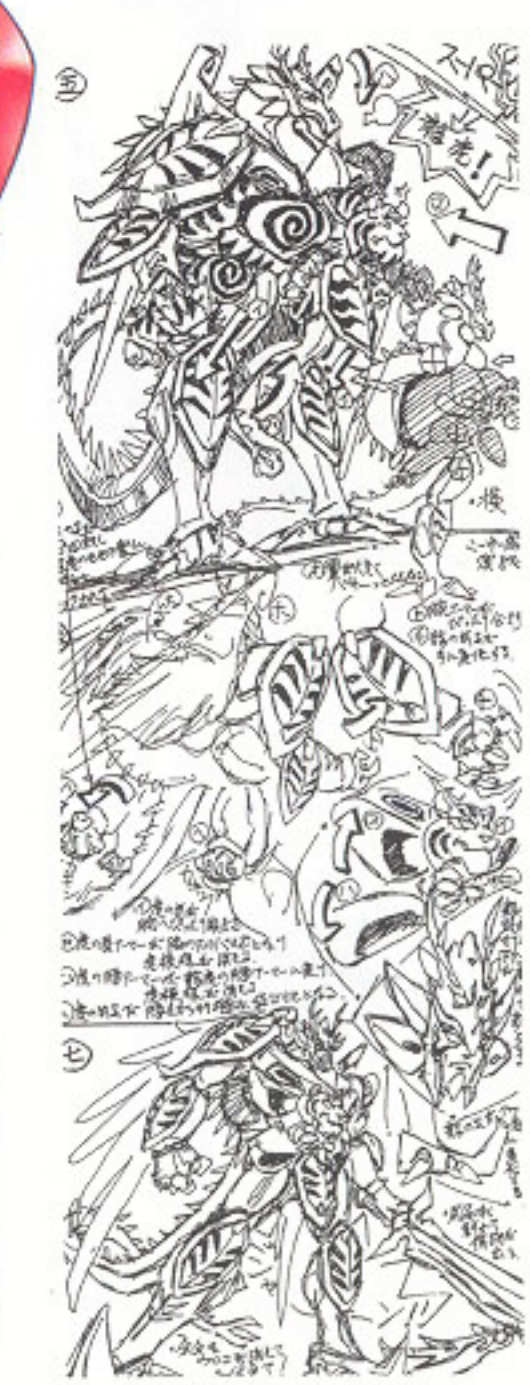
デザイン / 宮武 一貴

RYUKOOH

龍虎王

hight : 49.9m / weight : 158.0t

中国山東地区にある遺跡・蚩尤塚（しゆうづか）から発掘された超機人。
元々は「百邪」と呼ばれる悪魔や妖怪と戦うために古代人が作りだした半生体兵器だと言われている。
自律型思考回路を持っており、単独でも行動できるが、内部に自らが操縦者と認めた念動力者が乗らなければ、本来の力を発揮しない。
もう一つの姿である虎龍王に比べて、空中・水中戦闘や遠距離法術戦闘を得意とし、絶大な攻撃力を持つ。パイロットは龍虎王に選ばれたクスハ・ミズハ。



デザイン / 宮武 一貴

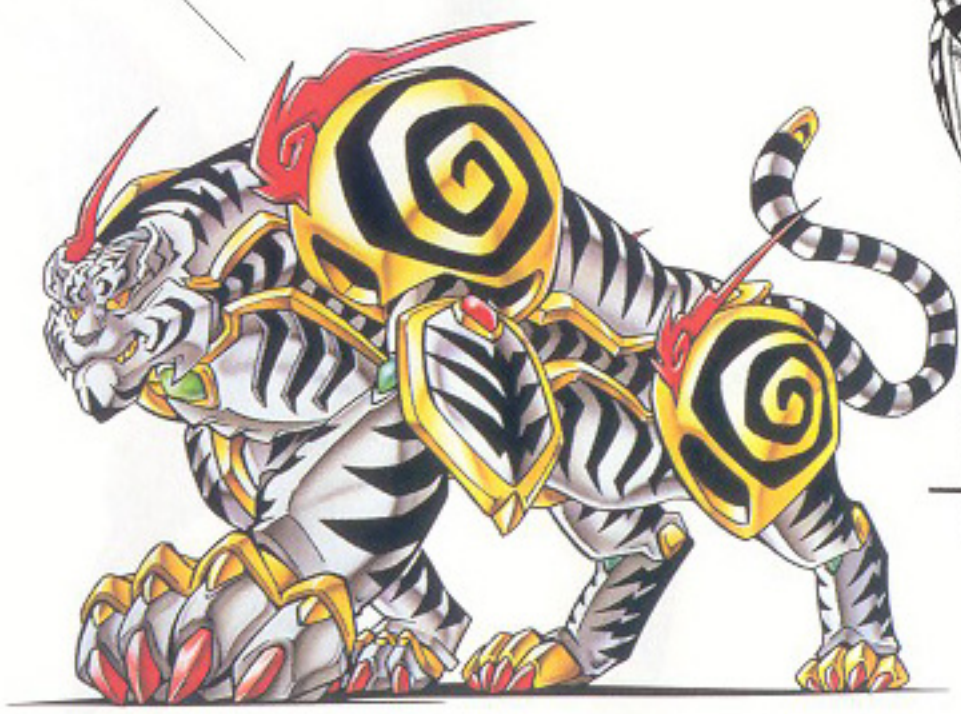
KORYUOH

虎龍王

hight : 45.1m / weight : 158.0t

中国山東地区にある遺跡・蚩尤塚（しゆうづか）から発掘された超機人。
本来、龍虎王は龍王機・虎王機という2体の超機人で構成され、上部が虎王機・下部が龍王機となって合体すると、この虎龍王となる。
龍虎王に比べて地上戦・接近戦を得意とし、武器の扱いに長ける。飛行は不可能だが、地上走行能力に優れ、身分身の術によって分身も可能。
パイロットは虎龍王に選ばれたブルックリン・ラックフィールド。

FRONT



虎王機

REAR

デザイン / 宮武 一貴

DYGENGUAR

ダイゼンガー / DGG-XAM1

hight : 55.4m / weight : 142.7t

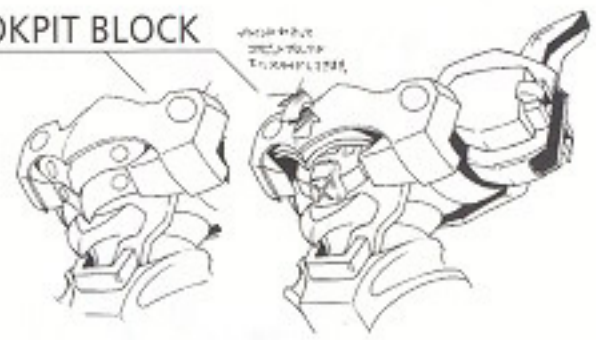
DC総帥ビアン・ゾルダークが基本設計を行った「ダイナミック・ゼネラル・ガーディアン」シリーズの1号機。頭文字を取って「ダブルG」とも呼ばれる。この機体は特機タイプの剣撃戦・格闘戦用人型機動兵器であり、本来は地下人工冬眠施設アースクレイドルの防衛用兵器として作られたものである。

また、ビアンは当初からゼンガーの専用機としてこの機体の設計を行なったと言われており、彼以外の人間が操縦することは出来ない。操縦系統にはDML（ダイレクト・モーション・リンク）システムが採用されており、人機一体の動きを可能とする。また、機体各部への動力伝達に特殊な人工筋肉を使用しているため、同サイズの人型機動兵器に比べて、遥かに柔軟かつダイナミックな動きを見せる。

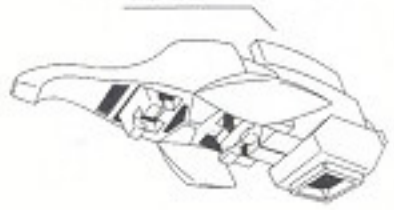
FRONT

DETAIL

COKPIT BLOCK

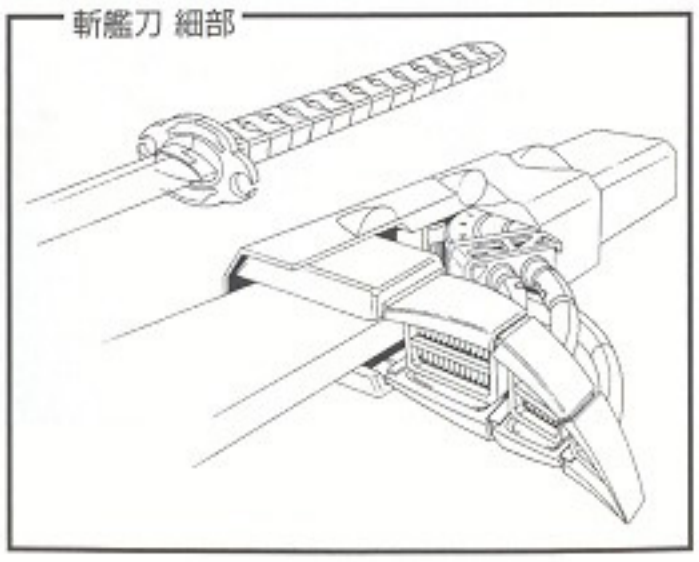


LEGS



参式斬艦刀

斬艦刀 細部



REAR

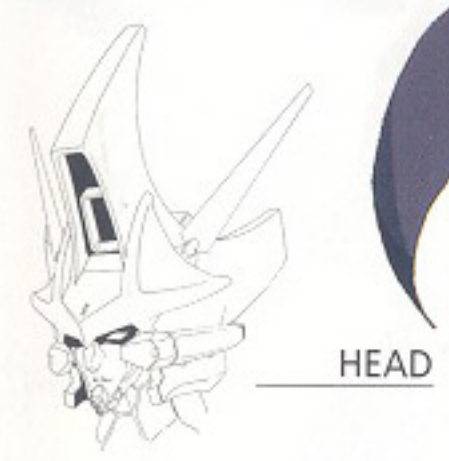
デザイン / 安藤 弘

AUβENSEITER

アウセンザイター / DGG-XAM2

hight : 54.9m / weight : 165.5t

「ダイナミック・ゼネラル・ガーディアン」シリーズの2号機で、レーツェル・ファインシュメッカーの専用機。
機体フレームはダイゼンガーと同じ物が使用されているが、ランツェ・カノーネと呼ばれる長銃身の大出力ビームキャノンを2挺持ち、優れた砲撃戦闘能力を発揮する。また、カカト部分のフェルゼ・ラートによって、地上での高速移動とそれを応用した戦闘を得意とする。



HEAD

FRONT

REAR

ランツェ・カノーネ

CHEST

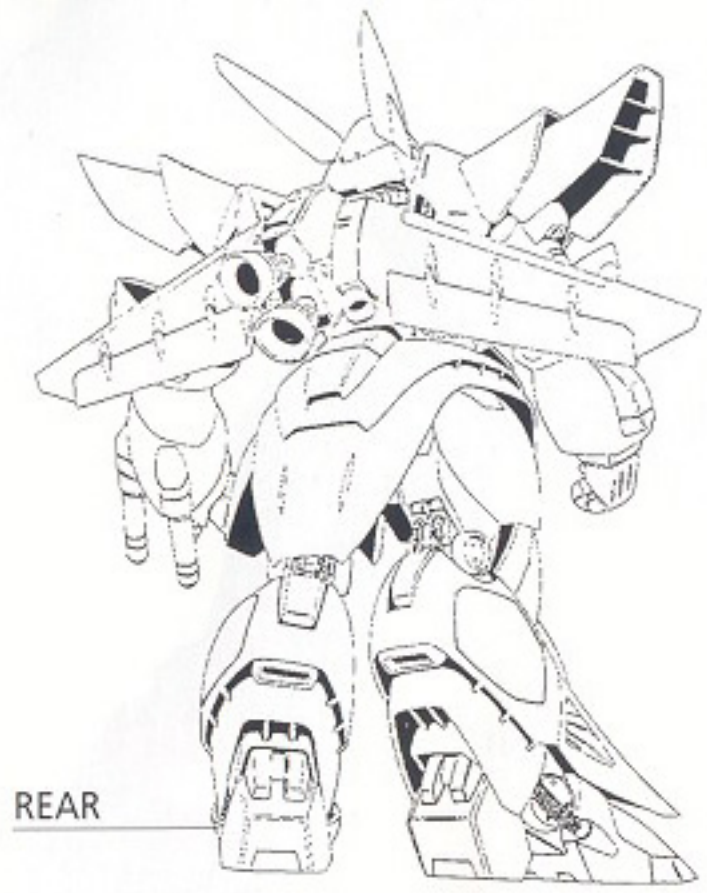
ブフェールト・モード

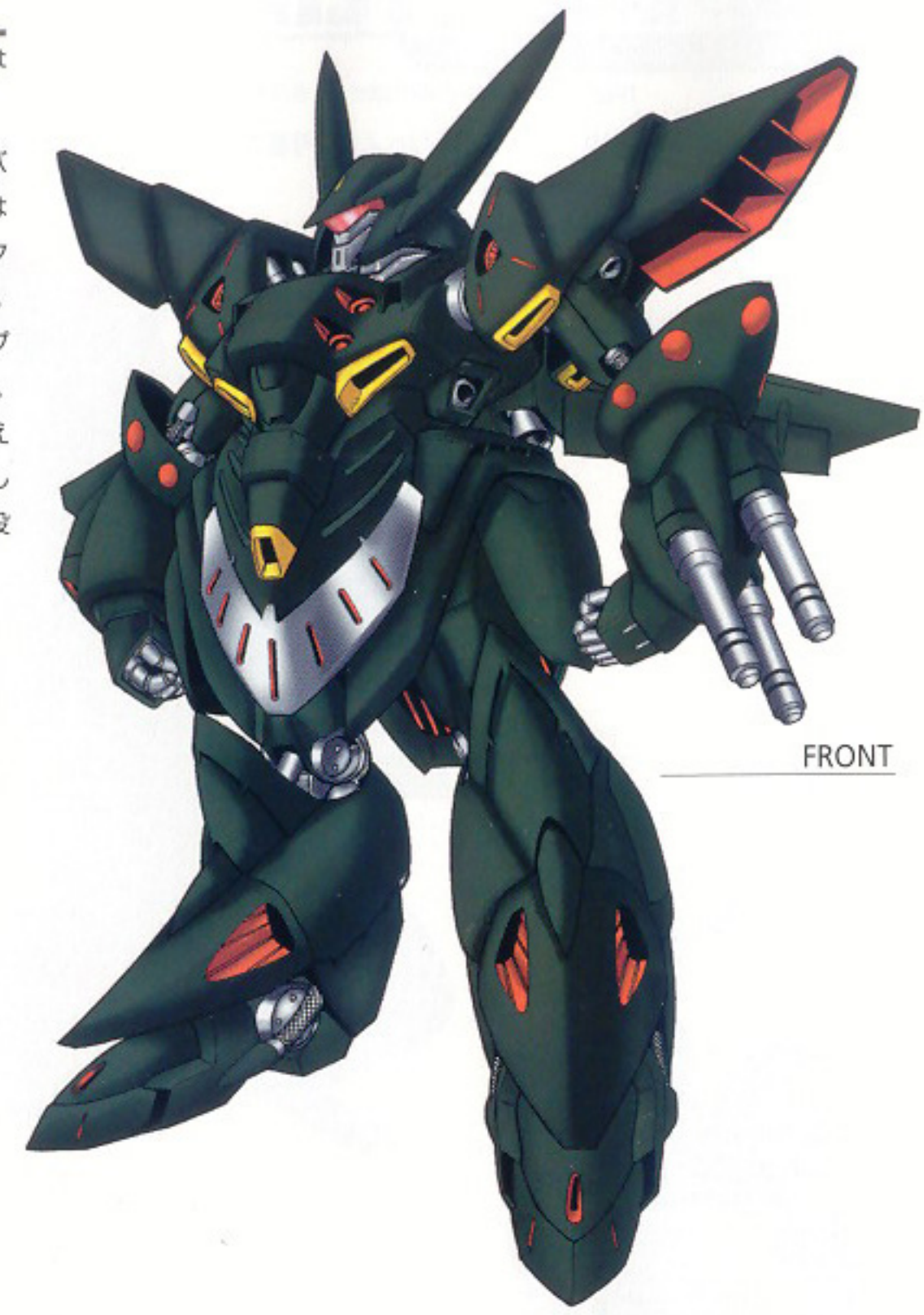
デザイン / 安藤 弘

GESPENST

ゲシュペンスト / PTX-001　hight : 21.2m / weight : 75.2t

マオ・インダストリーが開発したパーソナルトルーパーの第1号機。マニピュレーターの搭載による武装換装の簡便性、二足歩行やホバリングによる高い踏破性が特徴。また、TC-OSによって、パイロットは状況判断に徹し、最小限の操作をするだけで、機体自身がオートマティックに適切なモーションを選択し、パイロットが意図した行動を達成する。ただ、大気圏内の運用において、単独で飛行することが出来ず、ジャンプや短時間の滑空といった限定的な空戦能力しか持ち合わせていない。この機体は、ロールアウト後にタイプR（Rapidity）というコードが与えられ、ジャンプ後の滞空時間の延長と運動性・機動性の向上を目的とした改修が施された。また、DC戦争中にさらなる改造が行われ、L5戦役において実戦投入されたという記録が残っている。





デザイン / 大河原 邦男

GESPENST TYPE-RV

ゲシュペンスト・タイプRV / PTX-001RV

hight : 22.8m / weight : 75.9t

PTX-001ゲシュペンストに大幅な強化改造を施したパーソナルトルーパー。ギリアム・イェーガーやカイ・キタムラらが発案したゲシュペンストシリーズの強化改造案「ハロウィン・プラン」によって生み出された最初の機体である。マオ・インダストリーの最新技術によって、機体フレームの段階から改造が施され、装甲もほぼ全てを交換している。

背部にはテスラ・ドライブを搭載した大型フライト・ユニットを装備し、最新鋭機と比べても遜色のない運動性を誇る。また、メガ・バスターキャノンという高威力のビーム武器を持つ。

デザイン / 射尾 卓弥

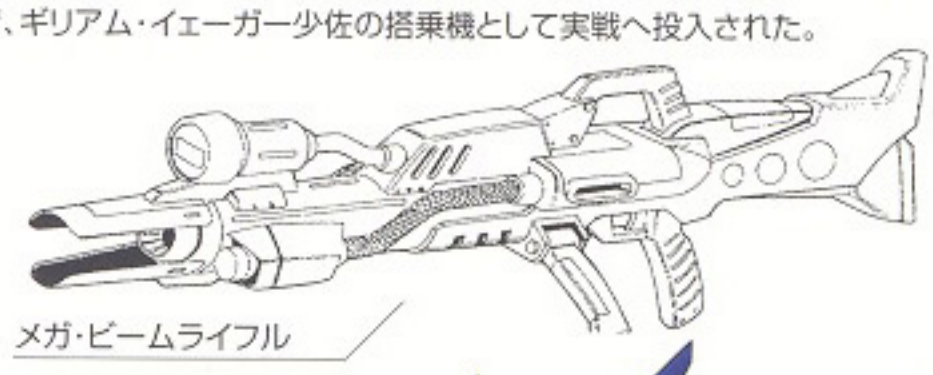
GESPENST Mk-Ⅱ

ゲシュペンストMk-Ⅱ / PTX-007-01　hight : 21.2m / weight : 72.4t

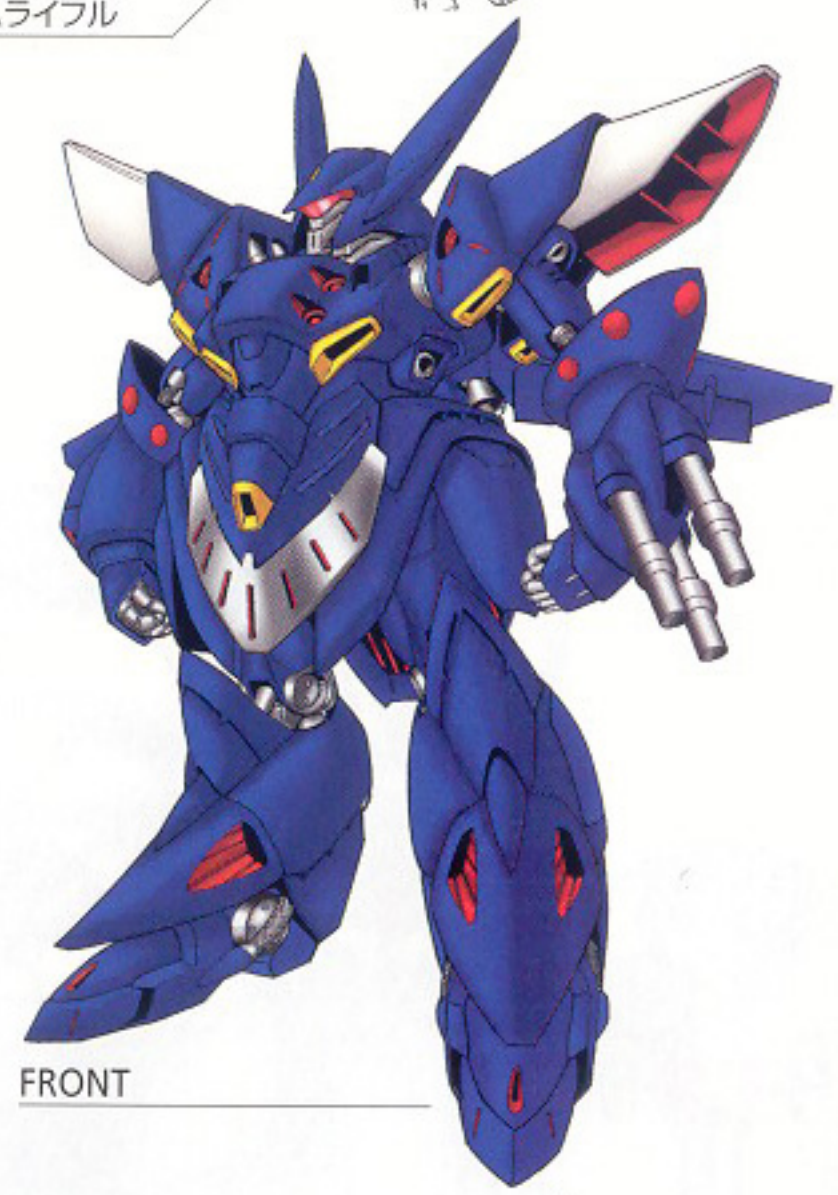
ゲシュペンストMk-Ⅱは、PTX-001ゲシュペンストの後継機であり、量産試作型の機体である。1号機・タイプR（Rapidity）、2号機・タイプS（Strength）、3号機・タイプT（Test）の3機が開発されており、その中でタイプRは運動性・機動性を重視した機体となっている。また、背部バーニア・スラスターの出力が向上しており、重力下でのジャンプ後の滞空時間がゲシュペンストより延長されている。DC戦争勃発後、動力源をプラズマ・ジェネレーターへ換装、各部を強化改造した上で、ギリアム・イェーガー少佐の搭乗機として実戦へ投入された。

FRONT

デザイン / 大河原 邦男



メガ・ビームライフル



FRONT

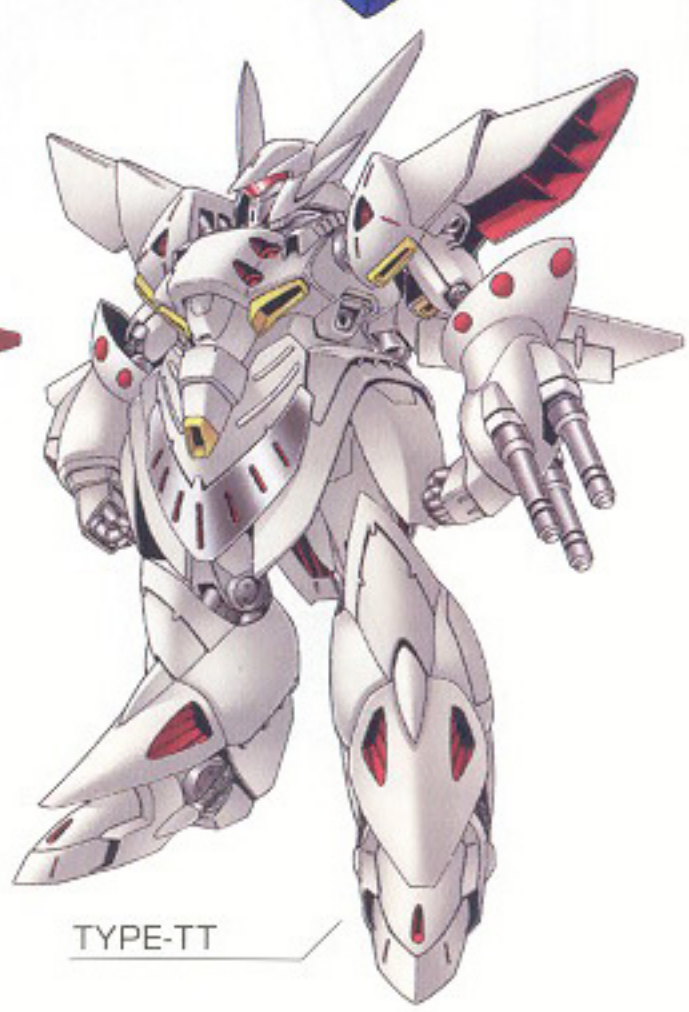
GESPENST Mk-Ⅱ
MASS PRODUCT MODEL

量産型ゲシュペンストMk-Ⅱ / RPT-007　hight : 21.2m / weight : 69.1t

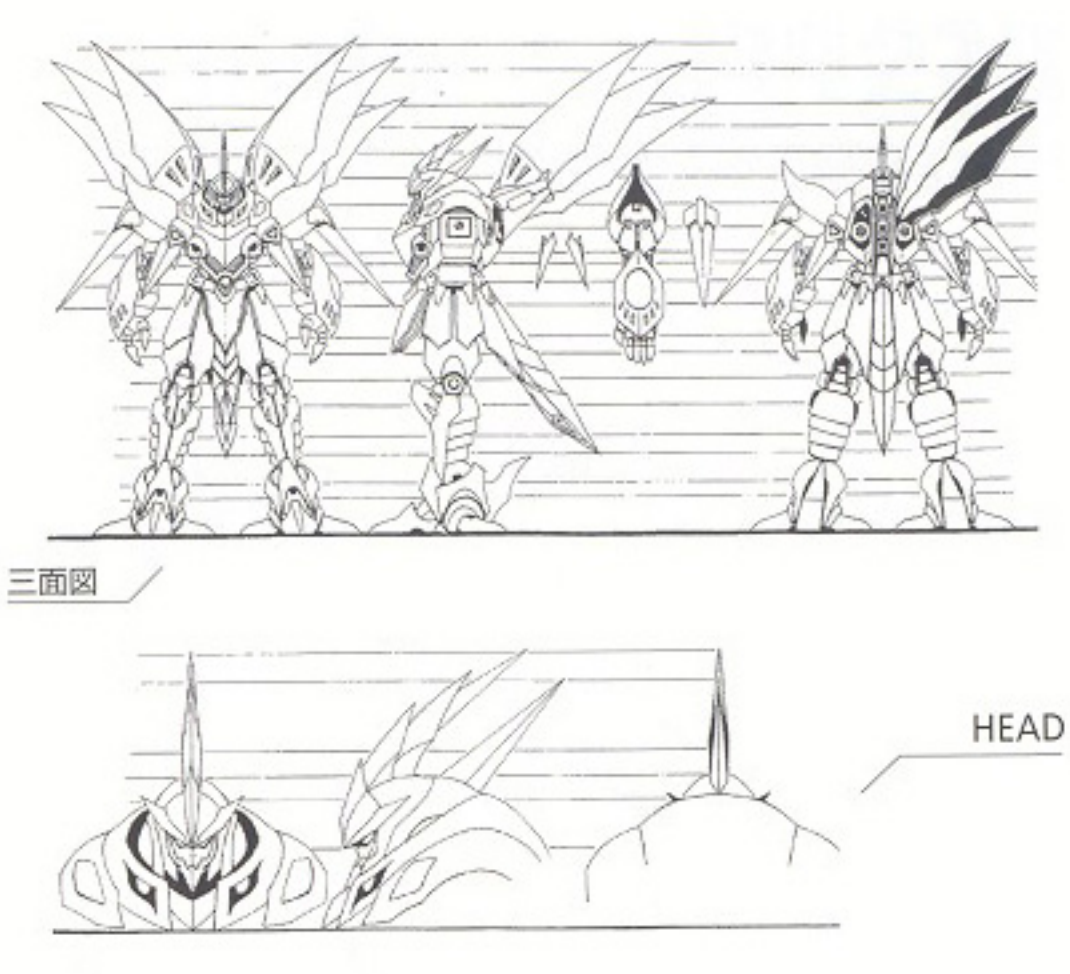
ゲシュペンストMk-Ⅱの量産移行型。性能は量産試作型のゲシュペンストMk-Ⅱ（タイプR）とほぼ同じだが、センサー類が強化され、左腕にはプラズマカッターの代わりに格闘戦用武装のプラズマステーク（ジェット・マグナム）が装備されている。DC戦争勃発前、地球連邦軍の次世代主力機動兵器として制式採用されたが、諸々の理由で生産が遅れており、実戦配備されている機体はまだ少数である。試作型のT-LINKシステム（念動力感知増幅装置）を搭載したタイプTT（T-LINK TEST）など、若干のバリエーション機が存在する。

カイ機

カチーナ機



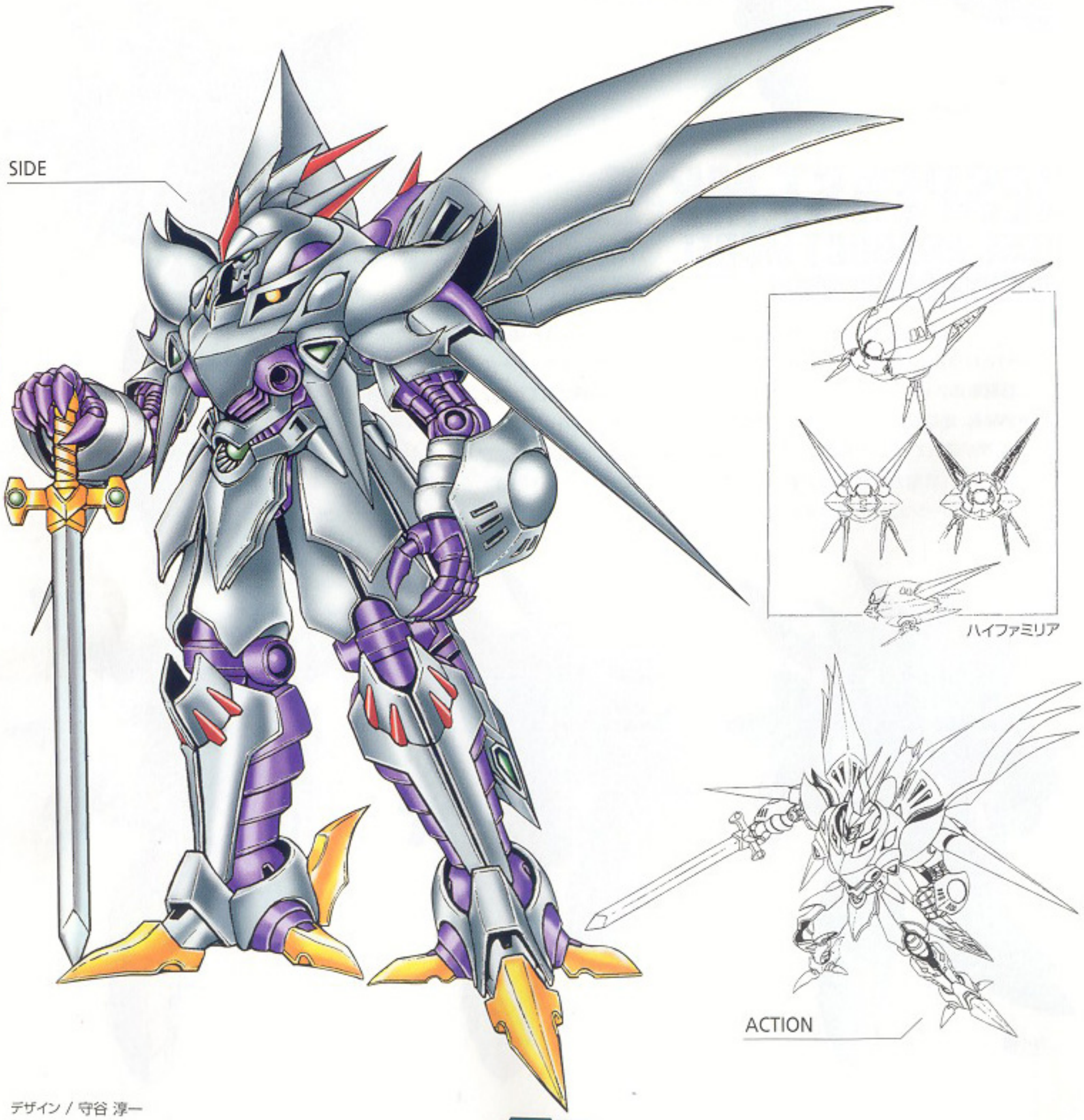
TYPE-TT



CYBASTER

サイバスター hight : 28.48m / weight : 38.4t

地底世界ラ・ギアスの神聖ラングラン王国で開発された機体。風の精霊サイフィスの加護を受け、「風の魔装機神」の異名を持つ。メイン動力はフルカネルリ式永久機関。そのパワー効率を高めるため、操者（パイロット）のプラーナが必要とされる。プラーナとは「気」や「オーラ」と呼ばれるものと基本的に同じで、操者によって供給される。そのため、パワーは操者の資質に多大な影響を受けてしまう。機体の気密性は高く、水中や宇宙空間での行動も可能。内部に自己循環システムがあるため、操者の生理機能は守られ、長時間の行動が可能。また、エーテル（質量を持たず、絶対座標に対して静止しているエネルギー）を魔術的媒体として推進に利用している。装甲材質はオリハルコニウムで、呪符的効果のある数秘学を元にした幾何学模様が金属粒子レベルで封じ込められており、魔術的防御も高い。メインコンピューターはラプラスデモンタイプで、因果律を計算し、様々な事象を予測することが出来る。ただし、その機能は操者自身の魔力によって著しく左右される。なお、サイバスターは真の名前ではなく、魔術的な攻撃を避けるための守護名である。

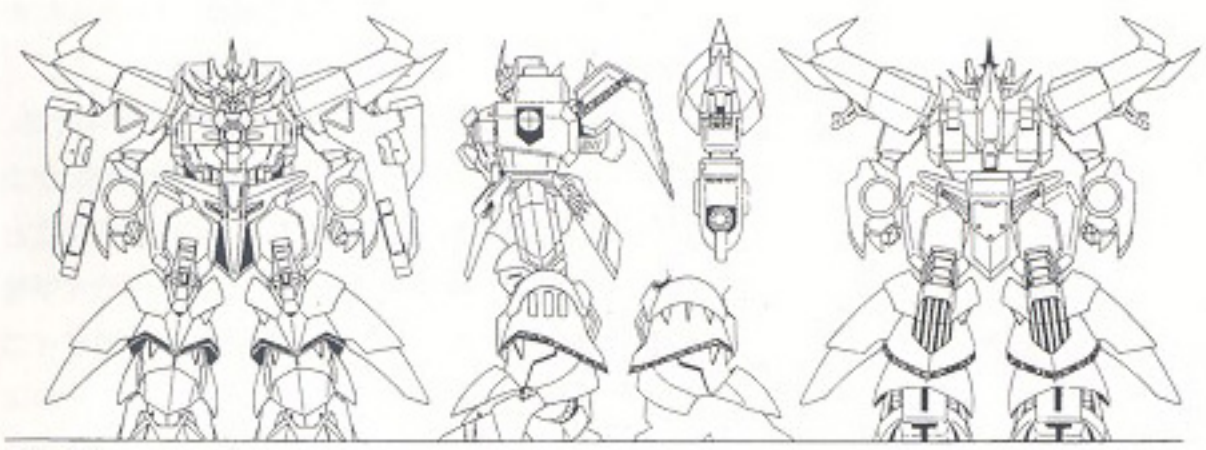


デザイン / 守谷 淳一

GRANZON

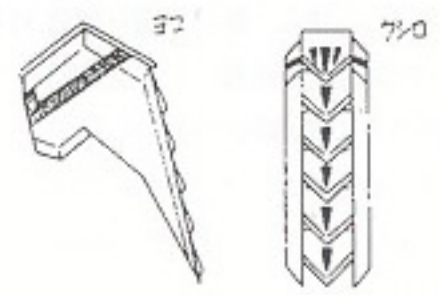
グランゾン　hight : 27.3m / weight : 42.8t

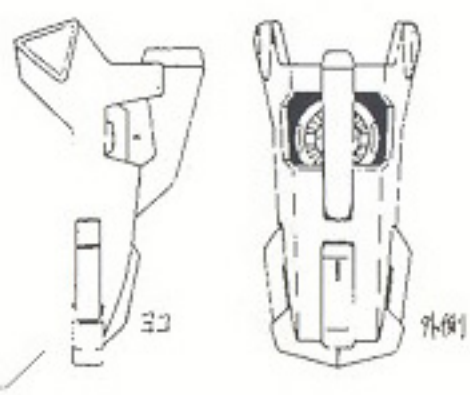
EOT機関で開発された対異星人戦闘用アーマードモジュール。動力源はメテオ3に封入されていたエアロゲイターのEOTを参考にシュウが作った対消滅エンジン。さらに彼が駆動プログラム中、極秘裏に組み込んだカバラ・プログラムにより、アストラルエネルギーをも使用可能。また、シュウの念波による遠隔操作も可能である。
装甲は素粒子段階で強化された超抗力チタニウム。機動力よりも火力、装甲及び防御能力を重視した設計であり、設計者の1人、エリック・ワンは「もしパイロットが人知を超えた能力を持っていればグランゾンは1日で全世界の戦力を壊滅させることも可能だろう」と語っている。


三面図

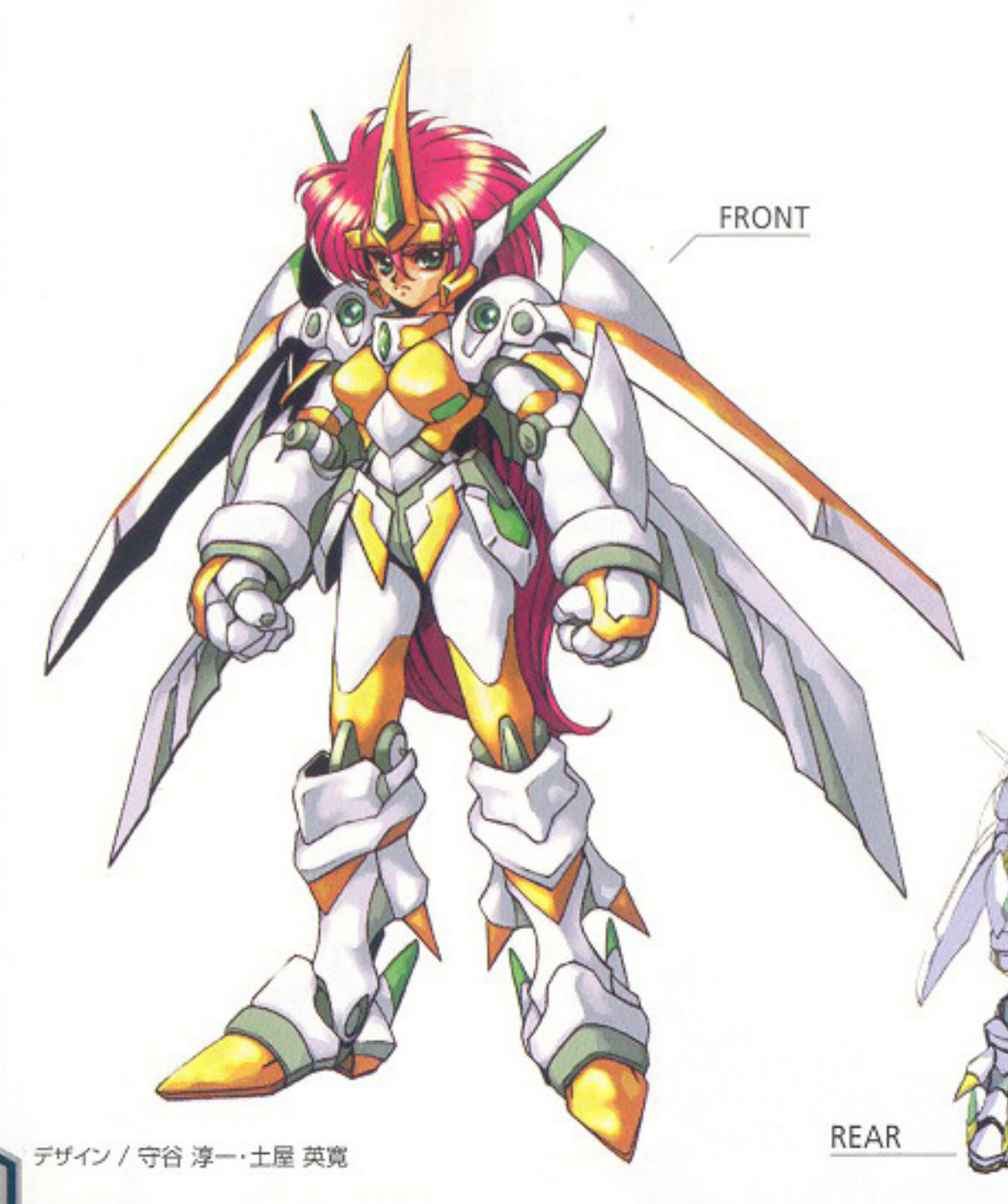
FRONT

REAR


バックパーツ


アームカバー

デザイン / 青木 健太



デザイン / 守谷 淳一・土屋 英寛

VALSIONE

ヴァルシオーネ　hight : 24.6m / weight : 39.7t

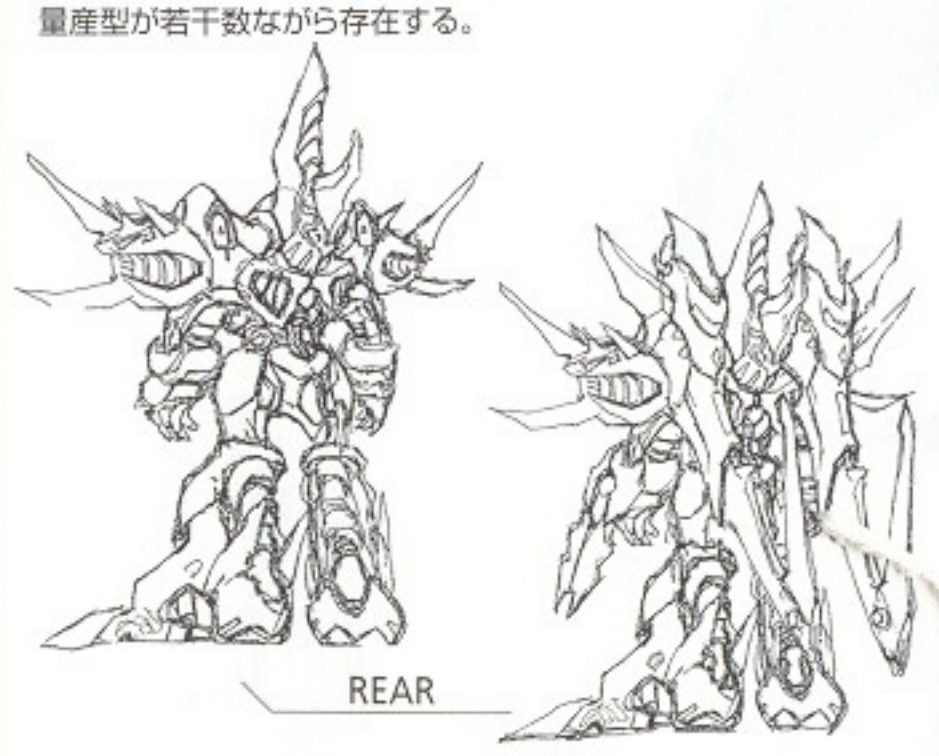
DC総帥ビアン・ゾルダークが娘であるリューネのために開発したヴァルシオンシリーズの2号機。
機体各部への動力伝達に人工筋肉を使用しているため、従来のPTやAMとは比べ物にならない程の柔軟、かつ人間らしい動き（顔の表情までも変わる）をすることが出来る。さらに小型・改良化したテスラ・ドライブを搭載し、単体での飛行も可能。広域攻撃兵器サイコブラスターやヴァルシオンの武装でもあったクロスマッシャー、ディバイン・アームを装備しているため、戦闘能力も非常に高い。

VALSION

ヴァルシオン

hight : 57.0m / weight : 55.0t

DC総帥ビアン・ゾルダーク博士が開発した巨大ロボット。"究極ロボ"の異名を持つ、DCのフラグシップ的な機体。
メテオ3のEOTを参考にした最新技術がふんだんに使用されているが、グランゾンと違ってEOTそのものは組み込まれていない。クロスマッシャーやメガ・グラビトンウェーブなどの強力な武装を持ち、1機で戦局を変えうる戦闘能力を持つ。また、重力質量・慣性質量分離能を有した高効率反動推進装置「テスラ・ドライブ」を備えており、大気圏内での単体飛行も可能。
その形状は、知能を持った敵に対する心理的効果が考慮されているとも、ビアン個人の趣味が反映されているとも言われるが定かではない。ヴァルシオン改という量産型が若干数ながら存在する。



SHILOGWANE

スペースノア級万能戦闘母艦壱番艦シロガネ

対異星人戦闘用に建造されたスペースノア級万能戦闘母艦の壱番艦。テスラ・ドライブで浮遊し、8基のメインロケットエンジンなどで推進する。船体は超抗力金属で構成されており、宙間航行のみならず大気圏内飛行、水中潜航も可能。さらに対艦砲撃戦闘能力やパーソナルトルーパー及び各種戦闘機の搭載能力に優れている。換装可能な艦首モジュール部分は、格納庫兼追加カタパルトとなっており、スペースノア級の中では最も搭載能力が高い。コードネームは「プラチナム1」。

FRONT

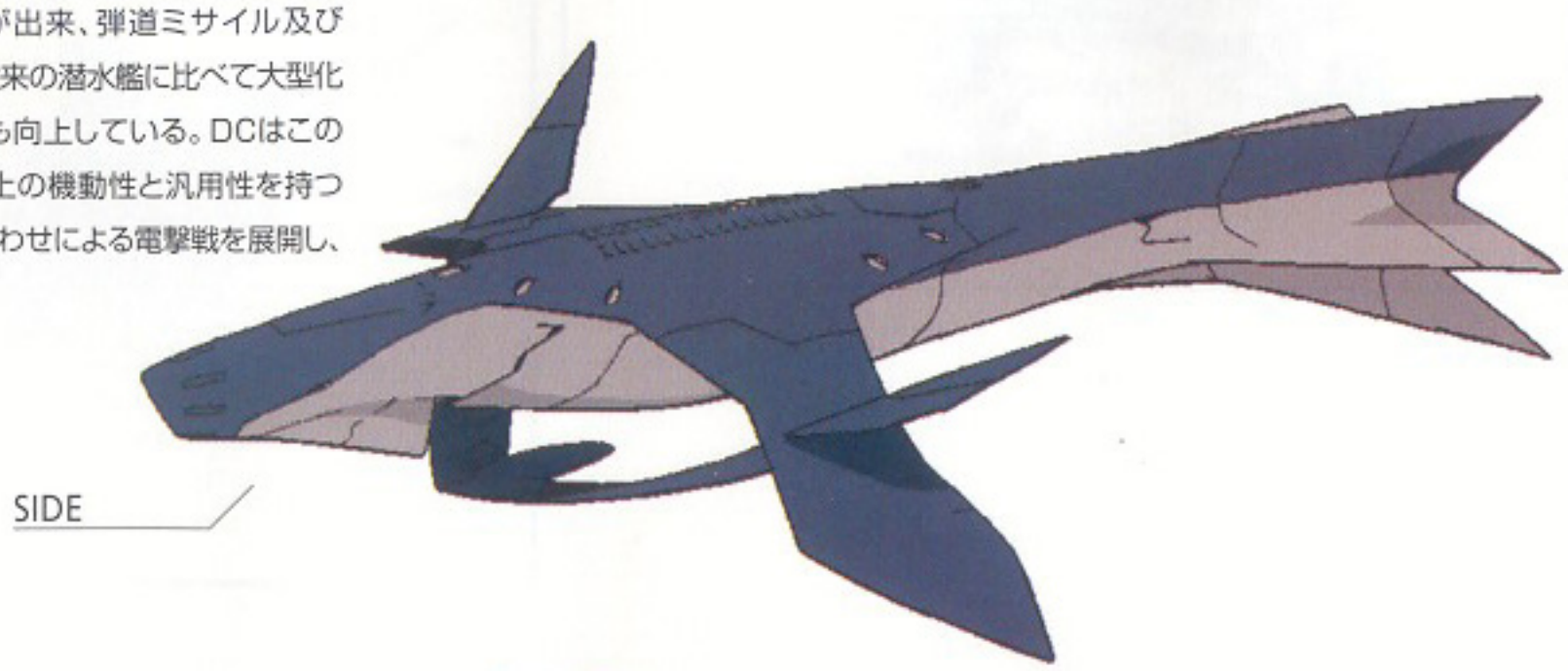
REAR

デザイン / 宮武 一貴

KILLERWHALE

キラーホエール級攻撃型原子力潜水母艦

DC戦力の要とも言える攻撃型原子力潜水母艦。アーマードモジュールを搭載することが出来、弾道ミサイル及び巡航ミサイルの発射も可能。従来の潜水艦に比べて大型化しているが、秘匿性と機動性も向上している。DCはこの潜水可能な空母と、戦闘機以上の機動性と汎用性を持つアーマードモジュールの組み合わせによる電撃戦を展開し、地球連邦軍を翻弄した。

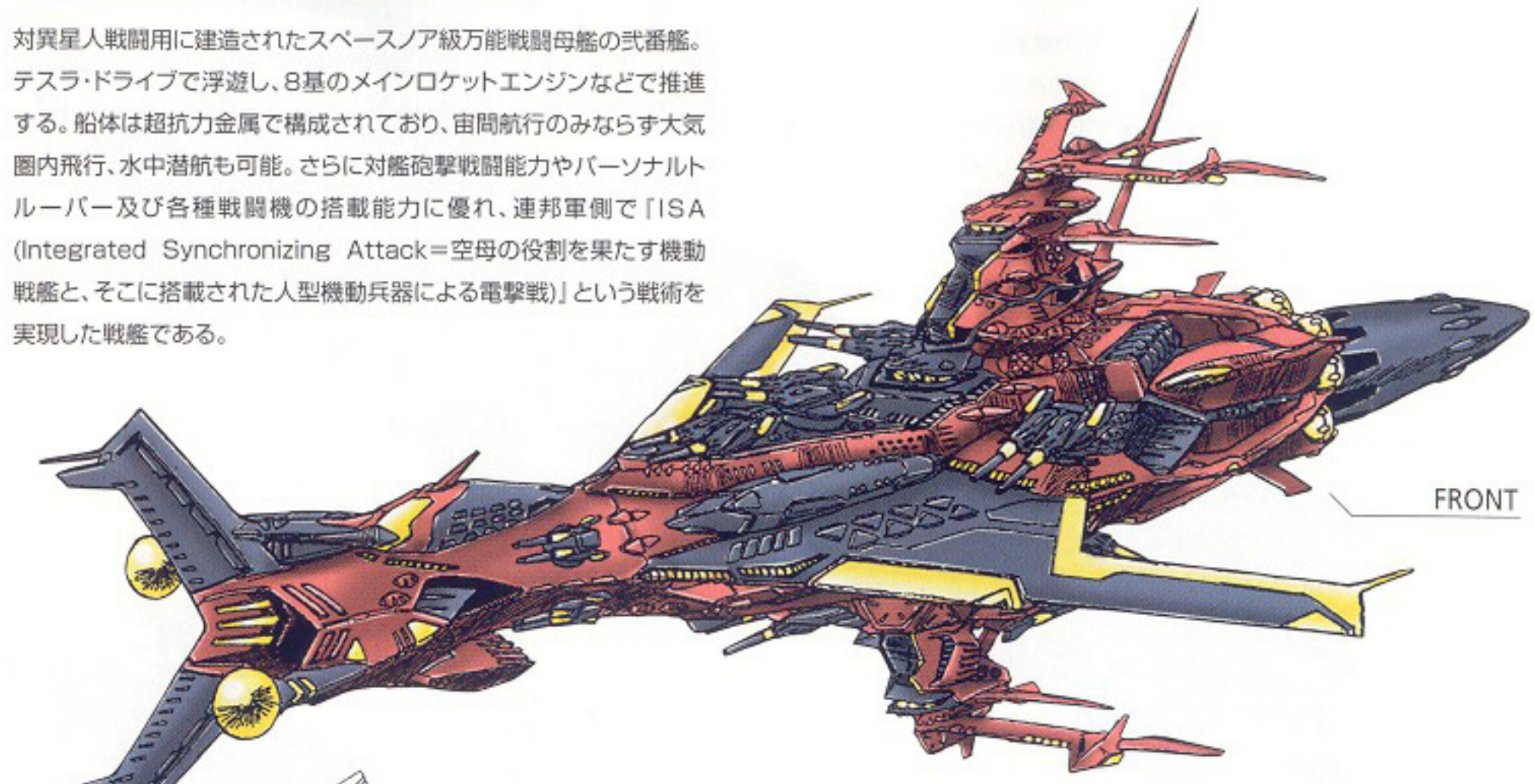


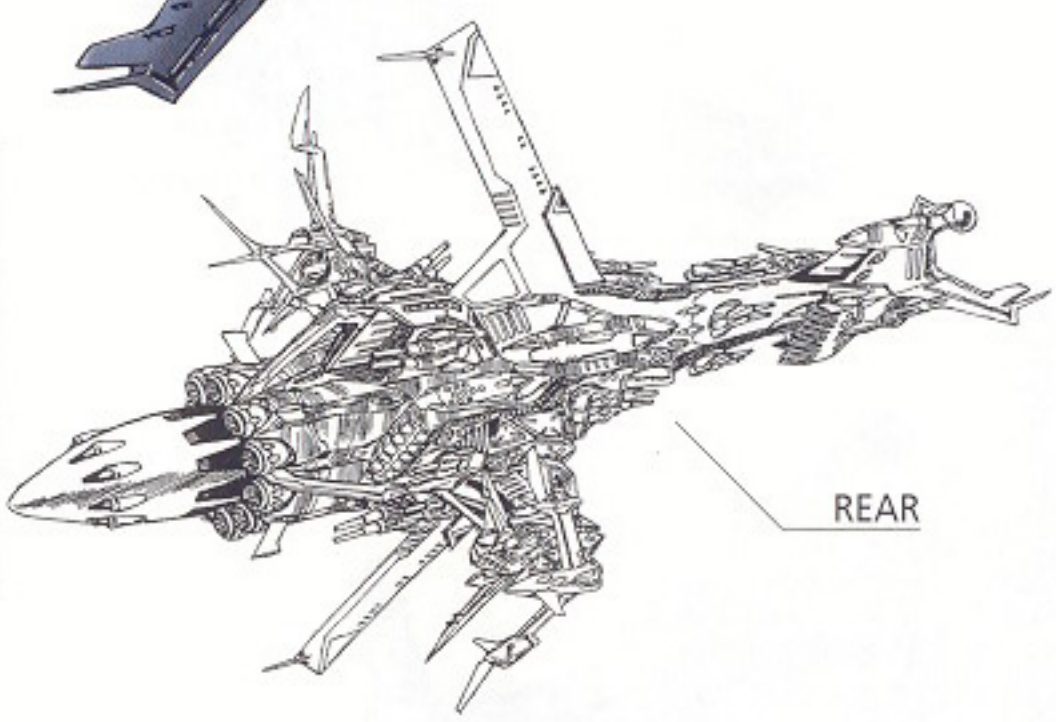
デザイン / 小野 聖二

HAGWANE

スペースノア級万能戦闘母艦弐番艦ハガネ

対異星人戦闘用に建造されたスペースノア級万能戦闘母艦の弐番艦。テスラ・ドライブで浮遊し、8基のメインロケットエンジンなどで推進する。船体は超抗力金属で構成されており、宙間航行のみならず大気圏内飛行、水中潜航も可能。さらに対艦砲撃戦闘能力やパーソナルトルーパー及び各種戦闘機の搭載能力に優れ、連邦軍側で「ISA (Integrated Synchronizing Attack＝空母の役割を果たす機動戦艦と、そこに搭載された人型機動兵器による電撃戦)」という戦術を実現した戦艦である。

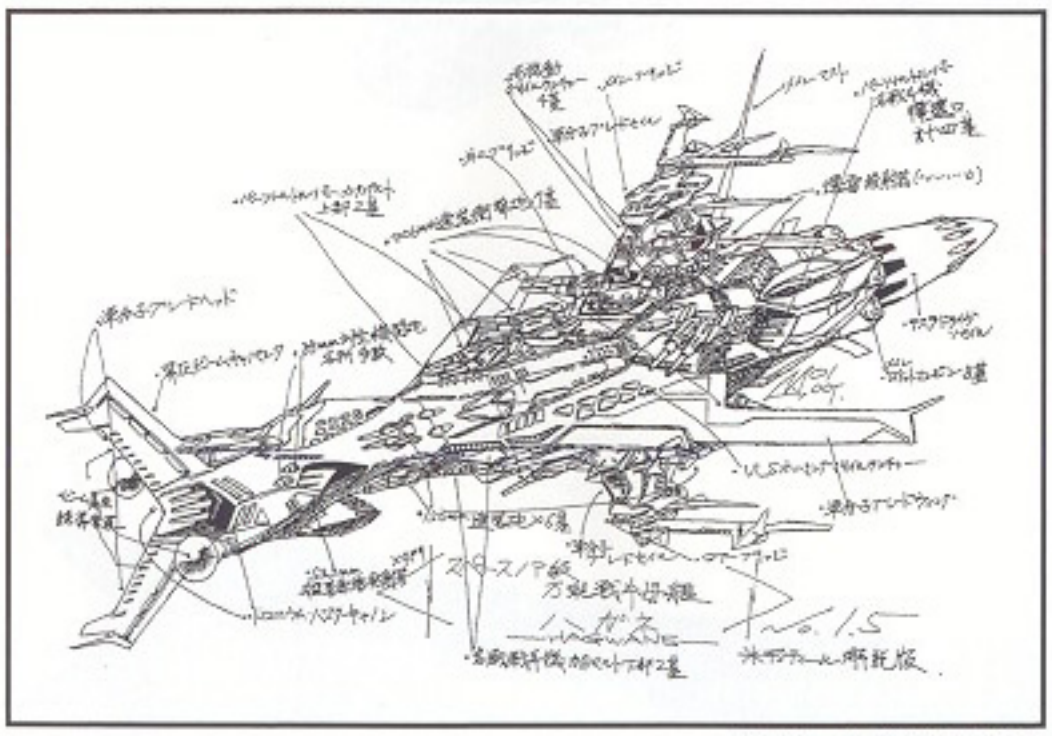




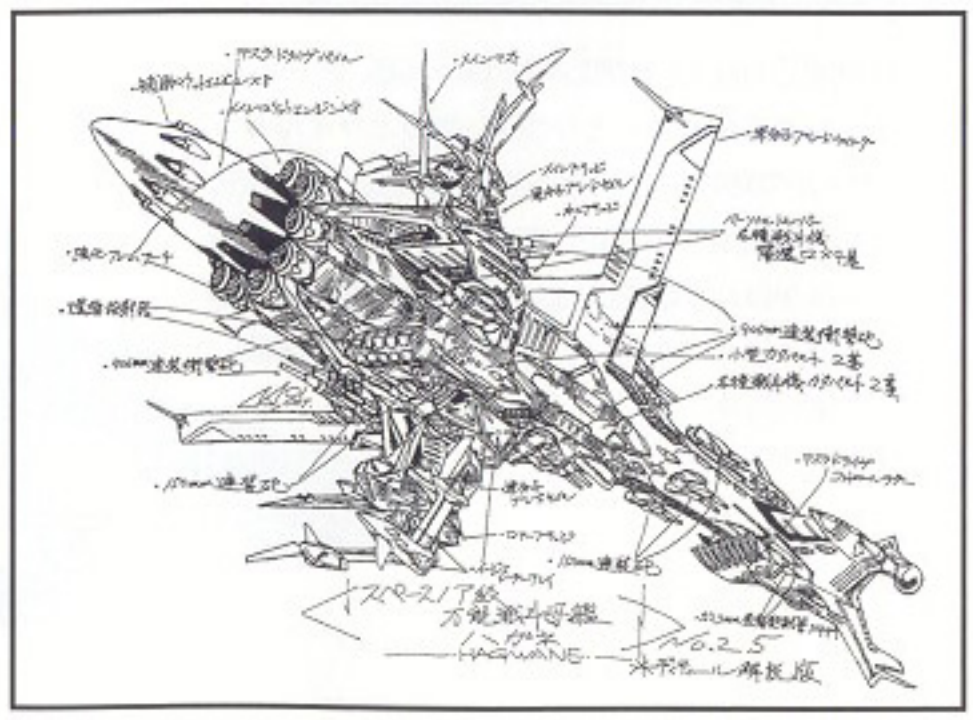
スペースノア級はその建造にまつわる思惑が「地球脱出船団の護衛艦」「対異星人戦用PT搭載戦闘母艦」という正反対の二極に分かれ、大綱とも言える地球脱出計画の裏をかくような形で地球圏防衛構想で想定される戦闘能力が付与されることになった。

その二重の思惑を隠蔽するために採用されたのが、戦艦にはあるまじきフレキシビリティ構造で、これは艦のモジュール化によって船体・本体主機関などを共通核に、比較的短時間で目的別の戦闘モジュール等の換装を行えるシステムである。

なお、換装の対象となるのは艦首部分で、壱番艦・弐番艦・参番艦にはそれぞれ別のモジュールが装着されている。弐番艦ハガネの艦首モジュールは高出力の重金属粒子砲トロニウム・バスターキャノンとなっており、連邦軍の軍艦の中でもトップレベルの攻撃力を持つ。コードネームは「スティール2」。



ディテール解説-FRONT



ディテール解説-REAR

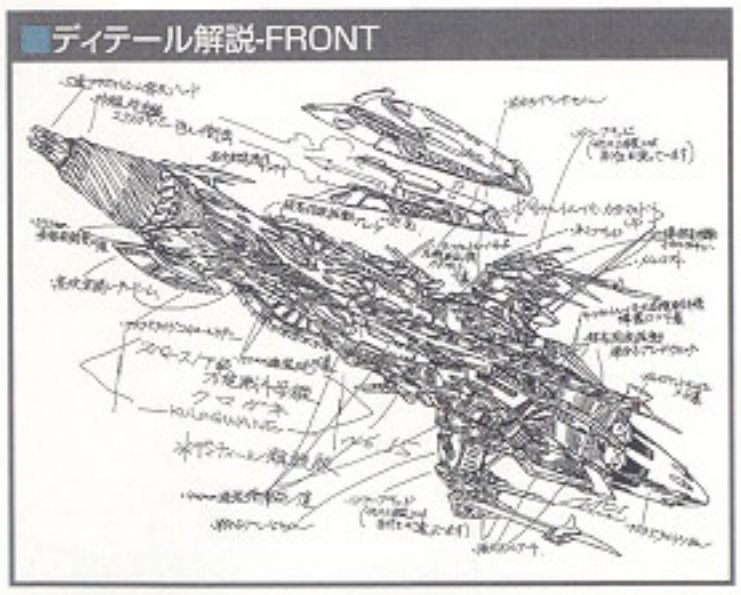
デザイン / 宮武 一貴

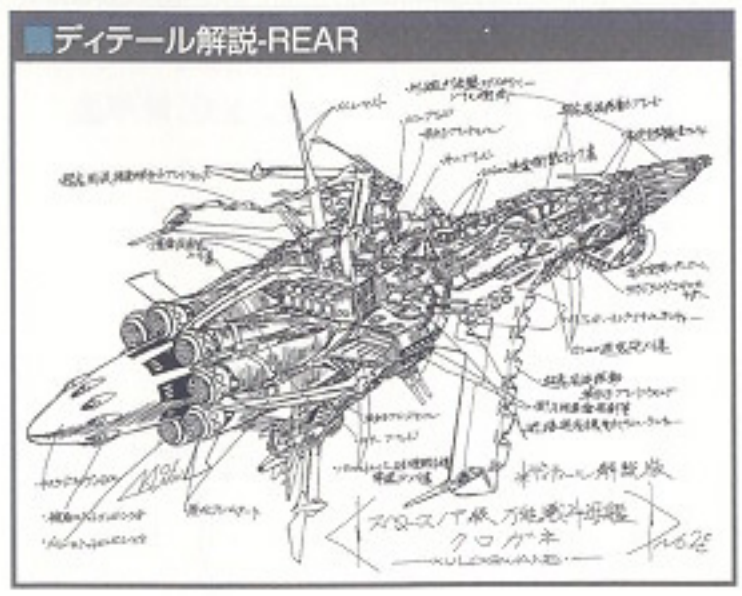
KULOGWANE

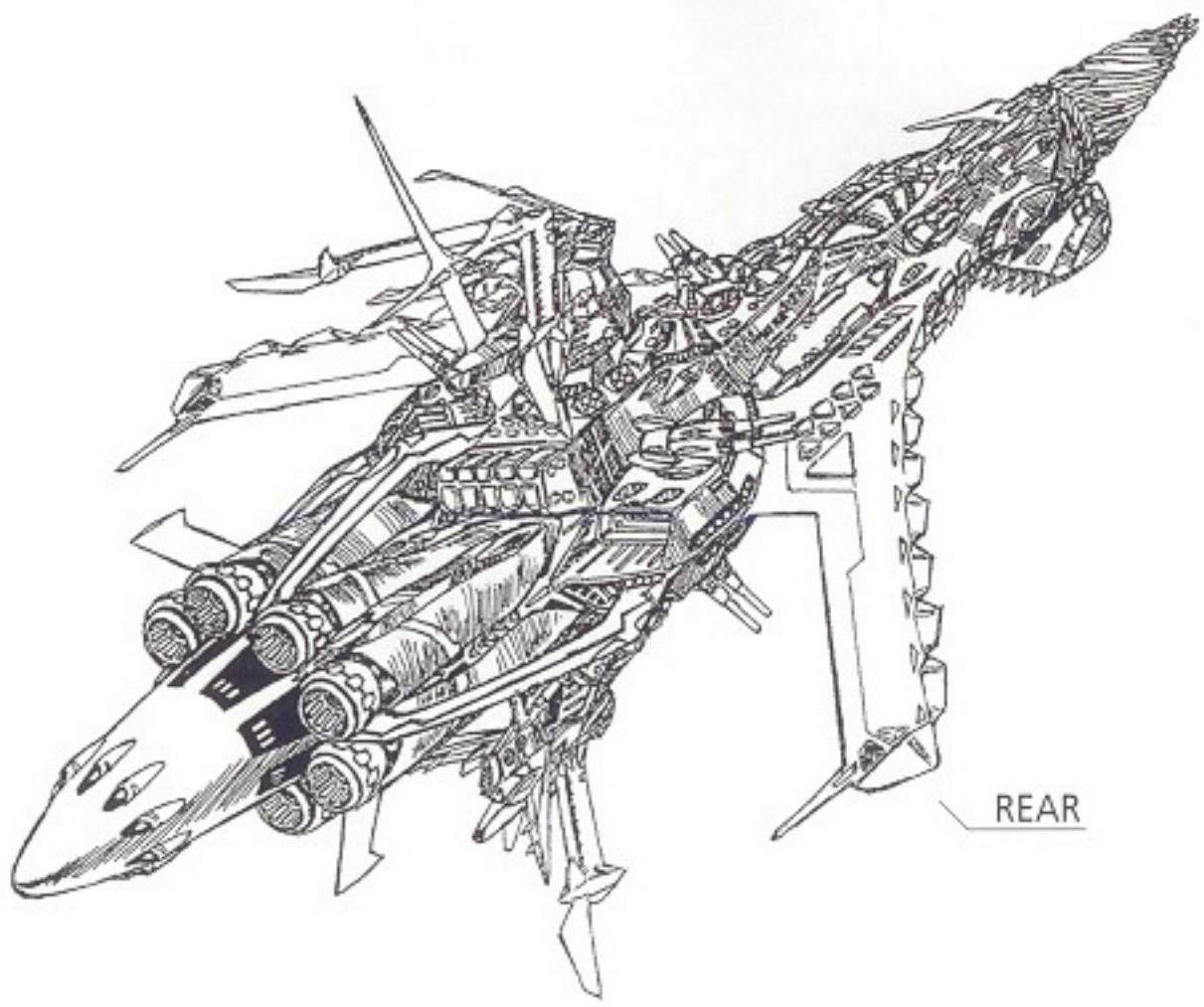
スペースノア級万能戦闘母艦参番艦クロガネ

対異星人戦闘用に建造されたスペースノア級万能戦闘母艦の参番艦。テスラ・ドライブで浮遊し、8基のメインロケットエンジンなどで推進する。クロガネの艦首モジュールは、岩盤粉砕用の超大型回転衝角（対艦対岩盤エクスカリバードリル衝角）となっており、対艦格闘戦や進路上の障害物（岩塊や氷塊など）の除去などが可能。また、テスラ・ドライブの出力を一定値以上に上げた時に形成され、艦全体を覆うT-ドットアレイの力場"ブレイク・フィールド"と超大型回転衝角の併用によって、敵要塞などの広範囲エネルギー・フィールドを突破することも可能。DC戦争中は、DCの旗艦として運用されていた。コードネームは「アイアン3」。

FRONT





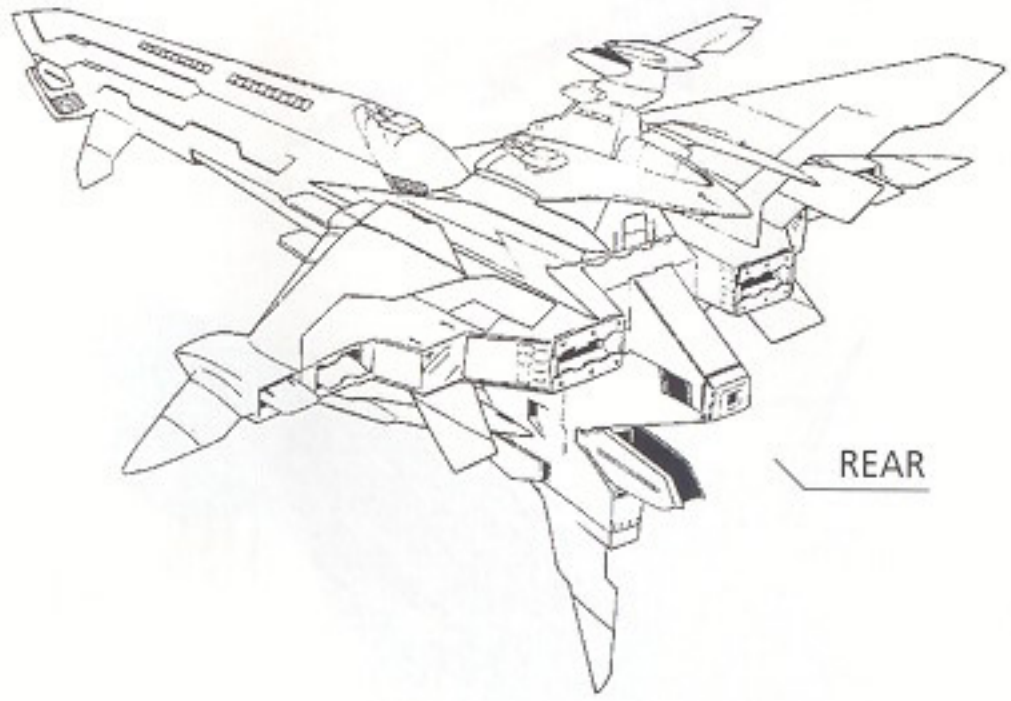


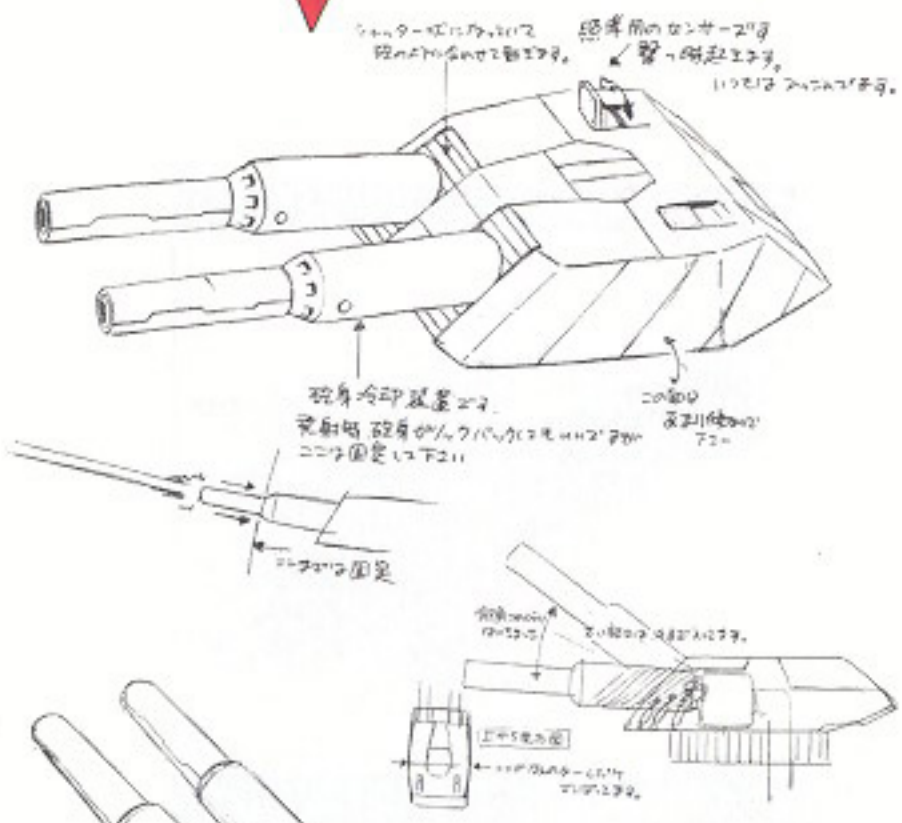
デザイン / 宮武 一貴

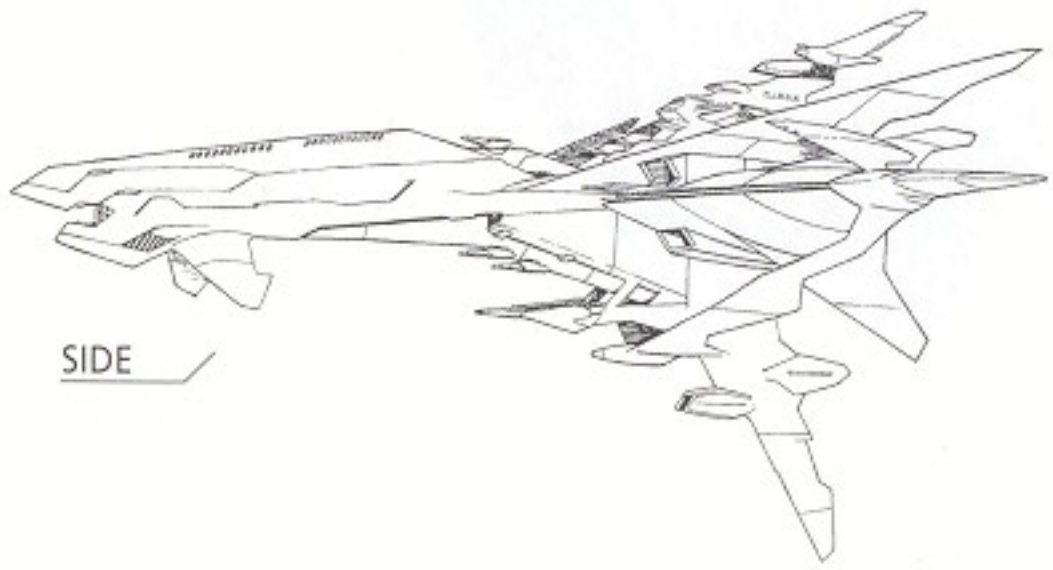
HIRYUKWAI

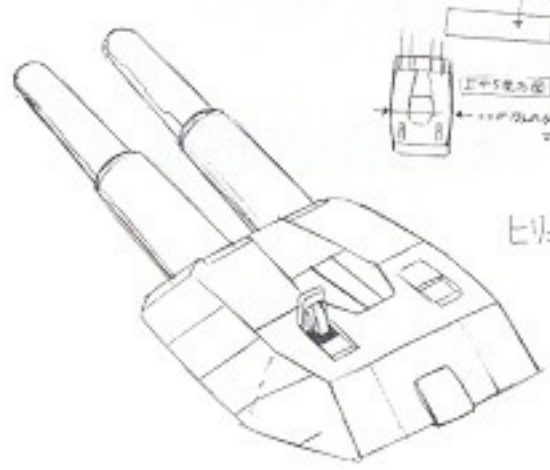
ヒリュウ級汎用戦闘母艦 ヒリュウ改

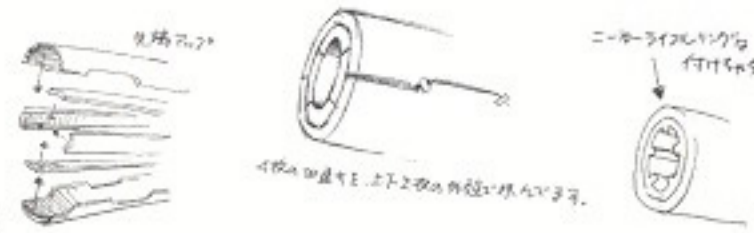
人類初の外宇宙探査航行艦「ヒリュウ」を改造した汎用戦闘母艦。
重力質量・慣性質量分離能を利用して推進剤を加速する高効率反動推進装置「テスラ・ドライブ」を搭載した初の艦船でもある。新西暦179年、冥王星軌道外宙域でエアロゲイターの機動兵器群の襲撃を受け、中破。多くの犠牲を払った末、アステロイドベルトのイカロス基地へ帰還する。その後、ISAに基づいた大改修を受け、汎用戦闘母艦「ヒリュウ改」として生まれ変わる。
艦首にはEOTを応用した超重力衝撃砲が装備され、ハガネやクロガネに次ぐ戦闘能力を有する。コードネームは「ドラゴン2」。











連装ビーム砲（主砲）

デザイン / 小野 聖二

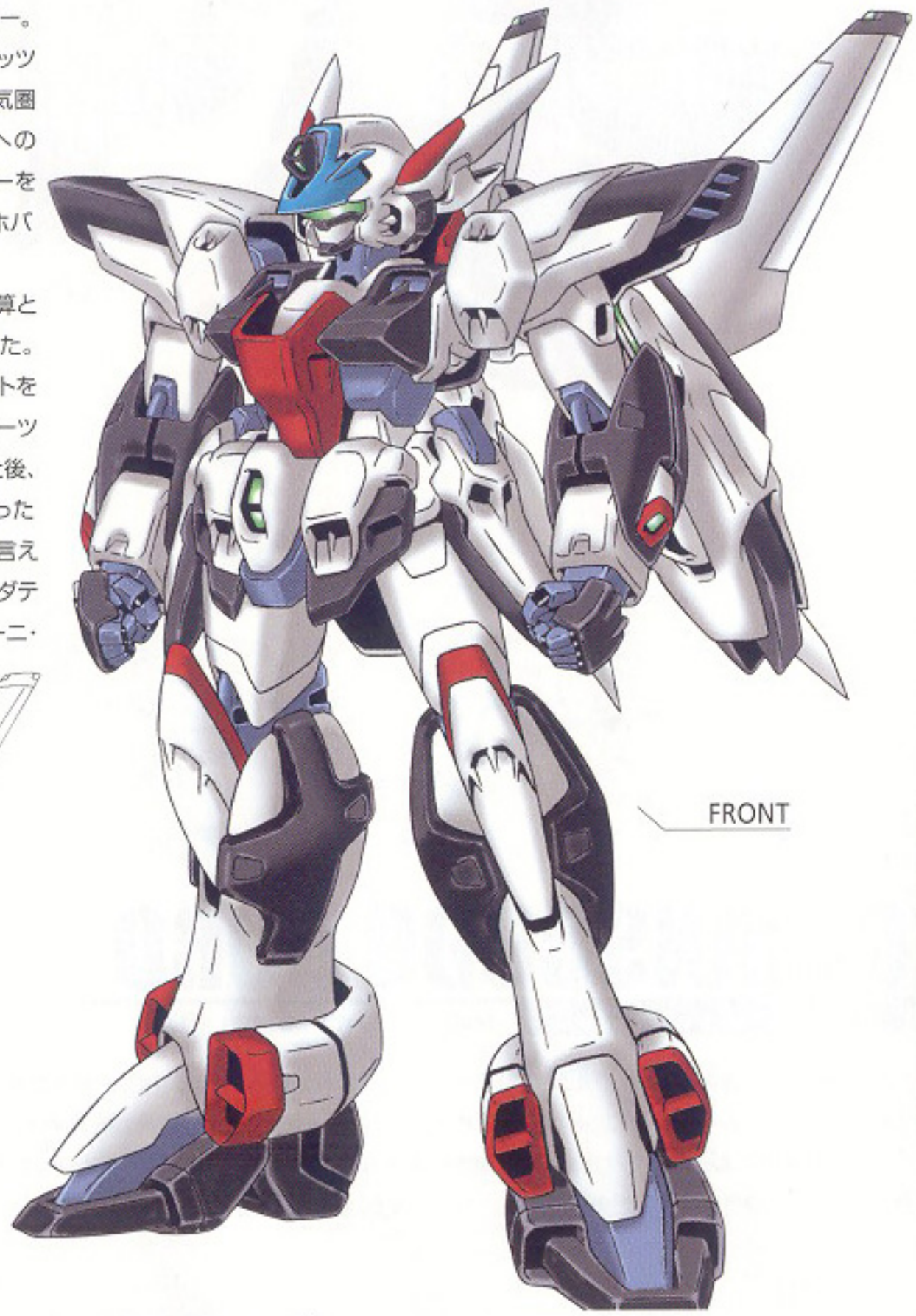
WILDRAUBTIER

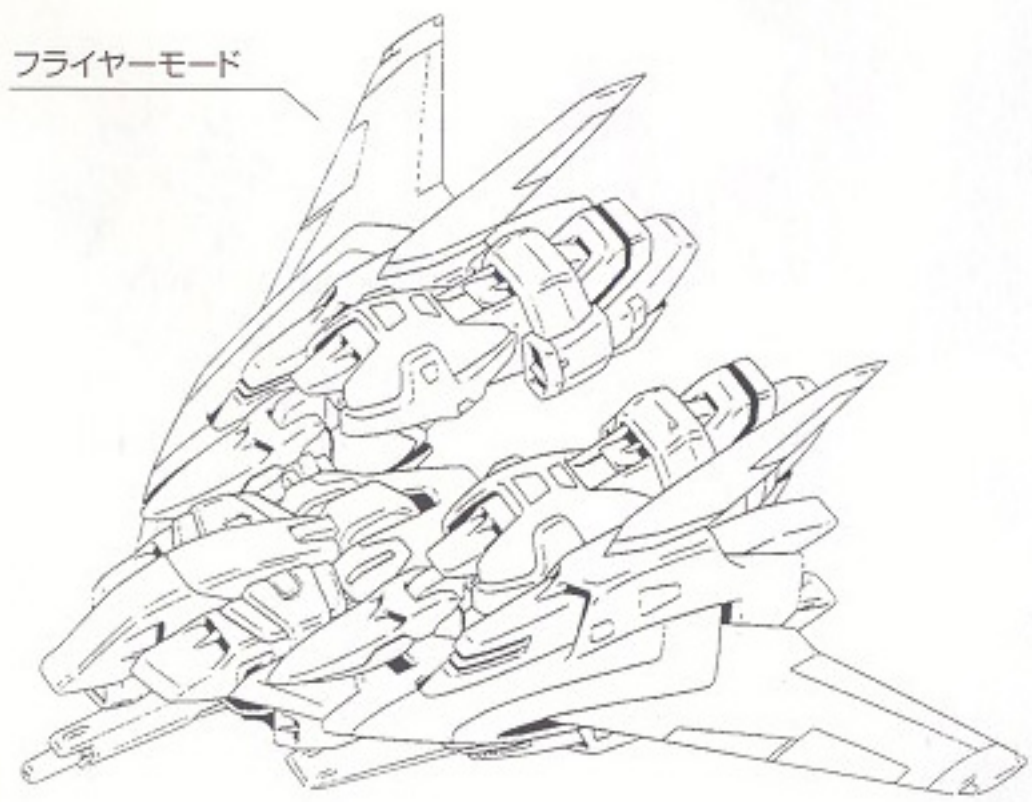
ビルトラプター / PTX-006 (L)

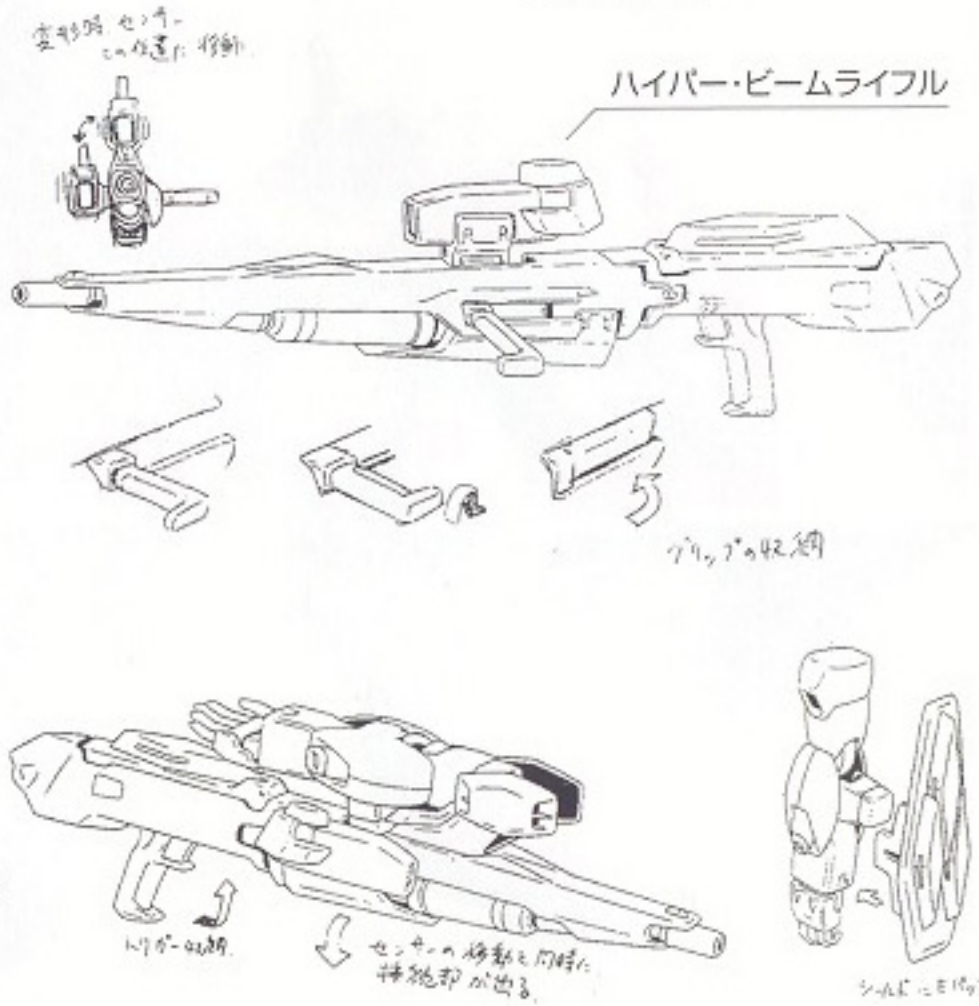
hight : 17.9m / weight : 55.1t

マオ・インダストリーが開発した初の可変型パーソナルトルーパー。陸戦型で対空戦闘能力の低いゲシュペンストMk-IIやシュッツバルトの問題点を補うべく開発された機体で、単体での大気圏内飛行能力を得るべく、飛行形態（フライヤー・モード）への変形機構が組み込まれた。背部に大型バーニアスラスターを装備しているため、パーソナルトルーパー形態においてもホバリング能力やジャンプ能力、滞空能力に優れている。

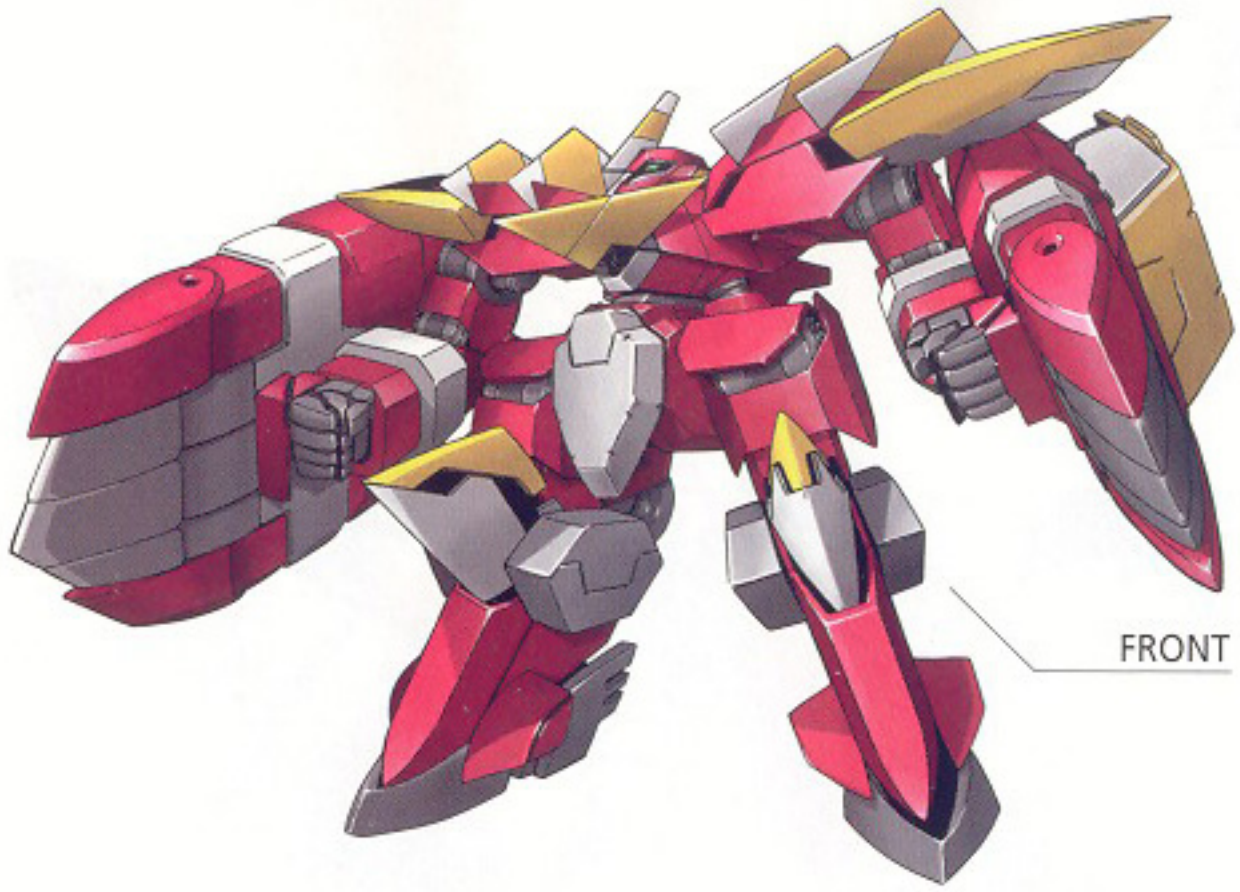
タイプL、タイプRの2機が開発される予定であったが、予算と時間の問題からタイプRは途中で組み上げ作業が中止された。タイプLは変形機構上の問題が完全にクリア出来ぬままテストを行い、結果大破してしまう。その後、タイプRはタイプLにパーツを供給して登録を抹消され、タイプLはSRX計画に回された後、各部の改修が行われた。その際のデータは、開発中であったR-1に生かされ、ビルトラプターは同機のプロトタイプとも言える存在になった。DC戦争初期にSRXチームのリュウセイ・ダテの搭乗機として実戦へ投入され、R-1が完成した後はラトゥーニ・スゥボータが使用している。







デザイン / 森野 健一郎

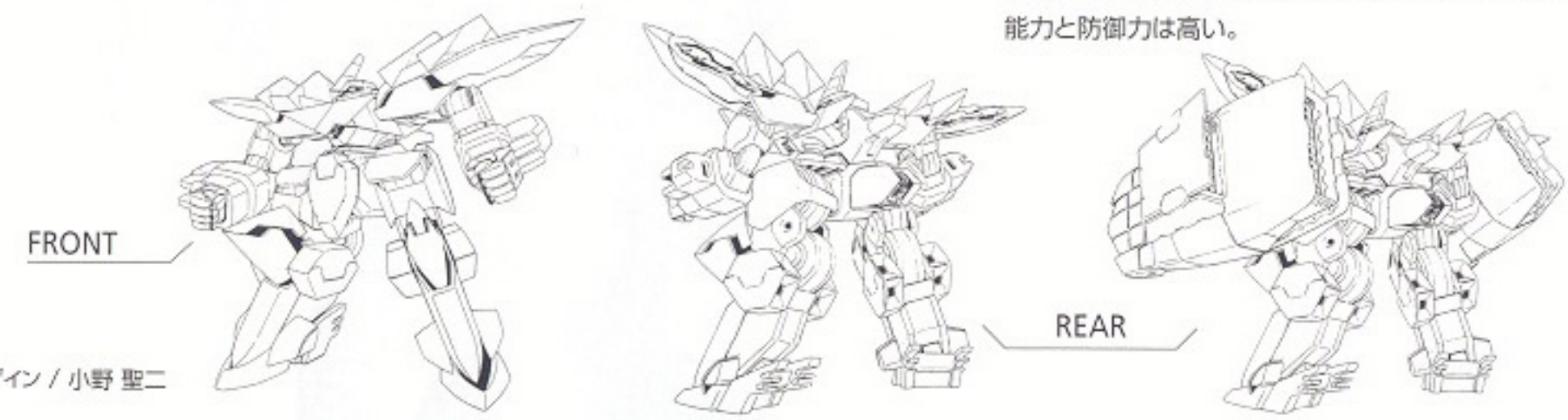


GIGANSCUDO

ジガンスクード / GS-1

hight : 70.3m / weight : 481.9t

対異星人戦闘・戦艦防衛用の特殊人型機動兵器（スーパーロボット）。元々は新西暦171年、スペースコロニーで活性化するNID4運動（コロニー独立運動）を鎮圧化するため、地球連邦軍が開発した拠点防衛用超大型機動兵器。
その後、外宇宙探査航行艦ヒリュウに護衛用兵器として搭載され、冥王星軌道外宙域へ旅立つが、エアロゲイターの機動兵器群の攻撃を受けて大破する。ヒリュウと共にイカロス基地へ帰還した後、改修を受け、四肢を取り付けられて大型の人型機動兵器として生まれ変わる。基となった機体がパーソナルトルーパーやスーパーロボットの技術が確立する以前に作られた物であるため、人型機動兵器としての総合能力や安定性は低いが、近接格闘戦能力と防御力は高い。

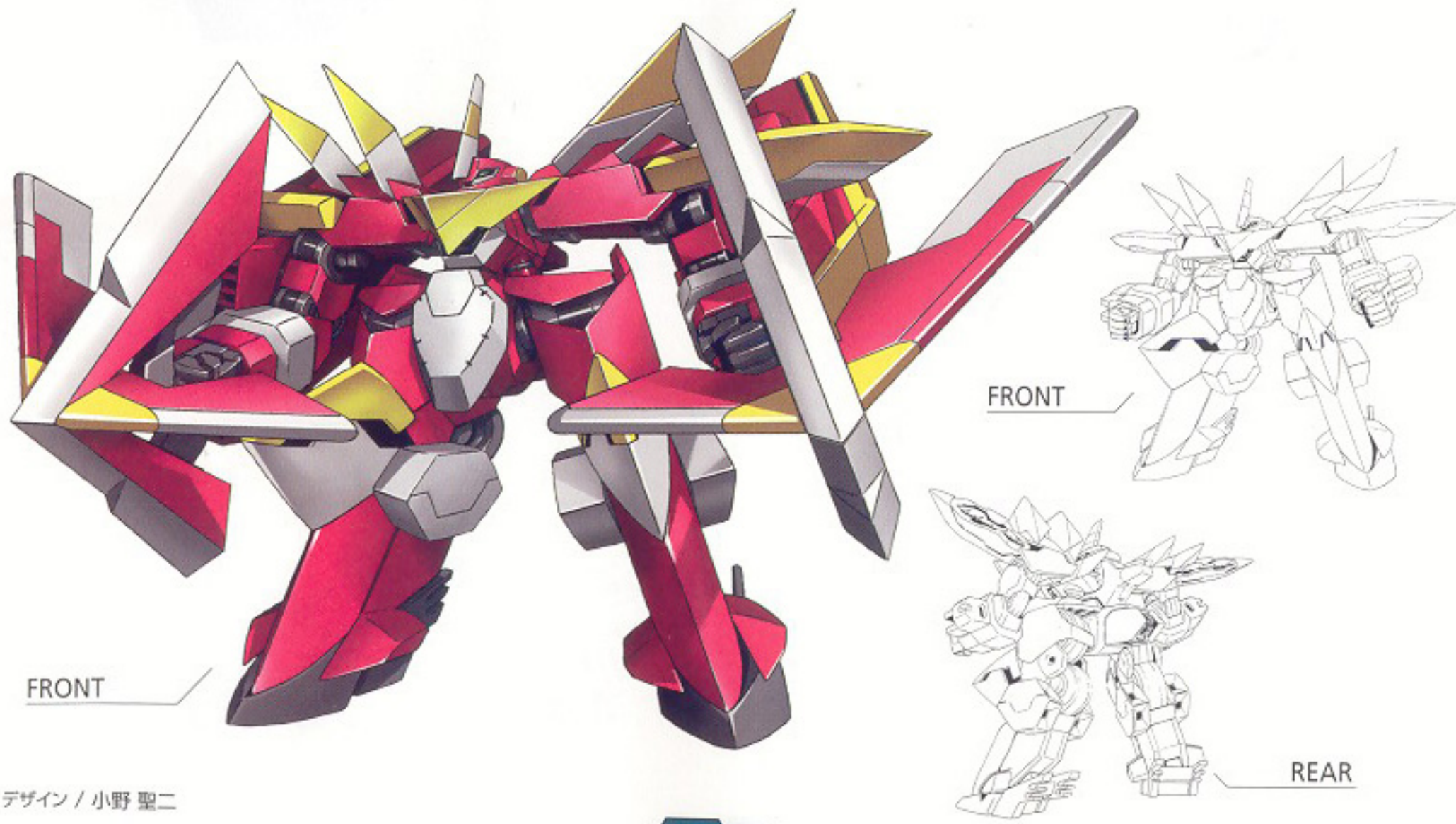


デザイン / 小野 聖二

GIGANSCUDO DURO

ジガンスクード・ドゥロ / GS-1D　hight : 70.3m / weight : 487.0t

ジガンスクードの強化改造型。グルンガストシリーズに使われているTGCジョイントを各間接部に採用し、ジガンスクードに装備されていたシーズシールド・ユニットがシーズアンカー・ユニットに変更され、格闘戦能力が向上している。また、改良型のグラビコン・システムの搭載によって、G・テリトリーの展開が可能となり、防御力もさらに向上している。なお、ドゥロ（イタリア語で"堅い"という意味）への改造プランを立てたのはマリオン・ラドム博士。通称は「ガンドロ」。

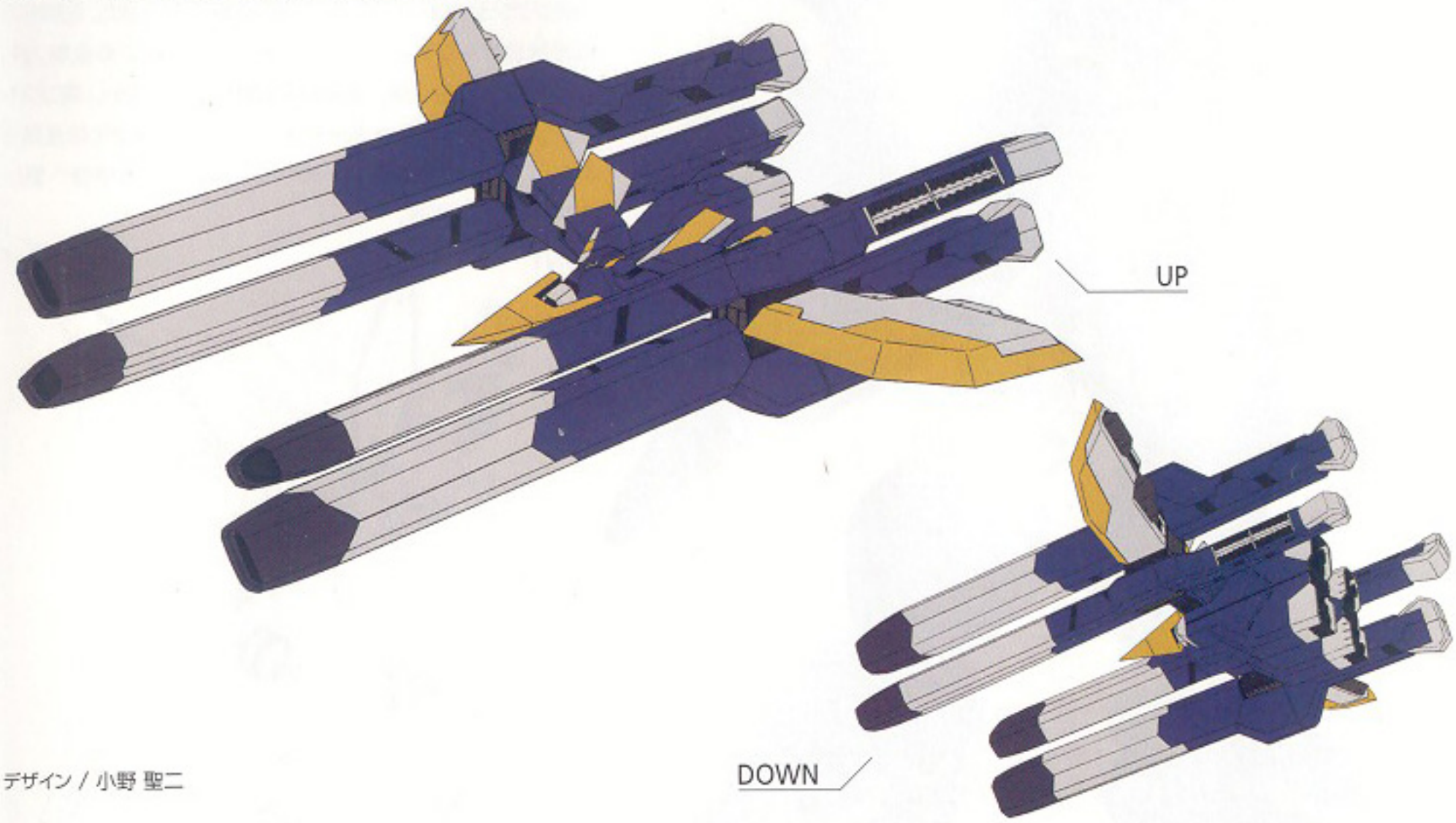


デザイン / 小野 聖二

GIGANSPADA

ジガンスパーダ　length : 132.2m / weight : 270.6t

ノイエDCが使用する大型機動兵器。長射程を誇る4門の大型ビーム砲ジガンテ・カンノーネを装備し、砲撃戦で優れた能力を発揮する。テスラ・ドライブを搭載しており、重力下での単体飛行も可能。その姿は、人型機動兵器として改修される前のジガンスクードに似ているが、開発経緯などの詳細は不明。

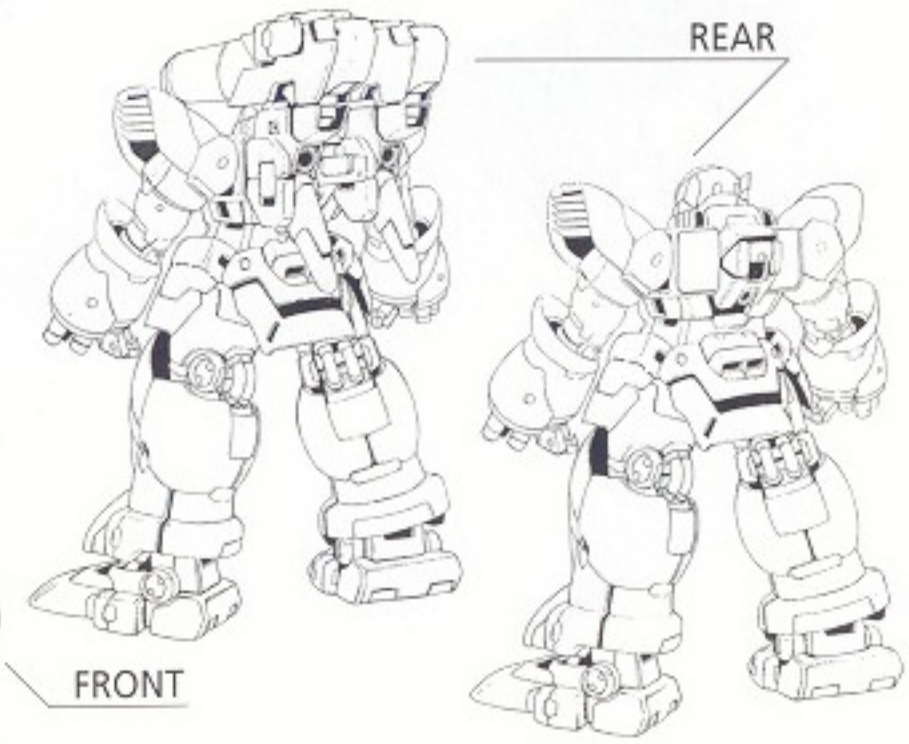


デザイン / 小野 聖二

SCHUTZWALD

シュッツバルト / PTX-004-01　hight : 20.4m / weight : 86.1t

マオ・インダストリーが、ゲシュペンストに続いて開発した試作機。地球連邦軍内におけるゲシュペンストの評価試験での問題点……装甲が想定よりやや薄い点と、手持ち式武装による遠距離での射撃精度の低さを克服するため、装甲の強化が図られ、両肩にツイン・ビームカノンが固定武装として取り付けられている。その結果、支援・砲撃戦用の機体としての性能は認められたが、生産コストの高さやメンテナンスに時間を要する点が問題視された。それ故に量産化には至らなかったが、新型機開発のためのデータ収集用機としてSRXチームに送られ、ライディース・F・ブランシュタインの搭乗機となる。他に同型機が2機存在する。

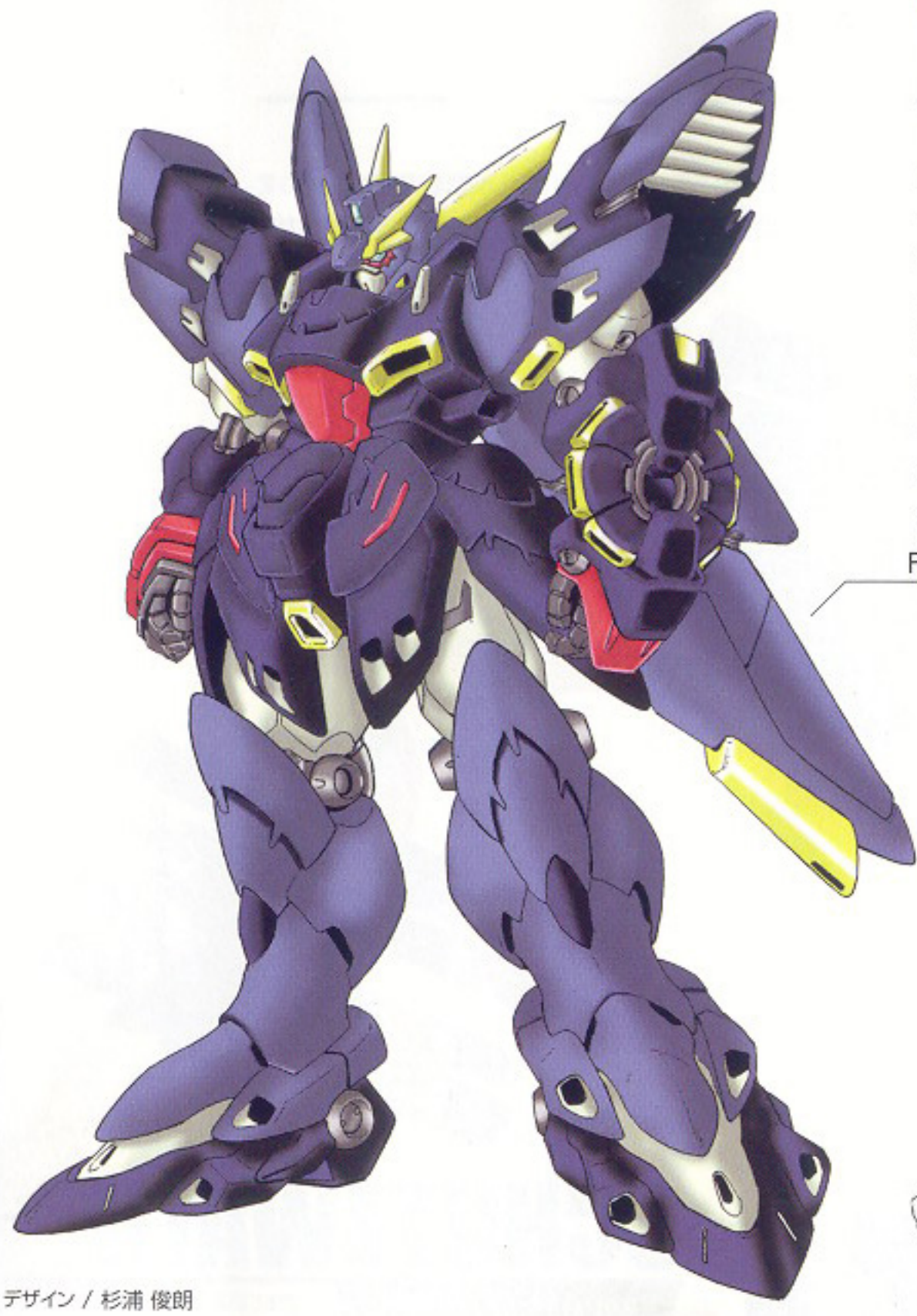


デザイン / 金丸 仁

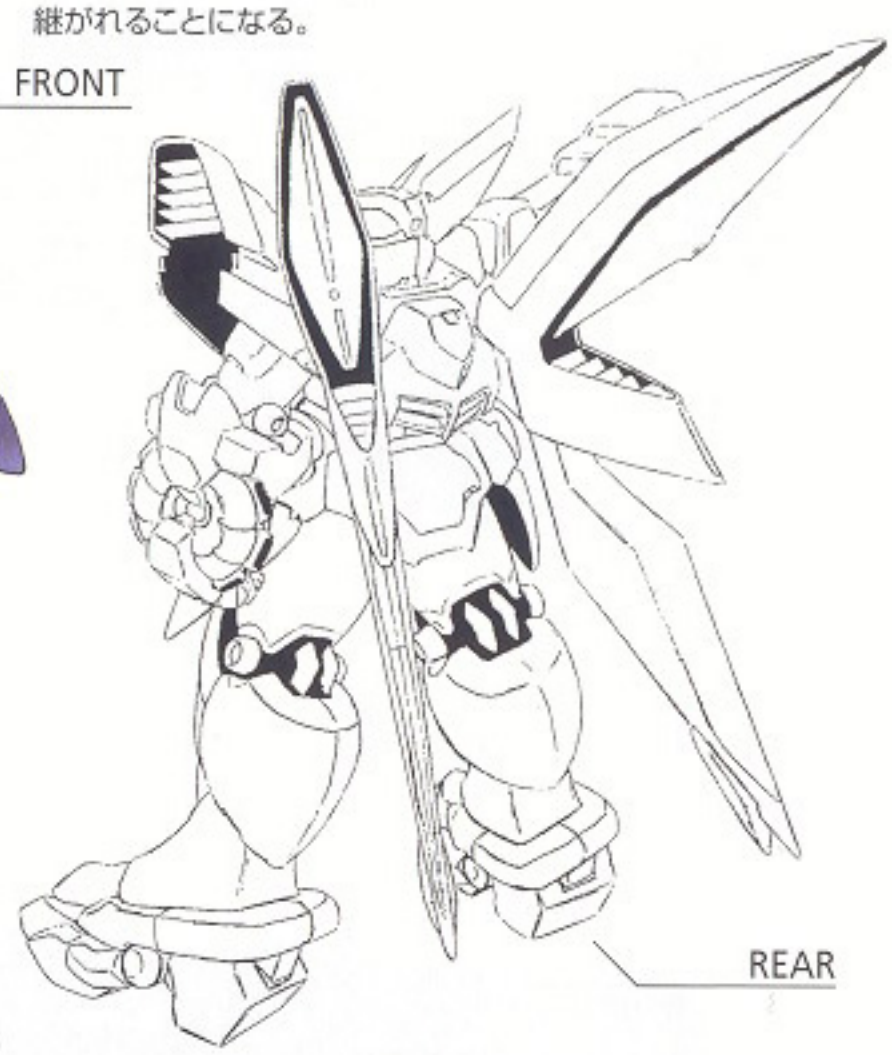
WILDSCHWEIN

ビルトシュバイン / PTX-005　hight : 23.2m / weight : 79.4t

量産主力機化を視野に入れ、運動性や機動性、汎用性、攻撃力を追求した試作機。
大推力スラスターを装備することにより、ジャンプ後の滞空時間がゲシュペンストと比べて大幅に延長された。また、左腕部の固定武装サークル・ザンバーによって接近戦での攻撃力も向上している。高性能である反面、機体が扱いづらく、高コストのプラズマ・ジェネレーターもネックとなって量産化は見送られた。しかし、その基本データやコンセプトは、後継機へ受け継がれることになる。



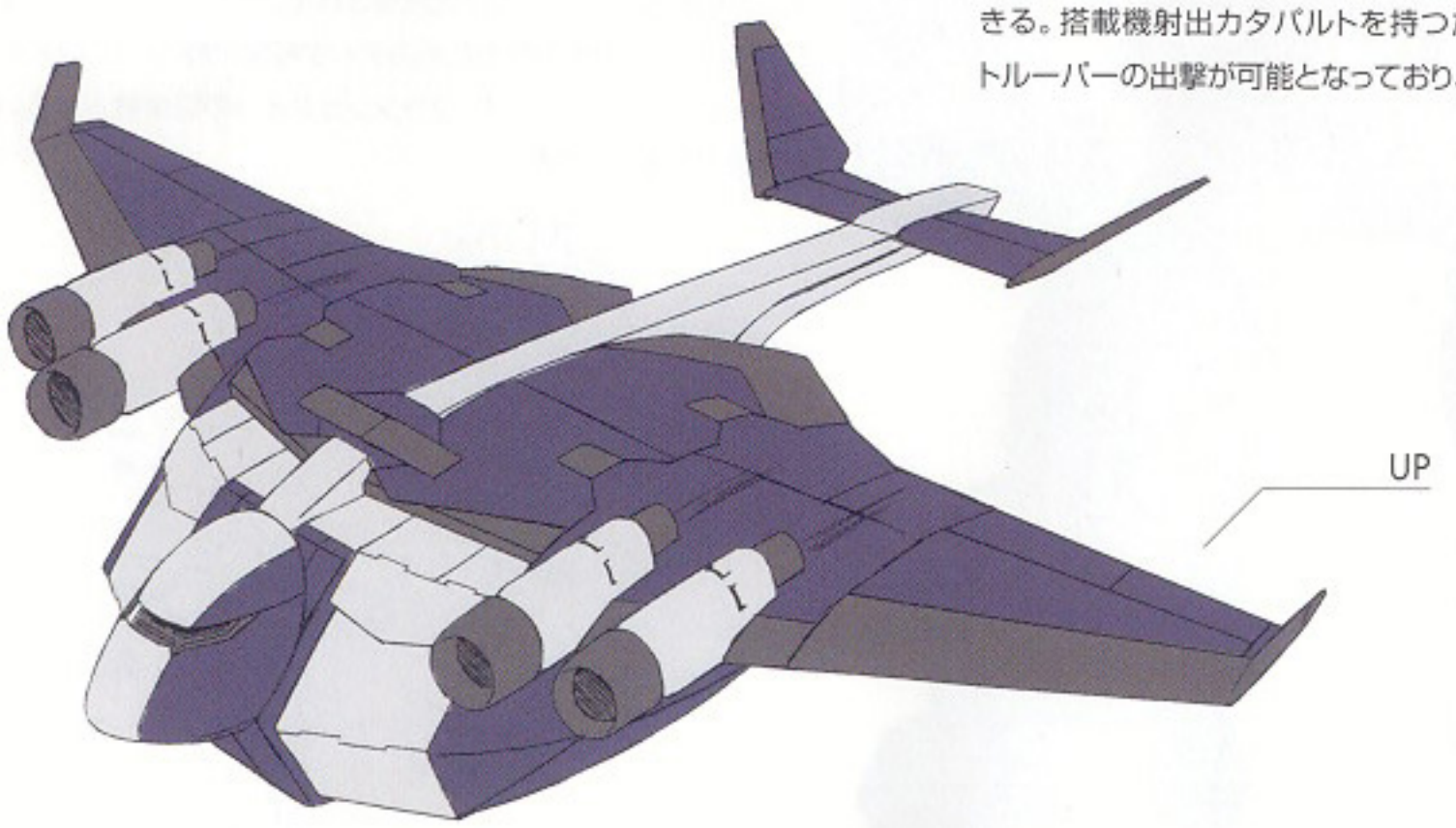
デザイン / 杉浦 俊朗



LADYBIRD

レイディバード / C242-B　length : 120.6m / weight : 350.4t

地球連邦軍が使用する大型戦略戦術輸送機。
最大5機のパーソナルトルーパーを格納し、戦場まで運搬することができる。搭載機射出カタパルトを持つため、飛行中におけるパーソナルトルーパーの出撃が可能となっており、迅速な部隊展開を実現している。

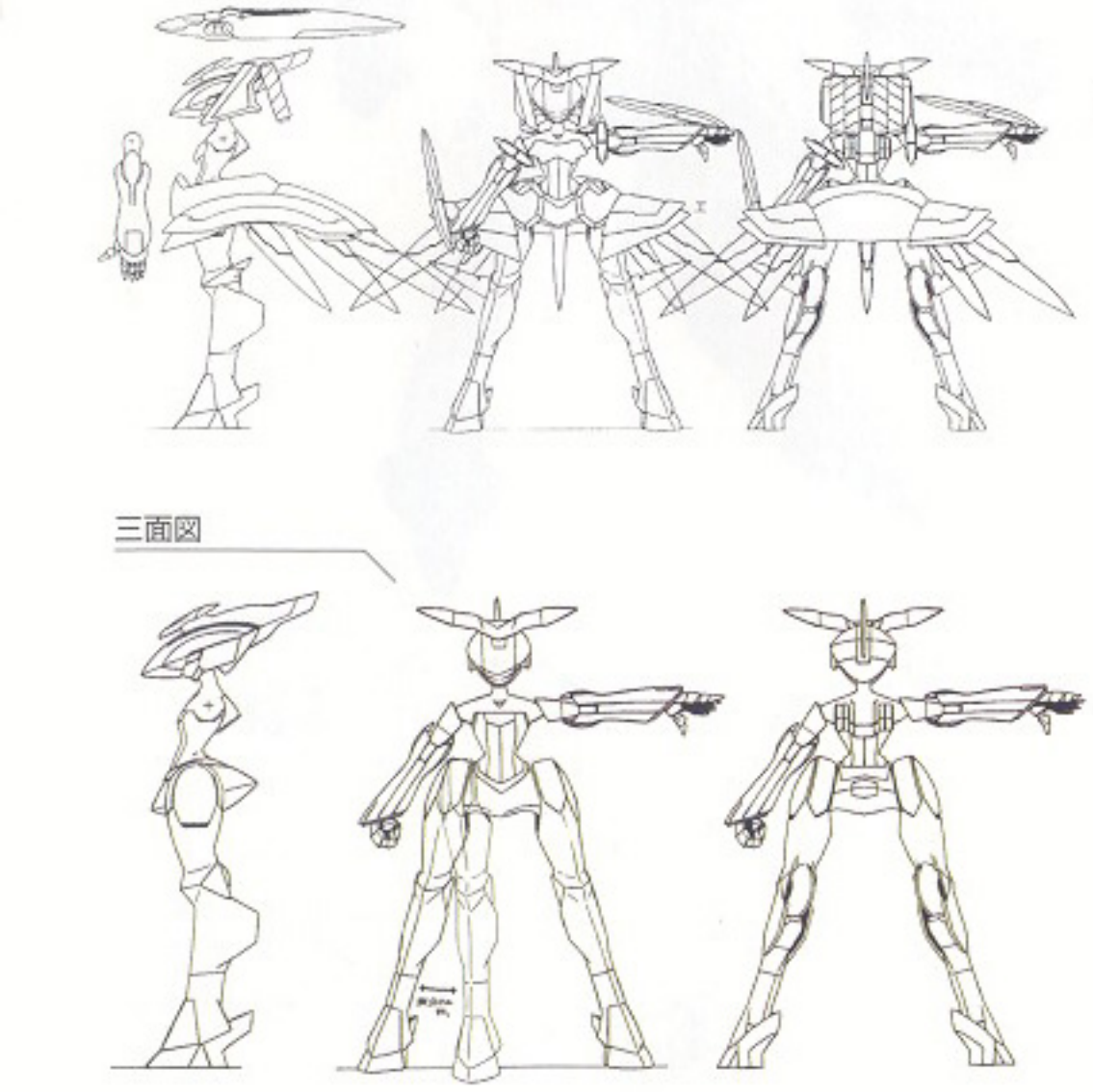


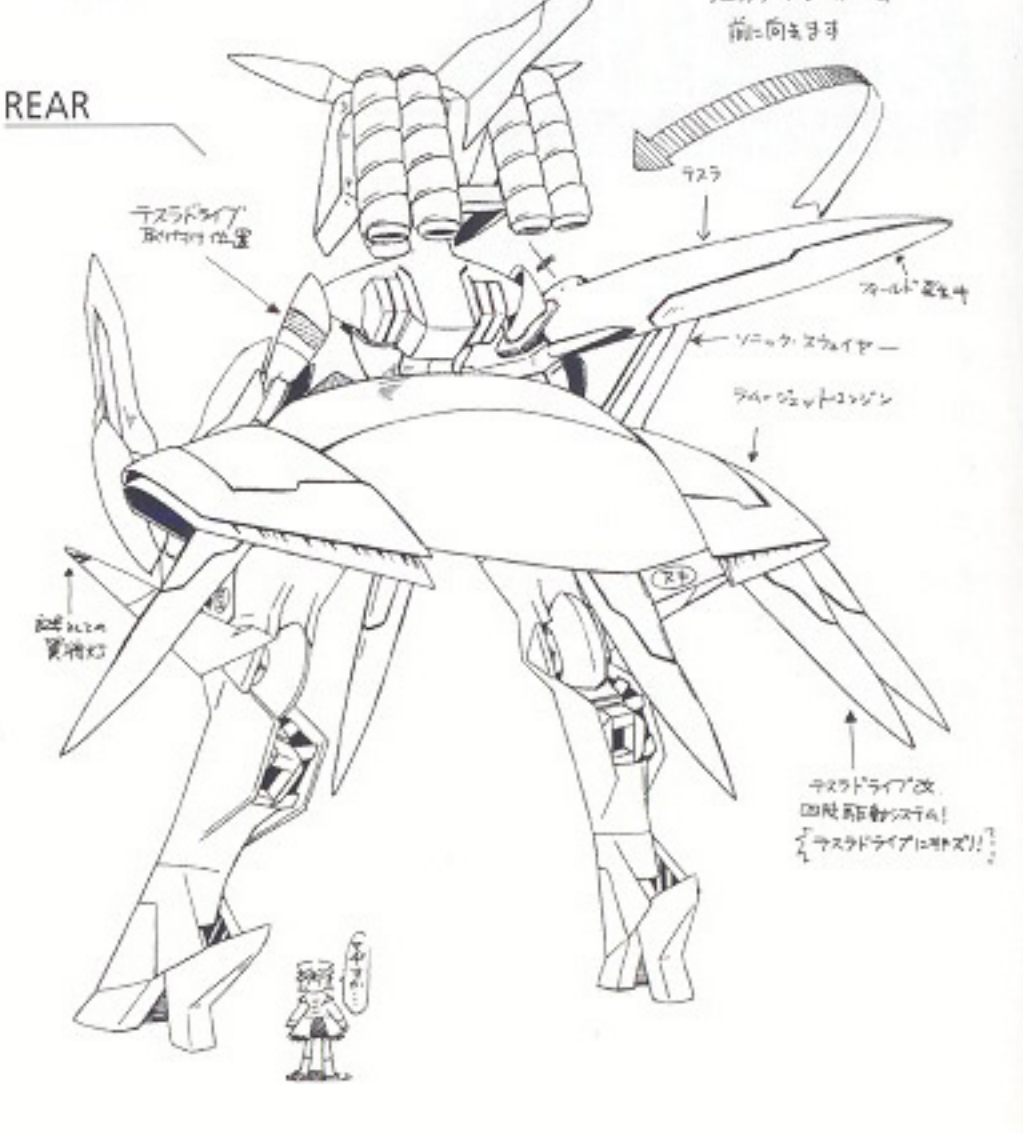
デザイン / 小野 聖二

FAIRLION

フェアリオン / XAM-007 S/G　hight : 15.4m / weight : 28.3t

リクセント公国からの依頼と資金援助を受け、テスラ・ライヒ研究所が開発したアーマードモジュール。
2機存在し、それぞれラトゥーニ・スゥボータとシャイン・ハウゼンの専用機となっている。アステリオンのテスト用機体フレームやテスラ・ドライブを改造・小型化し、極限までの軽量化が図られた機体。そのため、機動性・運動性はアステリオンに追随する。また、ぜい弱となった装甲を補うためのエネルギーフィールド発生装置と「W-I³NKシステム」と呼ばれる特殊なマン・マシン・インターフェースが搭載されている。





デザイン / 小野 聖二

ASTELION AX

アステリオンAX / YAM-007-1AX

hight : 26.4m / weight : 31.6t

プロジェクトTDで開発されたYAM−007−1アステリオンの改修機。「AX」は「advanced-X」の意味で「アクス」と読む。
ジェットエンジンを廃し、完全にテスラ・ドライブのみで機体を駆動させており、操縦には高度な技術が要求される。その対応として、パイロットの負担軽減のためにコックピットは複座に改造されている。しかし、あくまで急造の改修機であり、機体強度などに問題を残している。メインパイロットはアイビス・ダグラス、ナビゲーションはツグミ・タカクラが担当。

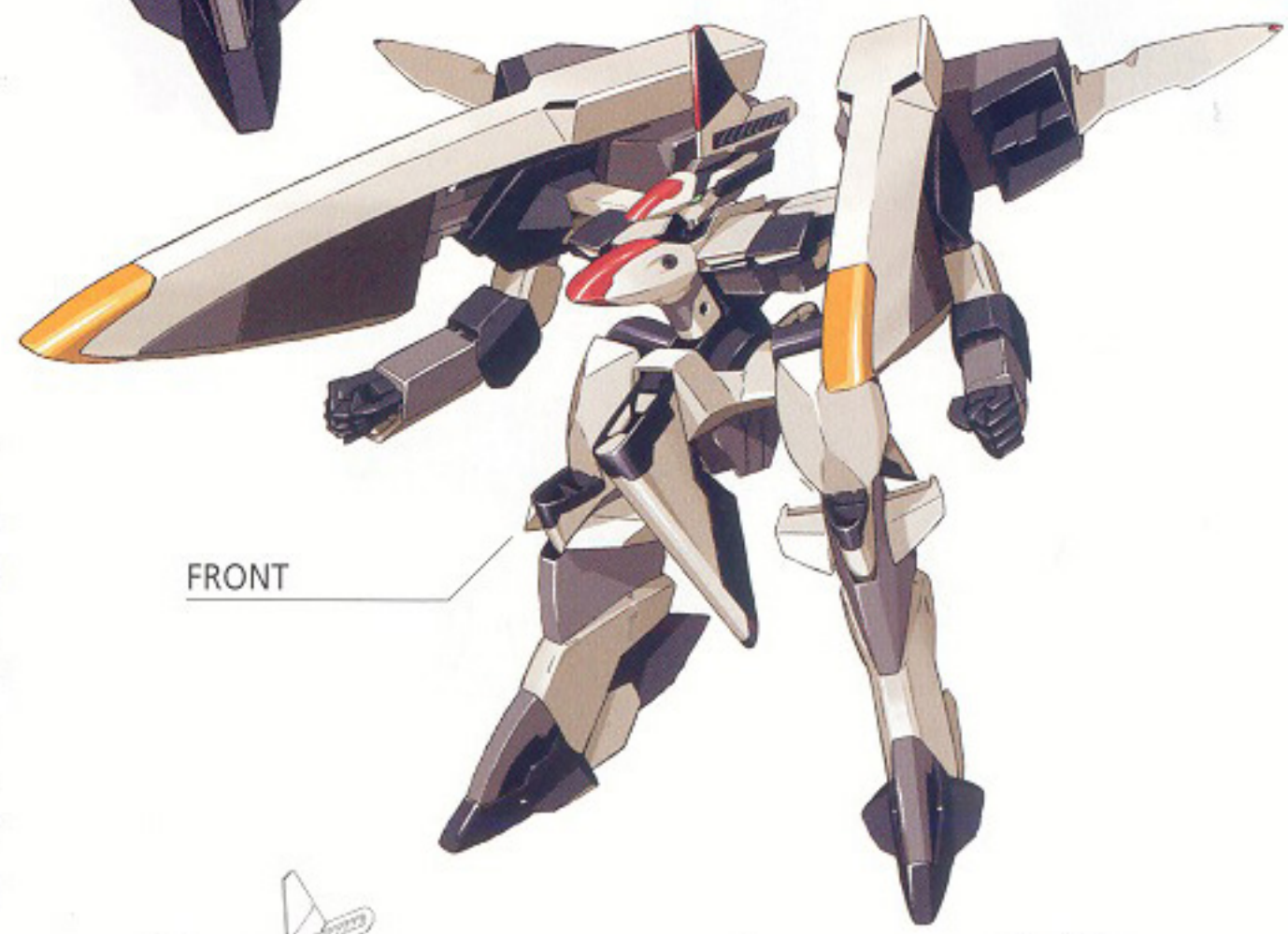
デザイン / 小野 聖二

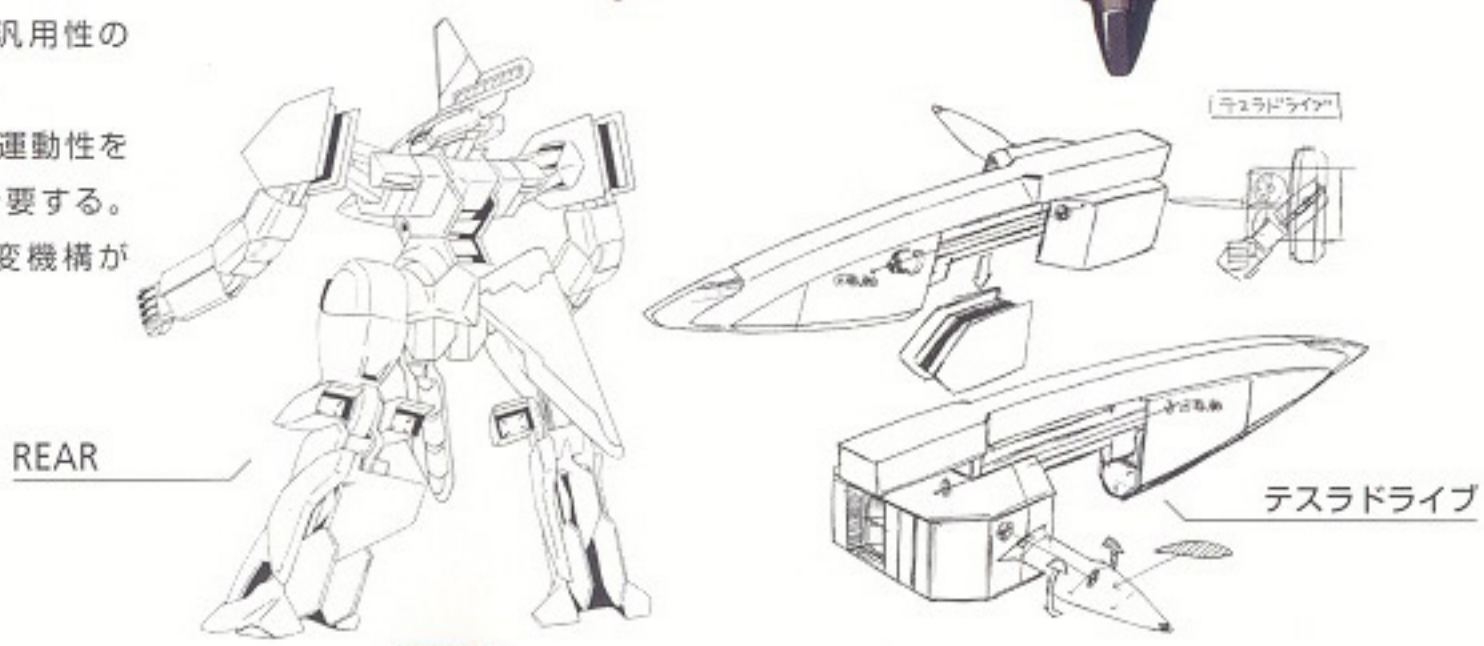
ASTELION

アステリオン / YAM-007-1

hight : 20.2m / weight : 38.0t

かつてDCで進められていた恒星間航行計画「プロジェクトTD」で開発された「シリーズ77」のアーマードモジュール。シリーズ77の完成型である機体「α」の試作機であり、「αプロト」のコードで呼ばれる。アーマードモジュール・ガーリオンをベースに新型テスラ・ドライブを搭載し、宙間・空間行動における汎用性の追求をコンセプトに開発されている。
高い汎用性に加えて優れた機動性・運動性を誇るが、その操縦には相応の技術を要する。また、部分的に高機動形態への可変機構が採用されている。





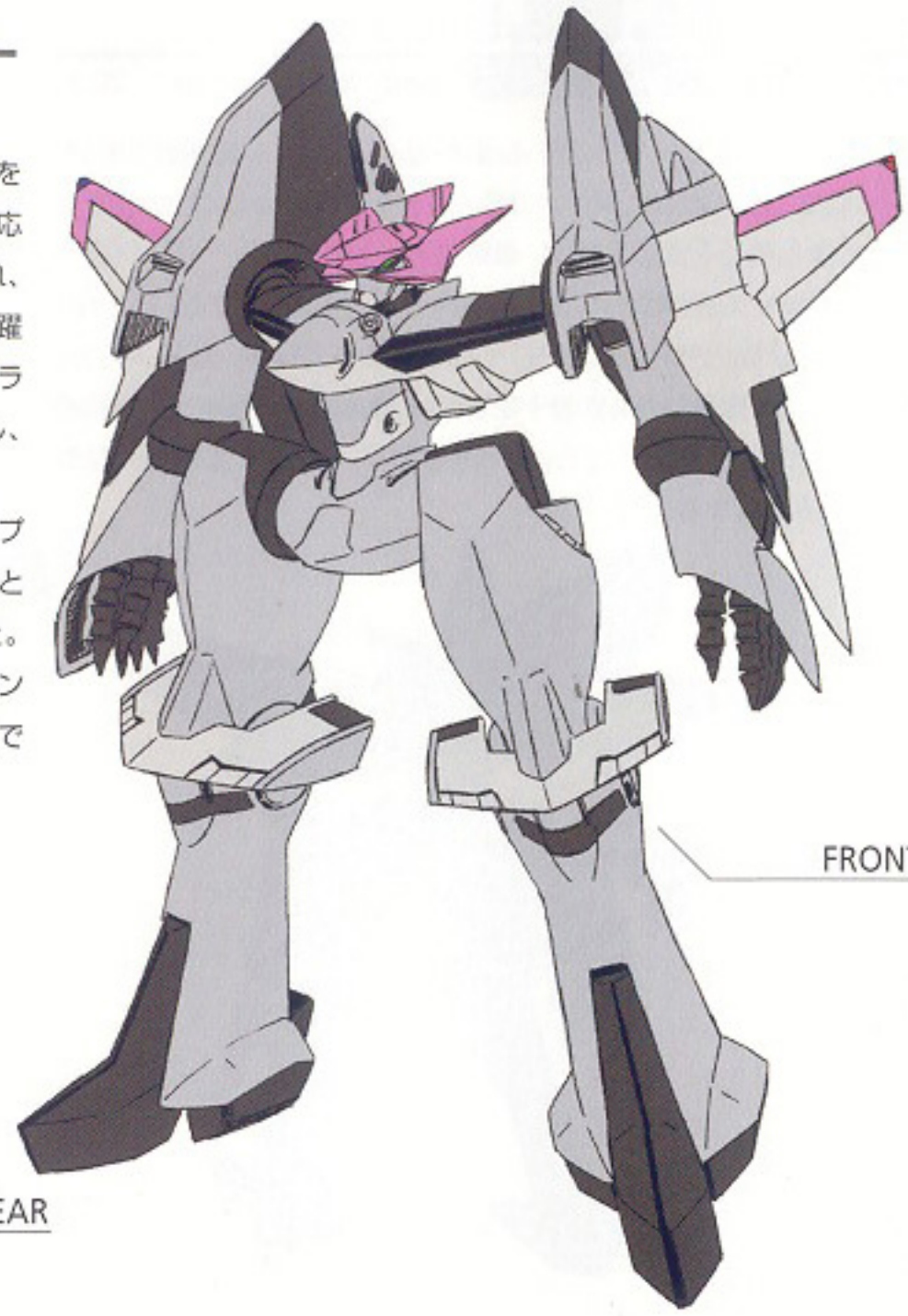
デザイン / 小野 聖二

GUARLION

ガーリオン / DCAM-006　hight : 18.9m / weight : 30.4t

DCで使用される量産型アーマードモジュール。人型機動兵器との戦闘を前提として設計された機体であり、耐弾性の向上とあいまって局地戦にも対応した高汎用・高性能機である。指揮官用アーマードモジュールとして運用され、リオンで構成された主力編隊に後れを取らない高速戦域管制機として活躍した。重力質量・慣性質量分離能を有した高効率反動推進装置「テスラ・ドライブ」を搭載し、T-ドットアレイを斥力および慣性質量制御場として構成し、機体の"楯"としている。

また、先行2機種（リオン、バレリオン）の欠点として挙げられていた武装オプションの少なさの問題が改善され、LIEONシステムによる四肢制御の進化と伴って、白兵戦用ブレードを始めとする様々な武器の使用が可能となった。運動性強化型のカスタムタイプ（DCAM-006V）など、若干のバリエーションが存在する。DC戦争後もイスルギ重工で生産が継続され、地球連邦軍側でも運用されることになる。

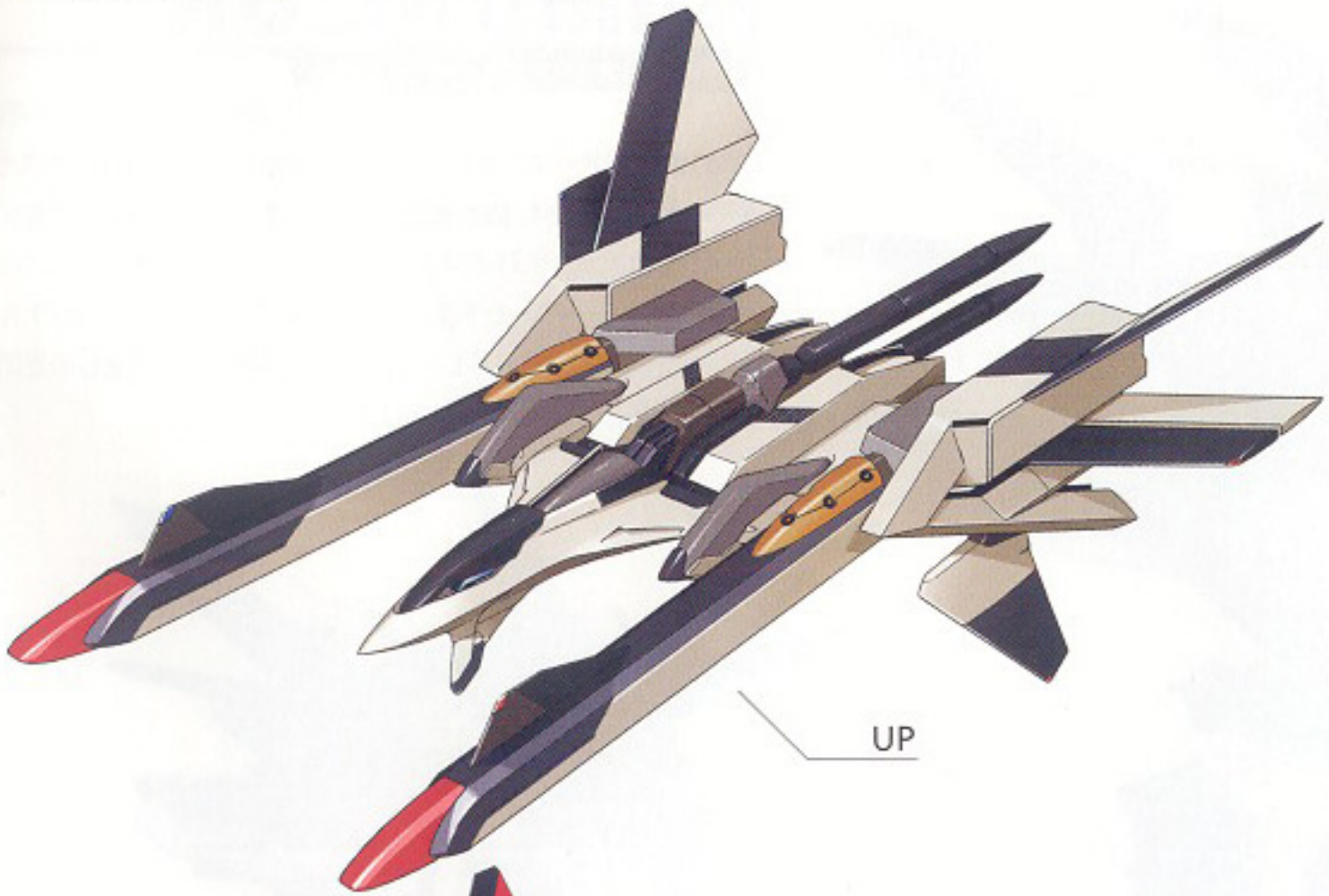


デザイン / 小野 聖二

CALION

カリオン / YSF-33-4
length : 33.1m / weight : 51.4t

アステリオンと同じく、プロジェクトTDで開発されたシリーズ77の1機。シリーズ77の完成型である機体「β」の試作機であり、「βプロト」のコードで呼ばれる。新型テスラ・ドライブの実験機であるが、プロジェクトTDの実質的なスポンサーであるイスルギ重工からの要請により、武装が装備されている。現行のアーマードモジュールを遥かに凌ぐ機動性・運動性を誇り、操縦者の技量によっては高い戦闘能力を発揮する。プロジェクトTDのメンバーの練習機でもあり、1号機（緋色）にはスレイが、4号機（白色）にはアイビスが搭乗する。



デザイン / 小野 聖二

SIEGERLION

ズィーガーリオン / XRAM-006VC　hight : 20.8m / weight : 30.6t

マリオン・ラドム博士のプランの下、レオナ・ガーシュタインの搭乗機であったガーリオン・カスタムに、レオナの恋人であるタスク・シングウジが愛を込めて強化改造を施した機体。最新のパーソナルトルーパー技術やテスラ・ドライブが搭載され、運動性能や攻撃力が向上。また、T-LINKシステム（念動力感知増幅装置）も組み込まれている。ガーリオンと同じく、両肩に専用の力場誘導子を増設し、機体前方の局所へ電磁誘導加熱した金属粒子を固定、さらにそれを念動フィールドで包み込み、延長させて敵を攻撃することが可能。

デザイン / 小野 聖二

ARMORLION

アーマリオン / XRAM-004FA

hight : 21.9m / weight : 45.8t

DCの量産型アーマードモジュールであるリオンをろ獲し、武装と装甲を強化した機体。設計者とパイロットはリョウト・ヒカワ。各部のパーツにはヒュッケバインやゲシュペンスト、アルトアイゼンなどパーソナルトルーパーの予備パーツが流用されている。パーソナルトルーパーとアーマードモジュールの中間をいく、急場しのぎの改造機だが、そのポテンシャルは高い。

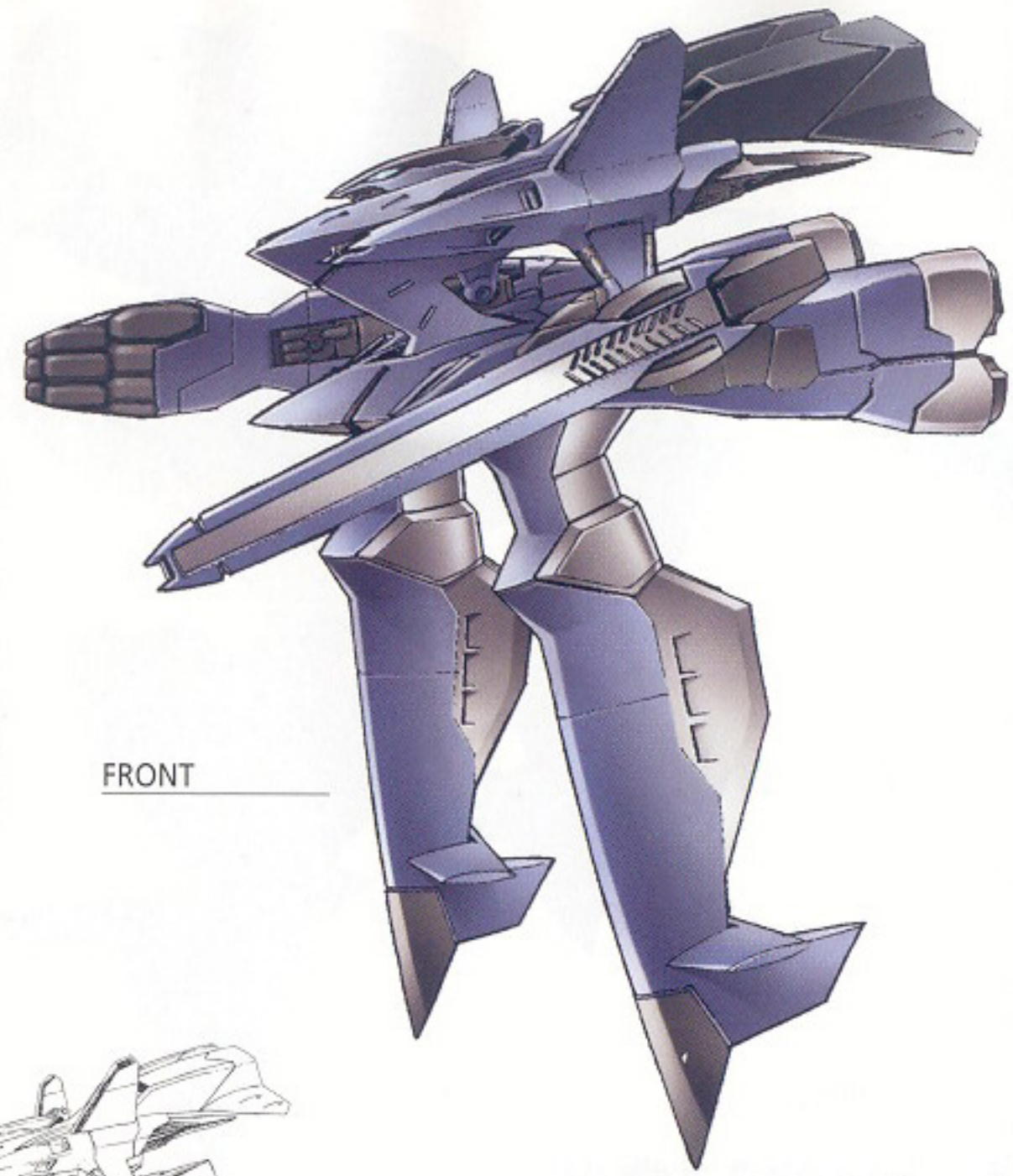
デザイン / 小野 聖二

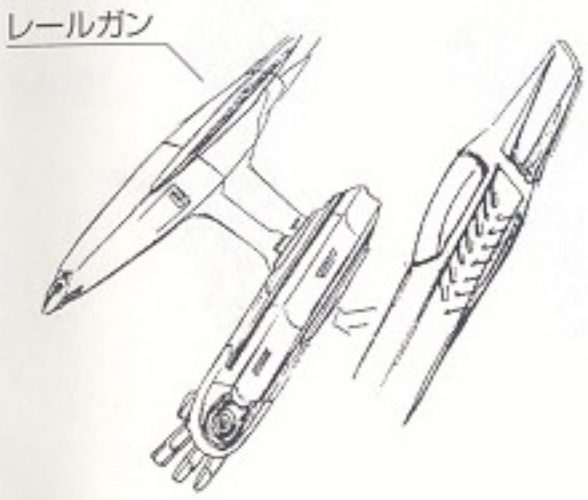
LION

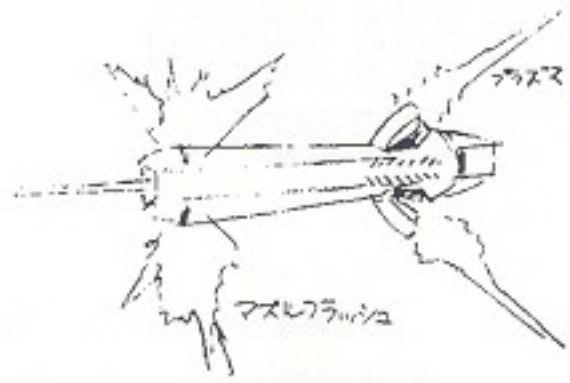
リオン / DCAM-004　hight : 20.1m / weight : 32.9t

EOTI機関（後のDC）が秘密裏に開発した人型機動兵器で、初の量産型アーマードモジュール。重力質量・慣性質量分離能を有した高効率反動推進装置「テスラ・ドライブ」によって重力質量のみを軽減し、小型の下方ジェットにより容易に浮遊しつつ小面積の主翼の揚力で飛行している。ただし、推力は別のデバイスで確保されており、降着脚を兼ねた特異な機体下部には大型の在来型エンジンが主機として組み込まれている。また、下部には大胆な地形追随を可能とする多数の姿勢制御用スラスターが組み込まれており、地表戦闘をもこなす。さらに、一部パーツを換装することによって、宇宙空間での運用も可能。

武装面を強化したタイプF、機動性を強化したタイプVなどのバリエーションが存在する。テスラ・ドライブ搭載機としては極めて単純な構造であり、生産コストも低い。そのため、DC戦争後もイスルギ重工で生産が継続され、地球連邦軍で量産主力機として使用されることになる。







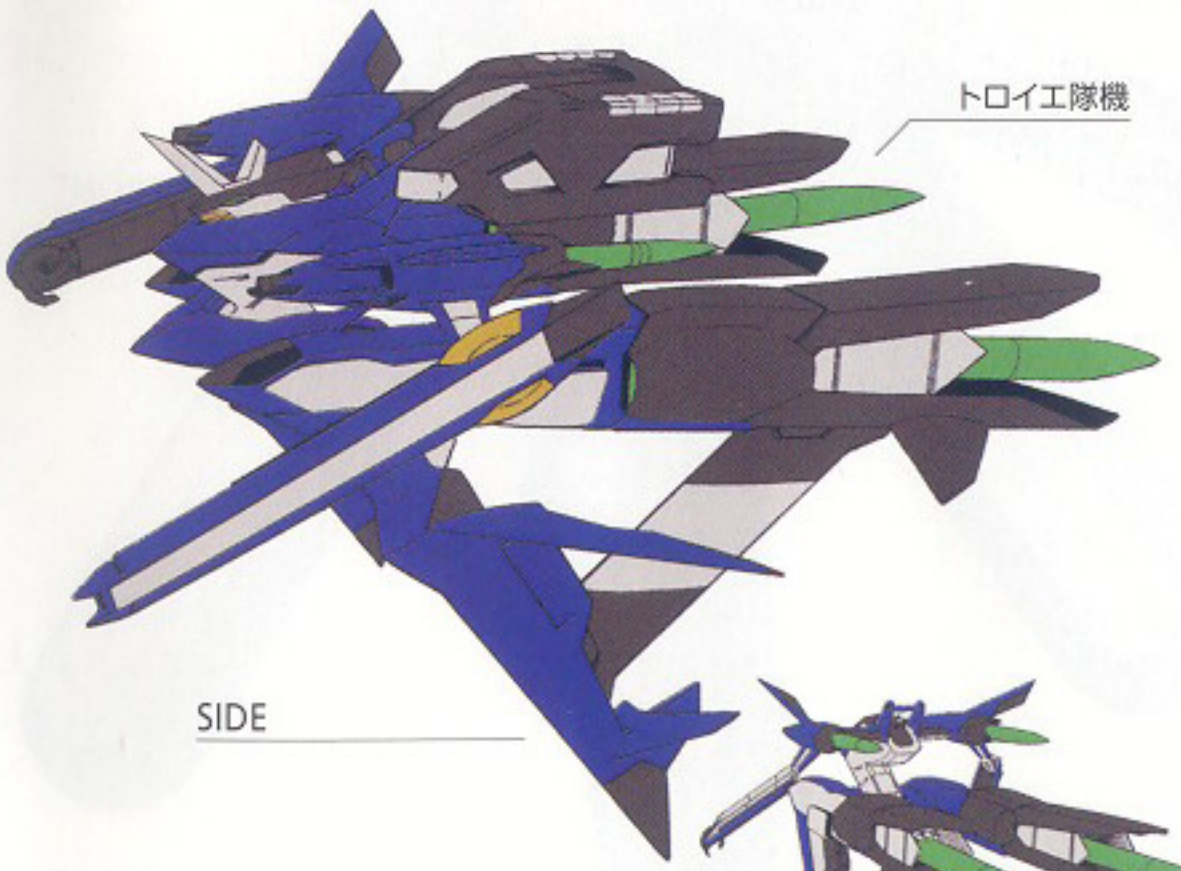
デザイン / 小野 聖二

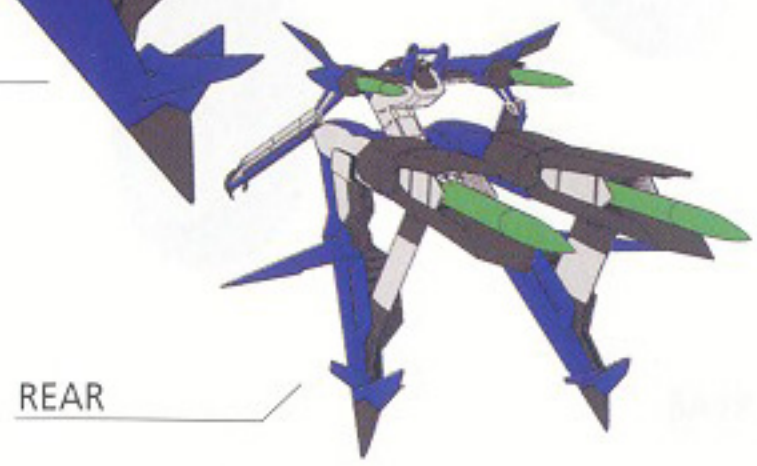
COSMOLION

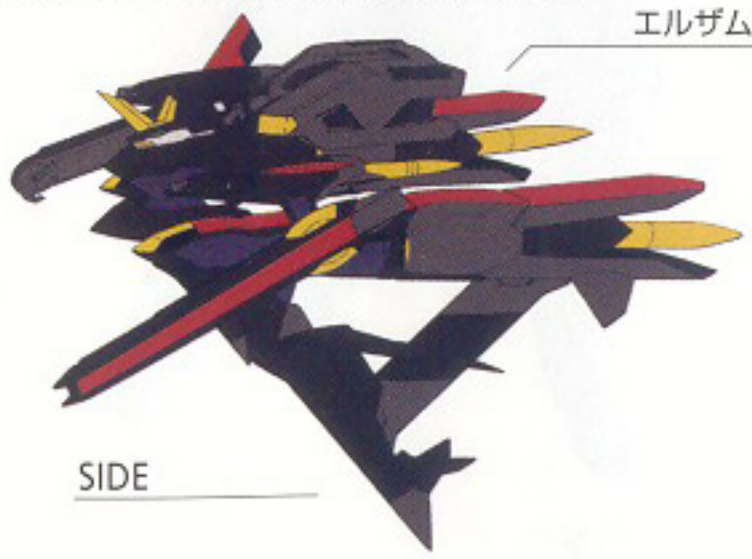
コスモリオン / DCAM-004C　hight : 20.8m / weight : 39.4t

アーマードモジュール・リオンのバリエーション機。正式名称は「リオン・タイプC」で、「コスモリオン」は通称である。

宙間戦闘能力を特化させた機体で、改良型のテスラ・ドライブを併設した大型ブースタ・ユニットによって、最大速度が向上し、航続距離も延長されている。また、背部にはミサイル・コンテナを装備している。調整とパイロットの技量次第では、重力下での運用も可能。ノーマルのリオン同様、タイプF（DCAM-004CF）とタイプV（DCAM-004CV）が存在する。







デザイン / 小野 聖二

SEALION

シーリオン / DCAM-004C

hight : 20.9m / weight : 34.3t

アーマードモジュール・リオンのバリエーション機。正式名称は「リオン・タイプS」で、「シーリオン」は通称である。
水中戦闘能力を特化させた機体で、ステルス性に富んだ電動推進機関を搭載している。また、テスラ・ドライブとロケット・ブースターを併設しているため、短時間ではあるが空中飛行も可能。

デザイン / 小野 聖二

LANDLION

ランドリオン / DCAM-004L hight : 19.2m / weight : 33.3t

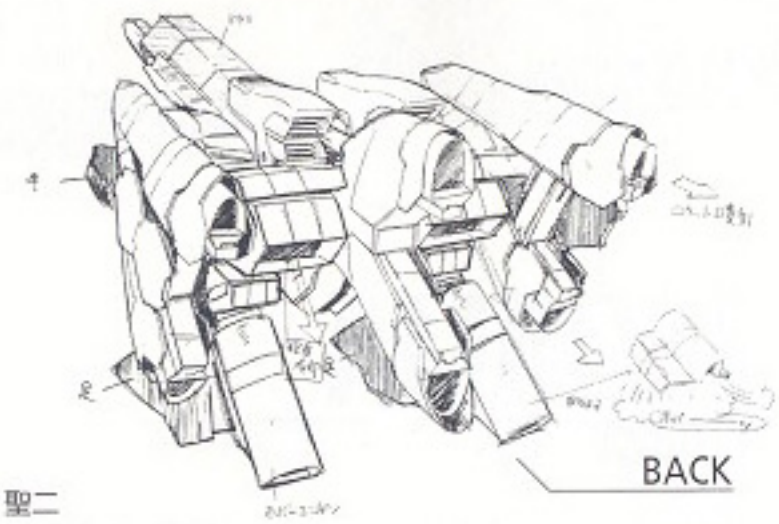
アーマードモジュール・リオンのバリエーション機。正式名称は「リオン・タイプL」で、「ランドリオン」は通称である。
陸上戦闘能力を特化させた機体で、脚部の代わりに装備されたスティック・ムーバーによって高い踏破性能を発揮する。ただし、機動性や運動性はリオンに比べて劣るため、基本的には地上拠点攻撃・防衛戦で使用される。そのため、ノーマルタイプより性能が高い大型レールガンを装備している。

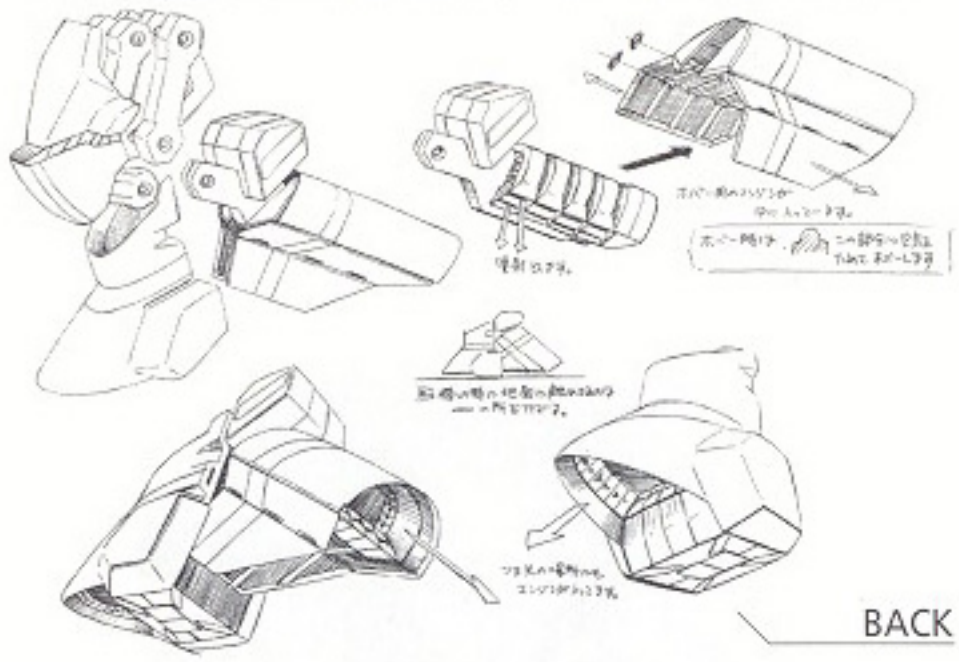
デザイン / 小野 聖二

BARELION

バレリオン / DCAM-005 hight : 23.6m / weight : 40.7t

長距離からの火力支援を目的として開発された重アーマードモジュール。見た目は大型火砲だが、自力移動のみならずテスラ・ドライブによる単体での飛行も可能。外部装甲など各部はT-ドットアレイで強化されており、それが最小限の構造素材で強固な機体を実現せしめている。故に必須モジュール以外は比較的単純な構造となったため、整備性が高く、コストも量産可能な範囲に抑えられている。
主に対艦戦や拠点の攻撃・防衛戦などに投入され、長距離支援用の機動兵器が決定的に不足していた地球連邦軍を効果的に痛めつけた。



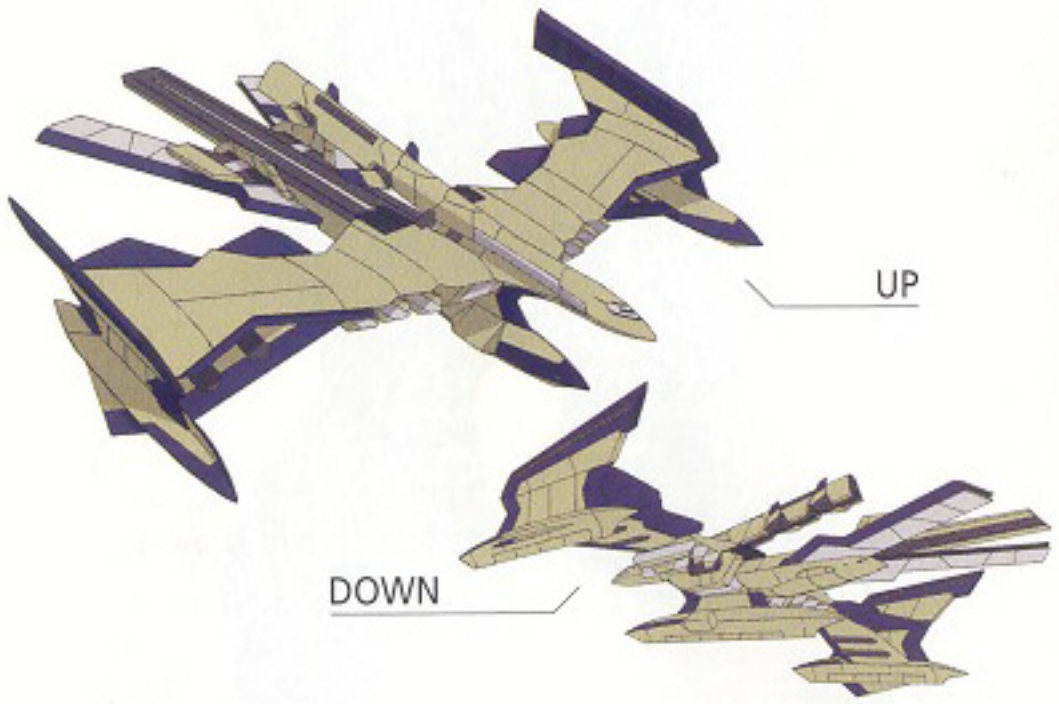


デザイン / 小野 聖二

STORK

ストーク級空中戦闘母艦

DCが使用する空中戦闘母艦。戦闘機やアーマードモジュールの空中発艦・着艦が可能で、搭載能力も高い。また、強力な固定武装を持ち、空中要塞とも言える存在になっている。DC総帥ビアン・ゾルダークや副総帥アードラー・コッホが座乗する機体は「グレイストーク」と名付けられ、DCの準旗艦となっている。

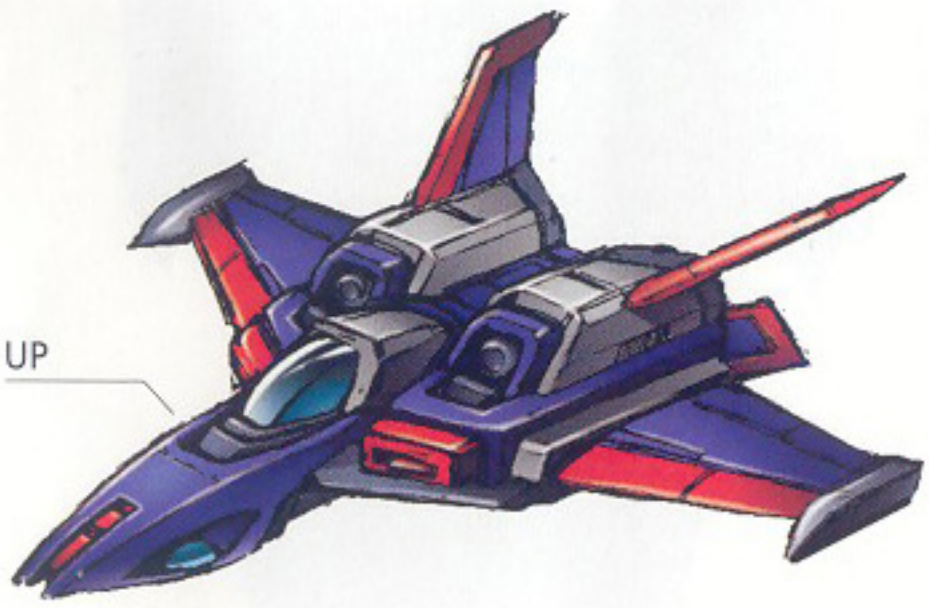


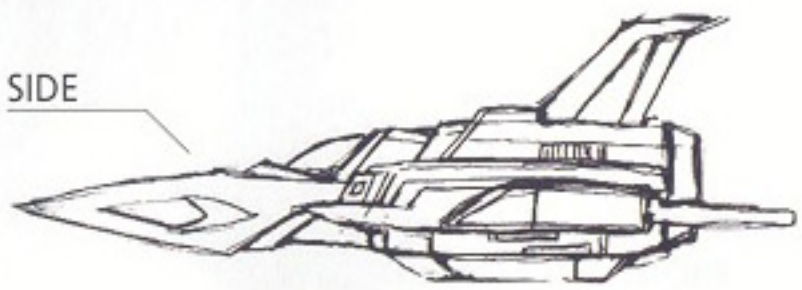
デザイン / 小野 聖二

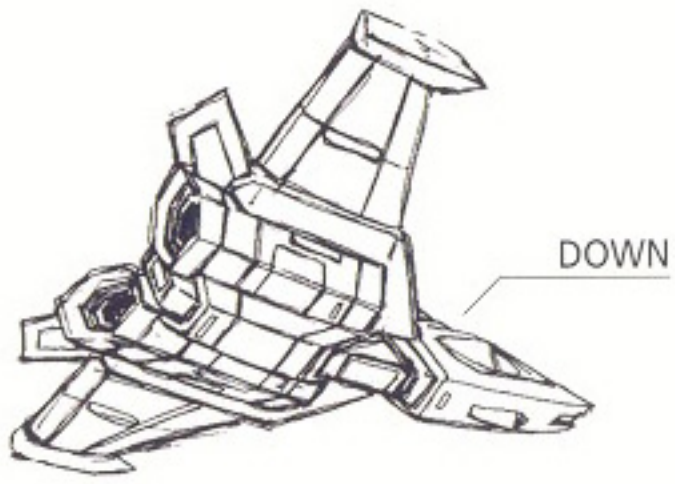
SOLPLEASA

ソルプレッサ / A-12 length : 13.9m / weight : 10.6t

シャドウミラー隊が使用する艦上攻撃機。稼働率（整備性）の高さ、低コストを実現した小型軽量機で、基本的にはライノセラス級陸上戦闘母艦やトライロバイト級万能戦闘母艦から運用される。また、離陸滑走距離が短く、高速スクランブラーとしても用いられる。





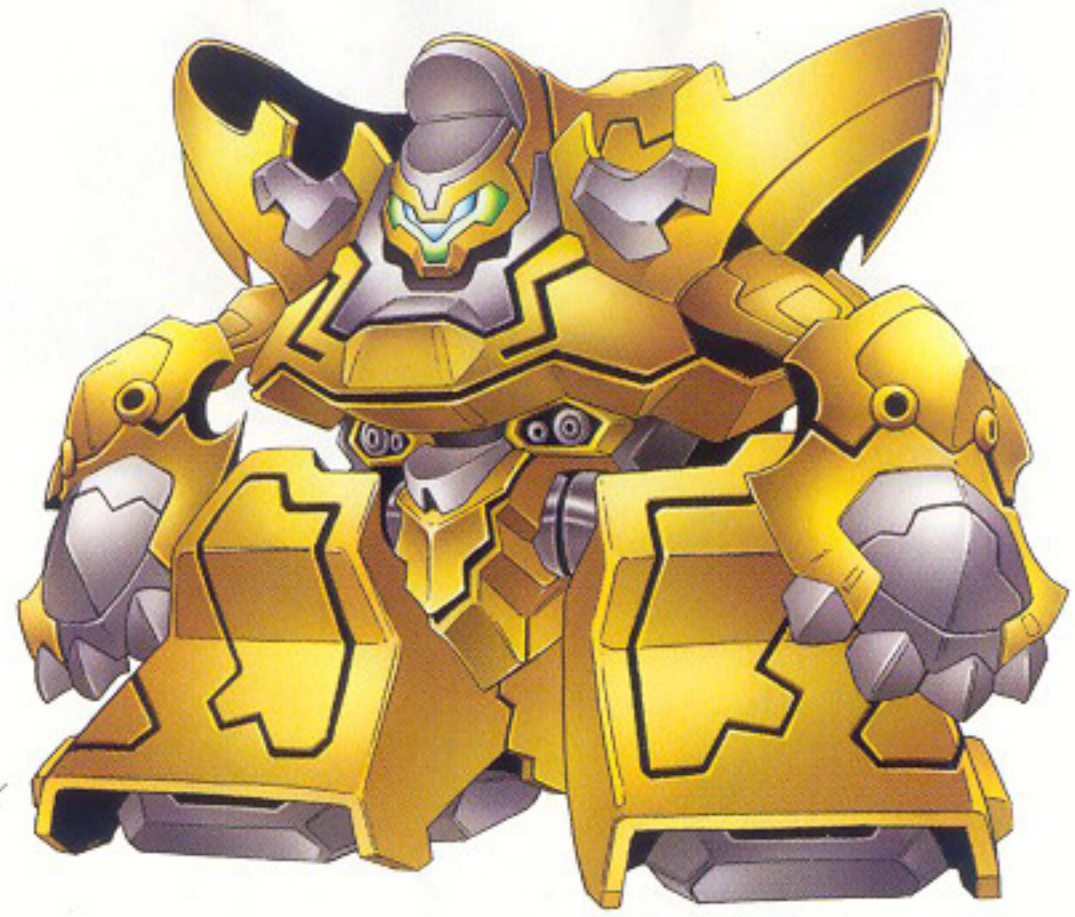


デザイン / 藤井 大誠（レイ・アップ）

HABAKUK

ハバクク　hight : 20.3m / weight : 50.8t

エアロゲイターの重機動兵器。砲撃戦用の機体であり、長射程・高威力の固定武装を持つ。人型機動兵器というよりは、移動砲台としての意味合いが強いため、運動性は低い。通常は後方支援や拠点攻撃・防衛用兵器として運用される。地球側の識別コードは「AGX-08ファットマン」。



デザイン / 杉浦 俊朗

デザイン / 杉浦 俊朗

ZECALIA

ゼカリア　hight : 20.6m / weight : 30.1t

エアロゲイターの人型機動兵器。基本的には宙間戦闘用の機体であるが、地上戦もこなす。防御力が高く、近距離戦闘を得意とする。メギロートでは対処しきれない敵対文明と遭遇した場合、戦線へ投入される。地球側の識別コードは「AGX-07ソルジャー」。

EZEKIEL

エゼキエル　hight : 24.0m / weight : 39.2t

エアロゲイターの人型機動兵器。ゼカリアの上位機種で、高い運動性と汎用性を持ち、指揮管制機としても運用される。専用武器のオルガ・キャノンは強力で、ハバククを上回る砲撃戦闘能力を発揮する。地球側の識別コードは「AGX-12ナイト」。

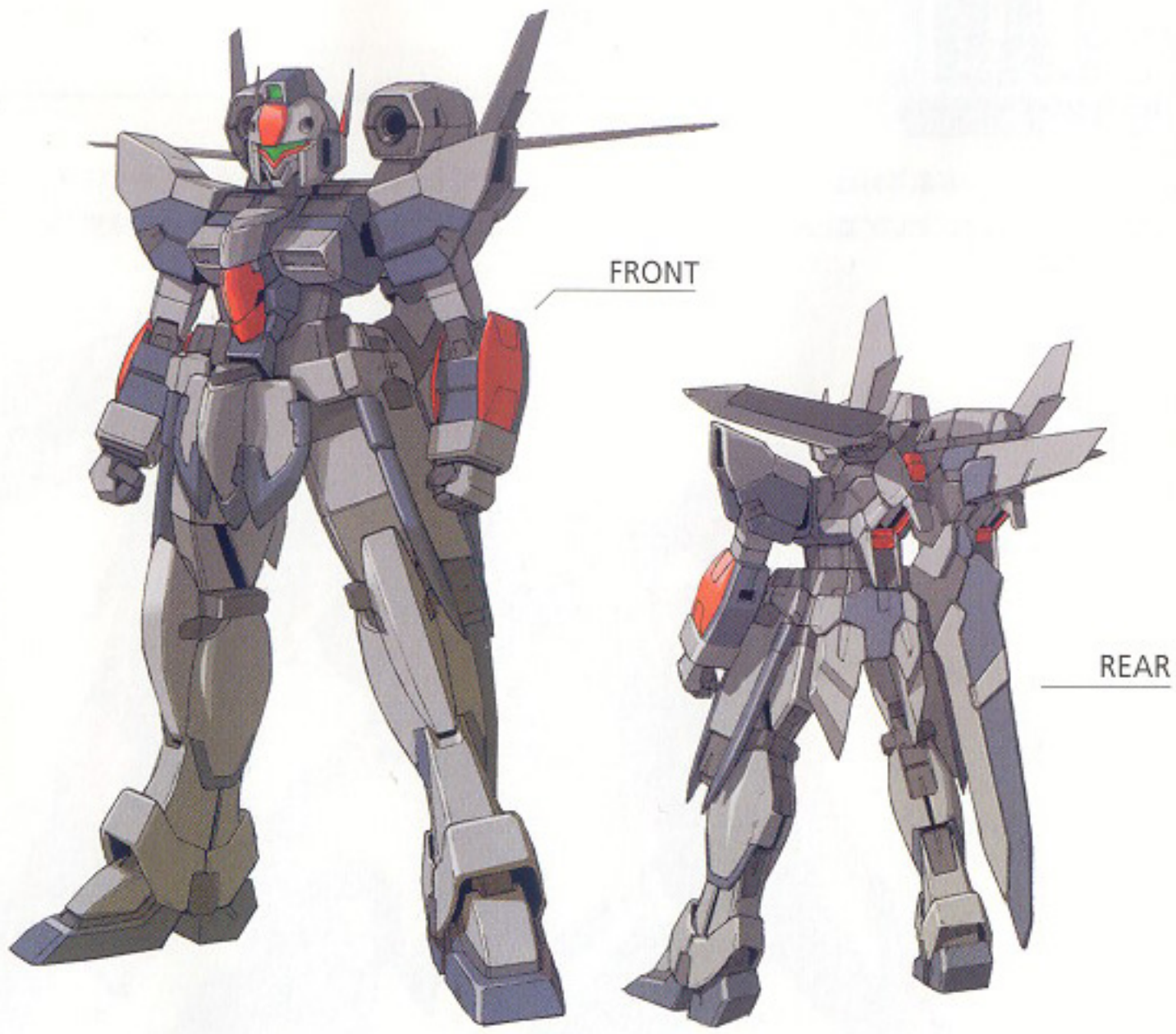
デザイン / 杉浦 俊朗

R-EINS

エルアインス / RPT-014

hight : 19.2m / weight : 50.9t

ノイエDCとシャドウミラーが使用する量産型パーソナルトルーパー。
テスラ・ドライブとツイン・ビームカノンを標準で装備した高性能機。運動性・機動性・汎用性は現行の量産機を凌駕する。マオ・インダストリーがゲシュペンスト開発時に提案した「PT-X構想」の最終段階へ達した機体であり、理想的なマルチロール・パーソナルトルーパーであると言える。だが、その形状やコンセプトはマオ・インダストリー社で開発が始まったばかりの量産型アルブレード（エルシュナイデ）に酷似しており、出自や開発経緯には謎が多い。エルアインスは“この世にはまだ存在し得ない”機体なのである。

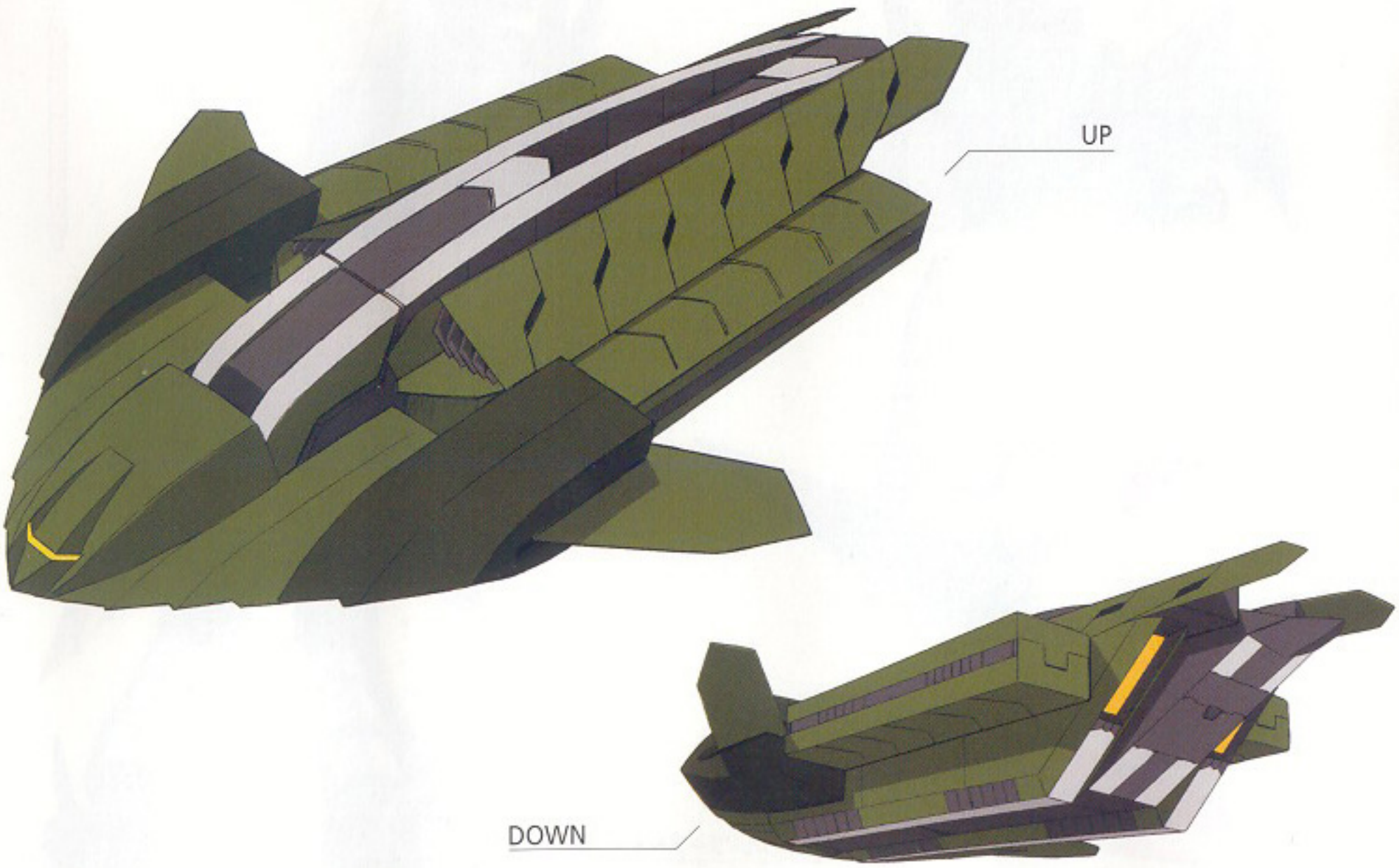


デザイン / 金丸 仁

TRILOBITE

トライロバイト級万能戦闘母艦

シャドウミラーが使用する万能戦闘母艦。テスラ・ドライブを装備し、搭載能力とステルス性に富んだ大型艦。宇宙・空中・水中での運用が可能。ハガネなどスペースノア級万能戦闘母艦に対抗して造られたと言われるが、定かではない。シャドウミラーの旗艦「ギャンランド」の他、「ネバーランド」、「ワンダーランド」などが存在する。

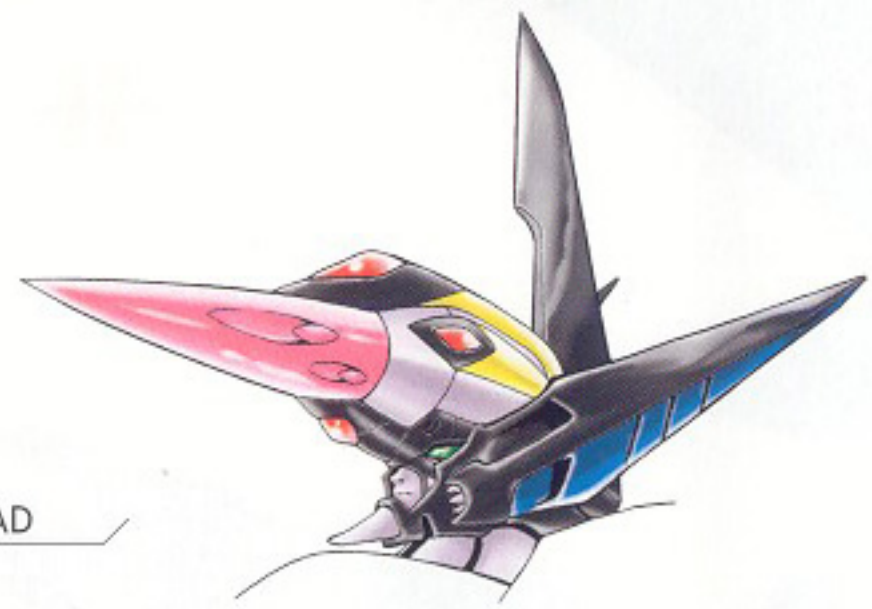


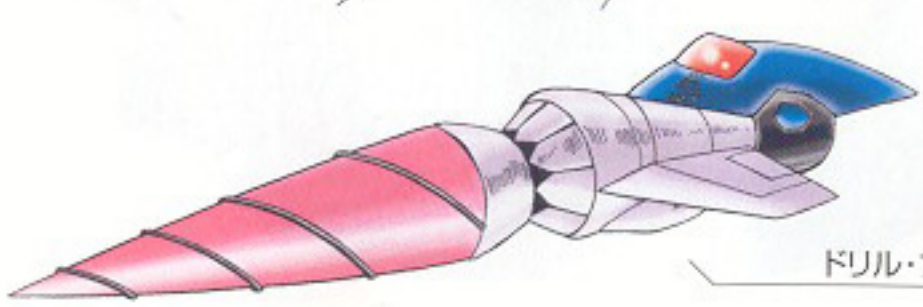
デザイン / 小野 聖二

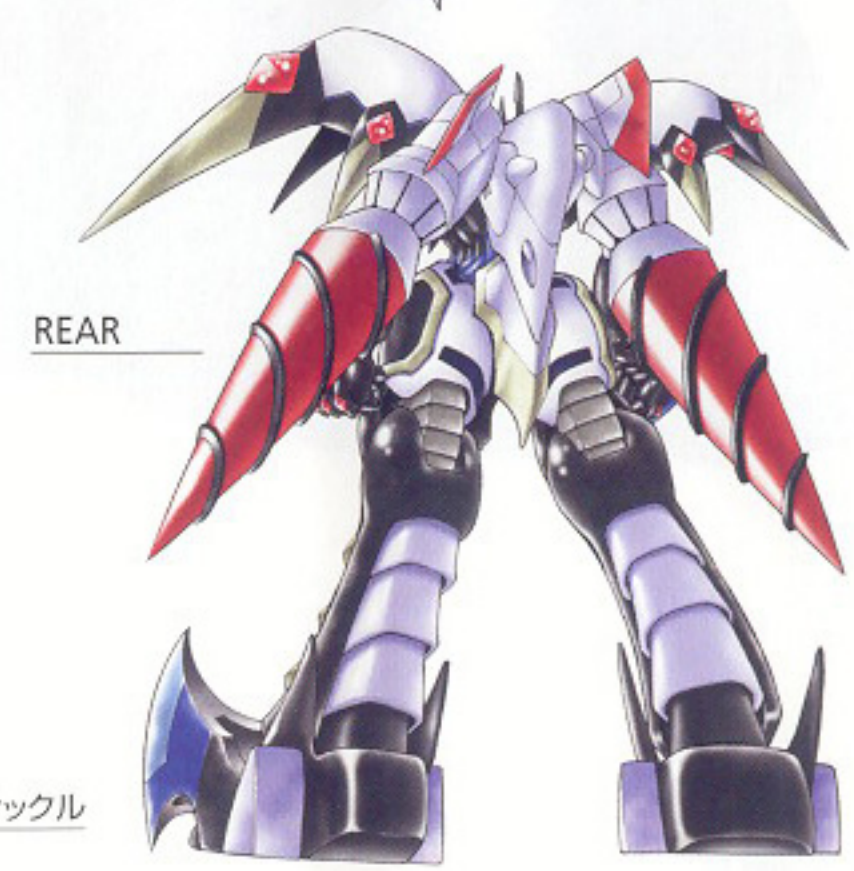
SLADEGELMIR

スレードゲルミル　hight : 53.7m / weight : 402.3t

ウォーダン・ユミルが駆る特機(スーパーロボット)タイプの人型機動兵器。ドリルを装着したブーストナックルや斬艦刀など、グルンガスト参式に似た武装を持ち、格闘戦において高い能力を発揮する。また、装甲などに自己修復機能を持った金属細胞「マシンセル」が使われている。開発経緯や型式番号などは不明。





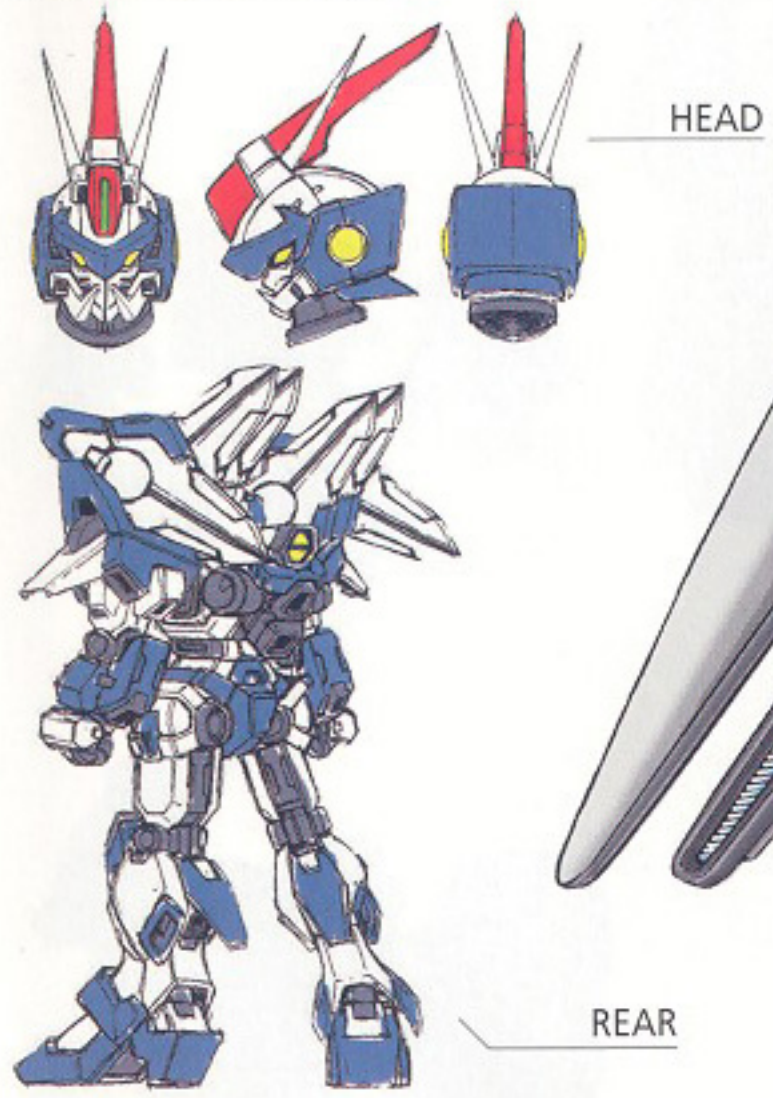


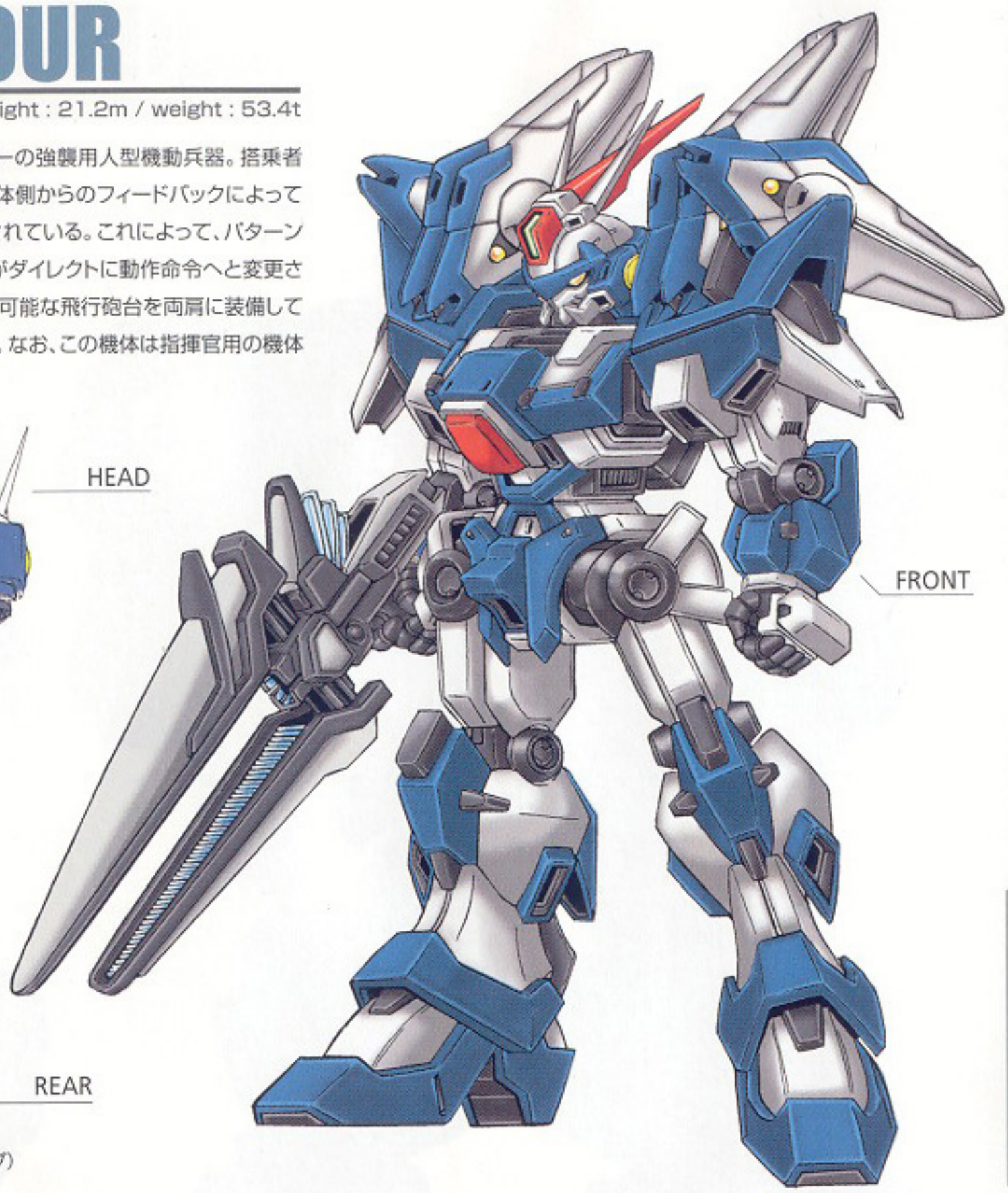
デザイン / 富士原 昌幸

ASHSAVIOUR

アシュセイヴァー / ASK-AD02　hight : 21.2m / weight : 53.4t

アサルトドラグーンと呼ばれるカテゴリーの強襲用人型機動兵器。搭乗者の脳波パターンを解析・記録した後、機体側からのフィードバックによって半強制的に同調させるシステムが搭載されている。これによって、パターン化した操作であれば、パイロットの反射がダイレクトに動作命令へと変更される。ソード・ブレイカーという遠隔操作可能な飛行砲台を両肩に装備しており、中～遠距離間の戦闘を得意とする。なお、この機体は指揮官用の機体であり、同型機が複数存在する。



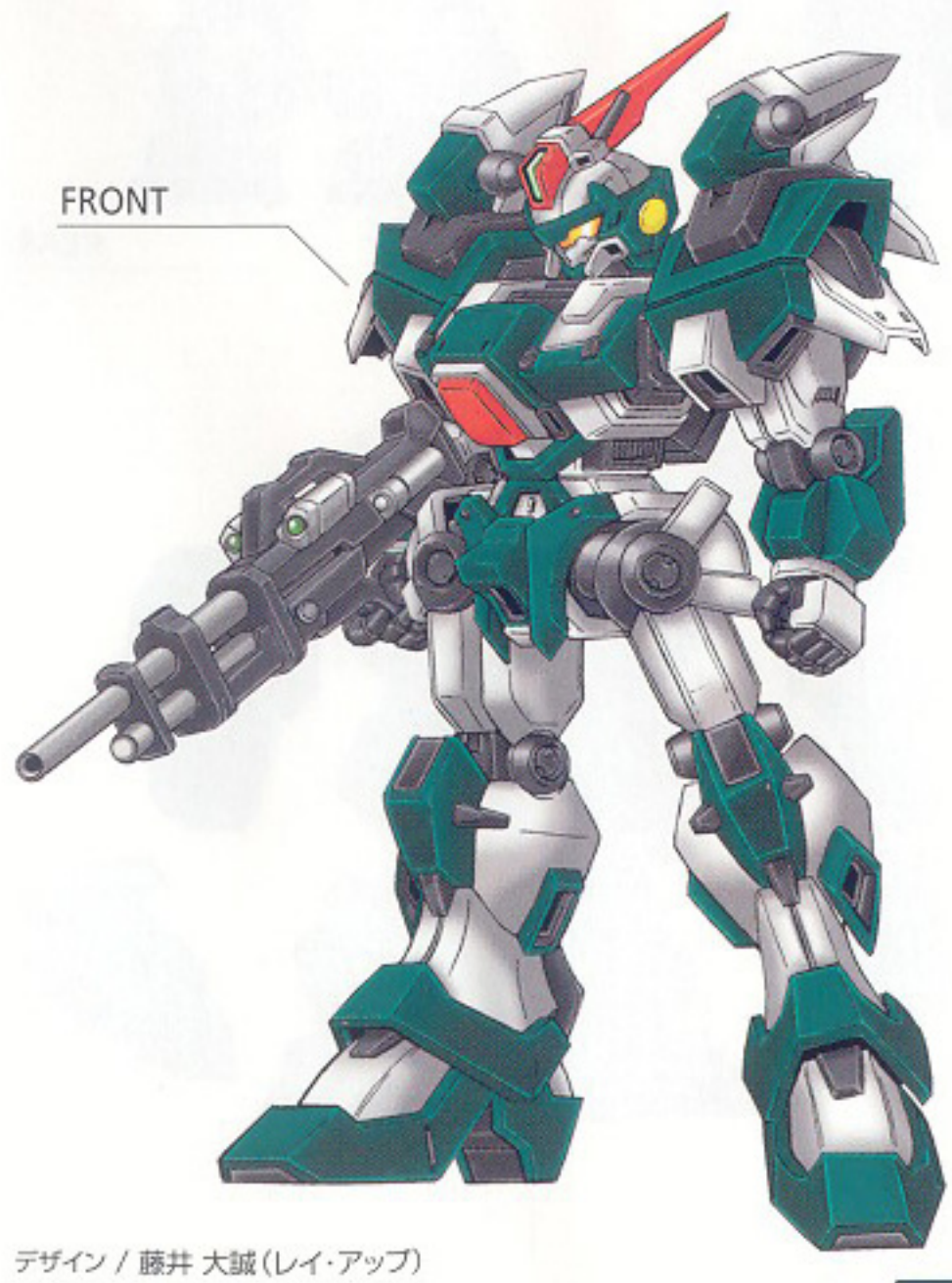


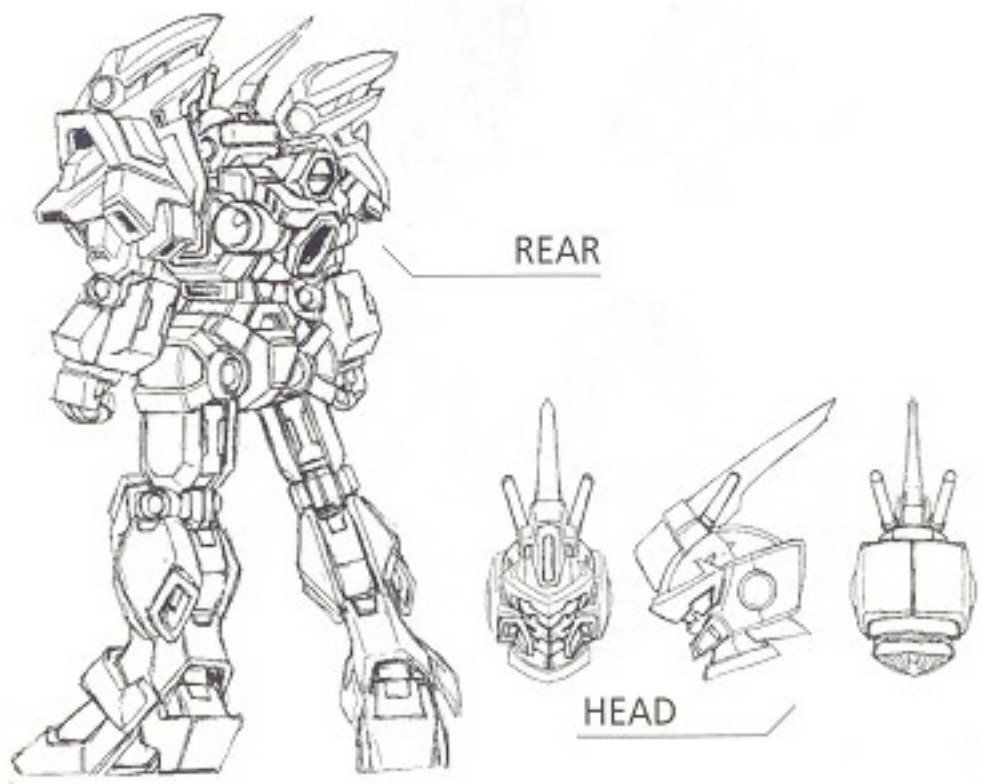
デザイン / 齋藤 和衛・藤井 大誠（レイ・アップ）

ASHSAVIOUR MASS PRODUCT MODEL

量産型アシュセイヴァー / ASK-AD02M　hight : 21.2m / weight : 50.2t

シャドウミラーが使用するアサルトドラグーン。アシュセイヴァーの量産型。指揮官用機と比べて武装の一部が変更され、戦況分析や戦闘パターンを搭乗者の思考にフィードバックするDP（ダイレクト・プロジェクション）システムが搭載されている。





デザイン / 藤井 大誠（レイ・アップ）

RANDGRIZ

ランドグリーズ / RGV-30 hight : 20.3m / weight : 98.8t

シャドウミラーやノイエDCが使用する陸戦・砲撃戦闘用の人型機動兵器。Type30とも呼ばれる。運動性は低いが装甲が厚く、機体の安定性・信頼性は高い。ホバー走行も可能で、踏破性にも優れている。

FRONT

HEAD

REAR

各部パーツ

リニアカノン

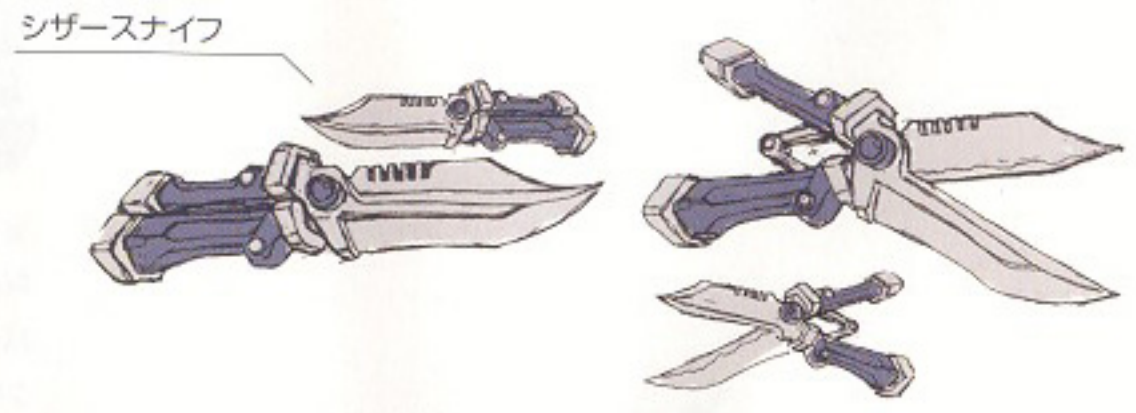
ブースターパック

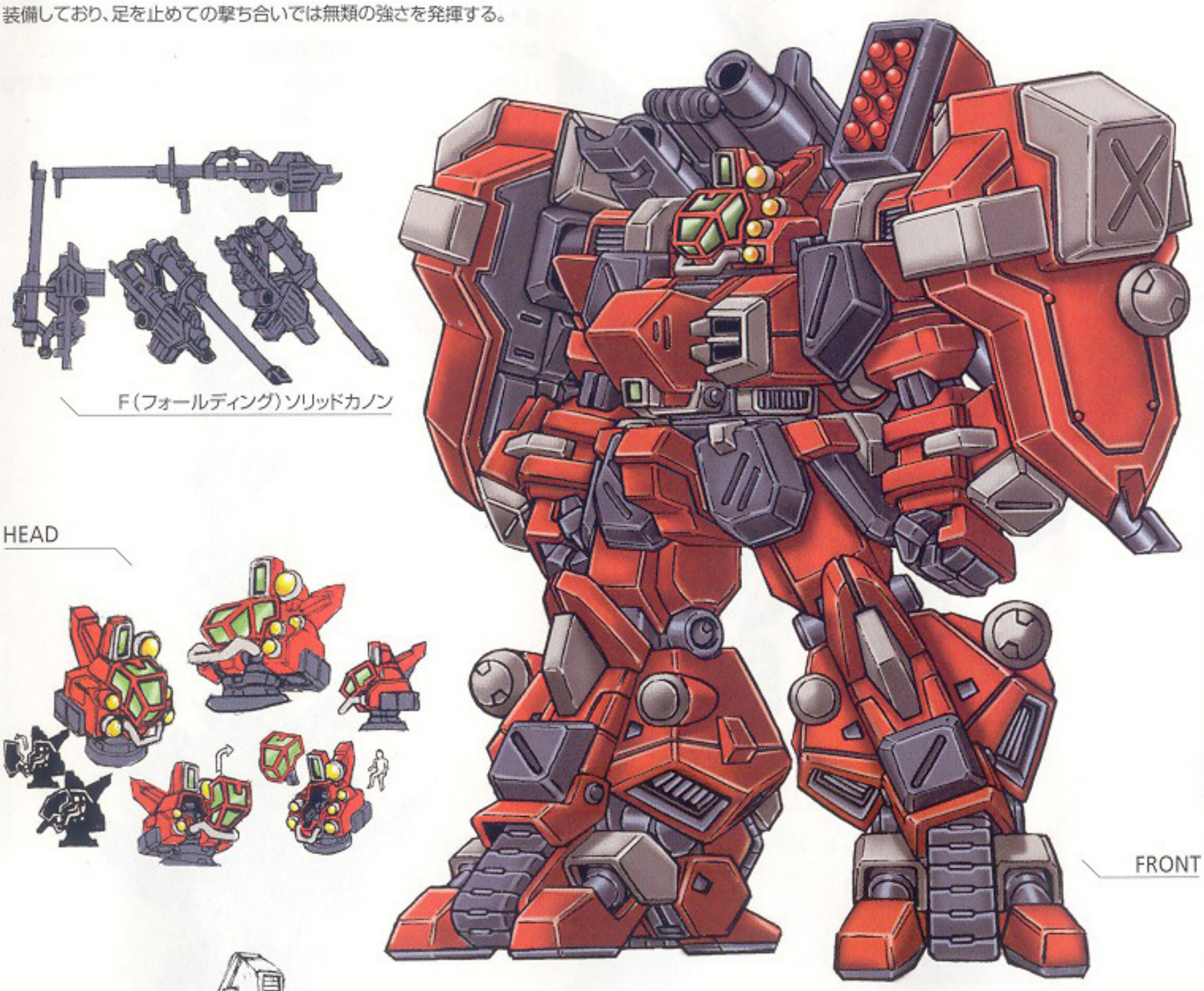
デザイン / 藤井 大誠(レイ・アップ)

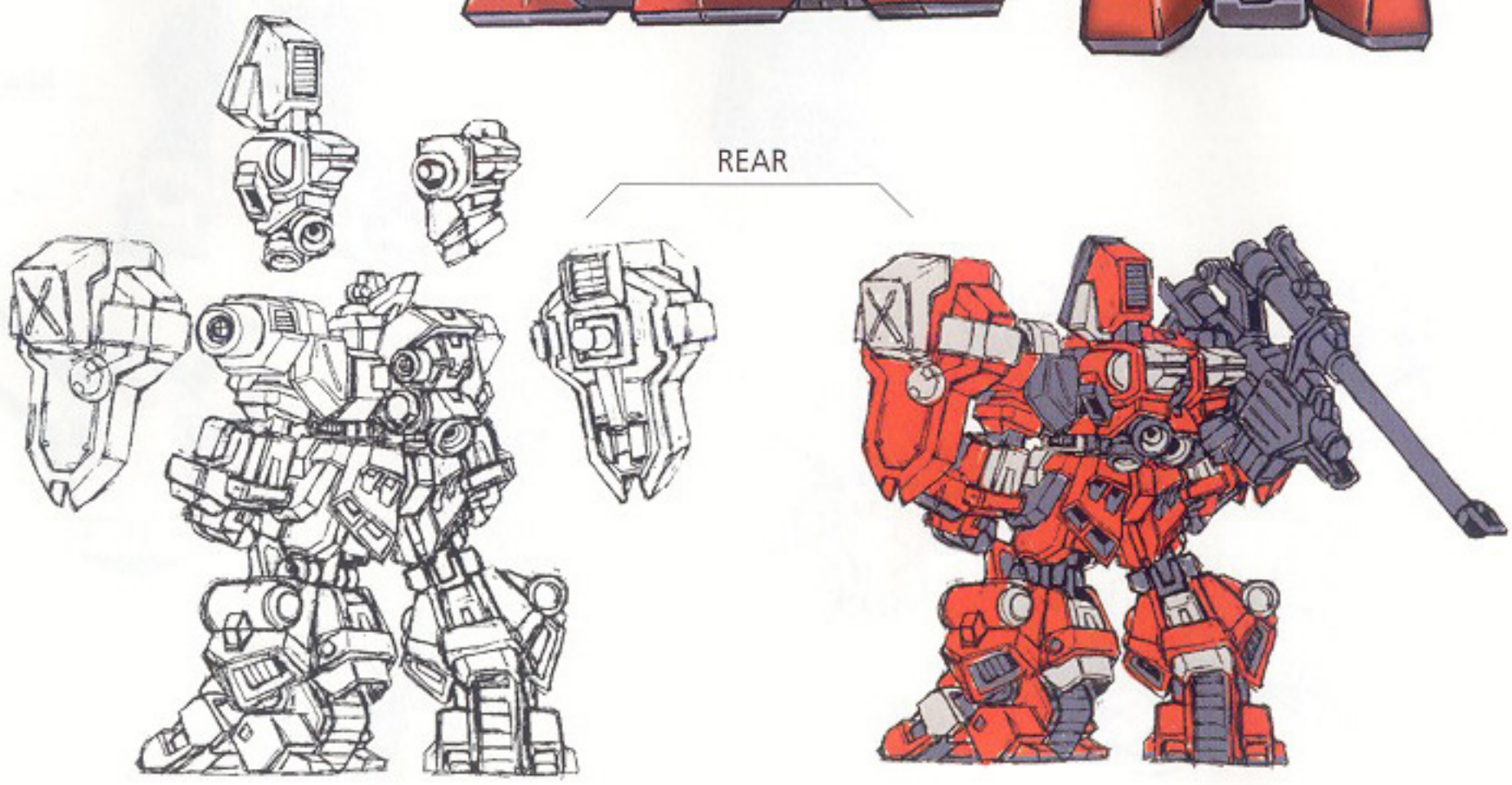
RAZANGRIFF

ラーズアングリフ / RGC-034 hight : 20.6m / weight : 105.2t

陸戦・砲撃戦闘用の人型機動兵器。Type34とも呼ばれる。量産型であるRGV−Type30「ランドグリーズ」に同機の後継機の駆動系やジェネレーターを移植し、砲撃戦能力と装甲を強化したカスタム機。厚い装甲とシールド、ジャマーやビームコートを装備しており、足を止めての撃ち合いでは無類の強さを発揮する。







デザイン / 齋藤 和衛・藤井 大誠(レイ・アップ)

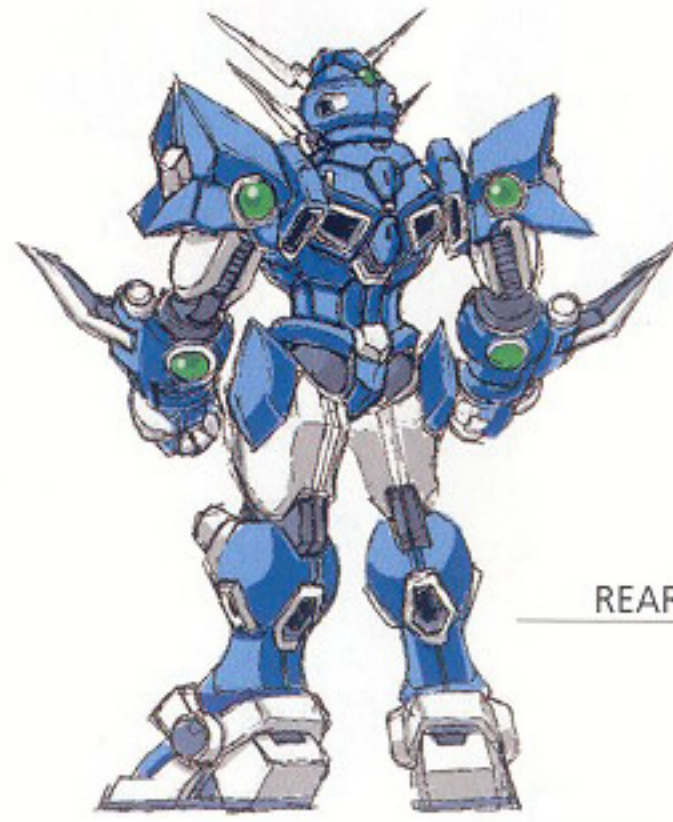
SOULGAIN

ソウルゲイン / EG-X　hight : 41.2m / weight : 129.6t

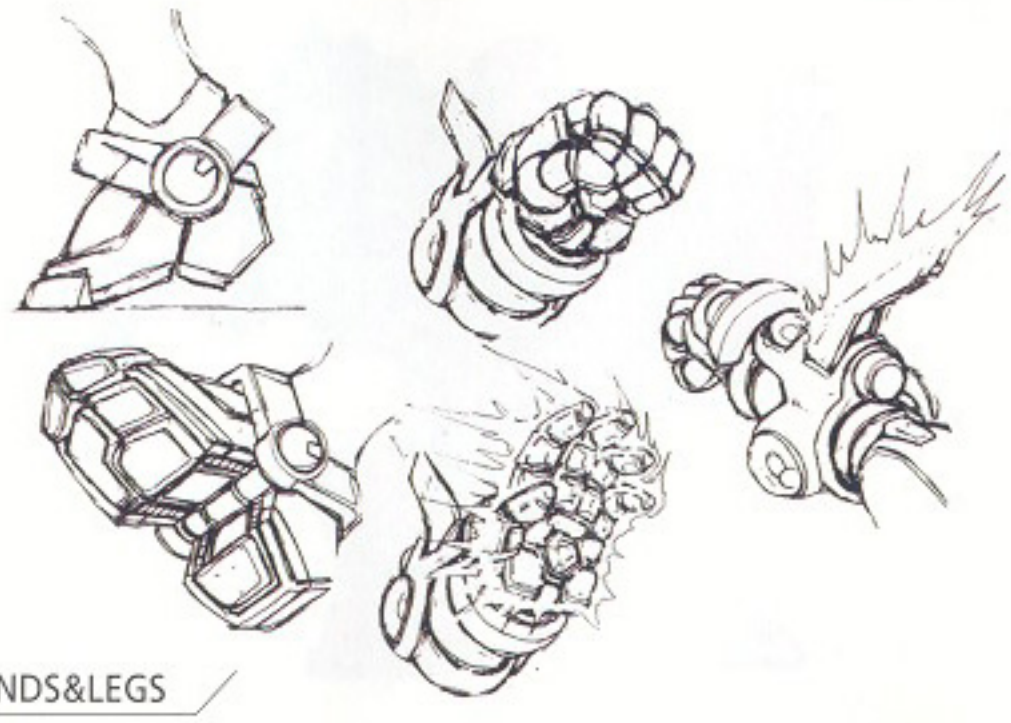
全ての攻撃を"拳"と"肘"のみで行う特殊な戦闘スタイルの人型機動兵器。パイロットの思考を直接機体に伝える「ダイレクト・フィードバック・システム」と、パイロットの動きを機体に連動させる「ダイレクト・アクション・リンク・システム」の併用によって高い追従性と運動性を発揮する。機体各部への動力伝達に人工筋肉を使っているため、動きそのものも柔軟。そのため、格闘戦では無類の強さを誇る。
パイロットはアクセル・アルマー。頭部の形状から、連邦軍側では「マスタッシュマン(ヒゲ男)」と呼ばれる。

FRONT

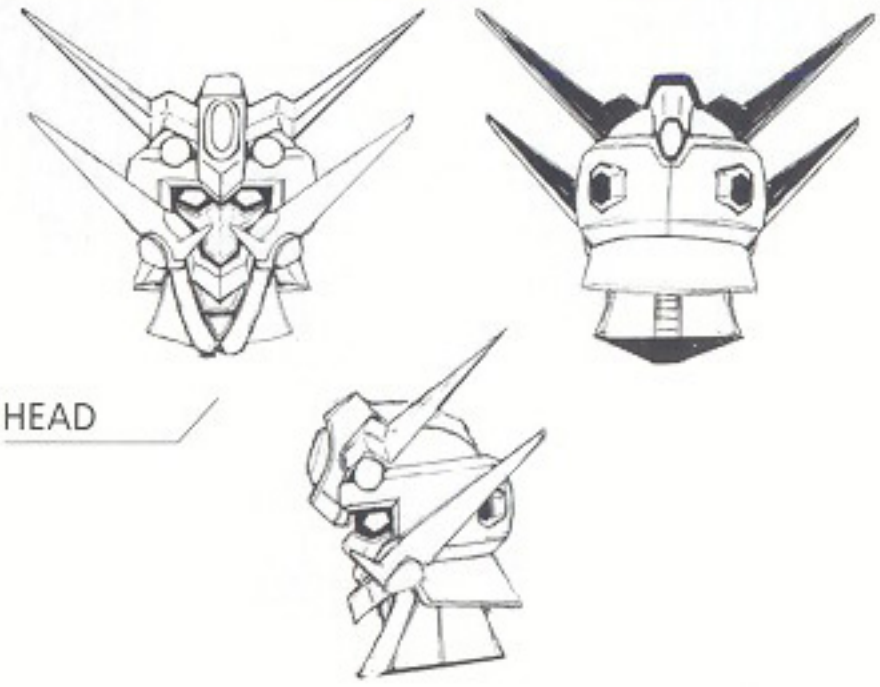
SIDE



REAR



HANDS&LEGS



HEAD

デザイン / 齋藤 和衛・藤井 大誠(レイ・アップ)

RAPIe'c'AGé

ラピエサージュ / ASK-G03C　hight : 24.5m / weight : 106.4t

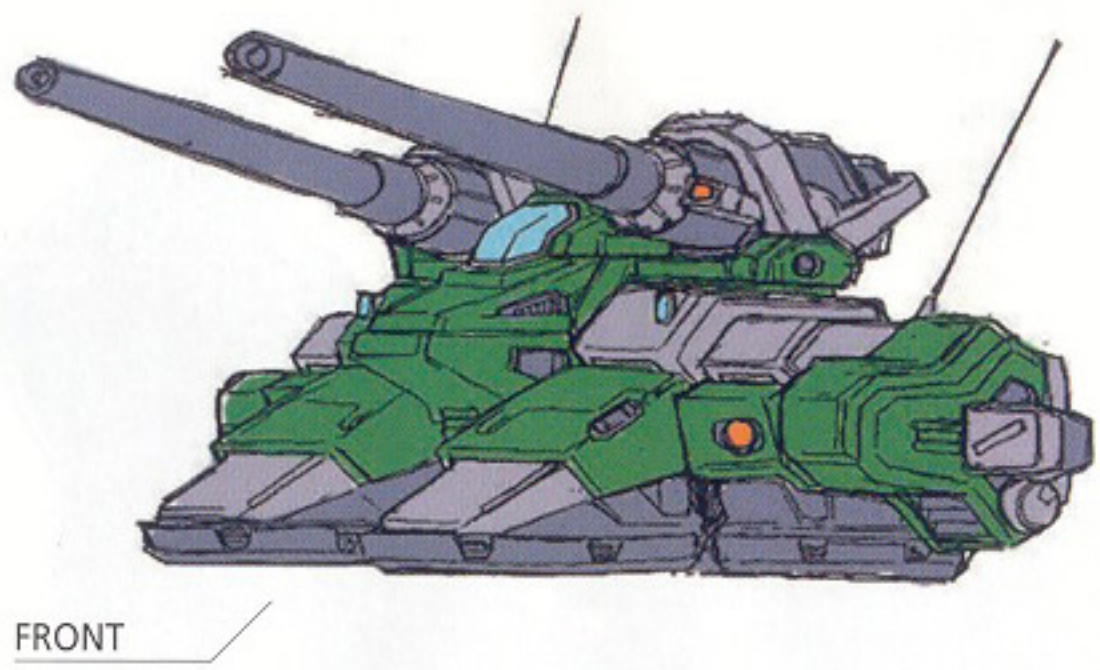
オウカ・ナギサが搭乗する人型機動兵器。
アシュセイヴァーのカスタム機であり、アルトアイゼンやヴァイスリッター、ビルトビルガー、ビルトファルケンのデータを参考にして作られたパーツや武器を持つ。また、脚部などにはランドグリーズのパーツも流用されている。そのため、「ラピエサージュ（フランス語で"継ぎ接ぎ"という意味）」と名付けられた。
格闘戦ではマグナム・ビーク、射撃戦ではO.O.ランチャー（オーバー・オクスタン・ランチャー）を使用し、バランスに優れた戦闘能力を発揮する。また、ゲイム・システムというマン・マシン・インターフェイスが搭載されている。

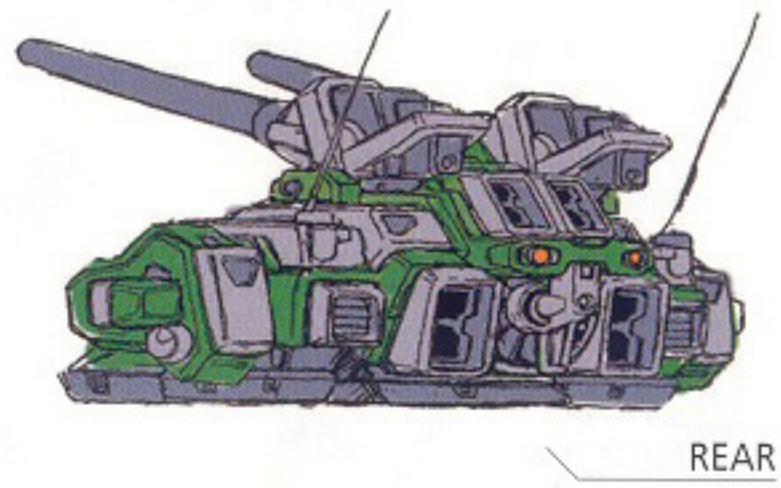
デザイン / 藤井 大誠（レイ・アップ）

FULGIA

フュルギア / MHT-27 hight : 15.3m / weight : 40.2t

シャドウミラーが使用する主力戦車。
大口径のリニアカノン、ミサイルポッドを装備し、ホバー走行による高速移動、高速旋回が可能。キャノピーのように見える所は操縦席ではなく、光学装置や赤外線暗視システム、レーザー測距機などの複合センサーモジュールである。



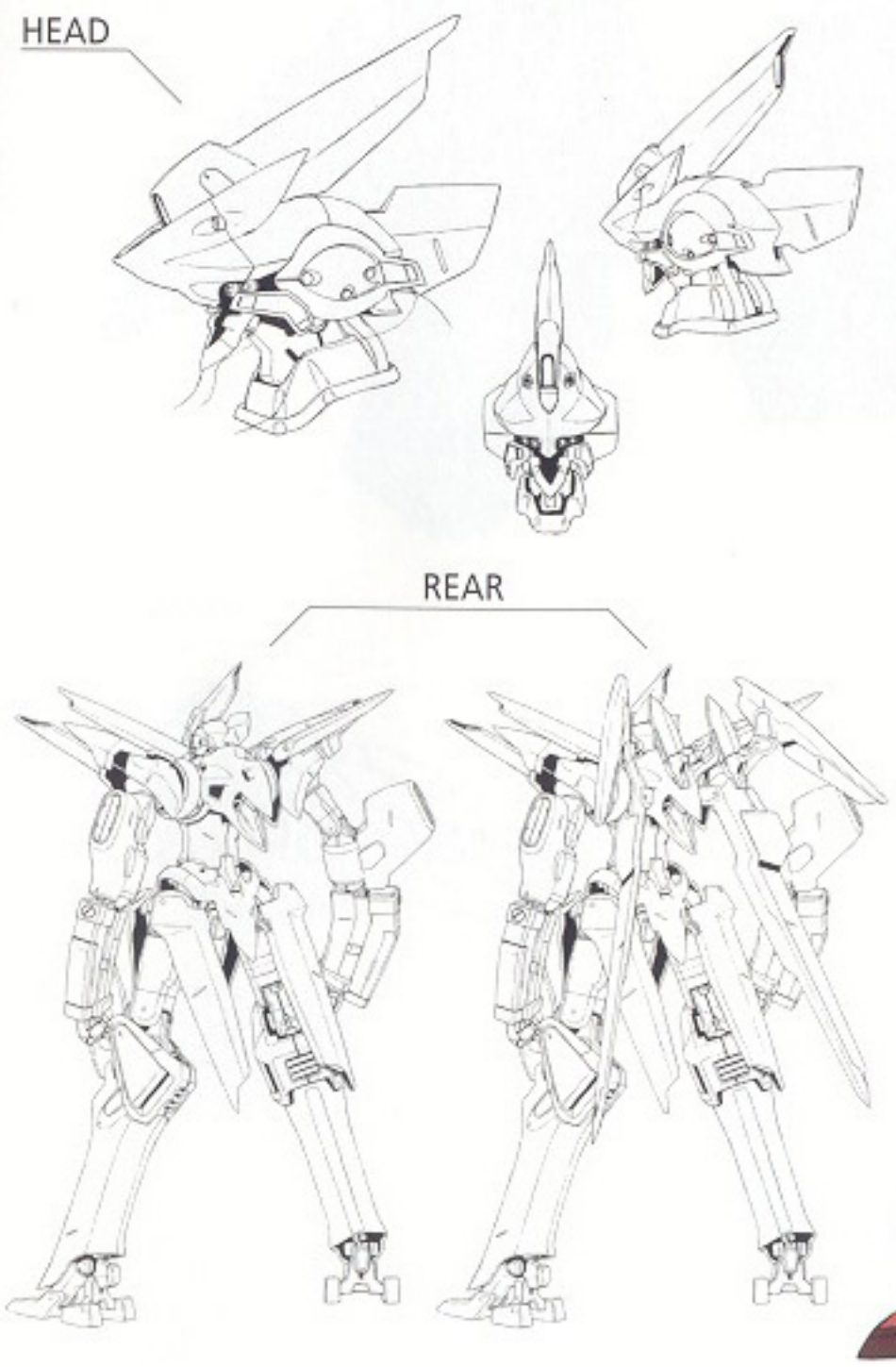


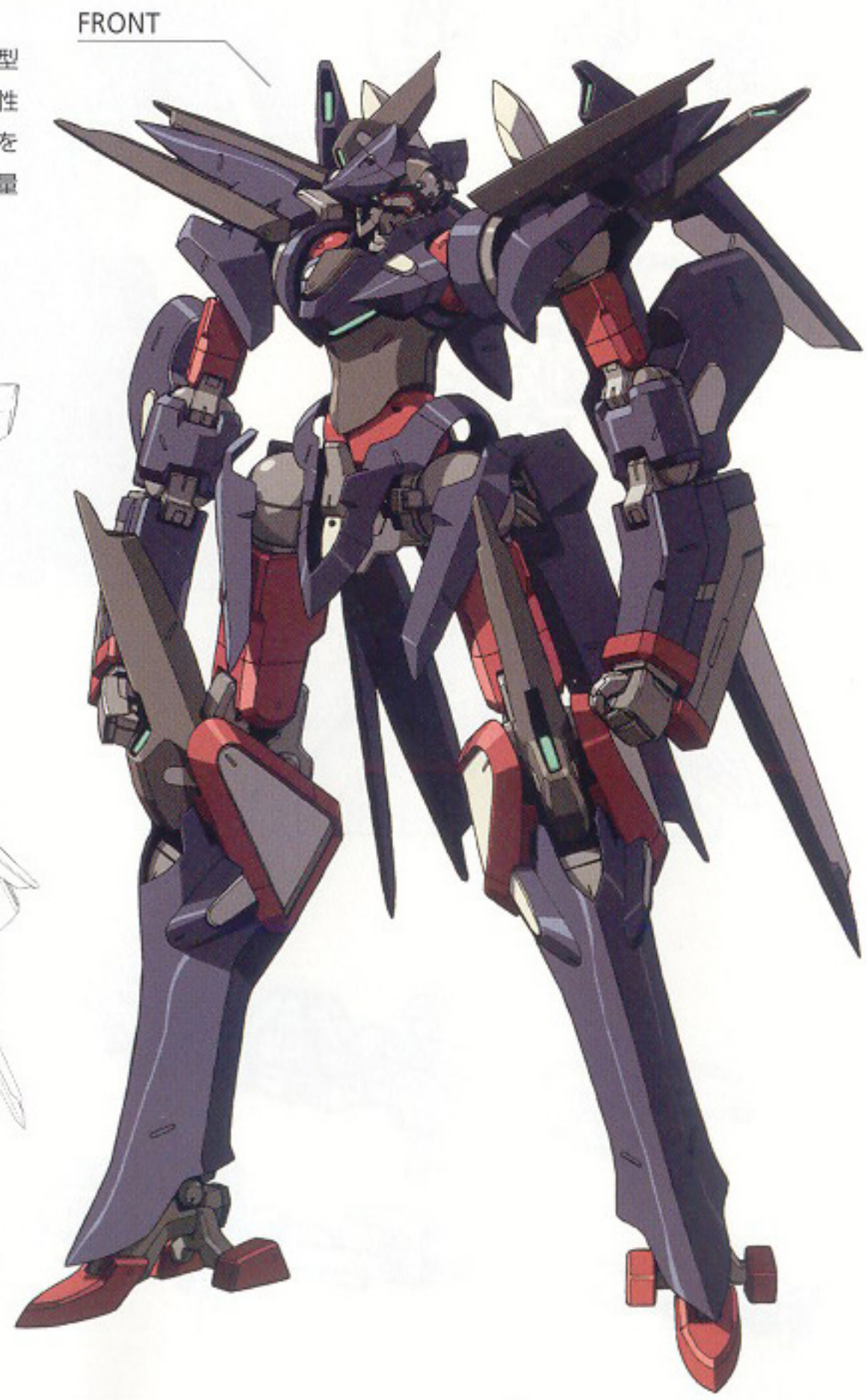
デザイン / 藤井 大誠（レイ・アップ）

MIRONGA

ミロンガ / VTX-000 hight : 21.4m / weight : 41.6t

ウォン重工業が開発したゲシュタルトと呼ばれるカテゴリーの人型機動兵器。高性能のテスラ・ドライブを搭載し、優れた運動性・機動性を誇る。また、射撃と接近戦能力のバランスが良く、AMNシステムを用いた連携戦を得意とする。ただし、運動性を重視して機体の軽量化を図ったため、装甲がぜい弱なものになってしまっている。





デザイン / 間垣 亮太

CHARACTERS
キャラクター編
SUPER ROBOT WARS OG ORIGINAL GENERATIONS
SRW-OG
Characters

リュウセイ・ダテ（伊達 隆聖）

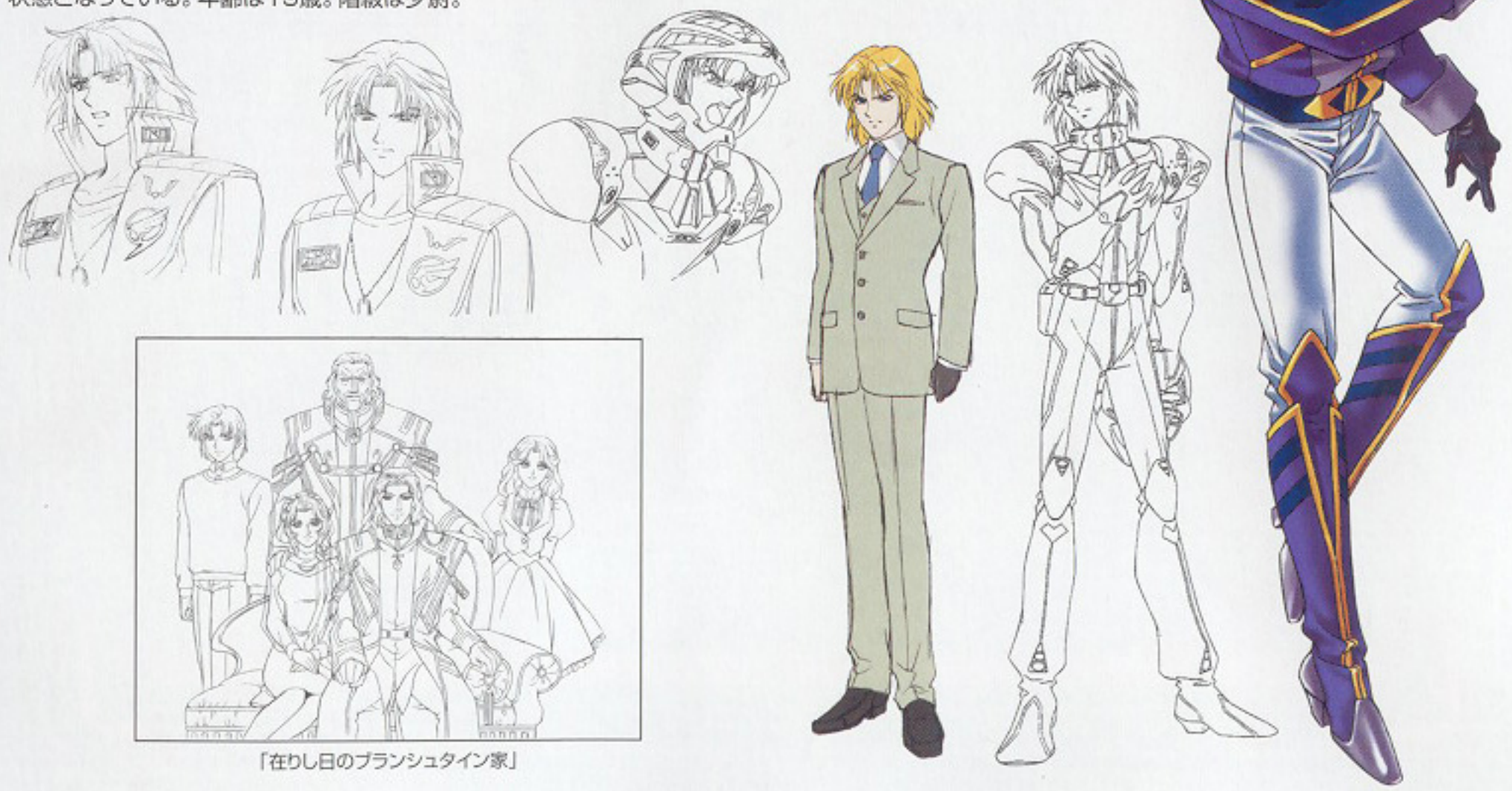
RYUSEI

SRXチーム所属のテストパイロット。
SRX計画の中心的人物、イングラム・プリスケン少佐にその素質を見込まれ、R-1のテストパイロットとしてスカウトされる。熱血直情型で猪突猛進傾向がある。数々の経験を経て、己の戦う意義を見出し、戦士として成長していく。大のロボットアニメファンであり、スーパーロボットをこよなく愛している。年齢は18歳、階級は曹長（後、少尉）。

ライディース・F・ブランシュタイン

RAI

SRXチーム所属のテストパイロット。
軍人の名門家系であるブランシュタイン家の出身。沈着冷静でパイロットとしても非常に優秀だが、リュウセイとは正反対な性格のため、度々衝突する。また、RTX-008Rの暴走事故で左手を失った過去を持つ。コロニー統合軍総司令マイヤーは実の父、同軍トップエースのエルザムは実の兄だが、現在は故あって断絶状態となっている。年齢は19歳。階級は少尉。



「在りし日のブランシュタイン家」

アヤ・コバヤシ（古林 彩）

AYA

SRXチーム所属のテストパイロット。

特殊な思念の力「念動力」を持ち、軍に入る前は日本特殊脳医学研究所で被験体として父親の研究に協力していた。その後、SRX計画の発足と同時に軍属となり、T-LINKシステム（念動力感知増幅装置）の開発に携わる。責任感が強い性格で面倒見が良い。表向きは勝ち気なように見えるが、本当は戦いを好まない心優しい女性。年齢は21歳、階級は大尉。

マイ・コバヤシ（古林 舞）

MAI

SRXチームの新メンバー。

アヤ・コバヤシの妹だが、記録上では事故で死亡したことになっていた。物静かで大人しい性格だが、本人には過去の記憶がない。L5戦役後に発見され、父であるケンゾウ・コバヤシ博士の下で療養した後、見習いとしてSRXチームに配属される。L5戦役中にリュウセイ達が接触したある人物に酷似しているが、はたしてその真相は……？

イングラム・プリスケン

INGRAM

SRXチームの指揮官であり、SRX計画の中心的人物。
EOT解析の第一人者で、パイロットとしても優秀な男。常にクールだが、どこか得体の知れない所がある。かつて、パーソナルトルーパーの特殊部隊である「PTXチーム」の隊長を務めていた。だが、軍に入る前の正確な経歴は不明。年齢は不詳、階級は少佐。

ヴィレッタ・バディム

VILETTA

理知的で冷静な大人の女性。口数が少なく、他人に冷徹な印象を与えるが、それは必要以上の感情を表に出していないだけである。潜入工作のエキスパートでもあり、パーソナルトルーパーのテストパイロットもこなす。マオ・インダストリーではR-GUNとRTX-010の開発に携わっていた。年齢は不詳。L5戦役後、SRXチームの隊長となる。

キョウスケ・ナンブ（南部 響介）

KYOSUKE

ATXチーム所属のテストパイロット。

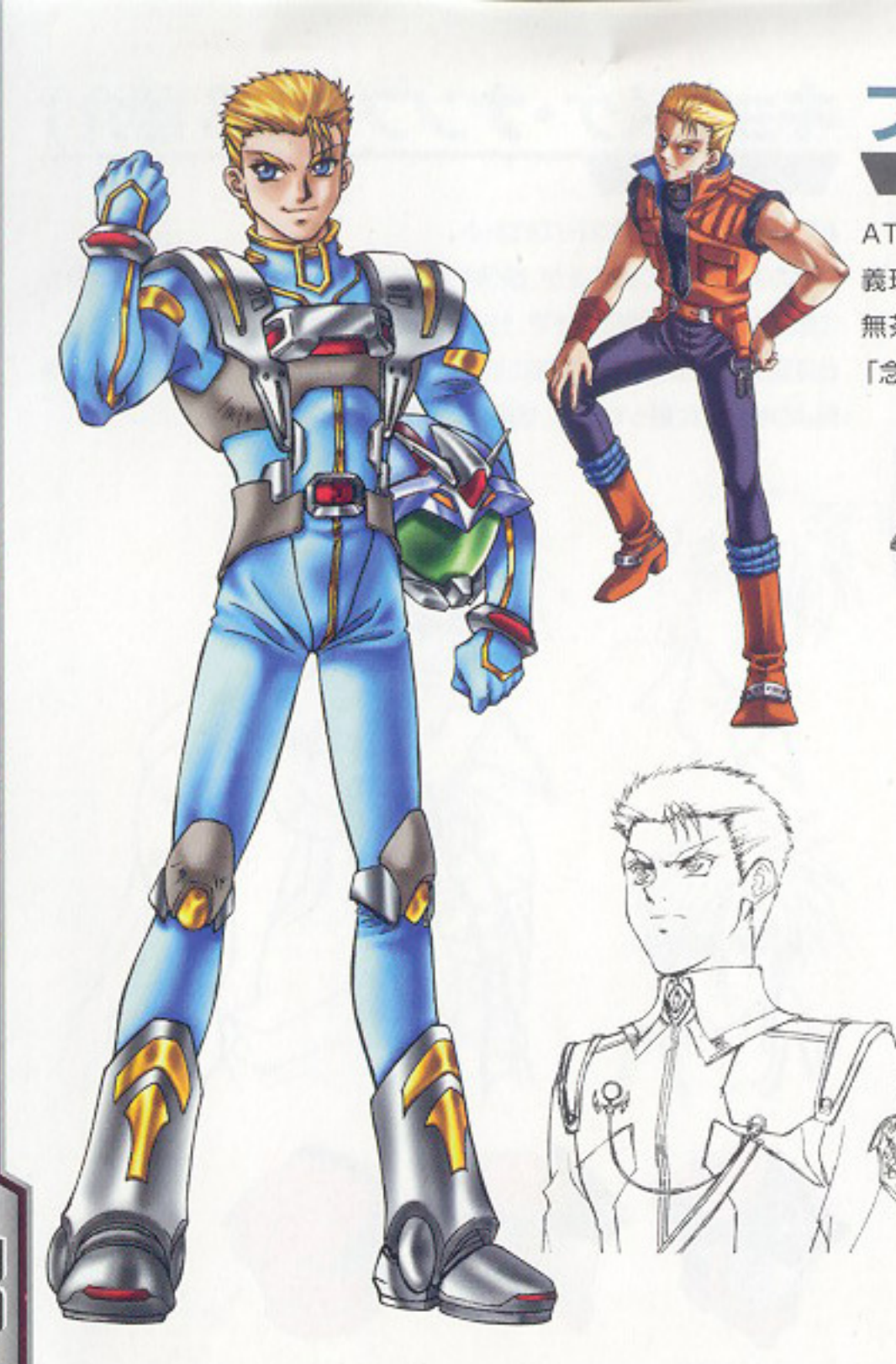
寡黙なため冷静に見えるが、感情を表に出していないだけで、実際は静かに燃える熱血漢。博打好きで、分の悪い賭けほど燃えるタイプ。エクセレンとは恋人同士で、あまり表面には出さないものの、内心では彼女のことを何よりも大切に思っている。年齢は22歳、階級は少尉。

エクセレン・ブロウニング

EXCELLEN

ATXチーム所属のテストパイロット。

本質は冷静かつ知的なのだが、自己アピールが激しく、ノリで喋るため周りからはそのように見られていない。キョウスケにいつも素っ気なく扱われているのを不満に思っているが、誰よりも彼のことを愛している。パイロットとしての腕も優秀で、特に高機動戦や射撃戦を得意とする。年齢は23歳、階級は少尉。



ブルックリン・ラックフィールド

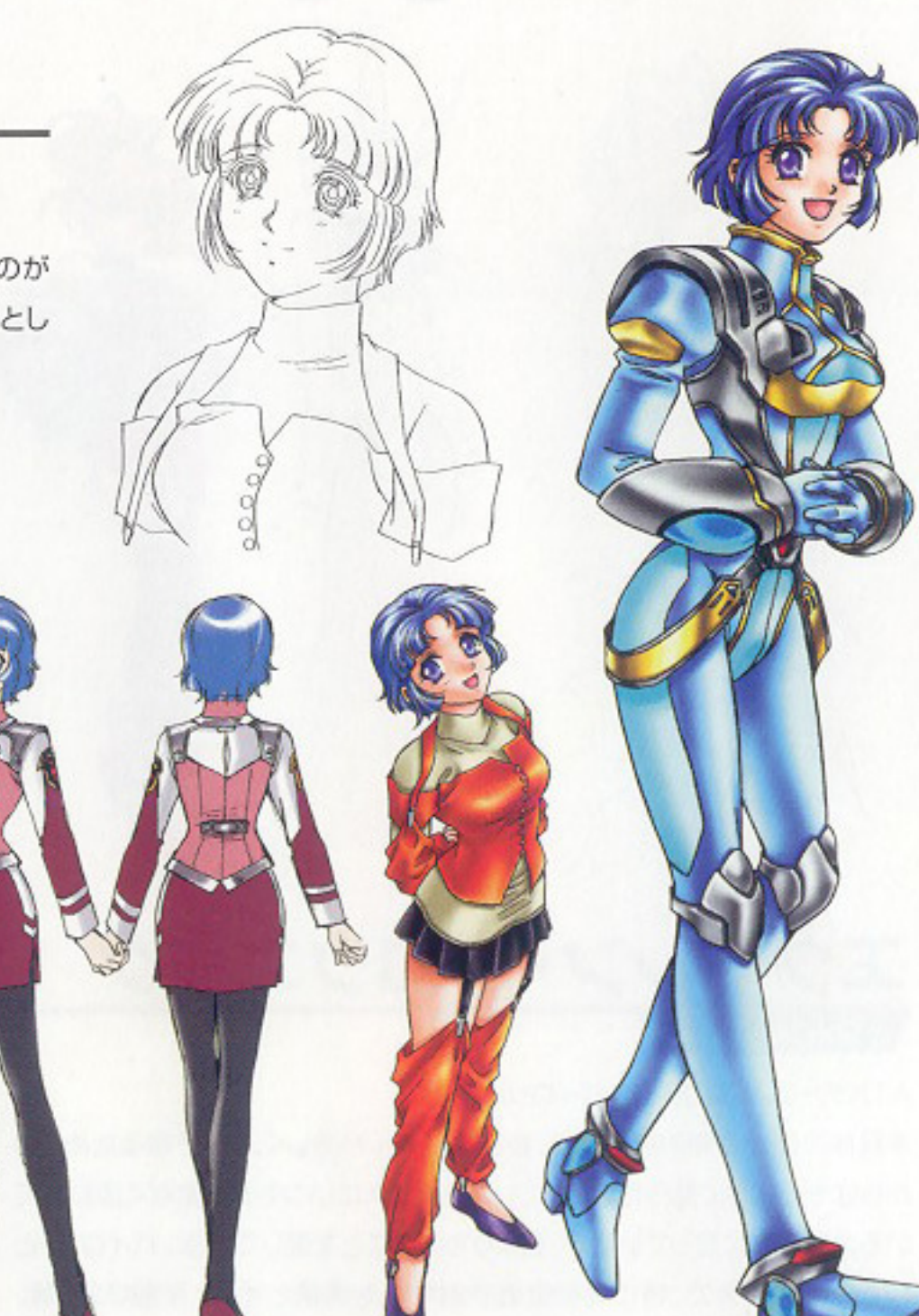
BULLET

ATXチーム所属のテストパイロット。通称はブリット。
義理人情に厚い真面目な青年。正義感が強く、曲がったことは嫌い。いつも無茶をしがちなキョウスケやエクセレンに振り回され気味。特殊な思念の力「念動力」の素質を持ち、T-LINKシステムを搭載した機体に搭乗する。

クスハ・ミズハ（水羽 楠葉）

KUSUHA

リュウセイの高校の同級生。
心優しくおとなしい性格だが、いざというときの行動力には目を見張るものがある。健康グッズのマニアで、お風呂好き。将来の夢は看護士。後に看護兵としてハガネに乗り込み、さらにグルンガスト弐式のパイロットとなる。



マサキ・アンドー(安藤 正樹)

MASAKI

風の魔装機神、サイバスターの操者。
直情径行型で正義感が強く、スポーツ万能。だが、極度の方向音痴。年齢は17歳。日本人であるが、地底世界ラ・ギアスの神聖ラングラン王国へ召還され、王国内で予言された魔神による災厄を阻止すべく魔装機神サイバスターの操者となる。しかし、ラ・ギアスと関わり合いを持つシュウ・シラカワの策略によってラングラン王都は壊滅し、マサキは恩人を失ってしまう。シュウ、そしてグランゾンが地上世界にも災厄をもたらすと考えた彼は、サイバスターと共にシュウを追うことを決意。その後、偶然南極でシュウと遭遇する。

シロ・クロ

SHIRO / KURO

マサキのファミリア。
彼の無意識の一部を切り取った使い魔で、性格が似ていないのはペルソナの一つだからである。マサキと共にサイバスターに搭乗し、彼のサポートを行う。二匹とも割とのんびりとした性格をしているが、どちらかと言えばシロは勝ち気な性格で一言多い。クロは心配性でマサキをたしなめることが多い。ちなみにクロはメス、シロはオスである。

リューネ・ゾルダーク

RYUNE

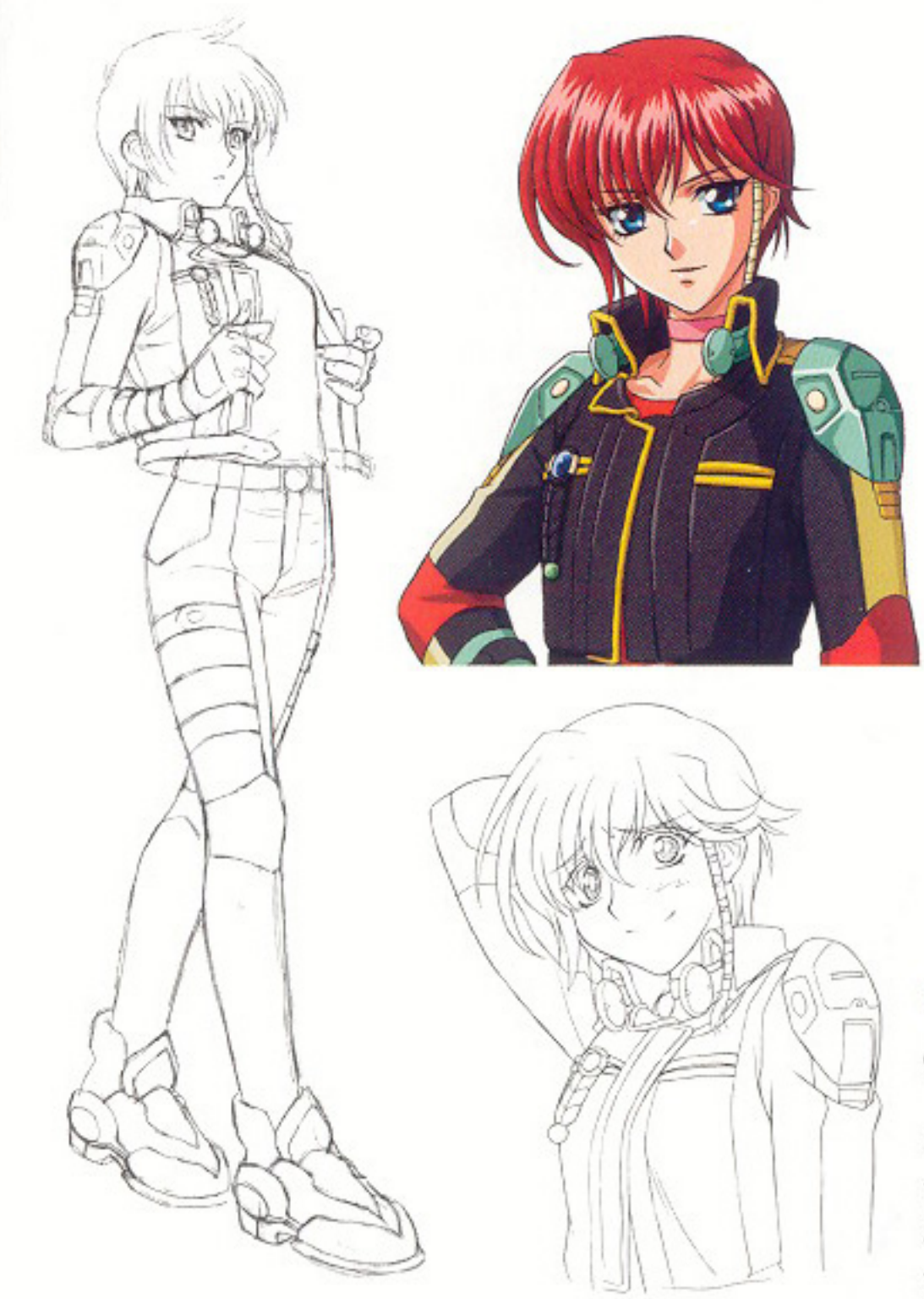
DC総帥ビアン・ゾルダークの一人娘。
超人的な運動神経、反射神経、動態視力の持ち主。美人ではあるが、お転婆のジャジャ馬娘。おだてやお世辞に弱い。本来ならヴァルシオンの正規パイロットになるはずであったが、生来のワガママぶりを発揮し、自分専用の別のロボット「ヴァルシオーネ」を作ってもらう。日本製の時代劇マニアで、少しマイナー系がお気に入り。趣味は貯金。年齢は16歳。

ラウル・グレーデン

RAUL

エクサランスのテストパイロット。基本的には責任感が強く、細かいことは気にしない熱血漢。

父親は時流エンジンの研究者であるフェル。数年前から双子の妹であるフィオナと共にエクサランスのテストパイロットになるための訓練を受けていた。しかし、時流エンジンの開発を維持するために、資金援助を軍から受けねばならず、時流エンジンを搭載したエクサランスを作り上げ、有効性をアピールしようとする。年齢は18歳。



フィオナ・グレーデン

FIONA

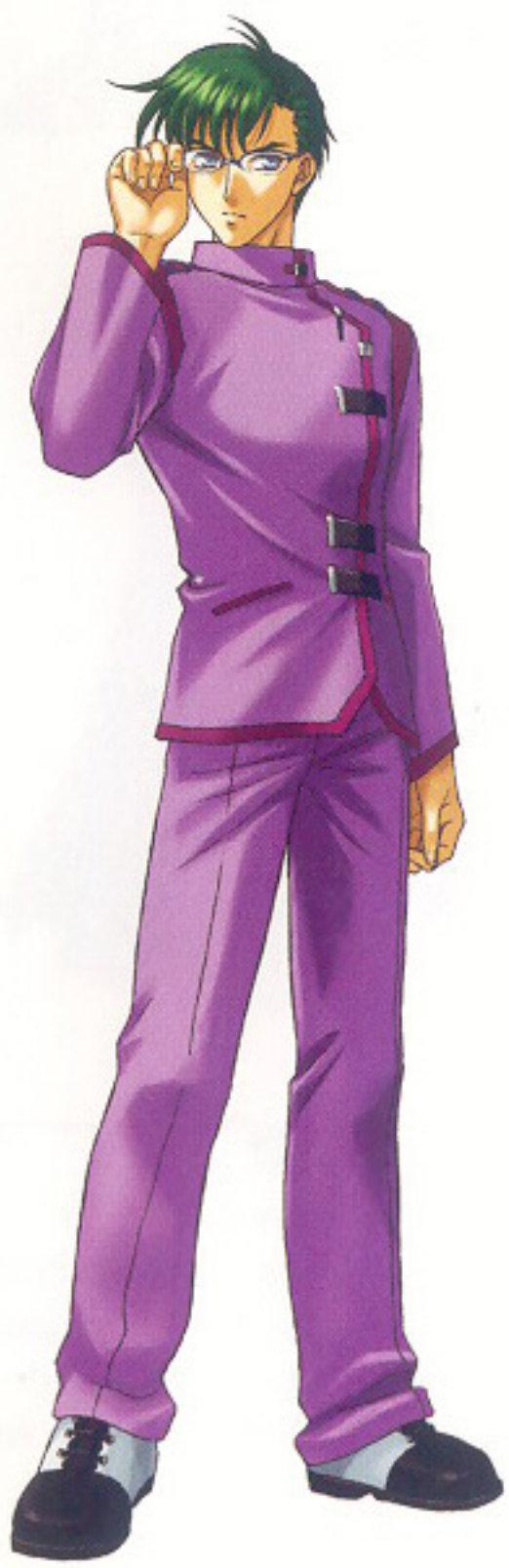
エクサランスのテストパイロット。

ラウルの双子の妹。意志が強く、明るい女性。ラウルよりしっかりしており、他人には彼女の方が姉だと思われがち。チャレンジ精神が旺盛で、言い出したら聞かない一面もある。年齢は18歳。

ミズホ・サイキ

MIZUHO

エクサランスの開発者の一人。設備や新型フレームの開発を一手に引き受けるメカニック。
健気でがんばり家だが、自分には整備やメカの開発しか出来ないという劣等感を持つ。
本来は救助活動用として作ったエクサランスが軍事に使われる事実に心を痛めている。



ラージ・モントーヤ

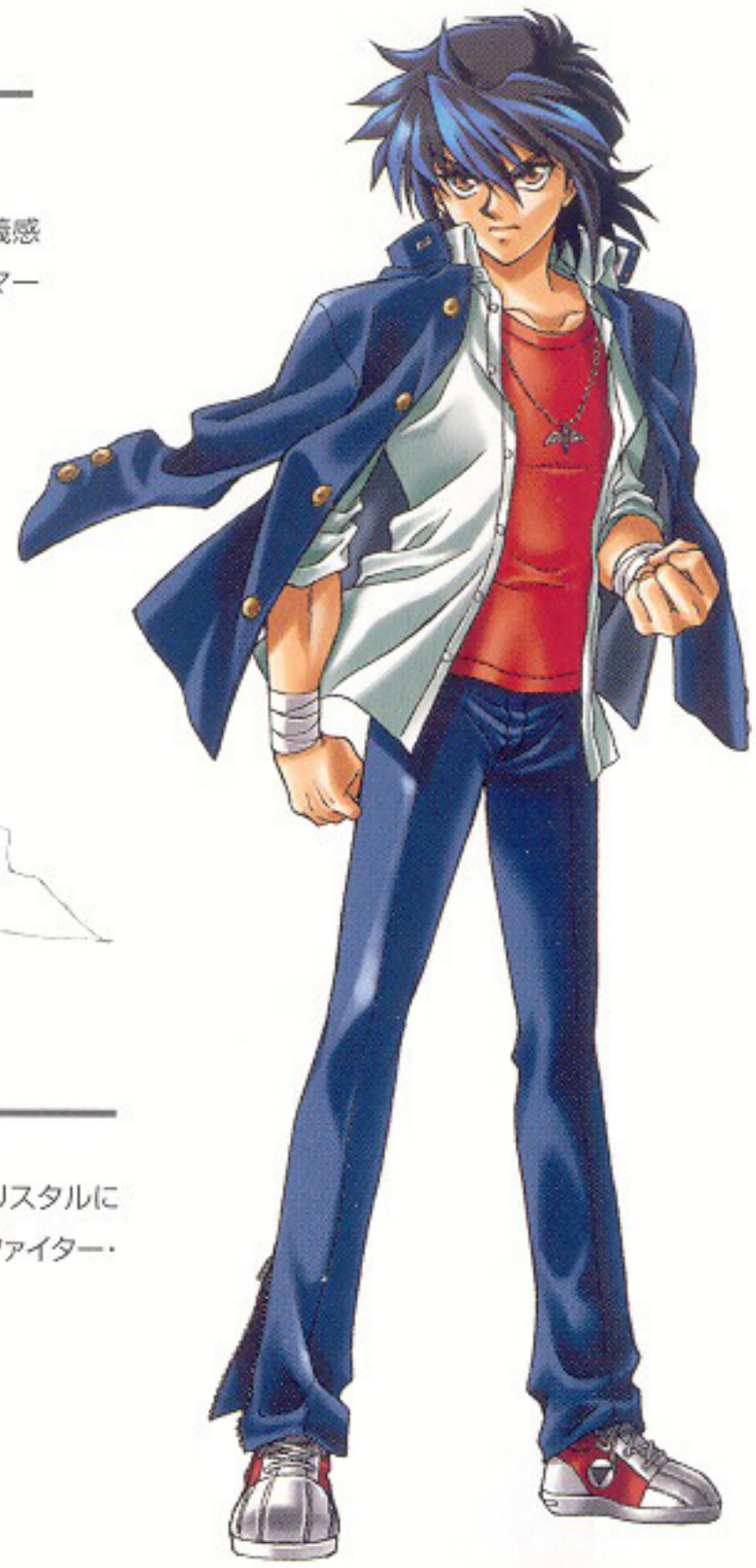
RAJI

時流エンジン関連のオペレーター。
「誰でも使える無限のエネルギー」を求める若き研究員。興味のない事はどうでも良いという反面、興味のある事に対しては最優先で行動し、周りが見えなくなることもしばしば。

コウタ・アズマ(吾妻 吼太)

KOHTA

日本・浅草地区に住む高校生。
街の発明家であるキサブロー・アズマの孫。他人にはぶっきらぼうな印象を与えるが、正義感の強い少年。喧嘩っ早く、祭好きで金遣いが荒い。また、妹思い。戦士ロアからロア・アーマーを託され、ファイター・ロアに変身する。



ファイター・ロア

FIGHTER ROAR

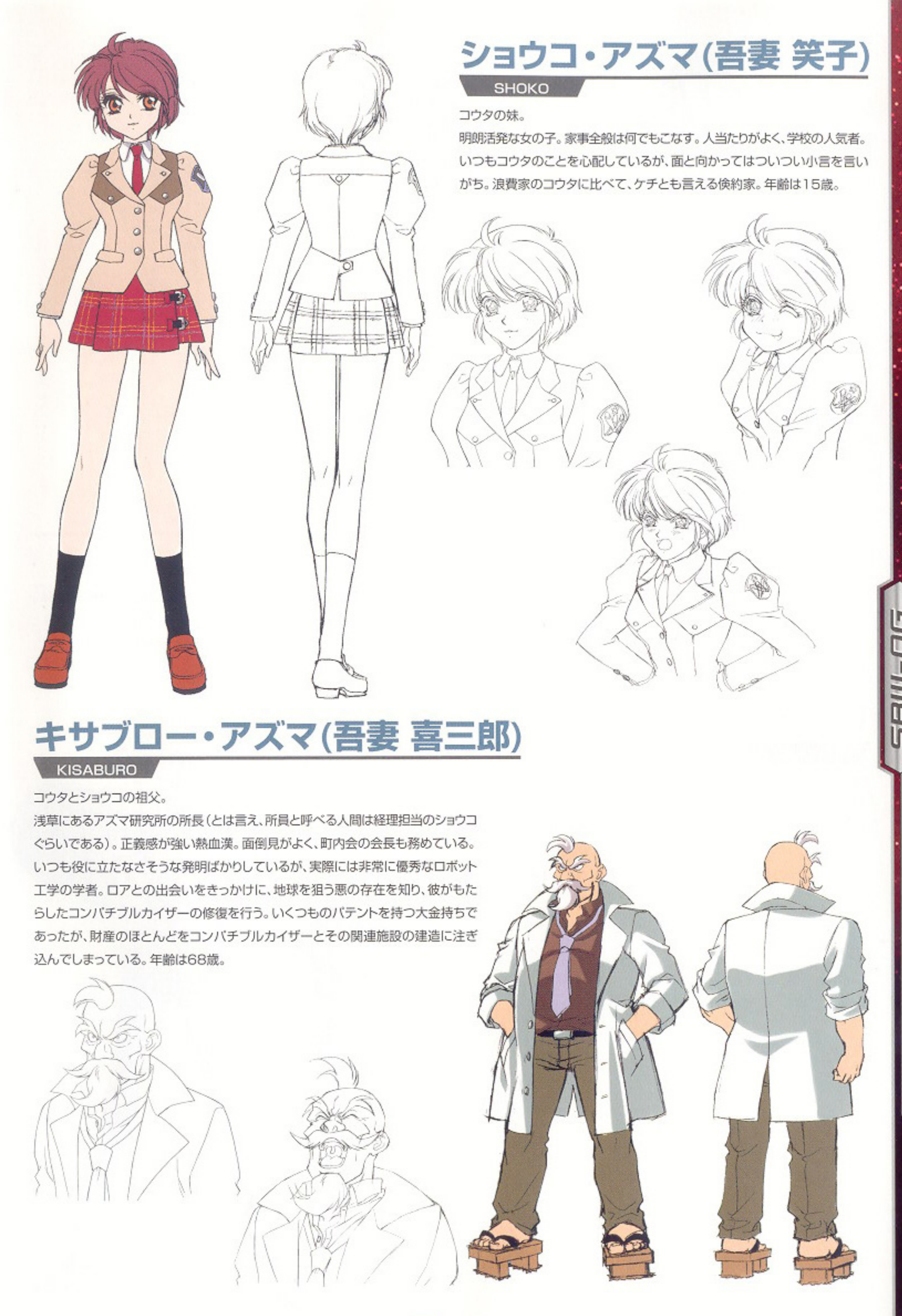
コウタ・アズマが異世界から来た「ロア・アーマー」と呼ばれる鎧を装着した姿。額のクリスタルには「戦士ロア」の魂が封入されている。コウタとロアの意志が一つとなった時、コウタは「ファイター・ロア」に変身し、「コンパチブルカイザー」と呼ばれるスーパーロボットに乗って敵と戦う。
また、ファイター・ロア自身の戦闘能力も高く、人型機動兵器と戦うことも可能。

デザイン / Mがんぢー

ロア

ROAR

異世界から来た謎の戦士。
彼の肉体は過去の戦いで失われており、ロア・アーマーに付いているクリスタルに自らの魂を移植している。そして、コウタがロア・アーマーを着込んだ時、彼の意識とリンクし、的確なアドバイスを行う。



ショウコ・アズマ(吾妻 笑子)

SHOKO

コウタの妹。

明朗活発な女の子。家事全般は何でもこなす。人当たりがよく、学校の人気者。いつもコウタのことを心配しているが、面と向かってはついつい小言を言いがち。浪費家のコウタに比べて、ケチとも言える倹約家。年齢は15歳。

キサブロー・アズマ(吾妻 喜三郎)

KISABURO

コウタとショウコの祖父。

浅草にあるアズマ研究所の所長(とは言え、所員と呼べる人間は経理担当のショウコぐらいである)。正義感が強い熱血漢。面倒見がよく、町内会の会長も務めている。いつも役に立たなさそうな発明ばかりしているが、実際には非常に優秀なロボット工学の学者。ロアとの出会いをきっかけに、地球を狙う悪の存在を知り、彼がもたらしたコンバチブルカイザーの修復を行う。いくつものパテントを持つ大金持ちであったが、財産のほとんどをコンバチブルカイザーとその関連施設の建造に注ぎ込んでしまっている。年齢は68歳。

タスク・シングウジ（真宮寺 祐）

TASUKU

ヒリュウ級汎用戦闘母艦ヒリュウ改に所属するパイロット。
脳天気で楽観主義者。勝負事が大好きで、常に自分の運を試そうとする自称・勝負師。ノリは軽いが頭の回転は早く、物事の洞察力に優れている。また、手先も器用で手品などを得意とするが、実は運動音痴。年齢は18歳、階級は伍長（後、少尉）。

レオナ・ガーシュタイン

LEONA

コロニー統合軍トロイエ隊所属のパイロット。
ブランシュタイン家の分家であるガーシュタイン家の出身。ライやエルザムとは従兄弟同士。冷静でプライドが高く、気も強い。他人を寄せ付けない雰囲気を持っているが、背伸びをした生き方をしているので、実は他人の同情に弱い。何でもそつなくこなしそうに見えるが、料理下手。年齢は18歳、階級は少尉。

リョウト・ヒカワ（氷川 諒斗）

RYOTO

内気で心優しい少年。
物事を悲観的に捉えがち。他人に自分の気持ちを伝えるのが少々下手で、そのことに関して自己嫌悪感を持っている。当初はDCに所属するアーマードモジュールのパイロットであったが、ある出来事をきっかけとして、ハガネへ搭乗することになる。

リオ・メイロン

RIO

スペースノア級万能戦闘母艦ハガネのブリッジオペレーター。
正義感が強く、明朗快活で真面目な女の子。負けず嫌いで、自分が正しいと思ったことは、はきはきと発言する。しかし、他人に間違いを指摘された時にはそれを認める許容性を持ち合わせている。父親はマオ・インダストリーの重役で、彼女は親の反対を押し切って軍に入っている。年齢は18歳。

アイビス・ダグラス

IBIS

かつてDCで進められ、現在は連邦軍管轄下に置かれている恒星間航行計画「プロジェクトTD」所属のテストパイロット。
性格は一本気で勝気。宇宙飛行士として旅立つことを夢見ており、そのために苦しい訓練に耐えてきた努力家でもある。技量においてはプロジェクトTDの僚友であるスレイより格段に劣り、席次はナンバー04であるが、その熱意だけは誰にも負けていない。

スレイ・プレスティ

SREY

プロジェクトTD所属のテストパイロット。
プロジェクトの責任者であるフィリオ・プレスティの実妹であり、敬愛する彼の夢を実現させるため、シリーズ77のテストを行っている。プロジェクト内ではトップパイロットであるナンバー01の座にあり、敵対する相手には容赦しない苛烈な性格の持ち主。自分の技量に絶大な自信と高いプライドを持ち、プロジェクトTDの正パイロットの座は自分以外にあり得ないと思っていたが……。

フィリオ・プレスティ

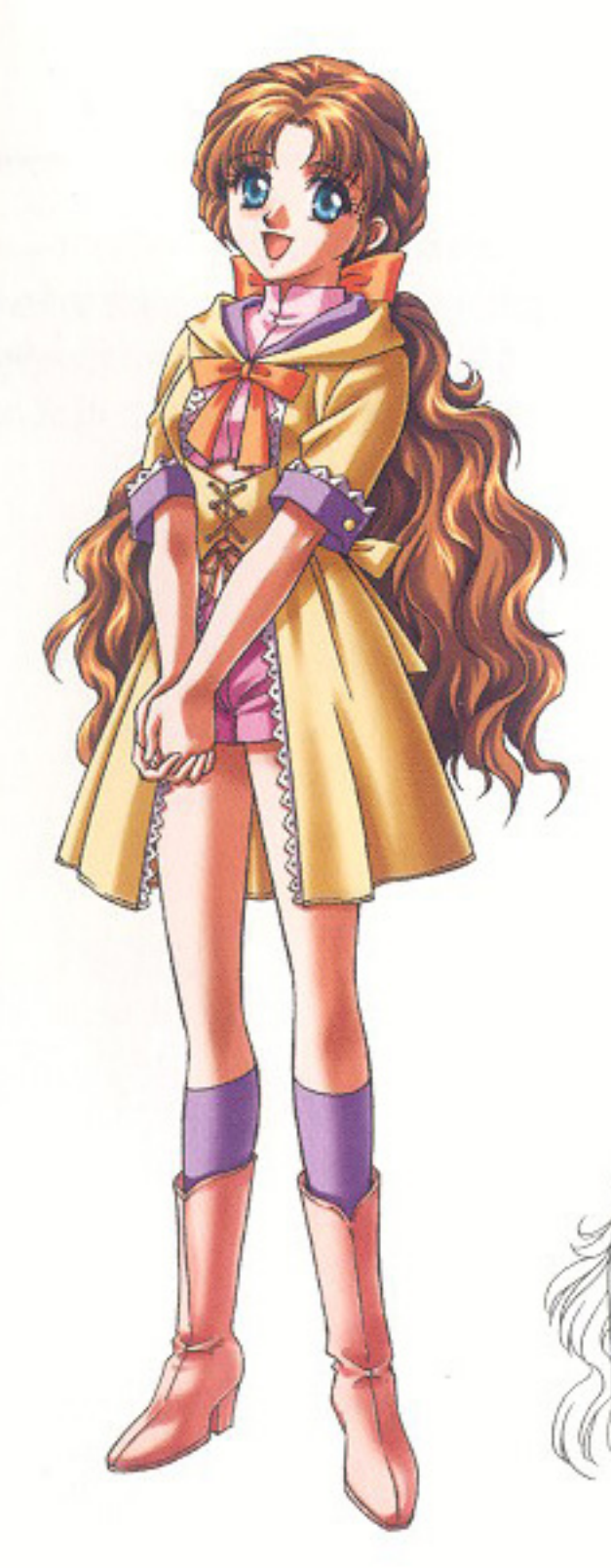
PHILIO

恒星間航行計画プロジェクトTDの責任者。
元はDCに所属していたロボット工学者で、リオンシリーズの基礎設計者でもある。DC壊滅後は連邦軍の管理下でプロジェクトを継続させるが、シリーズ77が軍事目的に利用されることに心を痛めている。温和で生真面目な性格とその才能により幅広い交友関係を持つ。

ツグミ・タカクラ（高倉 つぐみ）

TSUGUMI

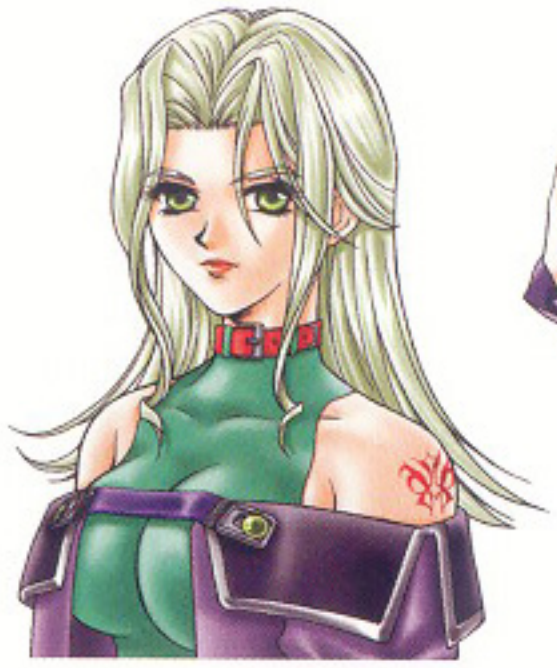
恒星間航行計画プロジェクトTDのシステム開発チームのチーフ。
DC壊滅後、責任者のフィリオやテストパイロットのスレイ、アイビスらと共に連邦軍の管理下でプロジェクトTDを継続させる。公私においてフィリオをサポートする彼の良き理解者。基本的には世話好きで人当たりのよいしっかり者であるが、時に非情なまでに理知的な判断を下すことがある。システム開発チームの立場からプロジェクトTDの正パイロットにはスレイを推薦しているが……。



ラミア・ラヴレス

LAMIA

アンジュルグの専属テストパイロット。
キョウスケ達と接触し、ATXチームの一員となる。高い戦闘能力や操縦技術を身につけており、性格は機械的なまでに沈着冷静。知的で大人しい美女だが、どこか人間離れした近寄りがたい雰囲気を持つ。時折見せる鋭い洞察力や、情報への固執など何かを探っているような動きを見せる。敬語が苦手なのか、「です・ます」調で上手く喋ることが出来ないという奇妙なクセがある。はたして、彼女の正体とその目的とは……?



ラトゥーニ・スゥボータ

ЛАТУНЬ

地球連邦軍極東支部（後、方面軍）所属のPTパーソナルトルーパー・パイロット。幼年期から優秀なパイロットを養成する連邦軍特殊機関「スクール」の出身。そのため、PTの操縦や戦闘で優れた能力を発揮する。スクールでの過酷な実験や訓練が原因で心を閉ざしていたが、ハガネのクルー達との出会いによって人間らしさを取り戻す。

ギリアム・イェーガー

GUILIAM

地球連邦軍情報部所属の軍人。

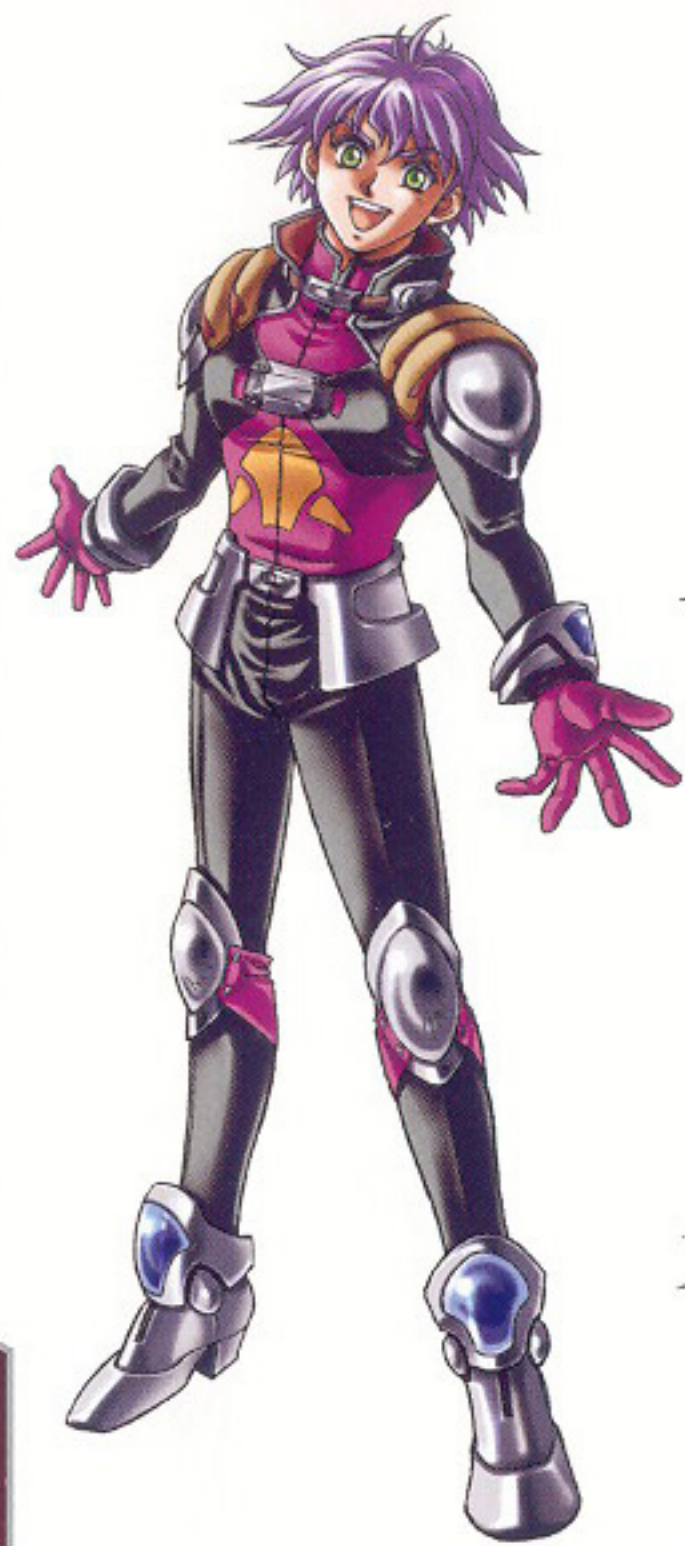
性格は沈着冷静、頭脳明晰。どこか謎めいたところがあるが、義理人情に弱い面も併せ持つ。TC-OS（パーソナルトルーパーのOS）の基礎データを作成した連邦軍特殊戦技教導隊の出身であり、パーソナルトルーパーの操縦の腕は超一流。コロニー統合軍の動向を探るため、単独で行動していたが、ヒリュウ改と接触し、しばらく行動を共にする。年齢は自称27歳、階級は少佐。

イルムガルト・カザハラ

IRUM

地球連邦軍極東支部（後、方面軍）所属のパーソナルトルーパー・パイロット。

高い教養の持ち主で、口も手も達者な男。女好きで、口説く対象年齢層は幅広い。かつて特殊部隊PTXチームに所属しており、パイロットとしての腕前は一流である。また大局を見渡し、目的のためには冷徹な手段をも辞さない一面も持つ。父はテスラ・ライヒ研究所の重鎮であり、超闘士グルンガストの開発者の一人でもあるジョナサン・カザハラ。年齢は28歳、階級は中尉。



アラド・バランガ

ARADO

DC残党の兵士で、かつてDCの副総裁アードラー・コッホらが主催していたパイロット養成機関「スクール」の出身。前向きで明るい性格、見た目のノリも軽いが根は真面目。スクール解散後もDCで人型機動兵器のパイロットとなるべく特殊な訓練を受けてきたが、いつも落ちこぼれだった。キョウスケやリュウセイ達の敵として登場し、彼らに戦いを挑むが……。

ゼオラ・シュバイツァー

SEOLLA

アラドと同じく「スクール」の出身で、彼とコンビを組んでいる。
真面目な優等生タイプで気が強く、短気。思いこみが激しく、怒ると怖い。しかし、本当は思いやりのある女の子で、落ちこぼれのアラドのことをいつも心配している。
優秀なパイロットであり、連邦軍からビルトファルケンの奪取に成功する。だが、戦場でのラトゥーニ・スゥボータとの出会いが彼女の運命を狂わせていくことになる……。

ユウキ・ジェグナン

YUUKI

DC残党に所属するパイロット。
沈着冷静で、常に紳士的な態度を心がけている。卑怯な行動を嫌い、弱きを助けることを厭わない。そのため、上官のアーチボルドとはそりが合わない。紅茶好きで、淹れ方や飲み方にはこだわりを持っている。L5戦役中、サンディエゴを襲撃したエアロゲイターの機動部隊と交戦し、民間人であったカーラを救出した。年齢は18歳、階級は少尉。

リルカーラ・ボーグナイン

RILCARLA

通称はカーラ。男勝りで情熱的な女の子。楽観主義者で、些細な悩み事は一晩寝ると忘れてしまうタイプ。生まれ故郷であるサンディエゴで、芸能界入りを夢見てダンスや歌の練習に励んでいた彼女だったが、エアロゲイターの襲撃によって家族を失ってしまう。その時、ユウキに助けられ、家族の仇を討つためにDC残党に加わる。年齢は18歳、階級は少尉。

ゼンガー・ゾンボルト

SANGER

ATXチームの隊長。
剛胆な性格で、自分の信念を貫く武人。義を重んじ、常に正々堂々とした行いを取るよう心がけているが、融通の効かない所もある。格闘戦、特に剣撃戦闘のエキスパートで、彼が駆るグルンガスト零式とその斬艦刀は敵味方から恐れられる。かつて連邦軍特殊戦技教導隊に所属しており、エルザムとはその時からの親友である。年齢は29歳、階級は少佐。

レーツェル・ファインシュメッカー

RÄTSEL

ハガネやヒリュウ改を陰ながら助ける謎の人物。
沈着冷静で誇り高く、大義を重んじる。また、柔軟な思考も持ち合わせており、常に大局を見据えて行動を取っている。操縦技術は天才的で、自分が乗る機体を常に愛馬の名前「トロンベ(竜巻)」で呼ぶ。かなりの食通で、料理の腕前も超一流。

カイ・キタムラ(北村 開)

KAI

地球連邦軍伊豆基地のパーソナルトルーパー隊の隊長。
特殊戦技教導隊の出身で、パイロットしての技量は高い。叩き上げの軍人で、現場主義。部下達からは鬼隊長と恐れられている。
年齢は36歳、階級は少佐。

シャイン・ハウゼン

SHINE

地中海に面する連邦特別自治区・リクセント公国の王女。
天真爛漫で好奇心旺盛、思い立ったが吉日の行動派。また、予知能力を持っている。ラトゥーニと仲が良く、ライディースに淡い思いを抱いている。年齢は12歳。後にアーマードモジュール・フェアリオンのパイロットとなる。

ジョイス・ルダール

JOYCE

リクセント公国の王女、シャインのお目付役。
お転婆なシャインに手を焼きつつも、時には口やかましく、時には温かく彼女を見守り続けている。年齢は64歳。

ラーダ・バイラバン

RADHA

マオ・インダストリーのスタッフ。
思慮深く、物静かな女性。精神感応能力を持っており、マオ・インダストリー社でマン・マシン・インターフェイスの開発に携わっていた。特技はヨガで、他人に困難なアサナ（ヨガのポーズ）を勧めるため、少々恐れられている。年齢は27歳。

ダイテツ・ミナセ（水無瀬 大鉄）

DAITETSU

スペースノア級万能戦闘母艦弐番艦ハガネの艦長。

歴戦の勇士で度胸があり、決断力に優れている。質実剛健を絵に描いたような男で、優秀な指揮能力と豊富な経験を持つ。かつては外宇宙航行艦ヒリュウの艦長も務めていた。その時の経験を買われ、スペースノア級壱番艦シロガネの艦長に抜擢されるも、グランゾンの反乱により艦を大破させられる。しかし、彼の闘志はそれで折れることなく、DCへ戦いを挑むべく弐番艦ハガネの艦長職をレイカーより引き受ける。愛煙家で酒豪。年齢は56歳、階級は中佐。

テツヤ・オノデラ（小野寺 鉄哉）

TETSUYA

ハガネの副長。

ダイテツにその才能を見出され、副長職に抜擢された。そのため、ダイテツを深く尊敬している。実直で優秀な男だが、自分自身の経験のなさと副長の重責とのギャップに苦しむこともある。他のクルー達と年齢が近いこともあり、信頼を寄せられている。年齢は29歳、階級は大尉。

エイタ・ナダカ（名高 英太）

EITA

ハガネのブリッジ・オペレーター。

主な担当は電測。オペレート能力は優秀だが、ノリが軽く、一言多い性格。壱番艦シロガネでもブリッジ・オペレーターを務めており、その時の縁でテツヤから推薦を受け、ハガネへ乗艦することになった。年齢は20歳、階級は伍長。

ジャーダ・ベネルディ

GIADA

連邦軍極東支部所属のパイロット。
陽気な性格で派手好き。ワイルドな外見をしているが、ノリは軽い。現場叩き上げのパイロットであり、経験は豊富。無類の音楽好きで、ガーネットの恋人でもあるが、彼女には頭が上がらない。年齢は26歳、階級は少尉。

ガーネット・サンデイ

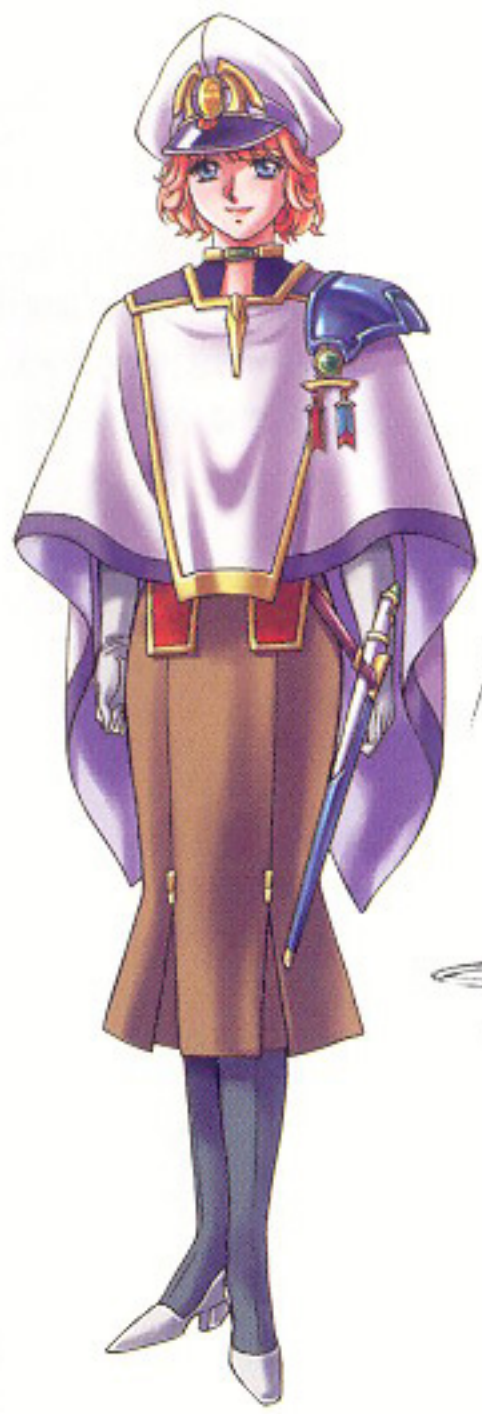
GARNET

連邦軍極東支部のパイロット。
明るく、おおらかな女性。大雑把で粗雑な所もあり、さらに早とちりで少々短絡的、細かいことを気にしないタイプ。服装も不必要に露出度が高い。他の年下の女の子（特にラトゥーニ）に化粧をさせたり、大胆な格好をさせたりするのが趣味。年齢は23歳、階級は曹長。

リー・リンジュン

LEE

シロガネの新任艦長。
頭脳明晰、冷徹な性格で、理論構築と遺漏なきその実践こそが完全な勝利と信じている。士官学校時代は「パーフェクト」というあだ名で呼ばれ、首席で卒業。テツヤとは同期であるが、いつも二番手に甘んじていた彼のことを見下している。年齢は29歳、階級は中佐。



レフィーナ・エンフィールド

LEFINA

ヒリュウ級汎用戦闘母艦ヒリュウ改の艦長。

アステロイドベルトのイカロス基地にある航宙士官学校を主席で卒業した才媛。清楚で心配性、涙もろいが、芯はしっかりしている。真面目な性格や、任務にひたむきな姿勢から、新米艦長ながらもヒリュウ改のクルーからの信頼を集めている。ショーンの推薦によって、ヒリュウ改の艦長に大抜擢され、彼のサポートを受けつつ、一人前の艦長に成長していく。年齢は19歳、階級は中佐。

ショーン・ウェブリー

SEAN

ヒリュウ改の副長。

物腰柔らかな英国紳士。豊かな知識と経験、ユーモアセンスを持ち、レフィーナを的確にサポートしている。かつて外宇宙探査航行艦ヒリュウ（艦長は ダイテツ）で副長を務めていた。本来はヒリュウ中破の引責で更迭されたダイテツの後任となるはずであったが、彼はそれを辞退し、レフィーナを艦長に推薦した。ダイテツと同じく酒豪で、洋酒通。年齢は55歳、階級は少佐。

ユン・ヒョジン

YUNG

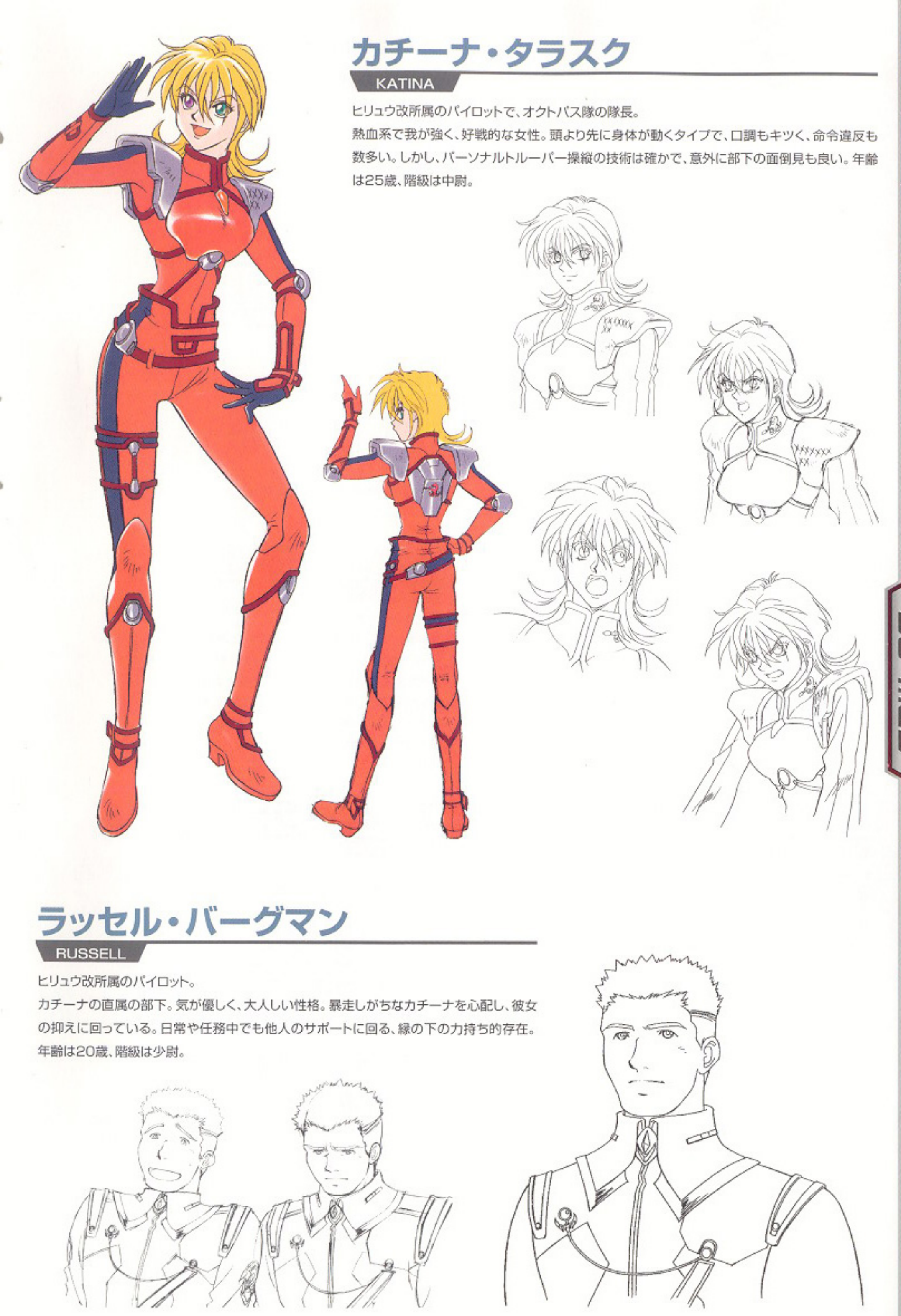
ヒリュウ改のブリッジオペレーター。

真面目で潔癖性の気があるが、人当たりは良い。レフィーナとは航宙士官学校時代の同期であり、いつも彼女のことを見守っている。年齢は20歳、階級は伍長。

カチーナ・タラスク

KATINA

ヒリュウ改所属のパイロットで、オクトパス隊の隊長。
熱血系で我が強く、好戦的な女性。頭より先に身体が動くタイプで、口調もキツく、命令違反も数多い。しかし、パーソナルトルーパー操縦の技術は確かで、意外に部下の面倒見も良い。年齢は25歳、階級は中尉。



ラッセル・バーグマン

RUSSELL

ヒリュウ改所属のパイロット。
カチーナの直属の部下。気が優しく、大人しい性格。暴走しがちなカチーナを心配し、彼女の抑えに回っている。日常や任務中でも他人のサポートに回る、縁の下の力持ち的存在。
年齢は20歳、階級は少尉。

レイカー・ランドルフ

LAYKER

連邦軍極東支部（後、方面軍）の司令官。
温和な性格で人当たりは良い。外見は小柄な老人で表情も柔和、昼行灯的なイメージがあるが、かつては連邦軍参謀本部で知将として有名であった。組織的に弱体・腐敗化が進む連邦軍上層部を憂い、参謀本部のノーマン・スレイ少将の考えに賛同して地球圏防衛計画に参加。極東支部でSRX計画をスタートさせた。年齢は58歳、階級は准将。

サカエ・タカナカ（高中 栄）

SAKAE

連邦軍極東支部の副司令。
レイカーの右腕的な存在で、優秀な参謀。神経質な現実主義者で融通が利かない所もある。だが、それは損害を少しでも抑え、部下達の安否を気遣う故である。年齢は40歳、階級は中佐。

ハンス・ヴィーパー

HANCE

連邦軍極東支部所属の戦闘指揮官。
狡猾でエリート意識が強く、自分の出世と保身を第一に考える男。地球圏防衛計画に賛同するレイカーを疎ましく思っている。イルムやキョウスケなど、自分の意に添わない部下を冷遇する。年齢は38歳、階級は中佐。

ロバート・H・オオミヤ（大宮 創）

ROBERT

SRX計画の主要メンバー。
ロボット工学の若き権威。陽気で人なつこい性格で、幼い頃からロボットに憧れて育った。テスラ・ライヒ研究所でグルンガストシリーズの開発に携わり、現在は極東支部のSRX計画に参加している。また、"バーニングPT"の開発者でもあり、リュウセイとはロボットの話で盛り上がることが多い。年齢は27歳。

カーク・ハミル

KIRK

SRX計画の主要メンバー。
優秀なエンジニアで、パーソナルトルーパーの生みの親。マオ・インダストリーのPT開発部部長であるが、極東支部に出向してくる。冷徹な完璧主義者だが、何故か性格が正反対のロバートとは気が合う。年齢は32歳。

ケンゾウ・コバヤシ（古林 兼三）

KENZO

SRX計画の主要メンバー。
T-LINKシステムの開発者であり、アヤの父親。かつては脳医学会の異端児として有名であり、日本特殊脳医学研究所で「人間に潜在する超能力の回帰」をライフワークとし、研究を続けていた。寡黙な性格で、人との関わり合いを嫌う。年齢は49歳。

グレッグ・パストラル

GREG

連邦軍北米支部の司令官。
剛胆で気骨のある人物。見た目は怖いが、普段は温和で、部下に対しても理解がある。極東支部のレイカーと同じく、統合参謀部のノーマン・スレイの考えに賛同してラングレー基地内でATX計画をスタートさせた。年齢は55歳、階級は少将。

マリオン・ラドム

MARION

ATX計画の中心的人物。
優秀な科学者だが、ワーカーホリックで自己顕示欲や嫉妬心が強い。以前はマオ・インダストリーにおり、カーク・ハミルの下でゲシュペンストの開発に携わっていた。しかし、自分の実力が認められないことを不満に持ち、マオ社を退社。その後、北米支部のATX計画に参加して、アルトアイゼンやヴァイスリッターを開発する。年齢は30歳。

リシュウ・トウゴウ（稲郷 利秋）

RISHU

テスラ・ライヒ研究所の顧問。
示現流の達人で、グルンガスト用の剣の開発や、剣撃モーションデータの作成に携わっている。ゼンガーやブリットの師匠でもある。剣の道に関しては厳しいが、普段は気のいい老人。年齢は66歳。

ノーマン・スレイ

NORMAN

地球連邦軍統合参謀本部所属の軍人。
参謀本部きっての切れ者と言われる老将で、連邦軍内部でエアロゲイターの脅威にいち早く認識し、地球圏防衛委員会を結成。ハガネを始めとするスペースノア級の戦闘母艦の建造やATX計画、SRX計画などの対エアロゲイター用兵器の開発計画を始めさせた。年齢は59歳、階級は少将。

リン・マオ
RING

パーソナルトルーパーの開発メーカー、マオ・インダストリーの社長。
クールな性格で、合理主義者。マオ社の創業者である父親の影響を受けて、パーソナルトルーパーのパイロットを目指し、地球連邦軍極東支部の特殊部隊「PTXチーム」に所属していた過去をもつ。年齢は28歳。

ユアン・メイロン
EWAN

マオ・インダストリーの重役。
リオの父親。リンの父親と共にマオ社を創設したメンバーの一人であり、現在はリンの右腕的存在となっている。娘には過保護気味で、自分の意に反して軍に入った彼女をいつも心配している。年齢は53歳。

ユキコ・ダテ（伊達 雪子）
YUKIKO

リュウセイの母親。
見た目はおっとりしているが、芯のしっかりした女性。リュウセイの父親が死んでからは、彼を女手一つで育て上げた。だが、彼女の過去と能力が息子の未来を大きく変えることになる…。年齢は36歳。

エリ・アンザイ
ERI

LTR（ロスト・テクノロジー・リサーチ）機構、特殊考古学部門の主任。古代中国で作られた"超機人"の調査と研究を行っている。派手目の外見とは裏腹に知性的で落ち着いた女性。研究に対する姿勢は情熱的で周りが見えなくなってしまうことが多々ある。またトラブルに巻き込まれやすいタイプでもある。

カール・シュトレーゼマン
CARL

地球連邦政府安全保障委員会の副委員長で、EOT特別審議会の議長。
保守派の政治家で、連邦政府内随一の実力者。表立って行動するタイプではなく、裏から手を回す黒幕。隕石メテオ3からEOT（異星人の超技術）が発見されたことを知って、すぐに機密保持のための機関（EOT特別審議会）を結成するなど、先見性もある。そして、メテオ3やEOTの調査結果によって、エアロゲイターの強大さを知った彼は、徹底抗戦を唱えるビアンやマイヤーを危険視し、彼らの動きを監視・妨害する。年齢は75歳。

アルバート・グレイ
ALBERT

地球連邦政府の高官で、EOT特別審議会のメンバーの一人。
カール・シュトレーゼマンの腹心で、政治的に表立って動くのはこの男。強面で実力がありそうに見えるが、小心者でカールの傀儡に過ぎない。南極会談で地球側の大使を務める。年齢は52歳。

ブライアン・ミッドクリッド
BRYAN

10基のスペースコロニーを統括するコロニー統合府の大統領。
有能な政治家で、平和主義者。地球連邦政府内でも一目置かれている人物。かつてはコロニーの独立自治権獲得運動（NID4）の指導者でもあった。その後、カール・シュトレーゼマンら反コロニー派の妨害工作を受けつつも、コロニーの独立を実現させ、統合府の初代大統領となる。

グライエン・グラスマン
GRAIEN

地球連邦政府安全保障委員会の委員長。
異星人に対し徹底抗戦を唱えるタカ派の政治家で、その容貌と根回しの巧みさから「ウィザード」というあだ名を持つ。政界の黒幕と言われたカール・シュトレーゼマンがL5戦役で死亡した後、彼の派閥は急速に力を強め、そして……。

ケネス・ギャレット
KENNETH

地球連邦軍北米方面軍ラングレー基地の司令官。
権力志向が強い軍人で、物事を力で解決しようとするタイプ。自分の功績ばかりを気にし、部下を酷使している。そのため、下からの評判は良くない。また、DC戦争やL5戦役で功績を挙げたレイカー・ランドルフに対抗心を燃やしている。

ミツコ・イスルギ（石動 光子）
MITSUKO

イスルギ重工の社長。
L5戦役時に死亡した前社長レンジ・イスルギの娘。見た目はおっとり系の美人で、物腰や口調も柔らかいが、実際はかなりのやり手。自社の利益をあげることを第一とし、そのための手段とビジネスの相手は選ばない。

ビアン・ゾルダーク
BIAN

ロボット工学の天才科学者で、DC（ディバイン・クルセイダーズ）の総帥。目的のためには手段を選ばない現実主義者であると同時に、ロマンテックな一面も持つ理想主義者。また、理知的な部分と感情的な部分を併せ持ち、カリスマ性が高い。メテオ3が地球に落下する以前から、異星人による地球侵略を懸念していたビアンは、私財を擲ってテスラ・ライヒ研究所を創設。メテオ3落下以後はそのオーバーテクノロジーを解析するEOTI機関の責任者となる。その後、同機関を母体とした軍事結社DCを結成し、地球連邦政府に対して宣戦布告を行う。年齢は44歳。

シュウ・シラカワ（白河 愁）
SHU

若くして十指に及ぶ博士号を持つ天才科学者。
影のあるクールな二枚目で沈着冷静、さらに途方もない自信家。他人に利用されることを極度に嫌い、また自分を利用した者を決して許さない。EOTI機関のビアン・ゾルダーク博士の下でグランゾンの基本設計、特殊装備を担当し、自らテストパイロットも兼ねている。その正体、過去共に不明。年齢は22歳。

アードラー・コッホ
ADLER

DCの副総帥。
狡猾な老人。優秀な科学者でもある。ビアンの右腕としてDCの指揮を執るが、真の目的は自らが作り出した無人機動兵器で世界を征服・支配することである。高性能な戦闘用人工知能の開発も進めており、そのためのサンプルデータとして、テンザンやリョウト達をDCに引き入れる。かつては連邦軍のパイロット養成機関"スクール"の責任者を務めていた。年齢は70歳。

テンペスト・ホーカー
TENPEST

コロニー統合軍からDCへ出向してきた戦闘指揮官。
職業軍人で、普段は寡黙な人物だが、気性は激しい。連邦軍特殊戦技教導隊の出身であり、DCきってのエースパイロットでもある。16年前に起きたホープ事件で妻と娘を失っており、対処に失敗した連邦軍に対して激しい恨みを持っている。年齢は39歳、階級は少佐。

トーマス・プラット
TOMAS

DCの戦闘指揮官。
抜け目がなく、頭が切れる。表面上は愛想がいいが、その裏には計算高い頭脳が隠されている。徹底的な個人主義で、他人がどうなろうと一切気にしない。年齢は32歳、階級は少佐。

テンザン・ナカジマ（仲嶋 天山）
TENZAN

DCのパイロット。
傍若無人、ゲーム感覚で戦いを楽しむ男。人の命をゲームの駒としか思っておらず、味方を犠牲にする作戦も平気で遂行する。また、機動兵器への順応力が非常に高く、どんな機体に乗っても短時間でスペック以上の性能を引き出すことが出来る。リュウセイと同じく、バーニングPTの腕前を見込まれ、DCにスカウトされた。年齢は21歳、階級はないが、大尉待遇。

マイヤー・V・ブランシュタイン

MAIER

コロニー統合軍総司令。スペースコロニーに居を構える名門の軍人一族ブランシュタイン家の当主でもあり、ライディースやエルザムの父親。威厳と気品を併せ持ち、ストイックで大義を重んじる男。その血統と人格から、コロニー統合軍内での信奉者が非常に多い。だが、それに溺れることなく自分の立場をわきまえている。エアロゲイター侵略の脅威と連邦政府の腐敗を憂い、ビアンのDC叛乱に同調する。年齢は57歳。

エルザム・V・ブランシュタイン

ELZAM

コロニー統合軍からDCへ出向してきた戦闘指揮官。
名門の軍人一族ブランシュタイン家の長男で、ライディースの兄。誇り高く、大義を重んじる沈着冷静な男で、人型機動兵器の操縦に関しては天才と言われている。また、柔軟な思考も持ち合わせており、常に大局を見据えて行動を取っている。趣味は乗馬。自分が乗る機体を愛馬の名前"トロンベ(竜巻)"で呼ぶ。また、かなりの食通であり、料理の腕前もかなりのもの。カトライアいう妻がいたが、死別している。年齢は29歳、階級は少佐。

リリー・ユンカース

LILLY

コロニー統合軍の参謀で、マイヤーの副官的存在。
才能をマイヤーに見出され、若くして現在の立場に就いた。そのため、彼を心の底から信奉している。マイヤーの心情、真の目的を理解する数少ない人間の内の一人。年齢は24歳、階級は中佐。

ユーリア・ハインケル

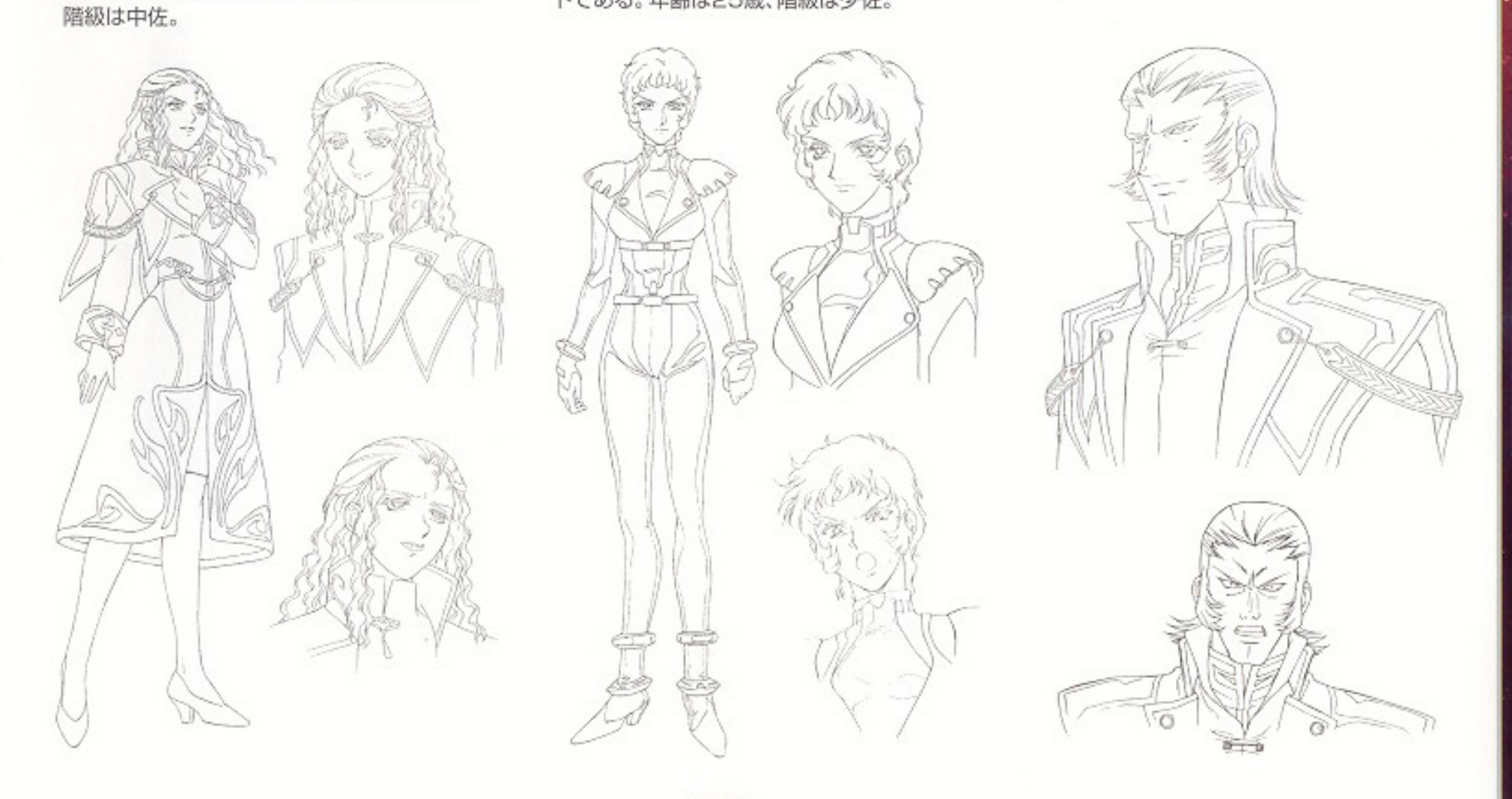
JULIA

コロニー統合軍親衛隊トロイエ隊の隊長。
誇り高き女戦士。卑怯な真似を嫌い、正々堂々とした勝負(作戦)を好む。エリート揃いのコロニー統合軍の中でも特に優秀な部隊・トロイエ隊を率い、自身も軍屈指のエースパイロットである。年齢は25歳、階級は少佐。

ジーベル・ミステル

SIEBEL

コロニー統合軍の戦闘指揮官。
己の出世のためには、卑怯な手を使うことも厭わない男。相手によって立場を変え、弱い者は徹底的に攻撃する。策士だが、その詰めは甘い。年齢は33歳、階級は少佐。



バン・バ・チュン

VAN

DC残党の首魁的存在。

元々は民族解放戦線の闘士だったが、ビアンの思想に共鳴し、DC結成以前から彼に協力していた。DC戦争中は北アメリカ戦線に参加し、DC壊滅後はメキシコ高原に潜伏。優れた統率力と政治手腕を用い、各地に潜伏し続けていたDC残党を「新たなるDCの結成」という共同目的をもってネットワーク化、彼らをアースクレイドルが存在するアフリカへ集結させる。年齢は48歳、階級は大佐。

アーチボルド・グリムズ

ARCHIBALD

DC残党の戦闘指揮官。

物腰が柔らかく、知的な優男のように見えるが、性格は冷酷で残忍。元々はテロリストだったが、自らの思想を持っているわけでなく、報酬目当てでテロ活動を行っていた。L5戦役後、ある人物の依頼と推薦を受けてDC残党に参加、バンの配下となる。年齢は34歳、階級は少佐。

オウカ・ナギサ(桜花 凪沙)

OUKA

DC残党に所属するパイロット。特殊養成機関「スクール」の出身。スクールのメンバーの中で最も優れた戦闘能力・操縦技術を持っている。また、最年長でもあったため、アラドやゼオラ、ラトゥーニ達からは姉のように慕われていた。物腰は柔らかいが、冷たさを感じさせる女性。だが、アラド達スクールの関係者には心を開く。戦いの最中、オウカは自分が可愛がっていたラトゥーニが生きており、連邦軍にいることを知る。そして、彼女を取り戻そうとするのだが……。

イーグレット・フェフ

EAGRET

アースクレイドルの科学者。
かつてはDCでエアロゲイターの機体の材質の研究を行い、そのデータを基にマシンセルと呼ばれる金属細胞を開発している。現在はアースクレイドルの実質的な指導者となり、DC残党のパン達を自らの懐に招き入れる。

イーグレット・ウルズ／スリサズ／アンサズ

EAGRET

イーグレット・フェフ博士が開発した「マシンナリー・チルドレン」と呼ばれる戦闘用の人造人間。
オリジネイターであるウルズ（1号）を基にして、同じ顔をしたマシンナリー・チルドレンが何人もいる。その中で特に優秀な者がスリサズ（2号）、アンサズ（3号）である。ウルズはマシンナリー・チルドレンのリーダー格であり、能力が最も高い。性格は沈着冷静。スリサズは好戦的な性格、アンサズは残忍で狡猾な性格をしている。これらのマシンナリー・チルドレンで共通しているのは、高いプライドを持っていることと目的遂行のために手段を選ばないことである。

アギラ・セトメ

ÁGUILA

DC残党に所属する脳医学者。
かつては「スクール」におり、その頃からオウカやアラド達ブーステッド・チルドレン（優れたPTパイロットとなるべく強化された子供達）の調整を行っている。主な担当・研究分野は人間の記憶や精神の操作。オウカ達を実験材料扱いし、非道な措置も平気で行う。

クエルボ・セロ

CUERVO

アギラ・セトメの下でブーステッド・チルドレンの調整を行う科学者。
かつては連邦軍の研究機関で脳波制御装置の開発・研究を行っていた。その後、EOTI機関へ行き、アギラと出会って「スクール」にも関わるようになる。L5戦役後はアースクレイドルへ赴き、アラドやゼオラ達の調整を担当する。

レビ・トーラー

REVI

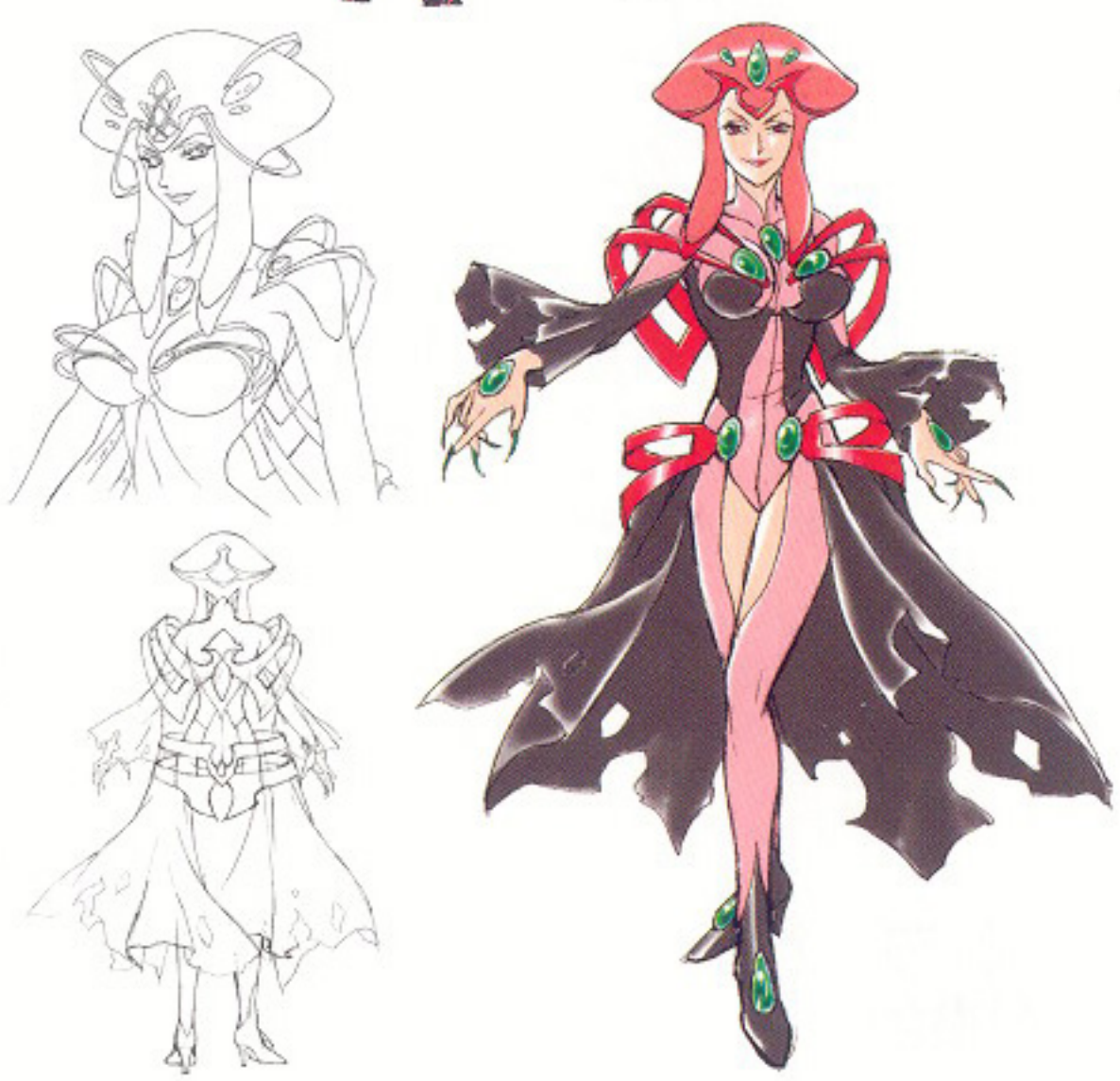
優れた思念の力「念動力」を持った、エアロゲイターの統率者。自動惑星ネビーイーム（エアロゲイターの拠点）の中枢である超大型機動兵器ジュデッカの生体コアでもある。外見は少女であるが、精神年齢が高い。また、過去の記憶の大半が欠落しており、そのせいで精神が不安定な状態に陥ることもある。

アタッド・シャムラン

ATTADO

レビの補佐役的な存在。

残忍で狡猾な女性で、地球人を野蛮人と蔑む。念動力と呼ばれる特殊な思念の力を持ち、他人の記憶や感情を見抜き、それを操作することが出来る。そのため、彼女と戦う敵は自らのトラウマを示され、困惑することになる。



ガルイン・メハベル

GALIN

エアロゲイターの戦士。過去の事故で瀕死の重傷を負い、身体の大部分を機械化している。人格や感情はないに等しく、非常に無口。優れた操縦技術を持ち、文字通り機械的に任務を遂行する。

ゲーザ・ハガナー

GEZA

エアロゲイターの戦士。傍若無人な男で、性格は残忍。ゲーム感覚で戦闘を行い、地球人を抹殺することを至上の楽しみとしている。彼もガルイン同様、過去の事故で重傷を負い、身体の一部分を機械化している。

ウェンドロ
WENDORO

インスペクターの総司令官。16歳という年齢ながらもその優秀さが認められ、異文明監査官となる。政治力、軍事指揮に長け、策略家でもある。普段は常に笑みを絶やさず、穏やかな口調であるが、その本性は冷酷で残忍。プライドが非常に高く、地球人を野蛮人・下等生物呼ばわりする。

ヴィガジ
VIGAJI

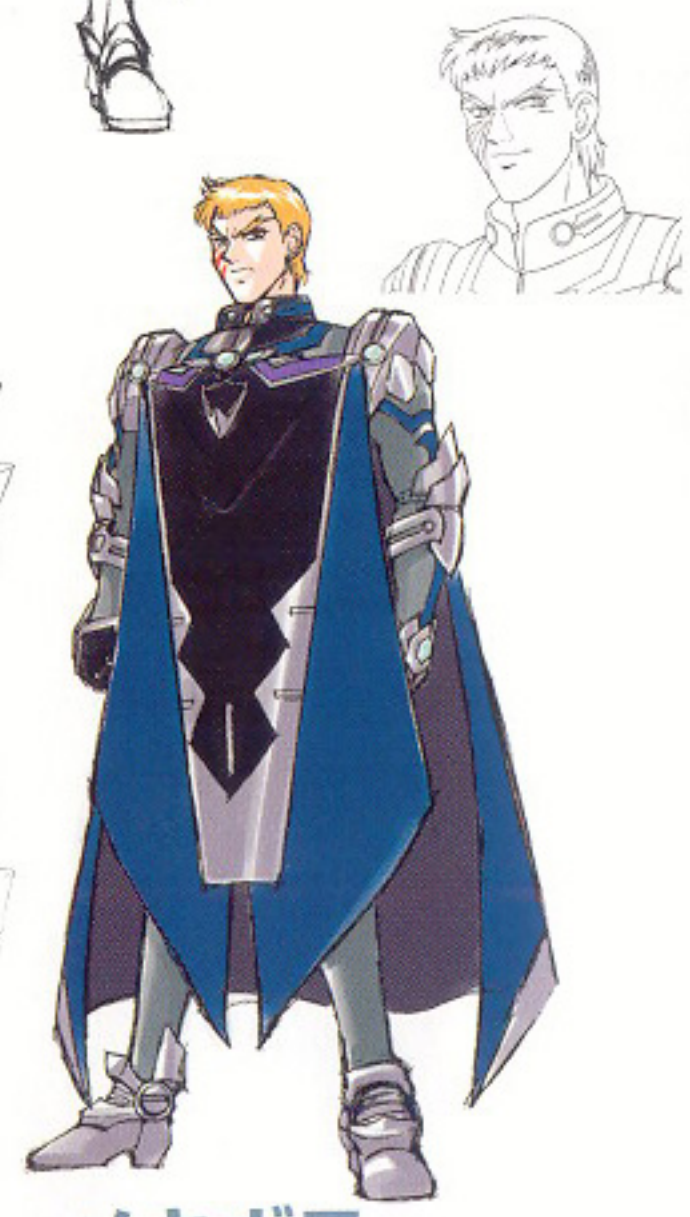
インスペクターの戦闘指揮官。頭に血が上りやすく、好戦的な性格。地球人を下等生物と見下している。任務には忠実で、総司令官であるウェンドロの指示を全力で遂行しようとするが、空回りしてしまうこともある。機動兵器のパイロットとしても優秀で、怪獣型のマシン「ガルガウ」に搭乗する。

シカログ
SIKAROG

インスペクターの戦闘指揮官。剛胆だが、非常に寡黙な男。恋人であるアギーハ以外の者は彼の言葉を聞くことが滅多にない。大型の人型機動兵器「ドルーキン」のパイロット。

アギーハ
AGIHA

インスペクターの戦闘指揮官。好戦的で男勝りな性格。喜怒哀楽がはっきりしており、負けず嫌い。高速機動兵器「シルベルヴィント」のパイロット。年齢は29歳で、年増呼ばわりされると怒る。シカログとは恋人同士。



メキボス
MEKIBOSS

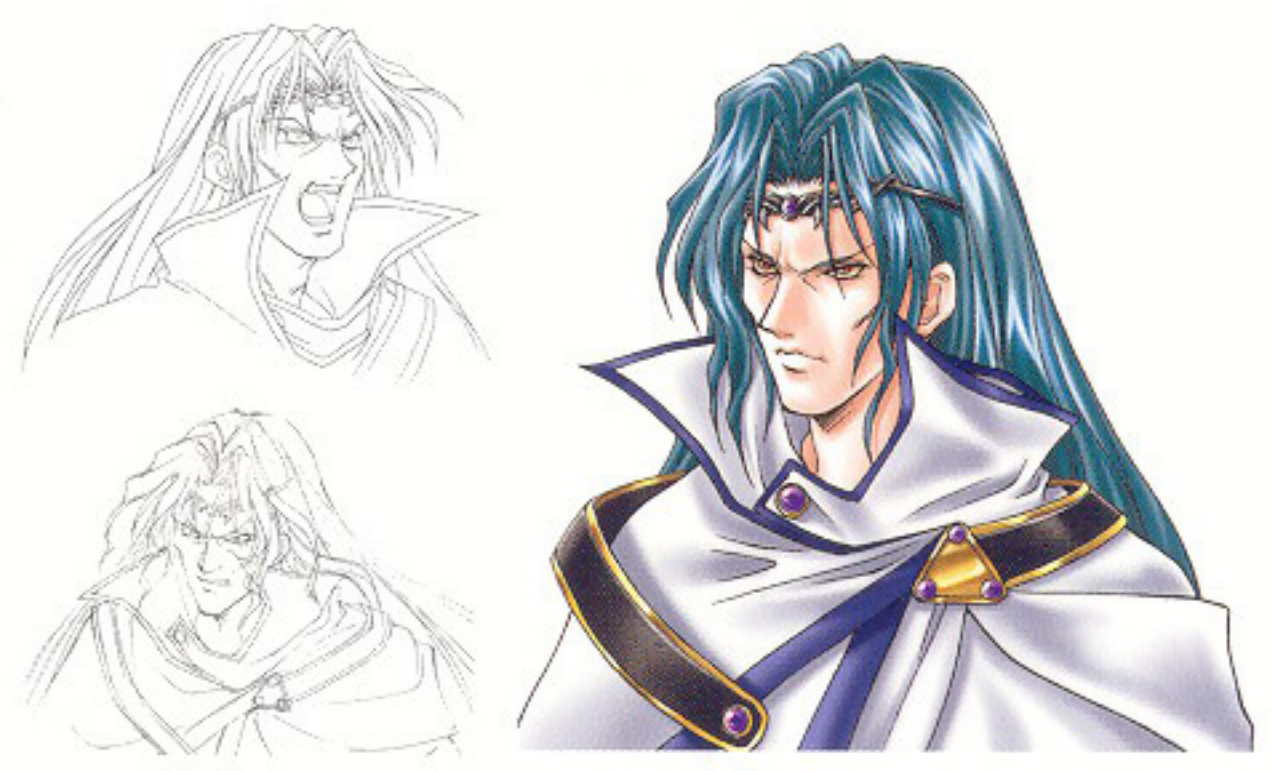
インスペクターの戦闘指揮官で、ウェンドロの実兄。言葉遣いは乱暴だが、根は真面目。冷静に戦況を見極める判断力を持ち、目的を達するためには手段を選ばない冷徹さも持ち合わせる。また、男気もあり、かつて弟のウェンドロをかばって負傷したこともある。搭乗機は地球側の人型機動兵器を参考にして開発された「グレイターキン」。

アクセル・アルマー
AXEL

DC残党の特殊任務実行部隊・特殊処理班の隊長。
優れた操縦技術、体術の持ち主。基本的にはクールだが、内には熱い感情を秘めている。キョウスケ・ナンブと何らかの因縁があるようだが、詳細は不明。そして、キョウスケと決着をつけることに固執し、彼に戦いを挑む。また、アルトアイゼンを採用されなかった名称「ゲシュペンストMk－Ⅲ」と呼ぶ。

ヴィンデル・マウザー
VINDELL

特殊部隊シャドウミラーの指揮官。
力こそが正義という信念を持っており、世界の行く末を案じている、ある意味高潔な人物。そして純粋な軍人。そのため、部下達からの信望は厚い。戦争状態の継続を目論み、そこに戦士である自分達の存在意義を見出そうとする。平和が続くことによって世界が腐敗していくことを憂いている。



レモン・ブロウニング
LEMON

地球連邦軍特殊兵装技術研究所に所属する科学者。
ヴィンデルと行動を共にしている。妖艶で落ち着いた雰囲気を持ち、物事にはどこか他人事のような感じで対処する。特殊任務を遂行するための人造人間「Wシリーズ」の開発を行っている。

エキドナ・イーサッキ

ECHIDNA

DC残党の特殊任務実行部隊に所属する特殊工作員。
人型機動兵器のパイロットでもある。沈着冷静な女性で、どこか人間離れした雰囲気を持つ。
特殊任務実行部隊付きの科学者、レモン・ブロウニングの命令を忠実に守り、行動する。
また、ラミア・ラヴレスと関わり合いを持っているようだが……？

ウォーダン・ユミル

WODAN

DC残党に所属する謎の男。
普段の口数は少ないが、戦場では鬼神の如く戦う。大型機動兵器スレードゲルミルを駆り、キョウスケ達の前に立ち塞がる。その言動や行動はとある人物に似ているが……？

アルフィミィ

ALCHIMIE

謎の敵「アインストシリーズ」の中で唯一人間に近い姿をしており、「ペルゼイン・リヒカイト」という人型機動兵器を駆ってキョウスケ達に接触してくる。
容姿や声がエクセレンと似通っている点など、彼女やキョウスケと何らかの関わりがあると思われるが……。

パーソナルトルーパー開発史

"History of Personal Trooper deveropment"

文:片岡大輔(アークライト)　イラスト:柳瀬敬之
監修:寺田貴信　協力:渡辺匡志　企画:電撃ホビーマガジン編集部・佐藤忠博
初出:メディアワークス刊「電撃スパロボ! Vol.1、Vol.2」

■パーソナルトルーパー開発前夜

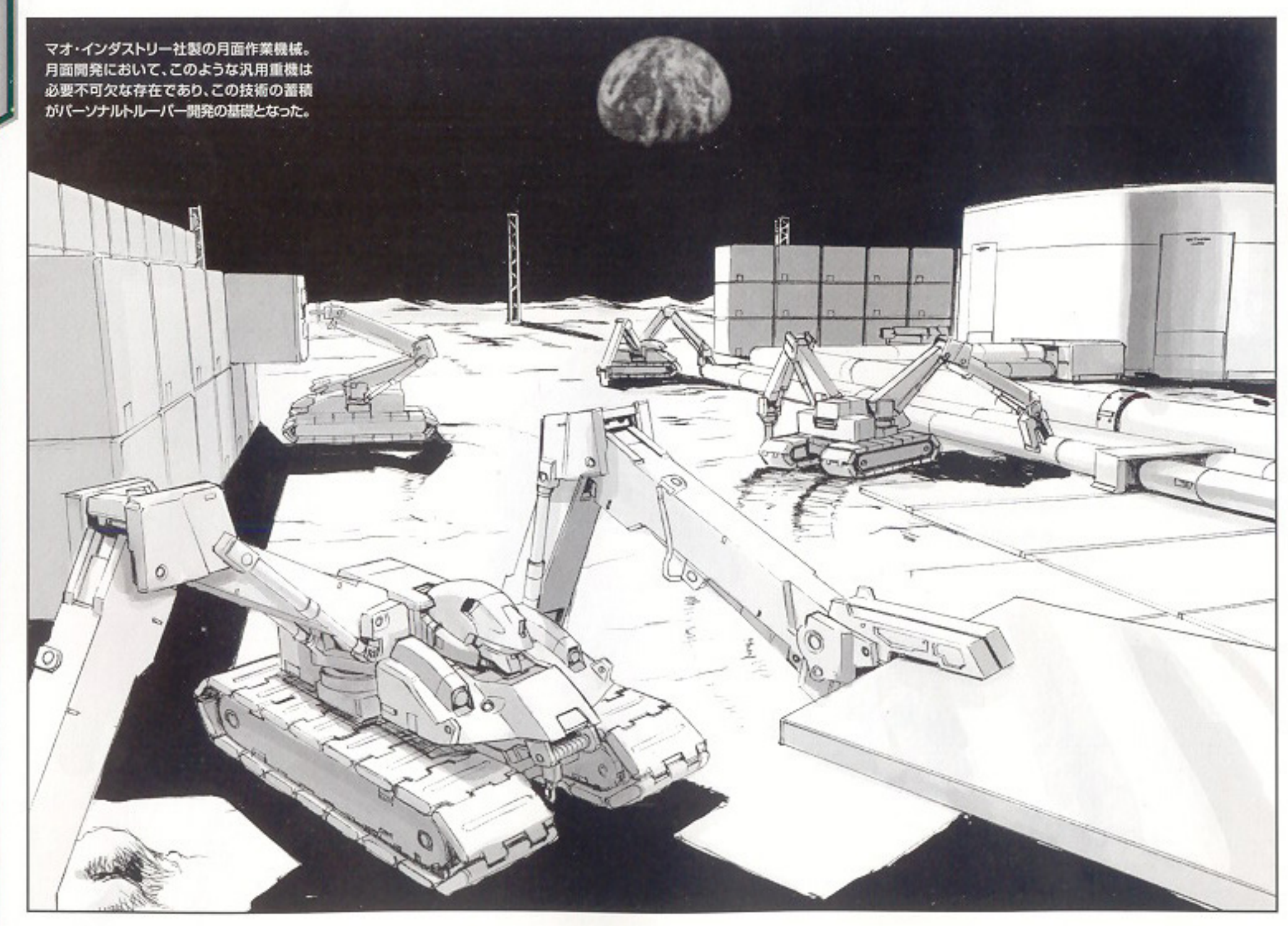
パーソナルトルーパーは、新西暦180年にマオ・インダストリー社によって開発された人類初の人型機動兵器である。新西暦176年、月面の恒久居住都市　セレヴィス・シティの郊外に設立されたマオ・インダストリー社は、月面作業機械などの作業用ロボットの開発・販売を行なう重機メーカーとして創業した。人類が宇宙に進出して約2世紀が経過した現在においても月は宇宙開発の最前線基地であり、月面開発は今なお成長を続ける宇宙産業のひとつであった。

創業当初のマオ・インダストリー社は重機メーカーとしては比較的規模の小さな会社であったが、地球に本社を置く大手の重機メーカーとは違い、本社や開発部門、生産プラントといった全ての会社機能を月に置くことで、月面開発における建設会社や土木業者などの作業重機ユーザーのニーズにいち早く対応することができたため、大手重機メーカーを出し抜き月面でのシェアを拡大していった。

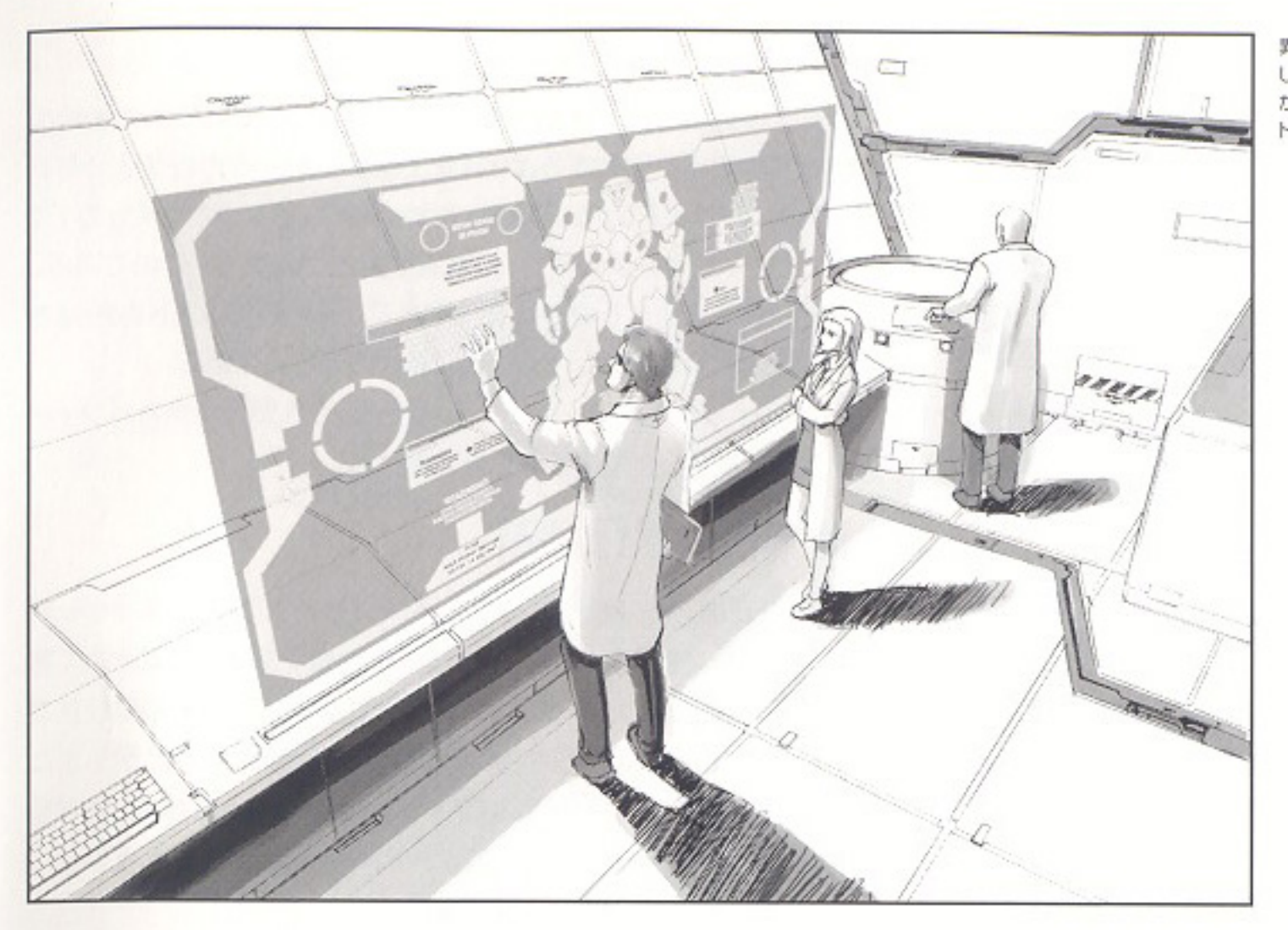
新鋭ながら順調に業績を上げるマオ社は着実に業界内での地位を確立し、創業から数年の後には業界屈指の企業へと成長を果たしたのである。会社の急成長に伴いマオ・インダストリー社は生産プラントや研究施設の増設など設備面の充実とともに、若く優秀なスタッフの雇用も意欲的に行なった。体質の古い大手メーカーに入社して会社の歯車として働かされるよりも、創業間もなく急成長を遂げ、新製品の開発も盛んなマオ・インダストリー社に将来性や魅力を感じる若いエンジニアは多く、マオ社に優秀な人材が集まるのに時間はかからなかった。

そして、集まった優秀な人材の中に後に人型機動兵器開発の中心メンバーとなるロボット工学の若き天才エンジニア"カーク・ハミル"と、同じくロボット工学の特に駆動系の専門家である"マリオン・ラドム"の2人がいたのである。

2人は人型の大型機械、つまり巨大人型ロボット開発に取り組んでいる技術者であり、この2人が入社したことでマオ・インダストリー社の人型機械の研究・開発が本格的に開始された。当初はもちろん月面作業用の人型機械の開発を目的とした研究であったが、この技術の蓄積が数年の後に人類初の人型機動兵器"パーソナルトルーパー"開発への礎となるのである。



マオ・インダストリー社製の月面作業機械。月面開発において、このような汎用重機は必要不可欠な存在であり、この技術の蓄積がパーソナルトルーパー開発の基礎となった。



異星人が保有する人型機動兵器の資料を解析しているマオ社の技術スタッフ。このEOTI機関からもたらされたデータの解析により、パーソナルトルーパー開発につながる多くの発見がなされた。

■作業重機から人型機動兵器へ

人型機動兵器開発の歴史における転機は新西暦179年に訪れた。

この年、南太平洋マーケサズ諸島沖の孤島に謎の隕石「メテオ3」が落下したのだ。調査の結果、隕石は何らかの人工物であり内部には異星人の超技術「Extra Over Technology（以下、EOT）」が封印されていることが判明した。連邦政府はメテオ3調査のための特別機関「EOTI機関」を設立、メテオ3が落下した島に同機関の本部を置くとともに、メテオ3の本格的な調査・解析が開始された。調査が進むにつれ、さまざまなEOTとともに異星人が持つ軍事力の実体も明らかになっていった。

異星人が保有する主力兵器は10メートルを優に越える多脚型機動兵器や人型機動兵器であり、その戦闘力は現時点で人類が保有する兵器の性能を遥かに上回っており、仮に近い将来この異星人が地球に侵攻してきた場合、人類にそれを止める戦力は存在していなかった。EOTI機関の責任者であるビアン・ゾルダーク博士は連邦政府に対して異星人侵略の危険性と、それに対抗するための人型機動兵器開発の必要性を説き、連邦政府もその重要性を理解して連邦軍に対し人型機動兵器の開発を指示した。

こうして連邦軍から数社の重機メーカーに対し人型機動兵器の開発が打診され、競作というかたちで連邦軍主導のもと各社一斉に開発が開始された。この競作を行なう数社の中に月の重機メーカーであるマオ・インダストリー社も含まれていたのである。

人型機動兵器には「パーソナルトルーパー」というコードネームが与えられた。そして連邦軍から競作を行なう重機メーカーに与えられたパーソナルトルーパーの要求スペックは以下のようなものであった。

1.人型で四肢を有し、マニュピレーター（手）を使用して状況により武装の換装が行なえる。
2.人体に近い挙動と反応速度を実現する。
3.外部からの動力供給を必要とせず、内部動力のみで長時間の作戦行動を可能にする。
4.堅牢な装甲を有し、被弾した際も作戦行動を継続できる機体耐久性を有する。
5.全長は20メートル前後で、総重量80トン以下とする。

等々、その要求スペックの一部のみを見ても目標とする機体は非常にハードルの高いものであった。破天荒にも思える連邦軍の要求基準であるが、実はこのスペックはメテオ3から発見された異星人の機動兵器データを基準としたものであった。異星人の兵器に対抗するためには、それと同等かそれを超える性能を実現しなければ意味がなかったのである。

この要求スペックの実現に向け、連邦軍から重機メーカー各社へ超極秘扱いで技術提供および情報の提供が行なわれた。提供されたのはEOTI機関によって解析されたEOT（厳密には、解析が行なわれて理論構築がなされたEOTは、EOTとは呼ばず通常技術として扱われる）の数々。そして、メテオ3から発見された異星人の人型機動兵器の設計図であった。正確には設計図と呼べるほど精密なものではなく、骨格となるフレームや機体の構造などが記された概念的な図面であり、一見しても図面に記された機体構造の意味や機能を読取ることは非常に困難な代物であった。

マオ・インダストリー社は、パーソナルトルーパーの開発にあたりカーク・ハミルとマリオン・ラドムの2名を中心としたプロジェクトチームを結成。社運を賭けた一大プロジェクトとして莫大な資金と人材を投入した。万全の開発体制の基、カーク・ハミルとマリオン・ラドムはまず連邦軍から提供された異星人の人型機動兵器の図面の解析に着手した。すでに人型機械開発のため、これら技術の基礎研究を行なっていた彼等は、この荒唐無稽な図面からパーソナルトルーパー開発につながるさまざまなヒントを読み取り、不可能と思われていた機体開発の課題を一つ一つクリアしていった。

そして、わずか1年という短期間で人類初の人型機動兵器「PTX-001ゲシュペンスト」を完成させたのだった。

■パーソナルトルーパーとは?

パーソナルトルーパーとは、対異星人用に開発された人型機動兵器である。パーソナルトルーパーは当初から"人型"として開発が行なわれた。ではなぜ人型である必要があったのであろうか?その問いに対する答えのひとつとして「異星人が保有する兵器にも人型が含まれていた」という理由もあるが、人型兵器に人型兵器で対抗したから勝てるというものでもない。

連邦軍と、異星人の危険性を指摘したEOTI機関の責任者ビアン・ゾルダーク博士が人型にこだわった理由は他にある。それは人類にとって、自らの肉体を模した人型こそが"究極の汎用性"をもった兵器インターフェイスだったからである。

人類の長い歴史において兵器開発はさまざまな任務を遂行できるように汎用性を持たせる方向へとシフトしていった。旧世紀の航空機を例に上げると、当初は敵の航空機を空中戦で撃破するための高い機動性を持った戦闘機。領空に飛来する敵機を迎撃するための高い加速性を持った迎撃機。地上の目標を攻撃するための対地攻撃能力をもった攻撃機。レーダーに捕捉されることなく目標へ侵攻することができるステルス能力を持ったステルス機など、目的に応じてさまざまな機体が開発されていた。

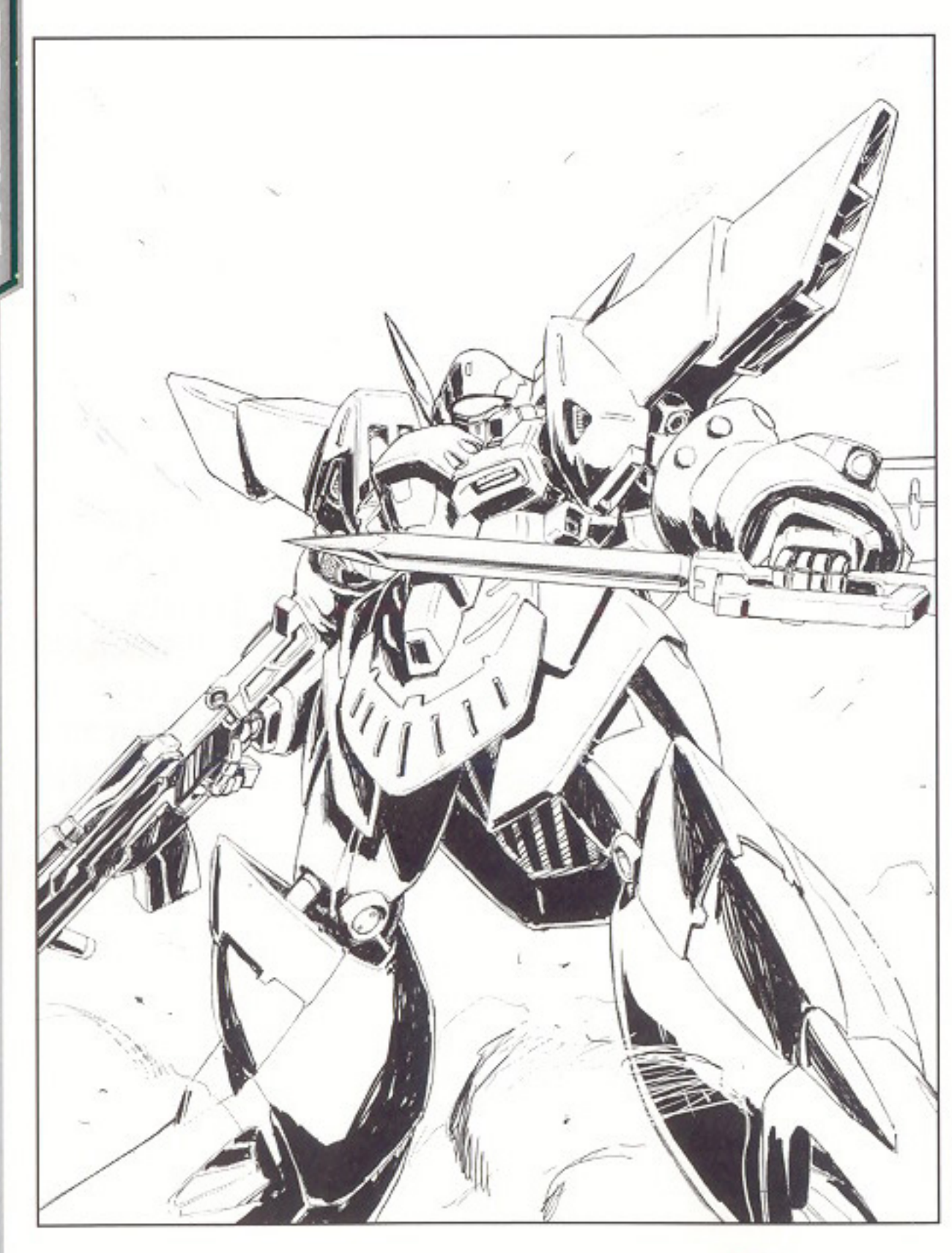
しかし、これら複数の機種をそれぞれ配備するためには莫大なコストが必要となってしまう。そこで、高い機動性と加速性を持ち、対地攻撃能力とステルス能力を有した高性能戦闘機が開発されたのである。これだけ多くの能力を詰め込んだ高性能機だけに、1機当たりの配備コストは当然高くなる。しかし、それでも4種類の異なる航空機を生産するよりは安上がりであり、この機種さえあればあらゆる状況に対応が可能なため、極端な話し機数を4分の1にしたとしても同等の戦闘力・作戦遂行能力が発揮できるのである。数をそろえるよりも質を高めることで、結果的にコストの削減を行ない人的資源の消耗を抑えることができるのである。

つまり「人型のパーソナルトルーパー」それが汎用性とパフォーマンスを追及した最終的な形態であった。

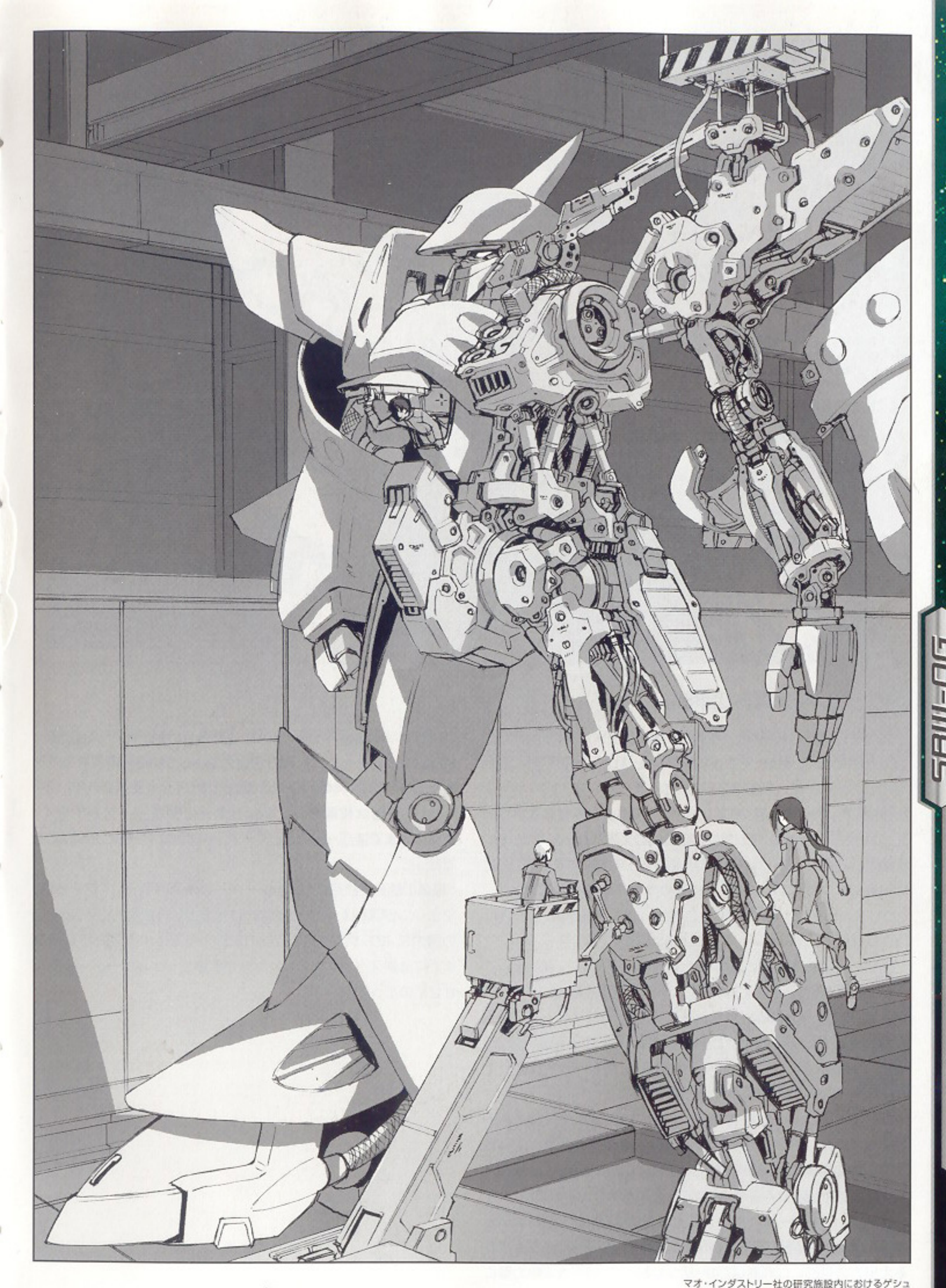
■究極の汎用兵器

人間があたかも銃やナイフを使い分けるように、マニュピレーターで武装を持ち替えることで機体の仕様を変更することなくあらゆる戦術的状況に対応することができる。さらに、未知の存在である異星人と対峙した時、敵の攻撃手段や使用する武器もまた未知の領域であり、実際に異星人との戦闘になった場合、それら状況に柔軟かつ迅速に対応するためにも人型こそが最も汎用性に優れた理想的な形態だったのである。

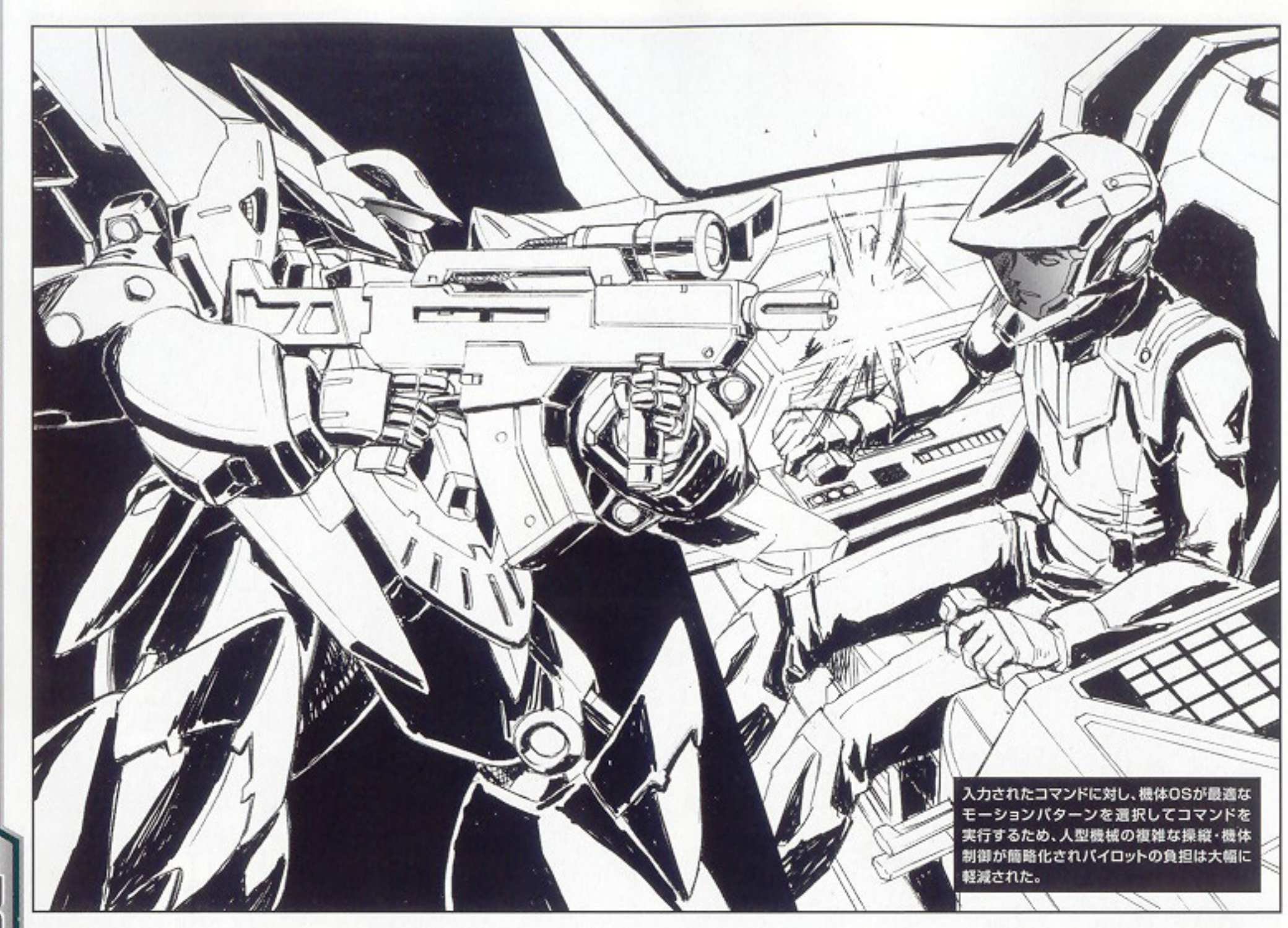
有史以前より続く人類の戦いの歴史、兵器開発の歴史は、このパーソナルトルーパーの開発によって戦いの根本である肉体＝人型へと原点回帰したのである。それが神の意志か悪魔の悪戯かはわからないが、人類は遂に兵器の究極型を手に入れたのである。



試作武装をテストするゲシュペンスト。武器を持ち替えることで、接近戦から遠距離攻撃まであらゆる戦闘状況に対応できる。武装もマシンガンやナイフなど人間用の武器をサイズアップした物が用意された。



マオ・インダストリー社の研究施設内におけるゲシュペンストのフレーム開発風景。人体にこだわった機体構造は、フレームを骨格、さまざまな内部装置を肉、装甲を鎧に見立てて形成されている。



入力されたコマンドに対し、機体OSが最適なモーションパターンを選択してコマンドを実行するため、人型機械の複雑な操縦・機体制御が簡略化されパイロットの負担は大幅に軽減された。

■ゲシュペンストの開発

新西暦179年、連邦軍の人型機動兵器「パーソナルトルーパー」の開発オファーを受けたマオ・インダストリー社は、そのプロジェクトの中心メンバーに入社まもないカーク・ハミルとマリオン・ラドムを抜擢した。カークは若くしてロボット工学博士の称号を取得した天才エンジニアであり、マリオンは駆動系のエキスパートであった。今後マオ・インダストリー社が軍需産業として飛躍するため、会社は彼等の天才的な能力を信じ、開発のすべてを任せたのだった。こうして人類初の人型機動兵器で、後に「ゲシュペンスト」と名付けられるパーソナルトルーパーの開発は開始された。

開発に当たり、最初の課題は動力源の選定であった。候補として上がったのは「燃料電池」「大容量バッテリー」「核融合ジェネレーター」の3種類。燃料電池と大容量バッテリーは、マオ・インダストリー社が製造している月面作業機械でも使用されている動力源で、技術的ノウハウは充分であったが、核融合ジェネレーターは同社にとっては使い馴れない動力源であった。

この3つの動力源には各々長所と短所がある。燃料電池はエネルギー効率が高いクリーンな動力源であるが、民間の作業機械用動力としては問題ないものの軍用として考えた場合は瞬間的に引き出せる最大出力が低く、兵器用の動力源としてはやや力不足であった。

大容量バッテリーはいわゆる巨大な充電式電池で、燃料電池と違い最大出力の調整が自在に行なえるため、戦闘時に必要とされる大出力の供給には問題はなかった。しかし、蓄積できる電力量に上限があるためノーマルパワーで30分程度、フルパワーでは5分に満たない稼動時間で電力が尽きてしまい、やはり軍用としての実用性には問題があった。

結果的に候補として残ったのは、核融合ジェネレーターであった。核融合ジェネレーターは、既存の動力源としては最大のエネルギー変換効率を誇り、発電所や艦船の動力として広く使用されている。しかし、問題は核融合ジェネレーターの装置サイズが大きく、現状のままではパーソナルトルーパーの機体に搭載できないことであった。

機体の開発と核融合ジェネレーターの開発は平行して進められ、マオ・インダストリー社の技術部門は数多の試行錯誤と開発スタッフの努力により、ゲシュペンストの試作1号機による最終稼動試験までに必要スペックを満たした小型核融合ジェネレーターを完成させたのだった。

■機体OSの開発

開発における次なる課題は機体OSの開発であった。人型という前代未聞の形状をもつパーソナルトルーパーの機体OSをどうするべきか?プロジェクトリーダーであるカーク・ハミルの出した答えは「タクティカル・サイバネティクス・オペレーティング・システム[戦術的動作思考型OS]」通称「TC-OS」の開発・導入であった。

この機体OSは、パイロットが「手持ち火器で目標を撃つ」とコマンドを入力した場合、人工知能が目標の位置や距離、自機の姿勢など周囲の状況を瞬時に分析してパイロットが入力したコマンドを処理するための最適な機体モーションを実行するシステムである。

つまり[現在の自機の状況]→[入力されたコマンドの実行]その間をつなぐモーションを、機体に設定されている複数のモーションパターンデータの中から最適と思われるものを人工知能が判断・実行してくれる訳である。これにより、機体の姿勢制御という煩雑な作業を最小限に抑え、パイロットは戦闘の状況判断に集中することができるようになったのである。さらに、モーションパターンデータの種類や実行の優先順位はパイロットが任意に設定できるため、パイロットは自身の好みや操縦のクセに合わせて機体の動きを最適化できるのであった。

この画期的な機体OSは、後に開発されたほとんどの人型機動兵器に採用され、人型機動兵器用機体OSのスタンダードとなる。

これら幾つもの技術的ブレイクスルーを経て、新西暦180年、人類初の人型機動兵器ゲシュペンストは完成する。人型作業機械の開発ノウハウの蓄積があったにしろ、わずか1年の開発期間でここまでの完成度を誇る機体を開発できた事実は、プロジェクトの中心メンバーであるカーク・ハミルとマリオン・ラドムの天才的な能力とともに、マオ・インダストリー社に優秀な技術スタッフが揃っていた結果であろう。

試作機として3機が製造されたゲシュペンストは、連邦軍の評価試験を好成績でクリアし、次世代機動兵器として制式採用されることになる。

マオ社の月面工場前に並べられたロールアウトしたばかりの3機の初代ゲシュペンスト。この後、連邦軍のトライアルを好成績でクリアしたゲシュペンストはパーソナルトルーパーとして制式採用が決定する。

■ゲシュペンスト完成以降

新西暦180年末。マオ・インダストリーで、パーソナルトルーパー「ゲシュペンスト」が3機ロールアウトした。これらの機体は汎用兵器として地上・宇宙の双方で運用できるように設計されていたが、今後の運用を見据えて2号機は宙間戦闘、3号機は地上戦闘を重視した仕様となっていた。そのため、3機には「PTX-001」、「PTX-002」、「PTX-003」という別々の型式番号が与えられた。そして、連邦軍の評価試験にはPTX-001が提出されることになった。

181年に入り、各社で開発された試作機が集められ、評価試験が開始された。宇宙空間、地上、月面など、さまざまな場所やシチュエーションでテストが行なわれ、数百にも及ぶ項目が次々と消化されていった。そして、マオ・インダストリーのPTX-001ゲシュペンストが他社の機体に大きく差をつけ、最も優れた成績を収めた。その結果、パーソナルトルーパーの開発はマオ・インダストリーへ委託されることになったのである。

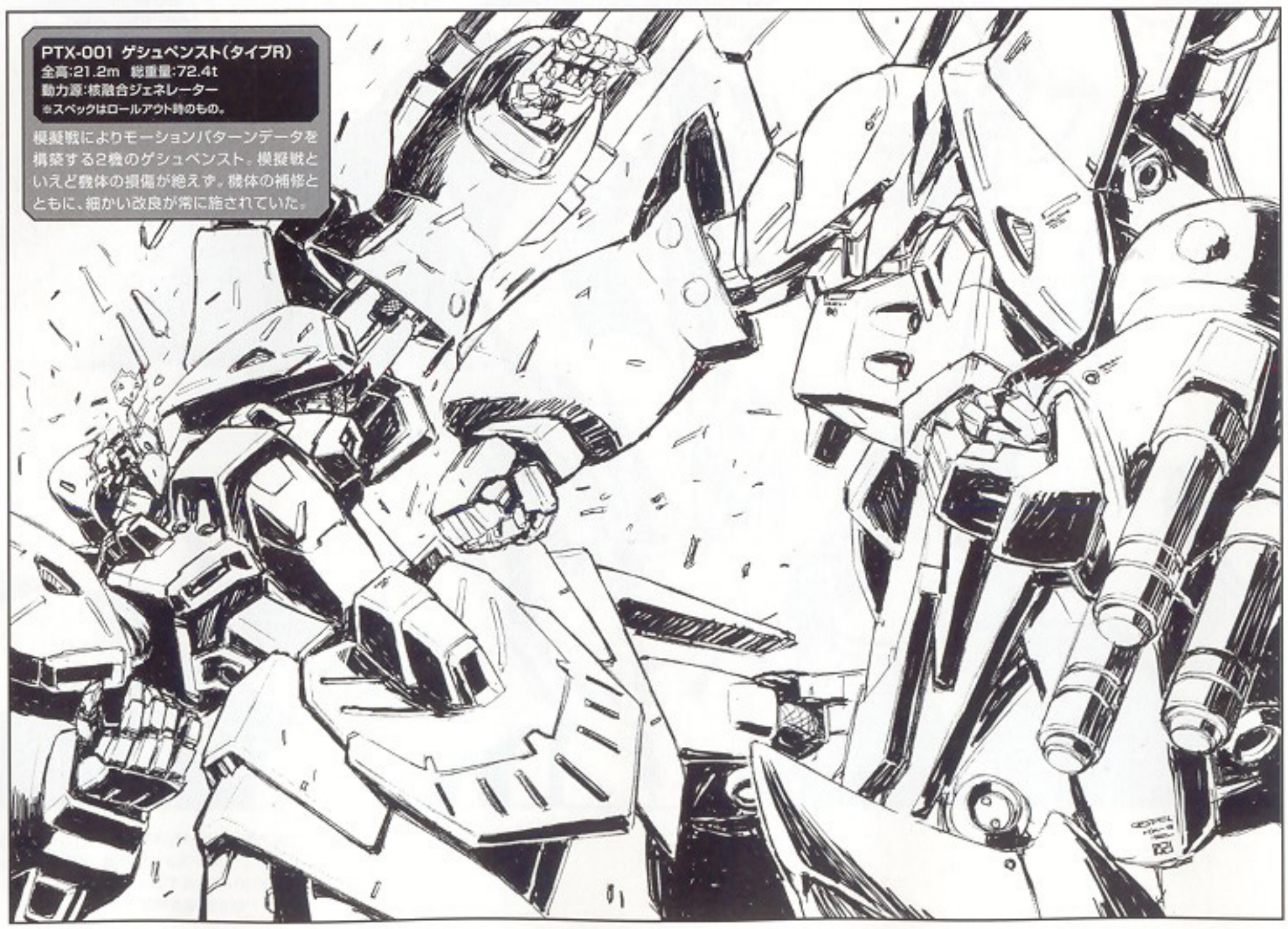
高い評価を得たゲシュペンストであったが、問題がなかったわけではない。大気圏内での運用において、同機は単独で飛行することが出来ず、ジャンプや短時間の滑空といった限定的な空戦能力しか持ち合わせていなかった。そのため、制空戦闘は既存の戦闘機に頼らざるを得ず、連邦軍の目指すパーソナルトルーパー＝万能兵器という理想には到達していなかった。

また、想定よりもやや装甲が薄い点や、現段階でのマニピュレーターによる"手持ち式"の武装では、遠距離戦射撃時に微細ながらブレが生じ、射撃精度が落ちるという欠点もあった。遠距離での射撃精度の低下は、汎用性を追求して固定武装を極力無くしたマオ・インダストリーのコンセプトが裏目にでた結果といえる。この連邦軍からの問題提示を受け、マオ・インダストリーは各種問題点を早急に克服すべく、3機のゲシュペンストの改修に着手した。

001にはタイプR（Rapidity）というコードネームが与えられ、ジャンプ後の滞空時間の延長と運動性・機動性の向上を目的とした改修が施されることになった。002にはタイプS（Strength）というコードネームが与えられ、強力な内蔵火器の搭載と装甲の強化を目的とした改修が施されることになった。003は改修前の001と同じ機体仕様に戻された後、後継機開発のための各種データ収集を目的としたセンサーデバイスが取り付けられ、タイプT（Test）というコードネームが与えられた。

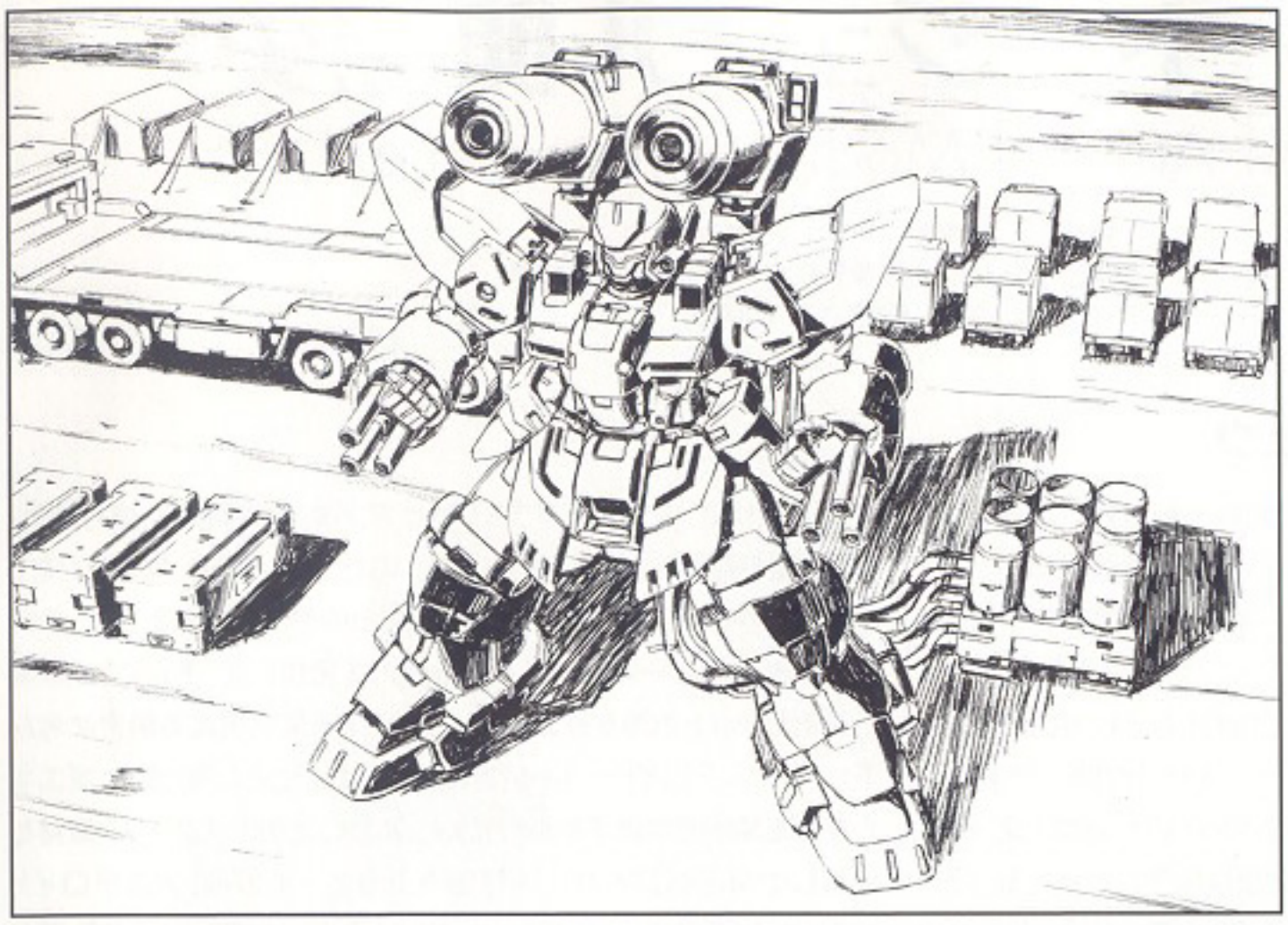
さらに、マオ・インダストリーは今後を見据え、固定武装と重装甲を持った砲撃戦用のパーソナルトルーパーという新たなコンセプトの機体「PTX-004シュッツバルト」と、ゲシュペンストをベースにした量産主力機「PTX-005ビルトシュバイン」の開発を自発的に開始した。

折しも、画期的な動力源「プラズマ・ジェネレーター（※1）」の開発により、002・タイプSの内蔵火器へのエネルギー供給の問題が予想以上に早くクリアされた。そして182年、マオ・インダストリーは改修を終えた002・タイプSと共に、パーソナルトルーパーの今後の開発・量産プランや、戦略・戦術的運用計画を内包した次世代機動兵器構想「PT-X」を連邦軍に提出した。それとほぼ時を同じくして、連邦軍内部では参謀本部のノーマン・スレイ少将が対異星人戦を想定した軍備計画「地球圏防衛計画（※2）」を提案。マオ・インダストリーの「PT-X」構想はこの計画に組み込まれ、パーソナルトルーパーは地球圏防衛の要の一つとして位置付けられた。以後、パーソナルトルーパーの開発は、ノーマン・スレイ少将が議長を務める地球圏防衛委員会の管轄下で進められることになった。



PTX-001 ゲシュペンスト（タイプR）
全高:21.2m 総重量:72.4t
動力源:核融合ジェネレーター
※スペックはロールアウト時のもの。

模擬戦によりモーションパターンデータを構築する2機のゲシュペンスト。模擬戦といえど機体の損傷が絶えず、機体の補修とともに、細かい改良が常に施されていた。



PTX-004-01 シュッツバルト
全高:20.4m　総重量:86.1t
動力源:核融合ジェネレーター

演習場において評価試験中のシュッツバルト。同機はPTX-004-01、02、03の3機が製造されたが、連邦軍での採用が見送られたため4機目以降は製造されていない。

■「PT-X」構想

「PT-X」構想の最終目的は、パーソナルトルーパーを連邦軍の主力兵器として量産することである。もちろん、連邦軍という巨大な組織の主力兵器を、現用兵器とはまったく異なる形状と運用方法を持った人型機動兵器に入れ替えるには、それ相応の時間が必要となる。「PT-X」構想は段階的に目標を設定し、それら技術的・物理的（場合によっては政治的な）問題をクリアしていくことで、パーソナルトルーパーを主力兵器として連邦軍内部に浸透させ、量産化を実現する構想なのである。

「PT-X」構想の初期段階でマオ・インダストリーが設定した大枠の目標は、試作機を含めた少数のパーソナルトルーパーの生産と、それを運用する部隊の設立、機体OS用モーションパターンデータの構築であった。パーソナルトルーパー用の機体OS「タクティカル・サイバネティクス・オペレーティング・システム[戦術的動作思考型OS]」通称「TC-OS」は、例えば「敵機を殴る」というコマンドをパイロットが入力した場合、現在の自機の位置と敵機の位置を計算し、ストレートやフック、アッパーなど機体に蓄積されている複数のモーションパターンデータの中から、最も効果的かつ適切なモーションを人工知能が選択し実行してくれるOSである。

これにより、パイロットは人型機動兵器という難解極まりないマシンの繁雑な操縦から解放され、状況判断に徹して最小限の操作をするだけで、機体自身がオートマチックに適切なモーションを選んでパイロットが意図した行動を達成してくれるのである。しかし、このOSを実現するためには膨大な量のモーションパターンデータの蓄積が不可欠であった。そのために結成された部隊が、モーションパターンデータの構築とパーソナルトルーパーの戦術理論確立を目的とした「特殊戦技教導隊」であった。

特殊戦技教導隊へと召集されたメンバーは、隊長のカーウァイ・ラウ大佐、カイ・キタムラ少佐、テンペスト・ホーカー大尉、ゼンガー・ゾンボルト大尉、エルザム・V・ブランシュタイン大尉、ギリアム・イェーガー中尉の6名で、彼らは厳しい適正基準をクリアした連邦軍屈指の逸材であり、反射神経、動体視力、状況判断能力など優れた身体的能力を兼ね備えたパイロットであった。教導隊には3機のゲシュペンストの内、001・タイプRと002・タイプSが配備され、モーションパターンデータの構築が開始された。初期段階で蓄積されているモーションパターンは、マオ・インダストリーの技術スタッフが入力した基本的な動作のみで、複雑な戦闘状況に対応するには乏しいものだった。ミッション開始当初、教導隊のメンバーはほとんどの操作をマニュアルで行ない、その動作を機体のトレースシステムに記憶させることでモーションパターンを構築していった。

ある程度のデータが蓄積した時点で、機体のTC-OSにデータがフィードバックされ、それを元にゲシュペンスト同士で模擬戦を行なうことで、さらに高度なモーションパターンを構築するという作業が延々と繰り返された。教導隊メンバーの卓越した技量により、マオ・インダストリーの技術スタッフの予想を遥かに越えるスピードでモーションパターンデータは蓄積され、TC-OSの完成度は日増しに高められていった。

一方、182年末。マオ・インダストリー内で開発が進められていたPTX-004シュッツバルトがロールアウトした。大気圏内でのパーソナルトルーパーの弱点として連邦軍から指摘された固定武装と装甲の薄さを克服するため、同機は両肩に砲撃戦用の強力なツイン・ビームカノンを固定装備し、装甲も厚く強化された。早速、連邦軍内でシュッツバルトの評価試験が行われたが、支援機・砲撃戦用機としての性能を認められつつも、生産コストの高さが問題視された。さらに、メンテナンスに多くの時間を要する点が短所として挙げられた。現状で連邦軍が必要としているのは汎用性の高いパーソナルトルーパーであったため、シュッツバルトという支援用のパーソナルトルーパーは時期尚早と判断され、採用と量産は見送られることになった。

※1 ■プラズマ・ジェネレーター
新西暦181年、EOTI機関によって確立された、異星人の超技術であるEOT(Extra Over Technology)研究の成果である重力制御基礎理論を応用することで、開発された核融合ジェネレーターのこと。これまで磁場で炉心内に閉じ込めていた核融合のための高温プラズマを、重力制御を利用して閉じ込めることで、より発電効率の高い核融合を可能にした次世代ジェネレーター。ただし、現時点では製造コストが高く、量産は難しい。PTX-002ゲシュペンスト・タイプSに搭載されたタイプは、炉心を臨界点まで稼動させることで、一時的に高エネルギーを発生させることができ、それを内蔵火器のエネルギー源として使用している。このジェネレーターは後に「プラズマ・リアクター」と名付けられ、グルンガストなどの特殊人型機動兵器用の動力源として使用されている。

※2 ■地球圏防衛計画
新西暦182年に連邦軍参謀本部のノーマン・スレイ少将が提案した対異星人（エアロゲイター）戦を想定した地球圏の軍備・防衛計画。推進拠点として連邦軍北米支部ラングレー基地、連邦軍極東支部伊豆基地、連邦軍南欧支部アビアノ基地の三ケ所が選ばれ、パーソナルトルーパーを含めた対異星人用の軍備・兵器の開発が進められる。

アーマードモジュール開発史

"History of Armard Module deveropment"

文:小野聖二 / 寺田貴信　イラスト:小野聖二
協力:小松知章、片岡大輔(アークライト)　企画:電撃ホビーマガジン編集部・佐藤忠博
初出:メディアワークス刊「電撃スパロボ! Vol.3」

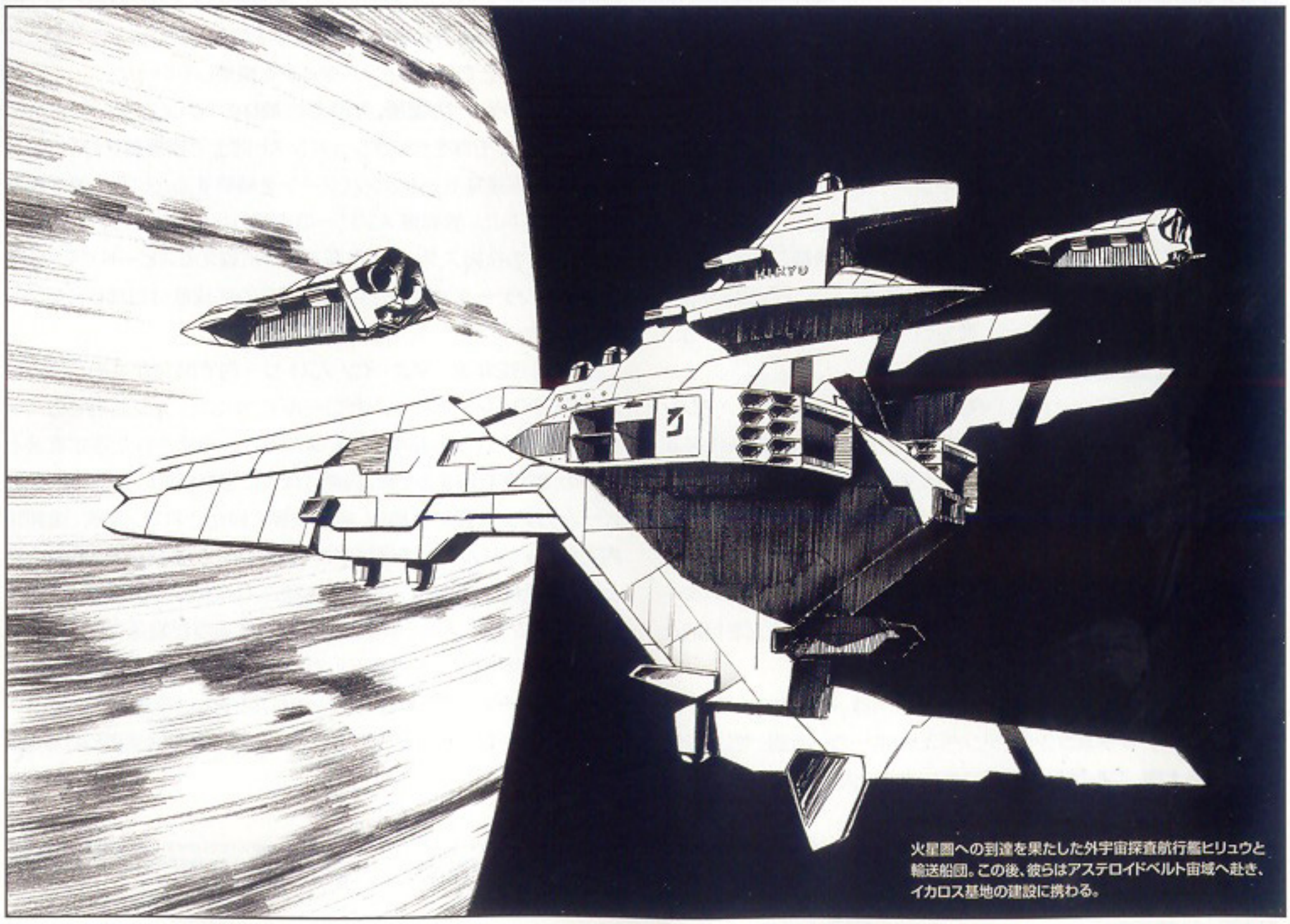
■テスラ・ドライブとヒリュウ

新西暦80年代より火星圏や木星圏へ開発の手を伸ばしつつあった人類は、目的地への往復時間の短縮をクリアすべき課題の一つとして挙げていた。それに応える形で、より効率的な惑星間航行を可能とする推進機関の開発研究が進められたが、ターニングポイントとなったのは新西暦172年に発足した外宇宙探査計画であった。これは1年前の新西暦171年に設立されたテスラ・ライヒ研究所(注1)と宇宙開発公社が共同で立ち上げたプロジェクトであり、当時テスラ研の所長を務めていたビアン・ゾルダーク博士は率先して来たるべき外宇宙航海時代の礎となる画期的な推進装置の開発に着手した。

ビアン以下のプロジェクトメンバーは、重力質量と慣性質量…在来物理学では常に同一であり続けたこの2つ「重さ」と「動かしにくさ」とをそれぞれ別個に変化させる能力を有する装置の開発を行った。さらに、この重力質量・慣性質量分離能を利用して推進剤を加速する高効率反動推進が開発され、人類初の有人外宇宙探査航行艦「ヒリュウ」に搭載されることになった。そして、その推進装置は開発元であるテスラ研の名前をとって「テスラ・ドライブ」と名付けられた。

だが、ヒリュウのテスラ・ドライブはビアン達が当初考えた重力質量・慣性質量分離能を100%保有してはいなかった。つまり、未完成であったわけだが、それでも従来の推進装置との併用によってヒリュウは既存の航宙艦と一線を画する航行能力を発揮した。そして、地球圏近海でのテスト航海を終えたヒリュウに冥王星外宙域の調査命令が下され、アステロイドベルト付近に建設されることになった木星エネルギー定期船団中継基地「イカロス」建設のためのスタッフと資材を搭載した輸送船団と共に地球圏を発った。その後、アステロイドベルトへ無事到達したヒリュウは船団と別れ、単艦で冥王星軌道を目指した。

新西暦179年、冥王星軌道への到達を果たし、太陽系外宙域へ一歩踏み出したヒリュウに悲劇が訪れる。同艦は地球外知的生命体(後のエアロゲイター)のものと思われる機動兵器群の襲撃を受け、中破。多くの犠牲を払った末、地球圏への帰還を余儀なくされた。皮肉にも外宇宙航海時代の幕開けを目指したヒリュウは、異星人との果て無き闘争の火蓋を切って落とすことになってしまったのである。



火星圏への到達を果たした外宇宙探査航行艦ヒリュウと輸送船団。この後、彼らはアステロイドベルト宙域へ赴き、イカロス基地の建設に携わる。

■アーマードモジュールの誕生

新西暦179年、人類は南太平洋マーケサズ諸島に落下した隕石「メテオ3」から異星人の超技術（EOT:Extra Over Technorogy）を手に入れた。そして、EOTの解析と応用研究を目的としたEOTI機関の責任者となったビアンは、隕石内に「収容」されていた一つのモジュールに大きな関心を持った。発見されたモジュールはある種の空間干渉力を持っており、「ドットアレイ」と呼ばれる質量作用点で埋め尽くされた力場を発現した。そのフィールドに依る多様な干渉をもって、異星人の宇宙艦においては推進剤や実体弾の加速から船体保護まで、様々な機能を担っていたであろうと推測された。そして、EOTI機関の研究者達はこれがテスラ・ドライブにとって大いなる福音であると気づいた。何故なら、ただの点（ドット）であったドライブの重力質量・慣性質量分離能を一気にフィールド全体へと拡大できるからである。このEOTを組み込むことによってテスラ・ドライブは小型化にも成功し、超高効率反動推進装置として進化していくことになる。

また、一部の研究者達はドライブの稼働データから「推進剤非依存推進（PIP）機関」が実現可能であるとの大胆な予測を立てており、これが後に「プロジェクトTD（注2）」の主脚の1本となった。

一方、メテオ3の落下によって地球外知的生命体の存在を確信したビアンは、彼らがEOTを地球人類へ提供した目的を推測し、それを実現するまでの過程に機動兵器による侵略行動が組み込まれている可能性が高いと判断した（ご丁寧にメテオ3には異星人が使用していると思われる人型機動兵器の概念図も「収容」されていたのだ）。ビアンの考えは地球連邦政府へ伝えられ、対抗手段としてのパーソナルトルーパーが開発されるきっかけとなったが、彼はある目的のために独自かつ極秘裏にテスラ・ドライブを搭載した新機軸の兵器……パーソナルトルーパーをも凌駕する性能を持った機動兵器の開発に着手した。

早速、EOTI機関内でプロジェクトが立ち上げられ、ロボット工学の若き天才フィリオ・プレスティらがそれに参加することになった。また、以前からメテオ3のEOTに着目し、ビアンと関わりを持っていたイスルギ重工（注3）が資金や機材を提供し、プロジェクトをバックアップした。

プロジェクトチームは、イスルギ重工が開発していた汎航空戦闘機YF-32のアビオニクスを下地とし、テスラ・ドライブとその力学をも統合した半自律制御系の開発に成功した。それが、特異な例を除いて全てのアーマードモジュールに搭載されている「学習オートマトン利用によるEOTと従来型機位制御との統合(Learning-automation Integrated EO-technology and cONventional maNeuvering)」……「リィオーン(LIEOonN)」もしくは「リオン（LIEON」）」システムである。この研究の有効性を認めたビアンは、作業用四肢を持つ初の多用途研究機を「リオン（LION）」と命名。これがその後に連綿と続くことになるアーマードモジュール・リオンシリーズの誕生の瞬間であった。

リオンは汎航空戦闘機YF-32をベースとして開発が進められた。作業用の「手」を装着した同機のデータを検証するEOTI機関のビアン・ゾルダークとフィリオ・プレスティ。

※1 ■テスラ・ライヒ研究所
北米地区コロラドにあるオーバーテクノロジーの総合研究機関。新西暦171年、ビアン・ゾルダークによって設立された。ロボット工学の権威であるジョナサン・カザハラ、エリック・ワン、フィリオ・プレスティなど数々の天才を排出した。EOTI機関の設立に伴い、大半のメンバーが移籍するも独自にEOTの研究やテスラ・ドライブの改良、グルンガストシリーズなど特殊人型機動兵器の開発を続けている。なお、名前の由来は発明家ニコラ・テスラと科学者ウイルヘルム・ライヒの両名。

※2 ■プロジェクトTD
DCで進められていた中型艦艇による恒星間航行計画。責任者であるフィリオ・プレスティ技術少佐の指揮の下、恒星間航行船の開発とそのパイロットの養成も行っている。DC壊滅後はイスルギ重工の支援を受け、連邦軍の管轄下でプロジェクトが続行されており、その成果物である機体やシステムは軍事技術にも転用されている。なお、TDは「テスラ・ドライブ」、「テレストリアル・ドリーム」の意味。

※3 ■イスルギ重工
造船、発電所設備、航空機などを総合的に扱う企業。業界大手で歴史も古い。特に航空宇宙分野では豊富な実績を誇り、軍需産業界でも重要な位置を占める。連邦軍へ主力戦闘機F-32などを供給する一方でEOTI機関と関係を持ち、DC戦争時には秘密裏にリオンシリーズの量産を行った。

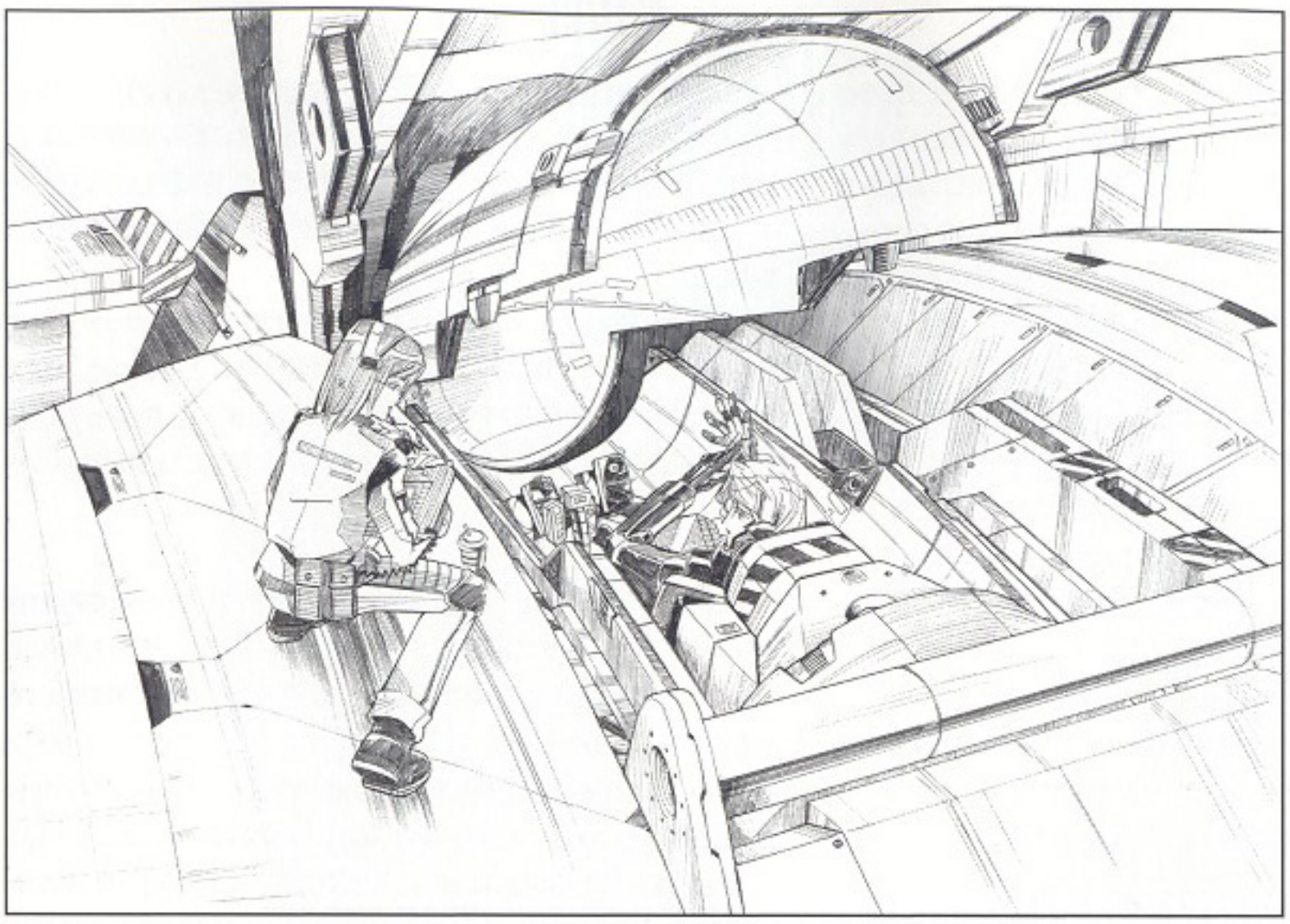
※4 ■DC
正式名称はディバイン・クルセイダーズ。EOTI機関を母体として結成された軍事結社で、アーマードモジュールやF-32などの航空戦力を主体とする。EOTI機関のメンバー以外にも総帥であるビアン・ゾルダークの理念に賛同する連邦政府の要員や連邦軍軍人達が参加しており、コロニー統合軍も協力体制を示している。新西暦186年末に武装蜂起し、DC戦争を巻き起こした。

■DCAM-004 リオン

リオンはイスルギ重工が開発した連邦軍次期主力戦闘機F-32シュヴェールトの構造を継承したDC（注4）初の量産型機動兵器である。同機には小型化したテスラ・ドライブが搭載されており、その重力質量・慣性質量分離能によって重力質量のみを軽減し、小型の下方ジェットにより容易に浮遊しつつ小面積の主翼の揚力で飛行している。ただし、推力は別のデバイスで確保されており、降着脚を兼ねた特異な機体下部には大型の在来型エンジンが主機とて組み込まれている。

また、下部には大胆な地形追随を可能とする多数の姿勢制御用スラスターが組み込まれており、地表戦闘をもこなす。しかしながら、地上での接近戦はあまり得意でなく、特に格闘戦ではパーソナルトルーパーに大きく引けを取った。

DC戦争初期から投入されたリオンは、テスラ・ドライブ搭載機としては極めて単純な構造であり、戦時下の実戦データを元にテスラ・ドライブ制御系ソフトウェアのバージョンアップを主軸にした能力向上が行われ、最終的には後継機体で実用化されたフィールド駆動による「装甲強化」を実現するまでに至った。また、武装面を改良したタイプFや機動性能強化型のタイプV以外にも局地戦兵器として特化した機種（陸上戦闘能力を重視したタイプL：通称ランドリオンなど）がいくつか存在している。



四肢制御のためのLIEONシステムを搭載したリオンのコックピットモジュール。基本的に後のアーマードモジュールは、これと同じ物を使用している。

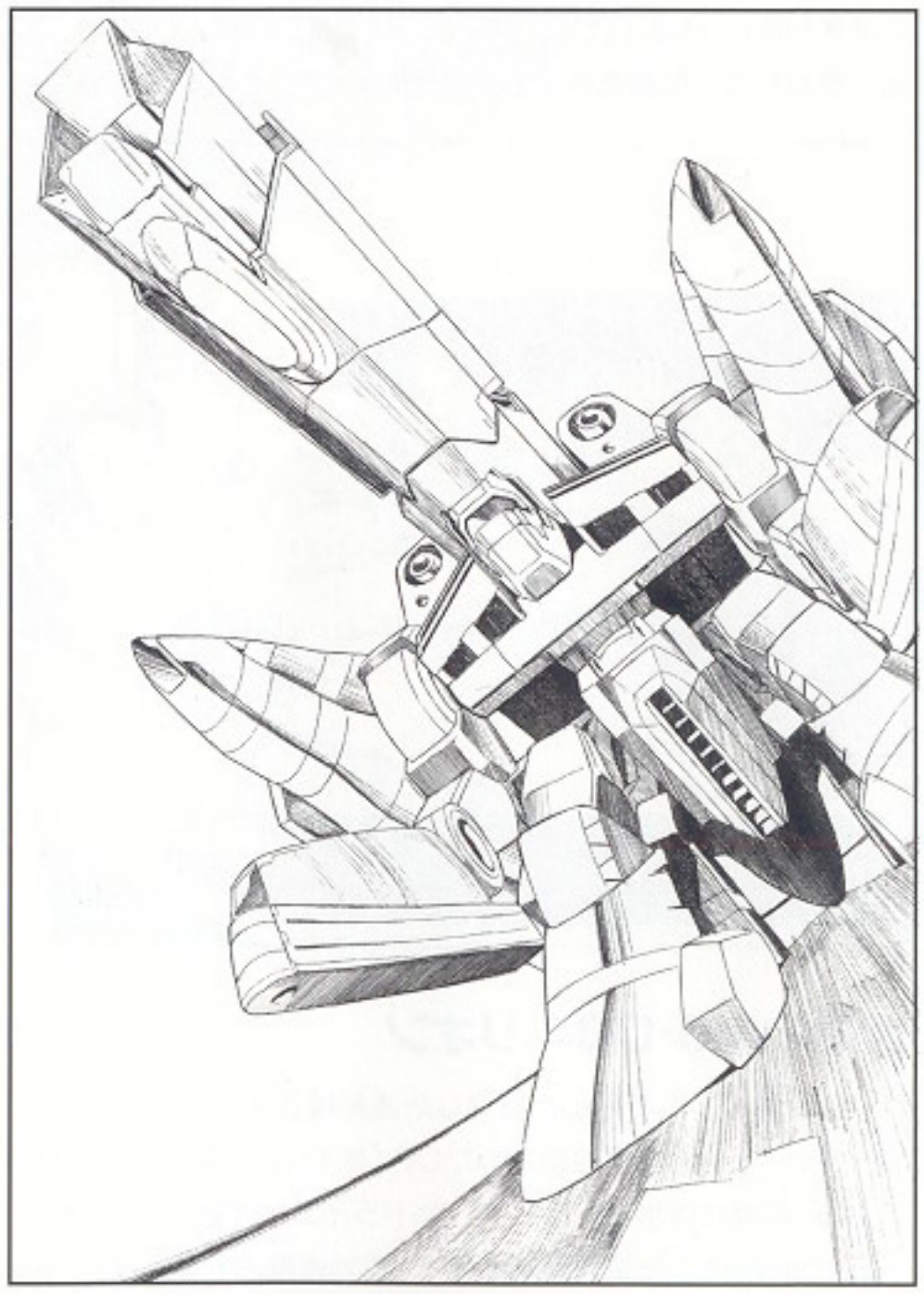
■DCAM-005 バレリオン

バレリオンは長距離からの火力支援を目的として開発されたアーマードモジュールであり、初期リオン系列3機種の中で唯一の単能機である。外部装甲など各部はT（テスラ・ドライブ）-ドットアレイで強化されており、それが最小限の構造材で強固な機体を実現せしめている。故に必須モジュール以外は比較的単純な構造となったため整備性が高く、コストも量産可能な範囲に抑えられている。これは同じような目的で作られていながら、結局この2条件に縛られてしまった砲撃戦用パーソナルトルーパー・PTX-004シュッツバルトとは対照的である（例えば、シュッツバルトの脚は歩行するためのものであるが、バレリオンのそれは降着脚であり、砲の可動台座に過ぎない。よって内部機構は後者の方が単純であり、それ故に整備性が高く、コストも低い）。

また、バレリオンに限らずアーマードモジュールは基本的に質量弾を多用しており、携行弾数を増やす意味も兼ねて軽量弾を超高速で投射することにより打撃力を確保している。ただし、軽高速砲弾は大気圏内において様々な不利を背負ってしまうことになり、それは砲外弾道が長距離となるバレリオンにおいて看過できない問題であった。しかし、T（テスラ・ドライブ）-ドットアレイで機外に構築した不可視延長砲身をもって実質的な砲外弾道を劇的に短縮することで、かなりの補償が可能となった。

もっともバレリオンは目的のために不要不急の要素を切り捨てることによって成立した機体であり、試作機のロールアウト時点では近接防御火力すら与えられていなかった。その後、両腕部とも言える連装ビームキャノンが付け加えられたが、格闘戦を行うことは不可能に近く、パーソナルトルーパーなどに肉薄された場合、実効力のある対抗手段を打てなかった。

それでもバレリオンは、長距離支援機が決定的に不足していた地球連邦軍を効果的に痛めつけていった。リオンが上空から抑えつけている所にバレリオンが大火力を放り込む……半ばパターン化していてすら、連邦軍はこの戦術への対応に苦慮し続けた。



DCAM-005 バレリオン
全高:23.6m　重量:40.7t
動力源:プラズマジェネレーター

空中戦車あるいは浮遊砲台とも呼べる砲撃戦用重アーマードモジュール。固定施設によって地表へ大規模拠点を置くばかりの連邦軍に対し、効果的な打撃を与えた。

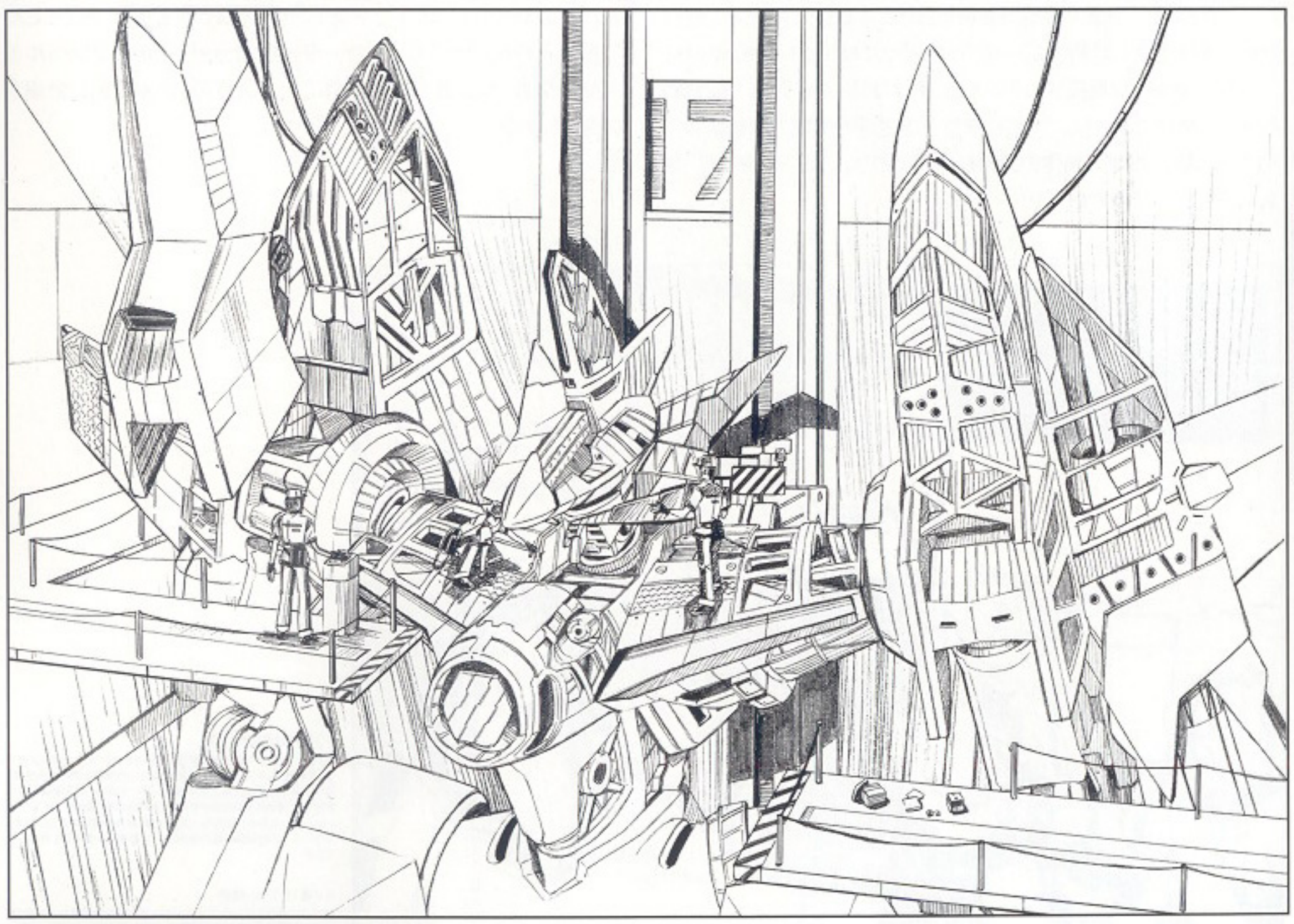
■DCAM-006 ガーリオン

ガーリオンは人型機動兵器との戦闘を前提として設計されており、耐弾性の向上とあいまって局地戦にも対応した高汎用・高性能機である。DC戦争初期には指揮官用のアーマードモジュールとして戦線へ投入され、リオンで構成された主力編隊に後れを取らない高速戦域管制機として活躍した。ただ、リオンより高価なため、ガーリオンのみで部隊を編成したケースはDC親衛隊ラストバタリオンなど稀にしかなかった。そのため、DC戦争末期には指揮管制能を始めとする仕様をいくつかオミットし、コストを下げた機体が量産された。

ガーリオンにはT（テスラ・ドライブ）-ドットアレイ応用開発の内、重防御プランが割り当てられ、同アレイを斥力および慣性質量制御場として構成し、機体の「楯」としている。本機の特徴の一つである「ソニック・ブレイカー」も基本的に同じ枠組みで捉えられ、両肩に専用の力場誘導子を増設することで機体前方の局所へ電磁誘導加熱した金属粒子を固定し、攻撃を行っている。

開発当初、局地戦への対応と指揮管制とを同一のアーキタイプに盛り込むとは考えられていなかった。もとより局地戦型は卓越した耐弾性を要求していたのだが、指揮はそもそも後方の母艦や指揮管制機が担う想定だったのである。しかし、様々な対エアロゲイター戦略・戦術を検討してゆくなかで、DCはすぐさまそうした従来型の管制機が任に堪えないと気づいた。そして後方ではなく主力編隊の直近で扇の要をつとめる新しいタイプの指揮管制機には、それ相応の生存性が必須であると試算された。こうして両者が耐弾という要求を共有した結果、両者のアーキタイプは一本化されたのである。そしてこれを実現まで漕ぎ着けさせたのが、アーマードモジュールの特徴である卓越したモジュール構造であった。

また、ガーリオンでは先行2機種の欠点として挙げられていた武装オプションの少なさの問題が改善され、LIEONシステムによる四肢制御の進化と伴って白兵戦用ブレードを始めとする様々な武器の使用が可能となった。



DCAM-006 ガーリオン
全高:18.9m　重量:30.4t

アイドネウス島にて開発中のガーリオン。指揮管制と局地戦への対応という必ずしも同一でない要素を盛り込んだため、開発・量産が難航。その結果、DC戦争での実戦配備がやや遅れた。

SRX開発史

"History of Super Robot X-type deveropment"

文:片岡大輔(アークライト)　イラスト:柳瀬敬之
監修:寺田貴信　協力:渡辺匡志　企画:電撃ホビーマガジン編集部・佐藤忠博
初出:メディアワークス刊「電撃スパロボ! Vol.4」

■「SRX計画」の構想

新西暦185年。地球連邦軍参謀本部のノーマン・スレイ少将の提案により「SRX計画」は開始される。ノーマンはいち早く異星人の脅威に対し、その危険性を認識し対策を講じた人物で、「地球圏防衛計画(※1)」の発案者でもある。「地球圏防衛計画」では、すでに「PT-X(※2)」と呼ばれる対異星人戦を想定した人型機動兵器「パーソナルトルーパー(以下、PT)」の開発・量産計画である次世代機動兵器構想が進行していた。

しかし、「PT-X」構想はPTを連邦軍の主力兵器とするためのハードおよびソフト面での環境整備を目的とした計画であり、「SRX計画」は「PT-X」とは別のコンセプトを持った計画として発足した。

「SRX計画」が目指すもの。それは「対異星人戦闘用人型機動兵器」の開発であった。つまり、単体での性能と戦闘力を極限まで高めた一撃必殺型の機体の開発が目的であり、"量"よりも"質"を高めるための計画であった。

「SRX計画」の推進本部には、「地球圏防衛計画」の拠点の一つである連邦軍極東支部伊豆基地が選ばれ、計画総責任者には同基地の司令官であるレイカー・ランドルフ准将が任命された。レイカーは知将と称される辣腕を発揮し、すぐさま人材の確保に乗り出した。

PTの開発メーカーであるマオ・インダストリー社から、PTの生みの親でありマオ社のPT開発部部長であるカーク・ハミル。「EOT(Extra Over Technology=異星人の超技術)」の総合研究機関で特機(スーパーロボット)開発も盛んなテスラ・ライヒ研究所から、ロバート・H・オオミヤを「SRX計画」の主要メンバーとして招き入れた。他にもレイカー准将は各分野からトップレベルの人材を集め、新西暦185年6月に「SRX計画」は本格的に計画をスタートする。

開発ミーティングで、SRXの概念説明を行なうイングラム・プリスケン少佐。
マオ社のPT開発部部長カーク・ミハル。テスラ・ライヒ研究所のロバート・H・オオミヤ。日本特殊脳医学研究所のケンゾウ・コバヤシ博士など、世界最高の頭脳がSRX開発メンバーとしてミーティングに参加している。

※1■地球圏防衛計画
新西暦182年1月に連邦軍参謀本部のノーマン・スレイ少将が提案した対異星人(エアロゲイター)戦を想定した地球圏の軍備・防衛計画。推進拠点として連邦軍北米支部ラングレー基地、連邦軍極東支部伊豆基地、連邦軍南欧支部アビアノ基地の三ヶ所が選ばれ、パーソナルトルーパーを含めた対異星人用の軍備・兵器の開発が進められる。スペースノア級戦闘母艦の建造も、この計画の一環として行なわれている。

※2■「PT-X」構想
「PT-X」構想とは、パーソナルトルーパーを主力兵器として連邦軍内部に浸透させ、量産化を実現する構想。段階的に目標を設定し、それら技術的・物理的な問題をクリアしていくことを目標としている。

■「SRX計画」の構想

「SRX計画」は、あくまでも人型機動兵器の質(性能と戦闘力)の向上が目的であり、単一の機体開発を意図したものではない。しかし、計画を推進するにあたり、「SRX計画」の理想形と言える「対異星人戦闘用人型機動兵器」=「究極のPT」の開発が計画の主軸とされた。これが後に開発される「SRX(SUPER ROBOT X-TYPE)」である。

「特殊人型機動兵器(特機/スーパーロボット)とパーソナルトルーパーの特徴を兼ね備え、1機もしくは分離状態の3機で戦局を変え得る人型機動兵器」それが、SRXに与えられた開発コンセプトであった。SRXは通常サイズのPT3機が合体して、全高50メートル級の特機タイプの機体となる分離合体型ロボットと位置付けられた。これは、戦局に応じて分離・合体することでSRXが持つ戦闘力を柔軟かつ有効に運用するための方策であった。戦闘力の低い多数の敵に対しては分離して広範囲に戦力を展開し、少数の強力な敵に

対しては合体してSRXが持つ戦闘力を集中する。SRXには対異星人用の決戦兵器として、高い要望が盛り込まれたのである。

しかし、これらの要望は開発者にとっては大変な難題であった。PTが変形合体して特機となる……。このコンセプトには、「SRX計画」の主要メンバーであるカークやロバートらさすがに頭を悩ませた。ロボット工学の常識からいっても、PTを3機合体させてスーパーロボットを成立させるなど、機体の構造的にも土台無理な要求であった。この不可能とも思えた難題に光明を与えたのは、「SRX計画」始動から程なくして極東支部へ配属となった連邦軍のイングラム・プリスケン少佐であった。彼の参画により、「SRX計画」は前進を開始する。また、SRXとは別にグルンガストなどの新型機の開発もSRX計画の一環として行われることになったが、ここでは割愛する。

■イングラム・プリスケン少佐

イングラム・プリスケン少佐はPT運用及びEOT関連の研究者として、連邦軍に入隊した人物である。彼の経歴については謎も多いが、その知識と能力をレイカーに見込まれ、SRX計画の開発担当責任者という要職へ抜擢された。それは異例中の異例であったが、彼の知識や能力はスタッフ達を納得させるのに充分なものであった。

イングラムはSRX開発へ、自身が持つEOT関連の知識を積極的に取り入れ、既存の技術では打破できない問題を解決していった。彼は以前から人間が持つ特殊な思念の力「念動力」に興味を持っており、それをSRXの制御方法に組み入れようと考えた。そこで「T-LINKシステム」と呼ばれる念動力感知増幅装置を開発したケンゾウ・コバヤシ博士と、彼の娘でありシステムのオペレーターであるアヤ・コバヤシがSRX計画へ招聘されることになった。だが、それに対し、カークやロバートらは疑問を抱いた。何故なら、T-LINKシステムは念動力という特殊能力を持った人間にしか扱えず、さらにシステムそのものも未完成だったからである。なおかつ、T-LINKシステムの導入はSRX計画の機体のパイロットが念動力者に限定されるという問題点を励起することになった。しかし、イングラムは半ば強引にT-LINKシステムの採用を決定し、スタッフ達はそれに従った。

■Rシリーズ

SRXには、先にテスラ・ライヒ研究所で開発された「SRG-00グルンガスト零式（※3）」同様に一撃必殺の攻撃力を秘めた50メートル級の機体であることが求められた。一方、今後連邦軍で主力となるPTは20メートル級の機体であり、決戦兵器としてあらゆる場所・地域で作戦行動を行なうために、PT運用として整備されるであろう施設・艦艇等を利用できることが望ましかった。それらの理由から、SRXは20メートル級のPT3機を合体させ50メートル級の合体ロボットとなることが決定したのである。

SRXを構成する3機のPTには「REAL PERSONAL TROOPER」という名前が与えられ、一括して「Rシリーズ」と呼ばれることになった。そして、それぞれの機体には「R-1」「R-2」「R-3」というコードネームが与えられ、開発が開始された。

まずR-1の開発に着手した開発スタッフは、開発リスク軽減のため現時点での最新型PTであるRTX-009のデータを基にして機体を製作した。しかし、合体という前人未到の機体ギミックを実現するため、R-2、R-3に関してはフレームの基礎構造から設計・開発が行なわれることとなった。変形合体機構を内蔵したPTが通常のPT並の性能を発揮すること自体、技術的にも非常に難しい課題であったが、Rシリーズの3機にはPTに分離した状態でも量産型PTを上回る性能が求められた。合体状態でも分離状態でも最高の性能を発揮する人型機動兵器……それが「対異星人戦闘用人型機動決戦兵器」として開発されるSRXの宿命であった。

開発責任者であるイングラムは、Rシリーズ3機がひとつのPT小隊として機能するようにそれぞれの機体に特色を持たせ、かつ独立したPTとしても一騎当千の性能を発揮できるように、カークやロバートら主要開発スタッフと協議を重ねた。地球圏最高レベルの頭脳を結集し、最高の開発体制で開発が行なわれたRシリーズは、他に例を見ない高性能PTとして完成されつつあった。

「特機とPTの特徴を兼ね備え、1機もしくは分離状態の3機で戦局を変え得る人型機動兵器」というコンセプトにより開発された3機のRシリーズ「R-1」「R-2」「R-3」。おのおのがPTとして一騎当千の性能を持ち、さらに変形・合体することでSRXとなる。

REAL PERSONAL TROOPER TYPE-1　全高:19.1m　重量:50.2t
備考:装甲にゾル・オリハルコニウムを使用、T-LINKシステム搭載、飛行形態R-ウイングに変形可能

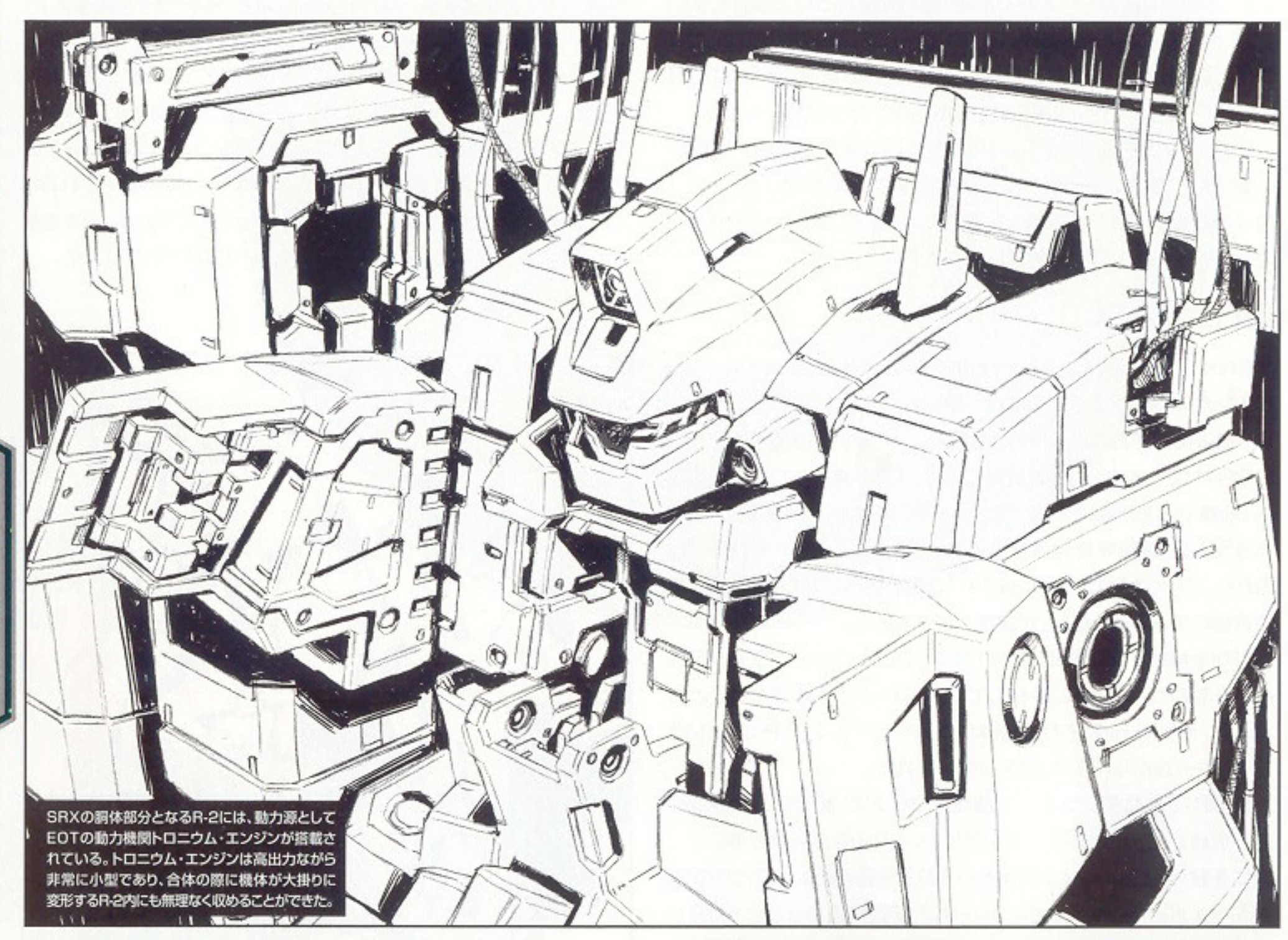
Rシリーズの中では、比較的標準型PTに近い仕様の機体となっており、単体のPTとして見た場合、現時点で最も完成された機体のひとつといえる。R-1には、開発のモデルマシンとなったPTX-006ビルトラプター同様、飛行形態（R-ウィング）への変形機構が備わっており、Rシリーズ内では機動性の高さを活かした威力偵察や奇襲攻撃など先鋒的な役割を担う。PT形態での武装は近距離兵器が多く、格闘戦を得意としている。合体時には、R-1のパイロットがSRXのメインパイロットを務める。R-1、SRX双方で念動力兵器を使用するため、R-1のパイロットには念動力が必須となる。

※3■グルンガスト零式
地球圏防衛計画委員会の依頼により、テスラ・ライヒ研究所が開発した全高50メートルにもおよぶ対異星人戦闘用の特殊人型機動兵器（スーパーロボット）タイプのPT。一時的に強大なエネルギーを得ることができる動力源「プラズマ・リアクター」を装備しており、通常型PTを遥かに上回る一撃必殺の攻撃力を有している。この機体の開発により特機＝スーパーロボットという新たなカテゴリーが確立された。

■SRXを構成する超技術

SRXには、幾つもの超技術が使用されている。合体ロボットという無謀な要求の実現のため。また異星人の兵器と戦えるだけの戦闘力を得るためにも、EOTなどの超技術の導入は不可欠であった。新西暦に入って2世紀近くが経過し、人類の軍事技術レベルも急速に進歩していたが、メテオ3から得られたEOTの技術レベルには遠く及ばない点があった。しかし、イングラムがもたらしたEOTのノウハウと、T-LINKシステムなどの技術を機体に導入することで、SRXは高性能のスーパーロボットとして徐々に完成へと近付きつつあった。

SRXにいくつもの超技術が組み込まれているが、その中でも代表的な物は「トロニウム・エンジン」「ゾル・オリハルコニウム」「T-LINKシステム」の3つであろう。トロニウム・エンジンはSRXの動力源、ゾル・オリハルコニウムは装甲材およびZ・Oソードなどの武装にも利用されている特殊金属だ。また、T-LINKシステムは、機体の合体維持や各種攻撃などSRXの制御面で重要な役割を果たすものとなっている。これらのどれを欠いてもSRXは成立しなかったと言えるが、同時に超技術を応用したシステムの制御が困難であるという問題点が発生した。



SRXの胴体部分となるR-2には、動力源としてEOTの動力機関トロニウム・エンジンが搭載されている。トロニウム・エンジンは高出力ながら非常に小型であり、合体の際に機体が大掛りに変形するR-2内にも無理なく収めることができた。

■トロニウム・エンジン

メテオ3より発見された物質「トロニウム」をパワーソースとした動力機関。トロニウムは米粒大の金属物質で、内部には膨大なエネルギーが内包されている。その無尽蔵ともいえるエネルギーを取り出し動力に転換する装置がトロニウム・エンジンである。

時間単位あたりのエネルギー変換量は計測不可能なほど膨大であるが、人類の技術レベルでは発生する高エネルギーに対してエンジンの素材が耐えられないため、出力にはリミッターがかけられている。また、出力を上げると加速度的にエネルギーの発生量が上昇するため、出力調整が非常に難しいという問題を抱えている。そのため、最大出力での稼働時間は約3分が限度とされた。

トロニウム自体も未だ完全には解明されていない物質であるが、地球圏に現存する動力機関の中では最大級の出力を持っており、制限があってもSRXの動力源としてこれ以上の最適な物はなかった。

REAL PERSONAL TROOPER TYPE-2 全高:18.2m 重量:80.4t
備考:トロニウム・エンジン搭載

Rシリーズの2号機で、砲撃戦用の重量級PT。SRXの動力源となるEOTの動力機関トロニウム・エンジンを搭載しているため、高出力のビーム兵器を装備することができる。Rシリーズの中では、大火力による制圧射撃や味方機への砲撃支援の役割を担う。装甲も厚く防御力は高いが、反面機体重量の増加により運動性はやや低い。そのため歩行による移動では十分な移動力が得られないため、地上では脚部に装備された熱核ジェットエンジンによるホバリング移動が用いられている。合体時、R-2のパイロットはトロニウム・エンジンの出力調整と、R-1、R-3両パイロットのメディカルチェックを行なう。R-2にはT-LINKシステムが搭載されていないため、パイロットは念動力者である必要はない。

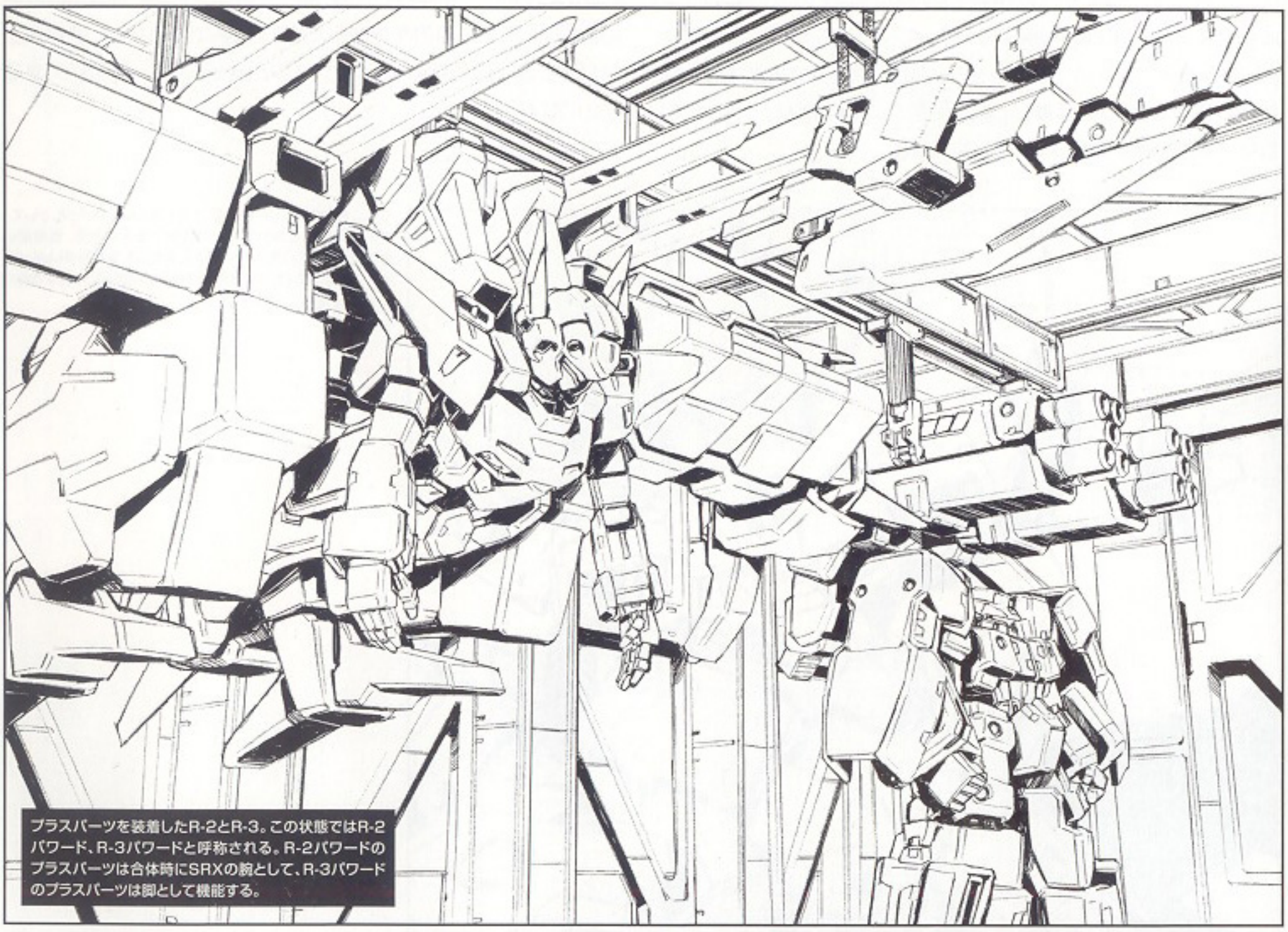
■ゾル・オリハルコニウム　[zol orichalconium]

ゾル・オリハルコニウムは液体状金属のレアメタルである。

通常の金属のように温度による相転移が生じないゾル・オリハルコニウムは、一般的な方法での加工・精製が行なえない。しかし、ゾル・オリハルコニウムは結晶化によって液体から固体へ硬化するという特性が発見された。結晶化は種結晶となる「結晶核」を投入することで発生し、「結晶核」の種類によってさまざまな性質の金属結晶（固体）へと硬化する。

Z・Oソード（ゾル・オリハルコニウム・ソード）の中には、有機高分子でできた「結晶核」が埋め込まれている。有機高分子の「結晶核」は、ゾル・オリハルコニウム内で種結晶となり、ゾル・オリハルコニウムを種結晶に対応した構造の金属結晶へと変質させる。有機高分子の素子は、有機物であるため電流などある種の電気信号を流すことによって変質させることができる。そのため「結晶核」となる有機高分子には、あらかじめゾル・オリハルコニウムの種結晶としての結晶パターンを複数記憶させてあり、電気信号でこの結晶化をON・OFFし、ゾル・オリハルコニウムの形や硬度を自在に変えている。

R-1などの装甲に使用されているゾル・オリハルコニウムは、装甲材として最適な硬度や靭性をもった金属結晶となるような「結晶核」を投入して結晶化させたものである。なお、ゾル・オリハルコニウムの加工・精製方法はイングラムがもたらしたものであるが、SRX計画の中でも極秘とされ、主要メンバーにもその詳細は知らされていない。



プラスパーツを装着したR-2とR-3。この状態ではR-2パワード、R-3パワードと呼称される。R-2パワードのプラスパーツは合体時にSRXの腕として、R-3パワードのプラスパーツは脚として機能する。

■T-LINKシステム（念動力感知増幅装置）

T-LINKシステム（テレキネシス・リンク・システム）はケンゾウ・コバヤシ博士が開発した人の思念作用を司る特殊な深層脳波（念動力）を感知・増幅させる装置である。念動力の強い者は、このT-LINKシステムにより「念動フィールド」という力場を発生させることができる。これは、力場自体を敵にぶつけて攻撃を行なったり、見えない壁を形成してバリアを張ったりと、さまざまな用途に転用することができる。また、R-3はSRX合体時に念動フィールドを展開し、R-1とR-2、及びプラスパーツの合体シーケンスと合体状態の維持を補助している。ただし、強力な念動フィールドの発生とその保持はR-3のパイロットに著しい負担をかけることになり、そのことがSRXの稼働時間を制限する原因の一つとなっている。

REAL PERSONAL TROOPER TYPE-3　全高:15.3m　重量:49.4t
備考:T-LINKシステム搭載

Rシリーズの3号機。遠距離戦闘用の軽量級PTで、T-LINKシステムを使用した遠隔念動兵器や索敵・捕足機能が装備されており、後方からの火力支援や部隊指揮の役割を担う。索敵システムや火器管制にまでT-LINKシステムが組み込まれているため、パイロットは念動力者に限られ、指揮官として部隊指揮を務めるためのインテリジェンスも要求される。合体時にはR-3に装備された念動フィールド発生装置によりSRXの合体状態の維持と機体制御を行なうため、R-3はSRX合体の要となる機体といえる。SRXの合体には、高レベルでの念動力の維持が必要とされるため、R-3のパイロットは高い念動力と強靭な精神力が必要とされる。

■ヴァリアブル・フォーメーション

新西暦185年の6月に「SRX計画」がスタートし、SRX（Rシリーズ）、の機体開発が開始されて1年以上の歳月が経過した。この短い期間でRシリーズを稼動状態にまで完成させられたのは、開発責任者であるイングラムの手腕によるところが大きい。マシンのような冷静さと、驚異的な判断力。そして、カークやロバートでさえも舌を巻く膨大な知識量を駆使し、イングラムは優秀な開発スタッフ陣をまとめ上げた。しかし、トロニウム・エンジンやT-LINKシステム、プラスパーツの開発、テストパイロットの選別（結果としてリュウセイ・ダテ、ライディース・F・ブランシュタイン、アヤ・コバヤシの3名が選ばれ、彼らはSRXチームと呼ばれることになる）が難航し、Rシリーズ各機のロールアウトは遅れた。

そして、新西暦186年11月3日……DCことディバイン・クルセイダーズ（※4）が蜂起し、「DC戦争」が勃発する。その中でRシリーズは充分なテスト運用期間を得ることなく、イングラムの思惑によって次々と実戦へ投入されていった。Rシリーズは数々のトラブルに見舞われながらもその能力を発揮し、戦果を挙げていったが、SRXへの合体とその問題点の解決は先送りにされた。

だが、「DC戦争」終結後、懸念していた異星人の脅威がついに現実のものとなる。異星人エアロゲイターの実働部隊が地球へと侵攻を開始したのだ。そして、「対異星人戦闘用人型機動決戦兵器」としてのSRXの真価が、いよいよ問われるときが来た。「DC戦争」同様、SRXチームは対異星人戦闘に参戦するが、異星人の機動兵器に苦戦を強いられ、また開発責任者のイングラムが行方不明になる（一説ではエアロゲイター側に寝返ったとされる）など厳しい状況が続いた。そして、Rシリーズの攻撃では歯が立たない強力な異星人の機動兵器が出現したことでSRXチームは合体を余儀なくされ、SRX合体のオペレーションコード「パターンOOC（※5）」が発動される。SRXチームはその意志と力を一つに合わせることでSRXの合体に成功し、初戦で勝利を収める。

SRX合体……すなわち、ヴァリアブル・フォーメーションの成功によりひとまずの目的を達成したSRX計画であったが、連邦軍上層部から数々の問題点を指摘され、プロジェクトは一時凍結されることになる。

ついに実戦での合体に成功したSRX。人類の切り札として、地球圏最強の攻撃力を持った機体の誕生である。長時間の合体状態を維持できないなどまだまだ不安要素も多いが、SRXの合体成功により人類は外宇宙からの侵略者に対抗する絶対的な「力」を手に入れたのだった。

※4■ディバイン・クルセイダーズ（DC）

"聖十字軍"の意味。EOT（異星人の超技術）研究機関のEOTI機関を母体にして結成された軍事結社で、秘密裏に開発していた機動兵器アーマードモジュールや戦闘機F-32などの航空戦力を主体とする。EOTI機関のメンバー以外にもビアン・ゾルダーク博士の理念に賛同する連邦政府の要員や連邦軍軍人達が多数参加しており、コロニー統合軍も協力態勢を示している。なお、DCの目的は現行の連邦政府を打倒し、軍事政権を樹立させることである。

※5■パターンOOC

Rシリーズのみに設定されているPT戦闘行動パターンの一つで、SRX合体を意味する。SRXの合体には、通常はプロテクトがかけられており、解除には指揮官の許可が必要となる。なお、OOCとは「ONLY　ONE　CRASH」の略で、危険が伴う上に回数が限られているSRXの合体を「衝突」と皮肉ったもの。

イラスト / 河野さち子

イラスト / 河野さち子

イラスト / 河野 さち子

オリジナルメカニックデザイン

宮武 一貴　大輪 充
カトキハジメ　守谷 淳一
大張 正己　杉浦 俊朗
大河原 邦男　安藤 弘
齋藤 和衛　小野 聖二
青木 健太　金丸 仁
藤井 大誠（株式会社レイ・アップ）　土屋 英寛
射尾 卓弥　森野 健一郎
間垣 亮太

オリジナルキャラクターデザイン

河野 さち子（株式会社シー・ビー・トムズ）
Mがんぢー

イラストレーション

山本 宏之（株式会社アートプレスト）　安藤 弘
河野 さち子（株式会社シー・ビー・トムズ）　金丸 仁
柳瀬 敬之　土屋 英寛

CGデザイン

國島 宣弘　丸 義則

CGコンセプト&デザイン

嶋崎 直登

スペシャルサンクス

佐藤 忠博（株式会社メディアワークス）
片岡 大輔（アークライト）
藤井 新一（株式会社レイ・アップ）
名倉 正博
千住 京太郎
安斉 誠
なかの★陽

企画・デザイン・構成

鳥本 真也　佐藤 淳一（株式会社アートプレスト）
藤倉 亮　石川 海（株式会社アートプレスト）

企画・編集

渡部 隆

監修

寺田 貴信

制作

株式会社バンプレスト

BANPRESTO
株式会社バンプレスト
コンシューマー ディビジョン
東京都台東区駒形2-5-4 〒111-8581
※バンプレストはバンダイナムコグループの一社です。

©SRWOG PROJECT
©BANPRESTO 2007

BANPRESTO
Super Robot Wars OG Original Generations Official Perfect File
掃圖: iyxg
改圖: Blucard
http://www.srworld.net/
http://bbs.newwise.com/
轉圖不注明出處的不得好死
Not For Sale
©SRWOG PROJECT
©BANPRESTO 2004

SRWOG
Super Robot Wars OG ORIGINAL GENERATIONS
Official Perfect File
PRESENTED BY BANPRESTO